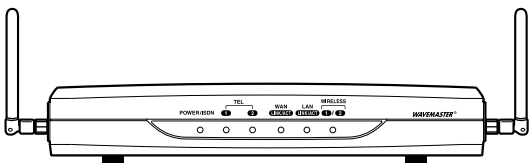
ICOM

取扱説明書[活用編]

WAVEMASTER®

WIRELESS ACCESS POINT

AP-5100VoIP



Icom Inc.

各章について

各メニューの設定画面について説明しています。
設定画面は、用途別に下記の各メニューに分類されています。

参照ページ	メニュー名など	
5 ページ ☞	外線設定	1
49 ページ ☞	内線設定	2
95 ページ ☞	多機能電話設定	3
125 ページ ☞	ネットワーク設定	4
147 ページ ☞	無線LAN設定	5
185 ページ ☞	WAN側設定	6
213 ページ ☞	システム設定	7
229 ページ ☞	情報表示	8
235 ページ ☞	メンテナンス	9
241 ページ ☞	ご参考に	10

はじめに

本書は、本製品で設定できるさまざまな機能について、メニューの設定画面ごとに詳しく説明しています。
取扱説明書[導入編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。

不正アクセス対策についての重要なお知らせ

下記のような環境でご使用になる場合、容易に推測できるパスワードを本製品に設定すると、正規利用者になりすまして本製品にアクセスされ、パソコンや電話回線(050電話回線/NTT加入電話回線など)が不正に利用される危険性があります。

◎本製品をインターネット(サービスプロバイダー)に接続して利用している

◎本製品のIP電話ルータ機能により、弊社製IP電話機(VP-701、VP-71、VP-501、VP-43)や本製品が対応する他社製IP電話機を利用している

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせて長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更するなどが有効です。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

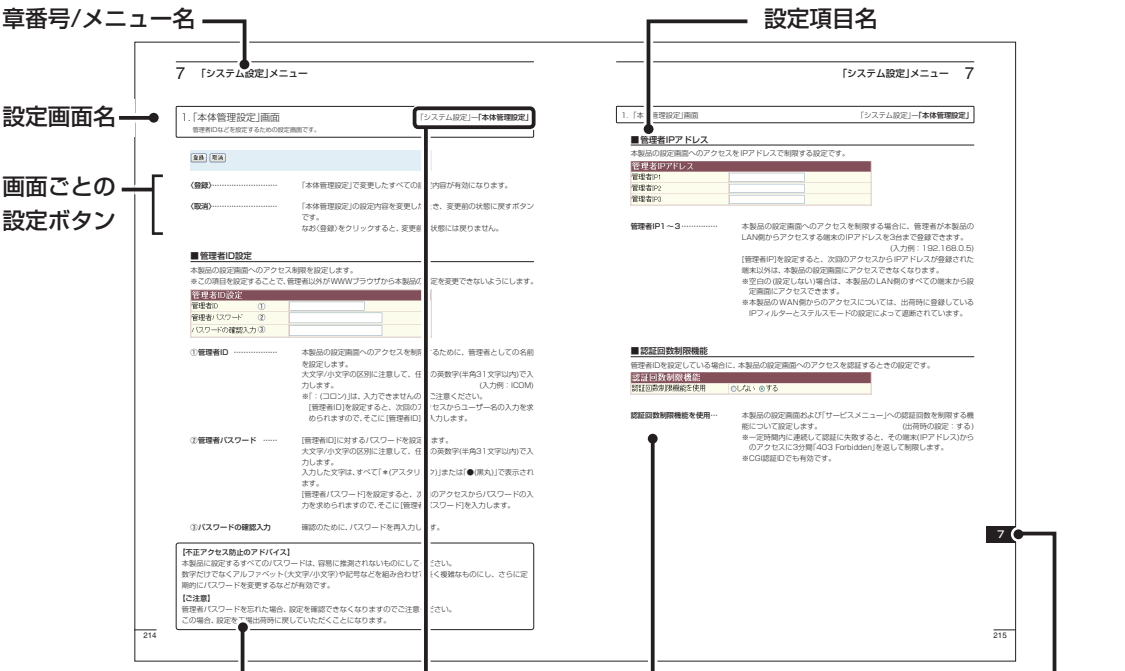
「　」 表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。
[　] 表記：各設定画面の設定項目名を([ ])で囲んで表記します。
〈　〉 表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈 〉)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows Vista® Home Basic、Microsoft® Windows Vista® Home Premium、Microsoft® Windows Vista® BusinessおよびMicrosoft® Windows Vista® Ultimateは、Windows Vistaと表記します。
Microsoft® Windows® XP Professional、Microsoft® Windows® XP Home Editionは、Windows XPと表記します。
Microsoft® Windows® 2000 Professionalは、Windows 2000と表記します。
Microsoft® Windows® Millennium Editionは、Windows Meと表記します。
Microsoft® Windows® 98 Second Editionは、Windows 98 SEと表記します。

※本書は、Ver.4.30(F)のファームウェアを使用して説明しています。
※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。
※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
※対応端末については、お問い合わせください。

説明ページの構成について

本書は、次のような構成で説明しています。



登録商標について

◎アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
◎Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
◎本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
◎Adobe、Adobeロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。
◎FOMAは、株式会社NTTドコモの登録商標です。
◎その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

はじめに

ダイヤル操作について

必ず、受話器から聞こえる発信音を確認してから、電話機のダイヤルを操作してください。
なお、受話器を上げてから、電話機の電話帳機能、ワンタッチダイヤル機能や短縮ダイヤル機能を利用してダイヤルされる場合は、登録電話番号の始めにポーズ(ダイヤルを開始するまでの待ち時間)を設定いただくことにより、間違い電話などの防止になります。
ポーズの設定時間を変更する方法にいては、電話機の取扱説明書でご確認いただくか、お買い求めの販売店などにお問い合わせください。

VP-501についてのご注意

VP-501 #01(2.10.16V4A以前のファームウェア)では、「発信キー」、「三者通話」、「昼夜切替」、「不在転送」などを使用できません。
VP-501 #11(2.20.24V4A以降)をご使用ください。

第 1 章

「外線設定」メニュー

この章では、
「外線設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「アナログ回線設定」画面 …… 6
■ 回線設定 …… 6
■ エコーキャンセラーの設定 …… 7
■ 付加機能設定 …… 8
2.「ISDN回線設定」画面 …… 10
■ 回線設定 …… 10
■ 契約者回線番号設定 …… 11
■ ダイヤルイン設定 …… 14
■ 登録の一覧 …… 15
3.「サーバ接続設定」画面 …… 18
■ SIPサーバ接続共通設定 …… 18
■ SIPサーバ接続設定 FUSION IP-Phone …… 20
■ SIPサーバ接続設定 サーバ接続 …… 22
■ 登録の一覧 FUSION IP-Phone …… 24
■ 登録の一覧 サーバ接続 …… 28
4.「発信グループ設定」画面 Peer to Peer以外 …… 31
■ スライド発信設定 …… 31
■ 発信グループ設定 …… 32
5.「通話数制限設定」画面 …… 33
■ 通話数制限設定 …… 33
■ SIPサーバ優先回線割り当て設定 …… 34
6.「Peer to Peer設定」画面 …… 35
■ Peer to Peer共通設定 …… 35
■ Peer to Peer設定 …… 36
■ 現在の登録 …… 37
7.「VoIP電話帳」画面 …… 39
■ 電話帳の保存と書き込み …… 39
■ 登録の追加 …… 40
■ 現在の登録 …… 42
8.「代表着信設定」画面 …… 43
■ 代表着信設定 …… 43
■ 現在の登録 …… 46
9.「指定着信設定」画面 …… 47
■ 指定着信設定 …… 47

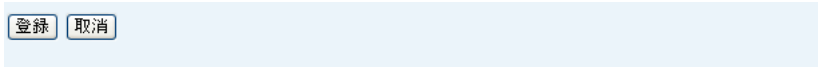
【外線設定項目について】 IP電話の接続方法の設定により、設定項目および初期値が一部変更されます。
設定により変更される項目は、FUSION IP-Phone などアイコンで示しています。

1 「外線設定」メニュー

1.「アナログ回線設定」画面

「外線設定」ー**「アナログ回線設定」**

ご使用のアナログ電話回線についての設定画面です。



〈登録〉…… 「アナログ回線設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「アナログ回線設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■回線設定

ご使用のアナログ電話回線についての設定です。

①回線種別 …… 本製品の[LINE]ポートに接続するアナログ電話回線の種類を設定します。 (出荷時の設定：自動)
※設定した回線種別が実際の回線と異なると、アナログ電話から発信できませんのでご注意ください。
◎自動 ：接続する加入電話回線のダイヤル方式を自動判別させるとき
◎PB ：接続する加入電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP(20pps) ：接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
◎DP(10pps) ：接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

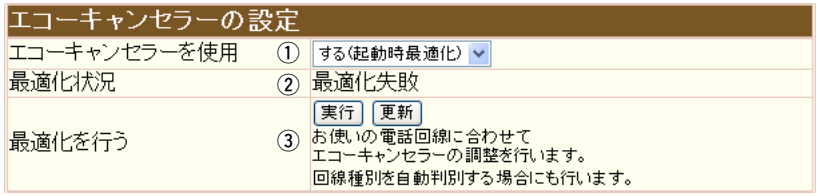
②回線種別判別結果 …… 回線種別の自動判別結果を、「未確認」/「PB回線」/「DP回線」で表示します。
※手動で回線種別を設定すると、[回線種別判別結果]項目は表示されません。

③回線音量 …… **【受話音量】**
アナログ電話使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を、「最大」「大(標準)」「中」「小」「最小」から設定します。 (出荷時の設定：大(標準))
【送話音量】
アナログ電話使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を、「最大」「大(標準)」「中」「小」「最小」から設定します。 (出荷時の設定：大(標準))

1.「アナログ回線設定」画面　　「外線設定」ー**「アナログ回線設定」**

■エコーキャンセラーの設定

本製品で使用するアナログ回線のエコー(反響)について設定します。



※上図は、表示例です。

①エコーキャンセラーを使用 ……

ご使用のアナログ回線に合わせて、本製品のエコーキャンセラー機能を最適化します。　(出荷時の設定：する(起動時最適化))

※最適化には、約30秒かかります。

※回線種別を「自動」に設定しているときは、回線種別の自動判別も最適化と同時に動作します。

◎する(起動時最適化)：

本製品の電源投入時、自動的に最適化されます。

通常は、「する(起動時最適化)」を選択してください。

※本製品の電源を入れてから、[LINE]ポートに接続した場合は、最適化されませんのでご注意ください。

◎する(最適化手動)：

[最適化を行う]欄の〈実行〉をクリックするまで最適化されません。

※回線種別を「自動」に設定しているときは、自動的に最適化されます。

※自動的に最適化しない場合は、回線種別をお使いの回線に応じて、「自動」以外に変更してください。

◎しない：

本製品のエコーキャンセラー機能を無効にします。

※回線種別を「自動」に設定しているときには、最適化の動作をしますが、本製品のエコーキャンセラー機能は無効となります。

②最適化状況 ……

回線への最適化状況を、「未最適化」/「最適化中」/「最適化終了」/「最適化失敗」で表示します。

③最適化を行う ……

〈実行〉

手動で最適化するとき、クリックします。

〈更新〉

現在の最適化状況を更新するとき、クリックします。

※クリックしても[最適化状況]欄に「最適化失敗」と表示された場合は、回線の接続などをご確認ください。

1 「外線設定」メニュー

1.「アナログ回線設定」画面　　「外線設定」―**「アナログ回線設定」**

■付加機能設定

本製品で使用するアナログ回線の発着信について設定します。

①着信内線番号 ……

アナログ回線番号に電話がかかってきたとき、着信する電話機の内線番号を入力します。

※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「内線設定」メニューの「内線共通設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線番号の電話機に着信します。

②電話回線専用発信番号

本製品の[LINE]ポートに接続するアナログ電話回線から発信するための番号です。　(出荷時の設定：空白)

[プレフィクス]と[付加ダイヤル]を、4桁以内の数字で入力します。

[プレフィクス]を相手先の電話番号に付けて発信すると、アナログ電話回線(契約者回線番号)で発信します。

[プレフィクス]+[電話番号]をダイヤルする場合

[プレフィクス]を取り除いた[電話番号]で外線に発信します。

※[付加ダイヤル]が設定されている場合は、[プレフィクス]を取り除いた後、[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。

※[プレフィクス]が空白で、[付加ダイヤル]だけを設定している場合は発信回線の強制変更はしませんが、この回線からの発信には[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて外線に発信します。

1.「アナログ回線設定」画面　　「外線設定」―**「アナログ回線設定」**

■付加機能設定

③鳴り分け判別 ……

本製品の[LINE]ポートに接続するアナログ電話回線に着信したときの呼出音を設定します。　(出荷時の設定：外線A)

※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。

◎外線A～D　：着信時に選択した外線呼出音を使用します。

◎内線A～C　：着信時に選択した内線呼出音を使用します。

◎通知番号で判別：着信時に外線呼出音(外線A)を使用するのは、「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合です。

※それ以外の場合は内線呼出音(内線A)を使用します。

④着信キューイング ……

ほかの回線からの着信中または通話中などで着信できる電話機がない場合に、着信を一時記憶する機能です。　(出荷時の設定：使用しない)

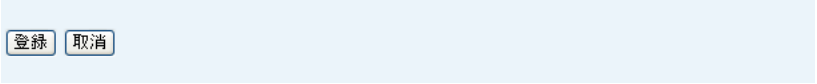
「使用する」に設定すると、着信時に話中や鳴動中で着信を受けられない状態でも、鳴動できる電話機が空いた時点で新たな鳴動がはじまります。このあいだ、電話をかけた相手には呼び出し音が聞こえます。

1 「外線設定」メニュー

2.「ISDN回線設定」画面

「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

ご使用のISDN電話回線およびINSダイヤルインサービスについての設定画面です。



〈登録〉…… 「ISDN回線設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「ISDN回線設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

【INSダイヤルインサービスを利用するには】
「INSダイヤルインサービス」、または「i･ナンバー」についてのご契約が必要です。

■ 回線設定

ご使用のISDN電話回線についての設定です。

回線音量……

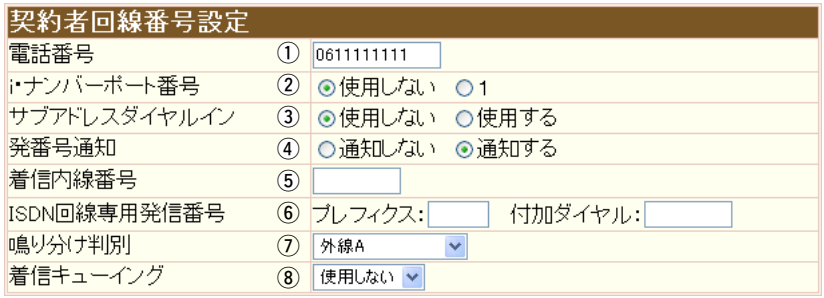
【受話音量】
ISDN回線で電話使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を、「最大」「大(標準)」「中」「小」「最小」から設定します。
(出荷時の設定：大(標準))

【送話音量】
ISDN回線で電話使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を、「最大」「大(標準)」「中」「小」「最小」から設定します。
(出荷時の設定：大(標準))

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■契約者回線番号設定

ISDN回線から着信において、指定した内線番号の電話に直接着信させるときの設定です。



※上図は、設定例です。

①電話番号 ……

ISDN回線でご契約の電話番号を、市外局番から入力します。
(入力例：0611111111)

【ご契約のi･ナンバーサービスを使用する場合】
[ポート番号1]として通知された電話番号を入力します。
次のように、「i･ナンバー」では契約者回線番号を含めて、最大3個まで電話番号を取得できます。
【例】 [ポート番号1] 0611111111(契約者回線番号)
[ポート番号2] 0611112222
[ポート番号3] 0611113333

②i･ナンバーポート番号…

[電話番号](①)欄に、[ポート番号1]として通知された電話番号を入力したとき、「1」に設定します。　(出荷時の設定：使用しない)

③サブアドレス ダイヤルイン ……

サブアドレスで指定された内線番号に着信する機能です。
(出荷時の設定：使用しない)
ISDN回線から着信したときにサブアドレスが指定されていると、そのサブアドレスに一致する内線電話機に着信します。
※ISDN電話回線、一部の携帯電話およびPHSからは、「電話番号＊サブアドレス」でサブアドレス発信できます。
アナログ回線およびIP電話回線ではサブアドレスは使用できません。
※本製品からサブアドレスを付与した発信は利用できません。

④発番号通知 ……

契約者回線番号を使用して電話をかけたときに、電話番号を相手側に通知する機能について設定します。　(出荷時の設定：通知する)
「通知する」に設定すると、[電話番号](①)欄(ISDN回線でご契約の電話番号)に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

1 「外線設定」メニュー

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■契約者回線番号設定

契約者回線番号設定		
電話番号	①	0611111111
i･ナンバーポート番号	②	◉使用しない　○1
サブアドレスダイヤルイン	③	◉使用しない　○使用する
発番号通知	④	○通知しない　◉通知する
着信内線番号	⑤	
ISDN回線専用発信番号	⑥	プレフィクス:　付加ダイヤル:
鳴り分け判別	⑦	外線A
着信キューイング	⑧	使用しない

※上図は、設定例です。

⑤着信内線番号 ……

契約者回線番号に電話がかかってきたとき、着信する電話機の内線番号を入力します。

※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「内線設定」メニューの「内線共通設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線番号の電話機に着信します。

⑥ISDN回線専用発信番号

本製品の[ISDN U]/[ISDN ST]ポートに接続するISDN電話回線から発信するための番号です。　(出荷時の設定：空白)

[プレフィクス]と[付加ダイヤル]を、4桁以内の数字で入力します。

[プレフィクス]を相手先の電話番号に付けて発信すると、ISDN回線(契約者回線番号)で発信します。

[プレフィクス]+[電話番号]をダイヤルする場合

[プレフィクス]を取り除いた[電話番号]で外線に発信します。

※[付加ダイヤル]が設定されている場合は、[プレフィクス]を取り除いた後、[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。

※[プレフィクス]が空白で、[付加ダイヤル]だけを設定している場合は発信回線の強制変更はしませんが、この回線からの発信には[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて外線に発信します。

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■契約者回線番号設定

契約者回線番号設定		
電話番号	①	0611111111
i･ナンバーポート番号	②	◉使用しない　○1
サブアドレスダイヤルイン	③	◉使用しない　○使用する
発番号通知	④	○通知しない　◉通知する
着信内線番号	⑤	
ISDN回線専用発信番号	⑥	プレフィクス:　付加ダイヤル:
鳴り分け判別	⑦	外線A
着信キューイング	⑧	使用しない

※上図は、設定例です。

⑦鳴り分け判別 ……

本製品の[ISDN U]/[ISDN ST]ポートに接続するISDN電話回線に着信したときの呼出音を設定します。　(出荷時の設定：外線A)

※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。

◎外線A～D　：着信時に選択した外線呼出音を使用します。

◎内線A～C　：着信時に選択した内線呼出音を使用します。

◎通知番号で判別：着信時に外線呼出音(外線A)を使用するのは、「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合です。

※それ以外の場合は内線呼出音(内線A)を使用します。

⑧着信キューイング ……

着信中または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。　(出荷時の設定：使用しない)

「使用する」に設定すると、登録した電話機に一斉着信しているために着信できない状態に、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

【ISDN回線の契約者回線電話番号に着信させたくない場合は】

本製品に登録された内線番号や特番と重複しない番号(例：99999)を、[着信内線番号](⑤)欄に設定します。

1 「外線設定」メニュー

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■ダイヤルイン設定

「INSダイヤルインサービス」または「i･ナンバー」でご契約の電話番号を追加登録する設定です。

※上図は、設定例です。

①番号 ……

ご契約の電話番号を登録するための番号(1～20)を設定します。
※この番号は、発信先を指定するために、「子機内線設定」画面にある[TELポート内線設定]項目、[子機内線設定]項目で使用します。

〈追加〉
新規、または編集した内容を登録するとき、クリックします。
※[登録の一覧]項目で登録内容をご確認ください。

②ダイヤルイン番号 ……

ご契約の「ダイヤルイン番号」または「i･ナンバー」で取得した電話番号を、市外局番から入力します。

③i･ナンバーポート番号…

「i･ナンバー」から指定の電話番号を[ダイヤルイン番号](②)欄に入力したとき、その電話番号に指定されているポート番号を設定します。
(出荷時の設定：使用しない)
「i・ナンバー」の場合は、追加番号の1つ目を「2」、追加番号の2つ目をポート「3」に設定します。
「INSダイヤルイン」の場合は、「使用しない」に設定します。

④サブアドレス ダイヤルイン ……

サブアドレスで指定された内線番号に着信する機能です。
(出荷時の設定：使用しない)
ISDN回線から着信したときにサブアドレスが指定されていると、そのサブアドレスに一致する内線電話機に着信します。
※ISDN電話回線、一部の携帯電話およびPHSからは、「電話番号＊サブアドレス」でサブアドレス発信できます。
アナログ回線およびIP電話回線ではサブアドレスは使用できません。
※本製品からサブアドレスを付与した発信は利用できません。

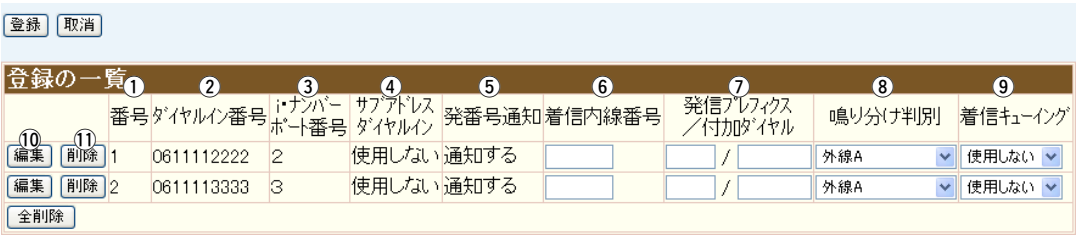
⑤発番号通知 ……

ISDN回線から発信したときに、電話番号を相手側に通知する機能について設定します。　(出荷時の設定：通知する)
「通知する」に設定すると、[ダイヤルイン番号](②)欄に設定した電話番号を自動的に相手側に通知します。

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■登録の一覧

[ダイヤルイン設定]項目で登録した[ダイヤルイン番号]について設定します。



※上図は、設定例です。

〈登録〉……　[登録の一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[登録の一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①番号 ……　[ダイヤルイン設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では変更できません。

②ダイヤルイン番号 ……　[ダイヤルイン設定]項目で登録したダイヤルイン番号を表示します。
※この欄では変更できません。

③i・ナンバーポート番号　[ダイヤルイン設定]項目で登録したi･ナンバーポート番号を表示します。
※この欄では変更できません。

④サブアドレス ダイヤルイン ……　[ダイヤルイン設定]項目で登録したサブアドレスダイヤルインについて表示します。
※この欄では変更できません。

⑤発番号通知 ……　[ダイヤルイン設定]項目で登録した発番号通知について表示します。
※この欄では変更できません。

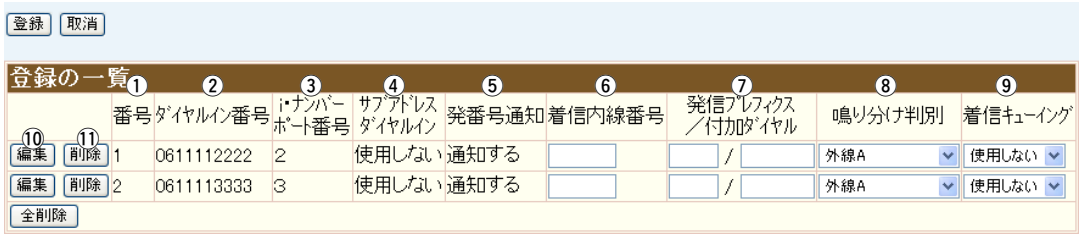
⑥着信内線番号 ……　[ダイヤルイン番号](②)欄の電話番号に電話がかかってきたとき、着信する電話機の内線番号を入力します。
※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「内線設定」メニューの「内線共通設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線番号の電話機に着信します。

【ISDN回線のダイヤルイン番号に着信させたくない場合は】
本製品に登録された内線番号や特番と重複しない番号(例:99999)を、[着信内線番号](⑥)欄に設定します。

1 「外線設定」メニュー

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■登録の一覧



※上図は、設定例です。

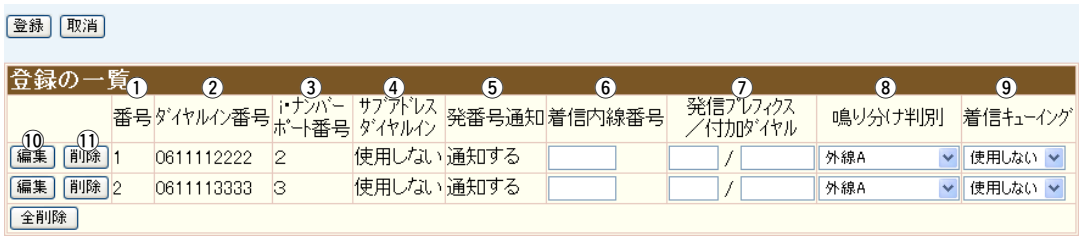
⑦発信プレフィクス/
付加ダイヤル ……

「子機内線設定」画面の[発信設定]欄と異なる発信元番号を使用して発信するための設定です。
[発信プレフィクス]と[付加ダイヤル]を、4桁以内の数字で入力します。
[発信プレフィクス]を付けて発信すると、選択したISDN回線(ダイヤルイン番号)に切り替えて発信できます。

[発信プレフィクス]+[電話番号]をダイヤルすると
[発信プレフィクス]を取り除いた[電話番号]で、外線に発信します。
※[付加ダイヤル]が設定されている場合は、[発信プレフィクス]を取り除いた後、[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。
※[発信プレフィクス]が空白で、[付加ダイヤル]だけを設定している場合は発信回線の強制変更はしませんが、この回線からの発信には[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。

2.「ISDN回線設定」画面　　「外線設定」ー**「ISDN回線設定」**

■登録の一覧



※上図は、設定例です。

⑧鳴り分け判別 ……　ダイヤルイン番号(回線)ごとに、着信したときの呼出音を設定します。
(出荷時の設定：外線A)

※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。

◎外線A～D　：着信時に選択した外線呼出音を使用します。
◎内線A～C　：着信時に選択した内線呼出音を使用します。
◎通知番号で判別：着信時に外線呼出音(外線A)を使用するのは、「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合です。
※それ以外の場合は内線呼出音(内線A)を使用します。

⑨着信キューイング ……　着信中または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。　(出荷時の設定：使用しない)

「使用する」に設定すると、登録した電話機に一斉着信しているために着信できない状態に、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

⑩〈編集〉 ……　ボタンの右欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[ダイヤルイン設定]項目(①～⑤)で、その内容を確認できます。

※[登録の一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]、[発番号通知]以外は確認できません。

⑪〈削除〉 ……　ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。

※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

3.「サーバ接続設定」画面

「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

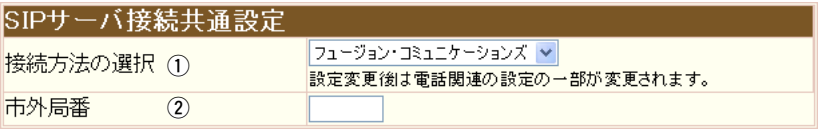
ご使用のアナログ電話回線についての設定画面です。

〈登録〉…… 「サーバ接続設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「サーバ接続設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■SIPサーバ接続共通設定

本製品が接続するSIPサーバについての設定です。



※説明には、「フュージョン・コミュニケーションズ」で接続するときの設定画面を使用しています。

①接続方法の選択 …… IP電話への接続方法は、相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して1対1での通話、ご契約の商用IP電話接続業者が指定するSIPサーバの利用、簡易中継サーバの利用があります。

(出荷時の設定：接続しない (Peer to Peer))

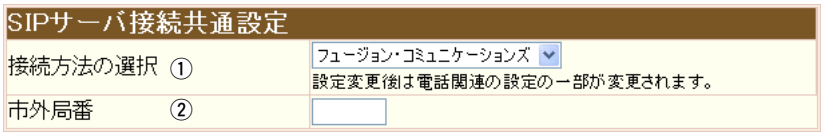
◎接続しない (Peer to Peer)：
相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して、1対1で通話するとき設定します。
※SIPサーバを使用しません。

◎フュージョン・コミュニケーションズ：
フュージョン・コミュニケーションズのSIPサーバに接続して、「FUSION IP-Phone」サービスを使用するとき設定します。

◎サーバ接続：
簡易中継サーバ(親機)の子機として、簡易中継サーバと接続するとき設定します。
※2010年9月現在、簡易中継サーバ(親機)として使用できるのは、AP-5100VoIP(本製品)、SR-5200VoIP3、SR-5200VoIP2、SR-5200VoIP、SR-53Vです。
また、商用IP電話サービスを利用せず電話回線を追加する場合、VE-AG1(アナログ回線)、VE-IG1(ISDN回線)もこの設定で利用します。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■SIPサーバ接続共通設定



※説明には、「フュージョン・コミュニケーションズ」で接続するときの設定画面を使用しています。

②市外局番 ……

FUSION IP-Phone

本製品をお使いになる地域に割り当てられている一般加入電話回線の市外局番を入力します。　(出荷時の設定：空白)
「0」から始まる半角2～7桁の番号を半角数字で入力します。
電話機から電話番号(市内局番+加入者番号)だけをダイヤルすると、ここで入力した市外局番をダイヤルした電話番号(市内局番+加入者番号)の先頭に付加して発信します。
※「0」から始まる番号をダイヤルした場合を除きます。
※SIPサーバへの発信を介して、市内にある一般加入電話の相手に発信するとき、この市外局番が必要になります。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■SIPサーバ接続設定　FUSION IP-Phone

SIPサーバにアクセスするための設定です。
フュージョン・コミュニケーションズから指定された内容を設定します。

①番号 ……　各電話番号に対するSIPサーバの設定を登録するために、「1～20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。
※この番号は、発信先を指定するために、「内線設定」画面にある[子機内線設定]項目の[発信設定]欄などで使用します。
〈追加〉
新規、または編集した内容を登録するとき、クリックします。
※[登録の一覧]項目で登録内容をご確認ください。

②IP加入電話番号表示 …　付与された自局のIP電話番号を表示します。
※[SIPサーバ接続設定]項目-[アカウントID](⑤)を登録することで、再編集時にのみ表示されます。

③SIPプロキシーサーバ…　指定されたSIPサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

④SIPドメイン……　指定されたSIPサーバのドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■SIPサーバ接続設定　FUSION IP-Phone

⑤アカウントID ……　SIPサーバへの接続認証に使用するIDです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑥IP加入電話パスワード　SIPサーバへの接続認証に使用するパスワードです。
指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■SIPサーバ接続設定　サーバ接続

SIPサーバにアクセスするための設定です。

※上図は、設定例です。

①番号 ……

各電話番号に対するSIPサーバの設定を登録するために、「1～20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。
※この番号は、発信先を指定するために、「子機内線設定」画面の[発信設定]欄などで使用します。
〈追加〉
新規、または編集した内容を登録するとき、クリックします。
※[登録の一覧]項目で登録内容をご確認ください。

②IP電話番号 ……

簡易中継サーバの子機として使用するIP電話番号を設定します。
入力は、任意の半角数字7桁までです。
※簡易中継サーバ(親機)側に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。

③SIPサーバアドレス1 …

簡易中継サーバ(親機)側のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

④SIPサーバアドレス2 …

[SIPサーバアドレス1](③)に接続できないとき、次に接続する簡易中継サーバ(親機)側のIPアドレス、またはホスト名を入力します。
※応答がないと、接続されるまで[SIPサーバアドレス1](③)と[SIPサーバアドレス2]への接続を繰り返します。

⑤SIPサービスドメイン…

簡易中継サーバ(親機)側に設定されている[内線ドメイン]を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※内線ドメインは、簡易中継サーバ(親機)側の「内線共通設定」画面の[簡易中継サーバ設定]項目で確認できます。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■SIPサーバ接続設定　　サーバ接続

SIPサーバ接続設定		
番号	①	1 追加
IP電話番号	②	
SIPサーバアドレス 1	③	
SIPサーバアドレス 2	④	
SIPサービスドメイン	⑤	
ユーザID	⑥	
パスワード	⑦	
発番号通知	⑧	○通知しない ◉通知する
登録時間	⑨	600 秒
再登録周期	⑩	通常時: 50 % 異常時: 50 %

※上図は、設定例です。

⑥ユーザID …… [IP電話番号](②)欄で設定した同じ番号を入力します。

⑦パスワード …… 簡易中継サーバ(親機)側への接続認証に使用するパスワードです。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※パスワードは、簡易中継サーバ(親機)側の「子機内線設定」画面にある[子機内線設定]項目で確認できます。

⑧発番号通知 …… IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知する機能です。
(出荷時の設定：通知する)
◎通知しない：接続先にIP電話番号を通知しません。
※相手側の端末によっては通知される場合があります。
◎通知する：[SIPサーバ接続設定]項目で設定されたIP電話番号を接続先に通知します。
※サーバ接続を設定している(簡易中継サーバの子機)とき、外線への番号通知は、本製品と接続された簡易中継サーバ(親機)側の番号通知設定にしたがいます。

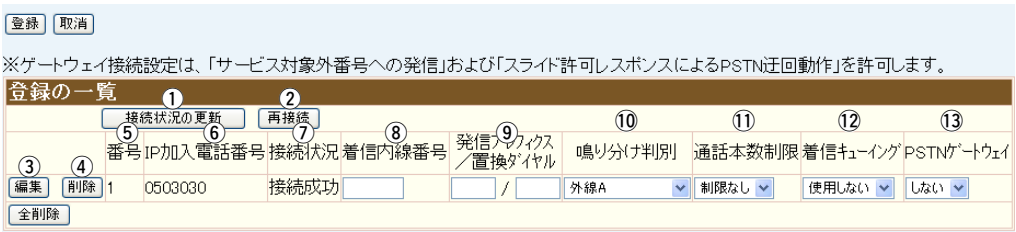
⑨登録時間 …… 本製品の接続情報を簡易中継サーバ(親機)側で保持する時間です。
設定できる範囲は、「60～28800(秒)」です。　(出荷時の設定：600)

⑩再登録周期 …… 本製品の接続情報を簡易中継サーバ(親機)側に再登録する周期を設定します。　(出荷時の設定：通常時：50、異常時：50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した[登録時間](⑧)欄に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90(%)」です。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　FUSION IP-Phone

[SIPサーバ接続設定]項目で登録したSIPサーバについて設定します。



※上図は、設定例です。

〈登録〉……　[登録の一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[登録の一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①〈接続状況の更新〉……　現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況]欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

②〈再接続〉……　登録されているSIPサーバに再接続するとき、クリックします。

③〈編集〉……　ボタンの右欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバ接続設定]項目(①～⑥)で、その内容を確認できます。
※[登録の一覧]項目では、[番号]と[IP加入電話番号]以外は確認できません。

④〈削除〉……　ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

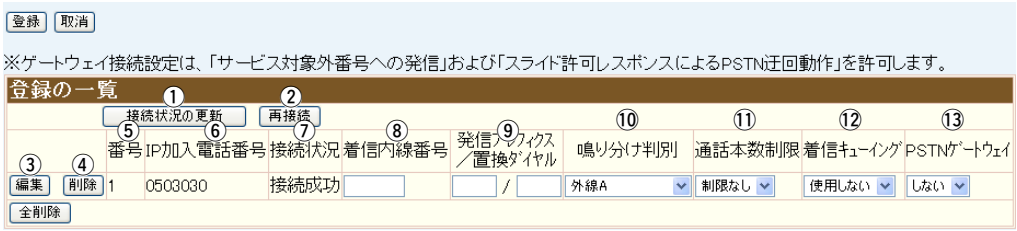
⑤番号……　[SIPサーバ接続設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。

⑥IP加入電話番号……　付与された自局のIP電話番号を表示します。
※[SIPサーバ接続設定]項目-[アカウントID](⑤)を登録することで表示されます。

⑦接続状況……　SIPサーバとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　FUSION IP-Phone



※上図は、設定例です。

⑧着信内線番号 ……

SIPサーバ(回線)ごとに、着信させる電話機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。
着信内線番号には、次の内線番号の中からどちらかを設定できます。
◎「代表着信設定」画面で設定した代表着信内線番号
◎「子機内線設定」画面で設定した内線番号およびグループ番号
※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「内線設定」メニューの「内線共通設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線番号の電話機に着信します。

⑨発信プレフィクス/置換ダイヤル ……

「子機内線設定」画面の[発信設定]欄と異なるSIPサーバを使用して発信するための設定です。
[発信プレフィクス]と[置換ダイヤル]を、4桁以内の数字で入力します。
[発信プレフィクス]を付けて発信すると、選択したSIPサーバに切り替えて発信できます。
※本製品に登録したVP-501またはVP-701のフレキシブルボタンに「発信キー」を割り当てる場合は、この[発信プレフィクス]、または「内線共通設定」画面の[SIPサーバ発信特番]欄のいずれかを設定する必要があります。

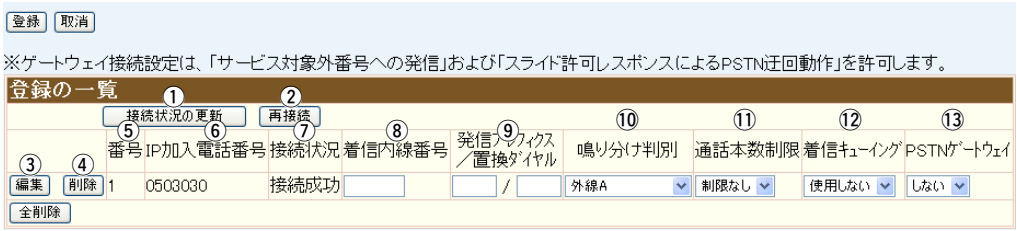
[発信プレフィクス]+[電話番号]をダイヤルすると

[発信プレフィクス]を取り除いた[電話番号]で、選択したSIPサーバに発信します。
※[置換ダイヤル]が設定されている場合は、[発信プレフィクス]を取り除いた後、[電話番号]の先頭に置換ダイヤルを付けて発信します。
※[発信プレフィクス]が空白で、[置換ダイヤル]だけを設定している場合はSIPサーバの強制変更はしませんが、このSIPサーバからの発信には[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。

1 「外線設定」メニュー

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　FUSION IP-Phone



※上図は、設定例です。

⑩鳴り分け判別 …… SIPサーバ(回線)ごとに、着信したときの呼出音を設定します。
(出荷時の設定：外線A)

※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。

◎外線A～D　：着信時に選択した外線呼出音を使用します。
◎内線A～C　：着信時に選択した内線呼出音を使用します。
◎通知番号で判別：着信時に外線呼出音(外線A)を使用するのは、「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合です。
※それ以外の場合は内線呼出音(内線A)を使用します。

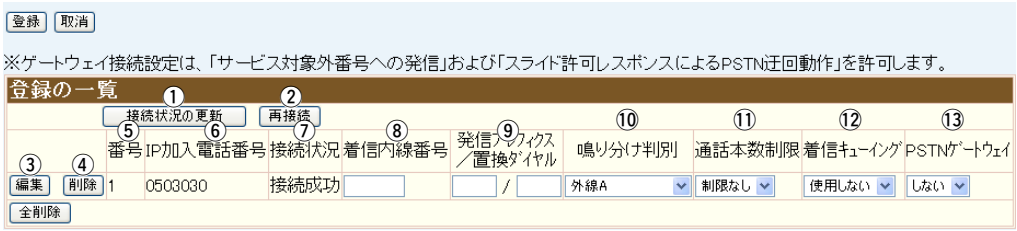
⑪通話本数制限 …… SIPサーバ(回線)ごとに、発着信できる通話数を制限します。
設定できる範囲は、「1～20」です。　(出荷時の設定：制限なし)

※本製品に登録したVP-501のフレキシブルボタンに「発信キー」、またはVP-701の「外線キー」を割り当てている場合は、回線の使用状況をボタンの点灯で確認できます。

⑫着信キューイング …… 着信中または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。　(出荷時の設定：使用しない)
「使用する」に設定すると、登録した電話機に一斉着信しているために着信できない状態に、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　FUSION IP-Phone



※上図は、設定例です。

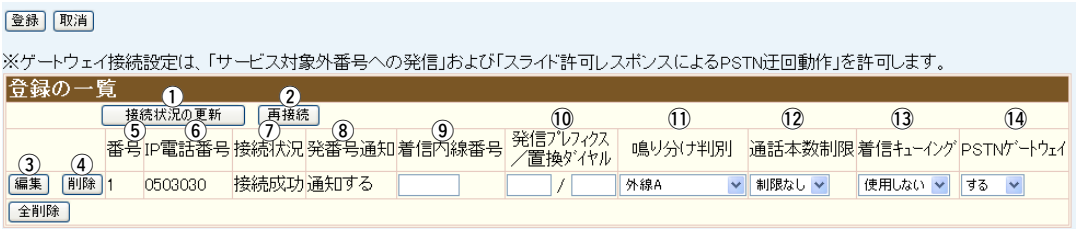
⑬PSTNゲートウェイ ……　一般加入電話回線拡張用機器（弊社製VE-AG1/VE-IG1）を使用したサービス対象外番号への発信およびスライド発信によるPSTN迂回について設定します。　（出荷時の設定：しない）
「する」に設定すると、ご契約のプロバイダでサービス対象外になっている特定の番号をダイヤルしたときに本製品に接続している一般加入電話回線拡張用機器（弊社製VE-AG1/VE-IG1）を利用して発信できたり、スライド許可レスポンスによる本製品収容のPSTN回線への迂回動作を許可します。

1 「外線設定」メニュー

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　サーバ接続

[SIPサーバ接続設定]項目で登録したSIPサーバについて設定します。



※上図は、設定例です。

〈登録〉……　[登録の一覧]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[登録の一覧]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①〈接続状況の更新〉……　現在の登録内容を更新するとき、クリックします。
※クリックしても[接続状況]欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容をご確認ください。

②〈再接続〉……　登録されているSIPサーバに再接続するとき、クリックします。

③〈編集〉……　ボタンの右欄に表示された内容を修正するとき、クリックします。
[SIPサーバ接続設定]項目(①～⑩)で、その内容を確認できます。
※[登録の一覧]項目では、[番号]と[IP電話番号]、[発番号通知]以外は確認できません。

④〈削除〉……　ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

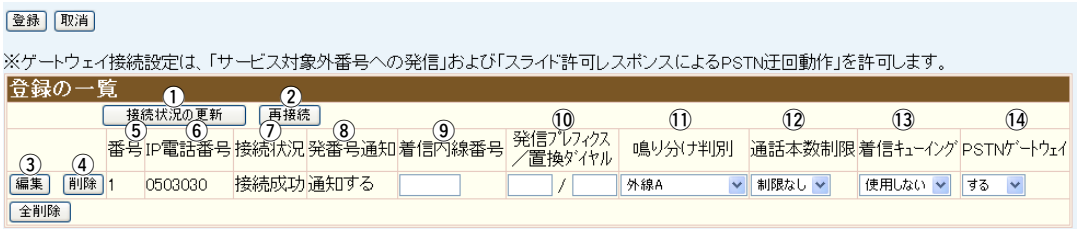
⑤番号……　[SIPサーバ接続設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。

⑥IP電話番号……　[SIPサーバ接続設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。

⑦接続状況……　SIPサーバとの接続状態を、「接続中」/「接続成功」/「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈接続状況の更新〉をクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　サーバ接続



※上図は、設定例です。

⑧発番号通知 ……

[SIPサーバ接続設定]項目で設定した発番号通知を、「通知する」/「通知しない」で表示します。
※この欄では発番号通知の変更はできません。

⑨着信内線番号 ……

SIPサーバ(回線)ごとに、着信させる電話機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。
着信内線番号には、次の内線番号の中からどちらかを設定できます。
◎「代表着信設定」画面で設定した代表着信内線番号
◎「子機内線設定」画面で設定した内線番号およびグループ番号
※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「内線設定」メニューの「内線共通設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線番号の電話機に着信します。

⑩発信プレフィクス/置換ダイヤル ……

「子機内線設定」画面の[発信設定]欄と異なるSIPサーバを使用して発信するための設定です。
[発信プレフィクス]と[置換ダイヤル]を、4桁以内の数字で入力します。
[発信プレフィクス]を付けて発信すると、選択したSIPサーバに切り替えて発信できます。
※本製品に登録したVP-501またはVP-701のフレキシブルボタンに「発信キー」を割り当てる場合は、この[発信プレフィクス]、または「内線共通設定」画面の[SIPサーバ発信特番]欄のいずれかを設定する必要があります。

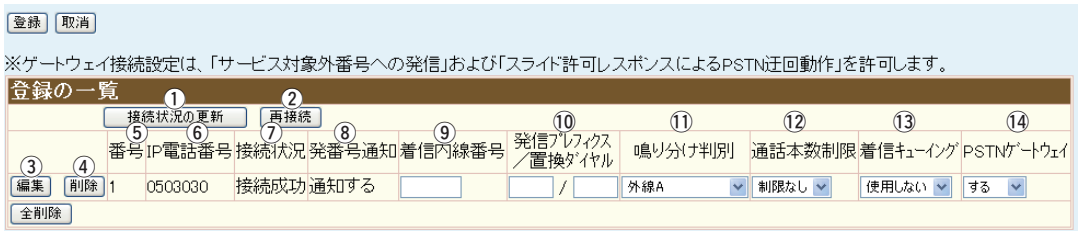
[発信プレフィクス]+[電話番号]をダイヤルすると

[発信プレフィクス]を取り除いた[電話番号]で、選択したSIPサーバに発信します。
※[置換ダイヤル]が設定されている場合は、[発信プレフィクス]を取り除いた後、[電話番号]の先頭に置換ダイヤルを付けて発信します。
※[発信プレフィクス]が空白で、[置換ダイヤル]だけを設定している場合はSIPサーバの強制変更はしませんが、このSIPサーバからの発信には[電話番号]の先頭に付加ダイヤルを付けて発信します。

1 「外線設定」メニュー

3.「サーバ接続設定」画面　　「外線設定」ー**「サーバ接続設定」**

■登録の一覧　**サーバ接続**



※上図は、設定例です。

⑪鳴り分け判別 …… SIPサーバ(回線)ごとに、着信したときの呼出音を設定します。
(出荷時の設定：外線A)
※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。
◎外線A～D　：着信時に選択した外線呼出音を使用します。
◎内線A～C　：着信時に選択した内線呼出音を使用します。
◎通知番号で判別：着信時に外線呼出音(外線A)を使用するのは、「通知番号の先頭が0」、「番号非通知」、「番号桁数が8桁以上」のいずれかの場合です。
※それ以外の場合は内線呼出音(内線A)を使用します。

⑫通話本数制限 …… SIPサーバ(回線)ごとに、発着信できる通話数を制限します。
設定できる範囲は、「1～20」です。　(出荷時の設定：制限なし)
※本製品に登録したVP-501のフレキシブルボタンに「発信キー」、またはVP-701の「外線キー」を割り当てている場合は、回線の使用状況をボタンの点灯で確認できます。

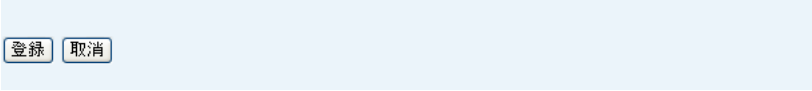
⑬着信キューイング …… 着信中または通話中に、新たに外線からの着信があっても話中にならないようにする機能です。　(出荷時の設定：使用しない)
「使用する」に設定すると、登録した電話機に一斉着信しているために着信できない状態に、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

⑭PSTNゲートウェイ …… スライド発信によるPSTN迂回について設定します。
(出荷時の設定：する)
「しない」に設定すると、スライド許可レスポンスによる本製品収容のPSTN回線への迂回動作を許可しません。

4.「発信グループ設定」画面　Peer to Peer以外

「外線設定」ー**「発信グループ設定」**

複数のサーバ設定でスライド発信するための設定画面です。



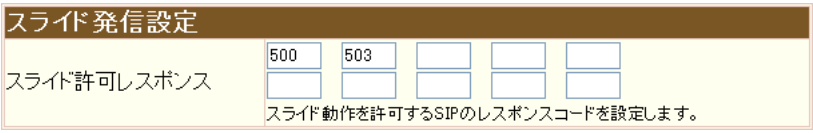
〈登録〉……　「発信グループ設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　「発信グループ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

【スライド発信機能を使用するためには】
◎「サーバ接続設定」画面の[SIPサーバ接続共通設定]項目で、[接続方法の選択]が「接続しない(Peer to Peer)」の場合はご利用になれません。
◎「内線共通設定」画面でSIPサーバ発信特番の設定が必要です。

■スライド発信設定

スライド動作を許可するSIPサーバからのレスポンスコードを設定します。



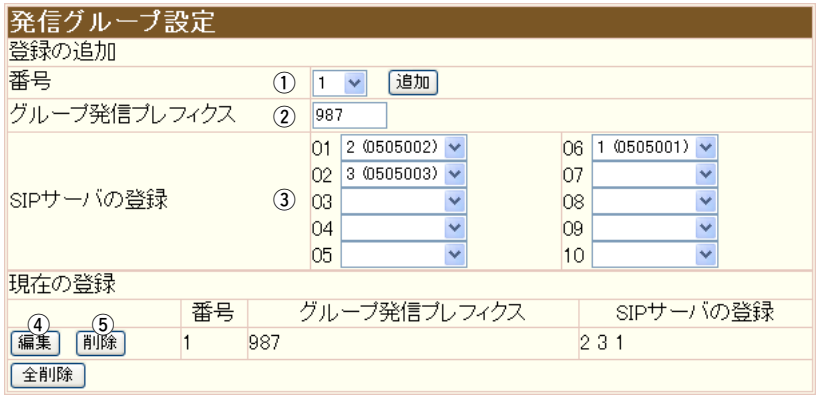
※説明には、接続方法を「フュージョン・コミュニケーションズ」にしたときに表示される設定画面(初期値)を使用しています。

スライド許可レスポンス…　スライド発信を許可するSIPサーバからのレスポンスコードを登録します。
最大10件まで登録できます。

4.「発信グループ設定」画面　　「外線設定」―**「発信グループ設定」**

■発信グループ設定

スライド発信するSIPサーバをグループ登録します。



※上図は、設定例です。

①番号 …… 各発信グループが登録される番号を設定します。
最大20件まで登録できます。
〈追加〉
[発信グループ設定]項目(①～③)で設定した内容を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

②グループ発信プレフィクス 登録した発信グループを指定する番号です。
任意の半角数字4桁以内で入力します。

③SIPサーバの登録…… スライド発信するSIPサーバを登録します。
「1」のテキストボックスに登録されたSIPサーバから最初に発信します。登録した順番にスライドし、発信します。

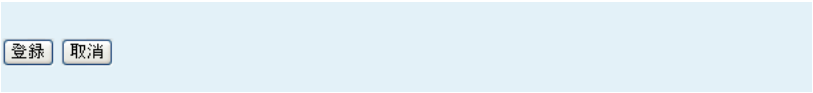
④〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を[登録の追加]項目で編集できます。

⑤〈削除〉 …… ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

5.「通話数制限設定」画面

「外線設定」ー**「通話数制限設定」**

本製品に登録したSIPサーバ(回線)の総通話数を制限します。

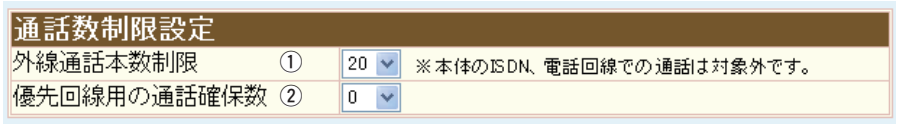


〈登録〉……　「通話数制限設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　「通話数制限設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■通話数制限設定

本製品に登録したSIPサーバ(回線)の通話数制限について設定します。



※上図は、設定例です。

①外線通話本数制限 ……　本製品に登録したSIPサーバ(回線)で、発着信できる総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「1～20」です。　(出荷時の設定：20)
※本製品に登録したSIPサーバ(回線)の総通話数が、「通話数制限設定」画面の[外線通話本数制限]欄で設定した通話数になると、新たに発着信があったとき話中になります。

②優先回線用の通話確保数　優先したいSIPサーバ(回線)に確保する総通話数を設定します。
設定できる範囲は、「0～20」です。　(出荷時の設定：0)
※[外線通話本数制限]欄で設定した以上の通話数を優先回線用に設定できますが、本製品で発着信できる総通話数を超える通話はできません。
※[外線通話本数制限]欄と同じ、またそれ以上の通話数を設定した場合は、通常回線★を使用できません。
※通常回線★での通話総数は、外線通話本数制限から優先回線用の通話確保数を除いた値となります。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。

5.「通話数制限設定」画面　　「外線設定」ー**「通話数制限設定」**

■SIPサーバ優先回線割り当て設定

本製品に登録したSIPサーバ(回線)について、優先回線の割り当てを設定します。

SIPサーバ優先回線割り当て設定

番号①	IP電話番号 ②	優先回線割り当て ③
1	6030	する
2	5100	しない
3	5300	しない

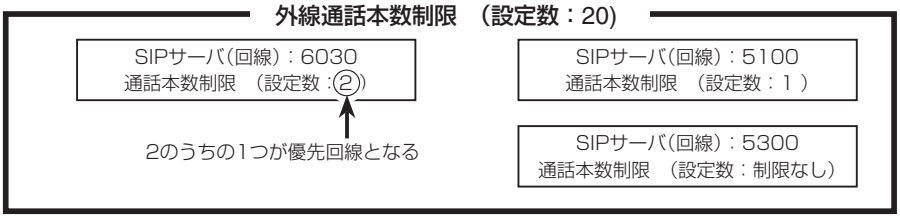
※上図は、設定例です。

①番号 …… 「サーバ接続設定」画面の[SIPサーバ接続設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。

②IP電話番号 …… 「サーバ接続設定」画面の[SIPサーバ接続設定]項目で登録したIP電話番号を表示します。
※この欄ではIP電話番号の変更はできません。

③優先回線割り当て …… 本製品に登録したSIPサーバ(回線)ごとに、優先回線の割り当てを設定します。　(出荷時の設定：しない)
◎「する」に設定したSIPサーバ(回線)は優先回線として機能します。
優先回線の通話数は、[外線通話本数制限]欄で設定した総通話数、または「サーバ接続設定」画面の「通話本数制限」で設定した通話数にしたがいます。
◎「しない」に設定したSIPサーバ(回線)は、通常回線★として機能します。
※優先回線数が外線通話本数以上の場合、通常回線★は使用できません。
★本書では、優先回線の割り当てをしない回線を「通常回線」と表記します。

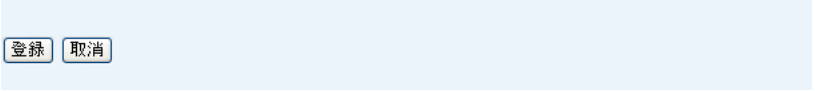
【外線通話本数制限と通話本数制限について】
[外線通話本数制限]欄は、本製品に登録したすべてのSIPサーバ(回線)で、発着信できる総通話数を設定します。一方、「サーバ接続設定」ー[登録の一覧]ー[通話本数制限]欄は、SIPサーバ(回線)ごとで、発着信できる通話数を設定します。
※[通話本数制限]欄で、外線通話本数制限に設定した値より大きい値を設定しても、超えた分は使用できません。
(設定例)
◎外線通話本数制限　：「20」
◎優先回線用の通話確保数　：「1」
◎SIPサーバ優先回線割り当て設定
：6030を「する」に設定
◎登録しているSIPサーバ(回線)とその通話本数制限
6030の通話本数制限：「2」
5100の通話本数制限：「1」
5300の通話本数制限：「制限なし」



6.「Peer to Peer設定」画面

「外線設定」ー**「Peer to Peer設定」**

Peer to Peerで発着信するための設定画面です。



〈登録〉……　[Peer to Peer共通設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[Peer to Peer共通設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■Peer to Peer共通設定

WAN側回線からのPeer to Peer着信を禁止、または許可します。

※上図は、設定例です。

WAN側からの着信を許可　WAN側回線からのPeer to Peer着信について設定します。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、WAN側回線からのPeer to Peer着信を許可します。

1 「外線設定」メニュー

6.「Peer to Peer設定」画面　　「外線設定」ー**「Peer to Peer設定」**

■Peer to Peer設定

相手の[SIP URI](相手先のIPアドレス)を登録して、1対1でIP電話するとき、自分のSIPアドレスを設定します。

※上図は、設定例です。

①番号 ……

自分の[SIP URI]を登録するために、「1～20」の番号を選択します。
最大20件まで登録できます。
※この番号は、発信先を指定するために、「子機内線設定」画面にある[発信設定]欄で使用します。

〈追加〉
新規、または編集した内容を登録するとき、クリックします。
※[現在の登録]項目で登録内容をご確認ください。

②SIP URI ……

自分のSIP URIを「sip:」も含めて半角127文字までで入力します。
(出荷時の設定：sip:)
入力するときは、次の書式から選択できます。
◎「sip：**[SIPユーザー名]**@**[本製品のIPアドレス]**」
◎「sip：**[SIPユーザー名]**@**[ホスト名.ドメイン名]**」
※「sip:」は、必ず先頭に付けてください。

【SIPユーザー名の部分】
任意の英数字を入力します。
※[SIPユーザー名]の部分を数字だけに設定する場合は、必ず英字1文字をその数字の先頭(例：a2525)に入力してください。

【アドレス/ホスト名.ドメイン名の部分について】
・本製品の[WAN側IPアドレス(本製品を固定IPアドレスで使用時)]、またはダイナミックDNSサービスに登録して取得したホスト名(例：telephone)と指定されたドメイン名(例：icom.co.jp)を半角英数字で入力します。
・本製品のLAN側と通信する場合には、[本製品のLAN側IPアドレス]を入力します。

6.「Peer to Peer設定」画面　　「外線設定」ー**「Peer to Peer設定」**

■現在の登録

[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]について設定します。

※上図は、設定例です。

〈登録〉……　[現在の登録]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[現在の登録]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①〈編集〉……　クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を[Peer to Peer設定]項目で編集できます。

②〈削除〉……　ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

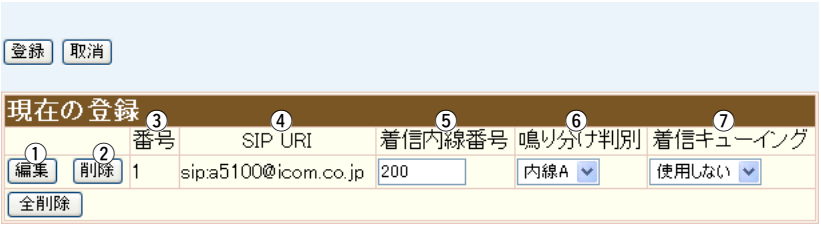
③番号……　[Peer to Peer設定]項目で登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。

④SIP URI……　[Peer to Peer設定]項目で登録した[SIP URI]を表示します。
※この欄では[SIP URI]の変更はできません。

⑤着信内線番号……　登録した[SIP URI]に電話がかかってきたとき、着信させる電話機の内線番号(ダイヤルインサービス)を設定します。
着信内線番号には、次の内線番号の中からどちらかを設定できます。
◎「代表着信設定」画面で設定した代表着信内線番号
◎「子機内線設定」画面で設定した内線番号およびグループ番号
※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「内線設定」メニューの「内線共通設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線番号の電話機に着信します。

6.「Peer to Peer設定」画面　　「外線設定」ー**「Peer to Peer設定」**

■現在の登録



※上図は、設定例です。

⑥鳴り分け判別 ……　[SIP URI]ごとに、着信したときの呼出音を設定します。
(出荷時の設定：内線A)
※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。
◎外線A～D　：着信時に選択した外線呼出音を使用します。
◎内線A～C　：着信時に選択した内線呼出音を使用します。

⑦着信キューイング ……　着信中または通話中に、新たに着信があっても話中にならないようにする機能です。　(出荷時の設定：使用しない)
「使用する」に設定すると、登録した電話機に一斉着信しているために着信できない状態に、新たに外線からの着信があっても話中にならず、電話をかけた相手には登録した電話機が着信できる状態になるまで呼び出し音が聞こえます。

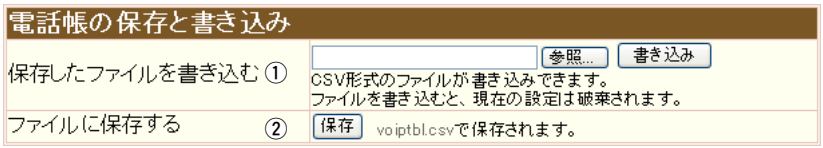
7.「VoIP電話帳」画面

「外線設定」ー**「VoIP電話帳」**

Peer to Peerの発信などで使用するVoIP電話帳の登録画面です。

■電話帳の保存と書き込み

登録した電話帳をファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。



①保存したファイルを書き込む ……

パソコンに保存された「電話帳登録ファイル」の内容を本製品に書き込むとき操作します。

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」の保存先をテキストボックスに直接入力する、または〈参照...〉をクリックすると表示される画面から目的の[電話帳登録ファイル」を指定します。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[現在の登録]項目にその内容を書き込みます。

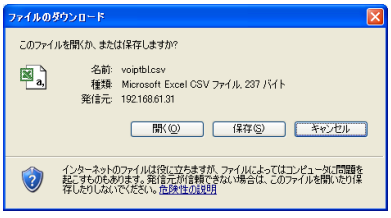
書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「電話帳登録ファイル」を書き込んだあと、「メンテナンス」メニューの「設定保存」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、後から書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますのでご注意ください。

②ファイルに保存する …

[現在の登録]項目の内容を「電話帳登録ファイル」として、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された別画面(右図)の〈保存(S)〉をクリックすると、ファイル形式(拡張子)「.csv」で保存されます。保存したファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。



また、保存した「電話帳登録ファイル」は、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

1 「外線設定」メニュー

7.「VoIP電話帳」画面　　「外線設定」ー**「VoIP電話帳」**

■登録の追加

IP電話でかける相手の電話番号を登録します。

※上図は、設定例です。

①番号 ……

最大500件の相手先電話番号が登録できます。

〈追加〉

入力した内容(①～⑥)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

②名前 ……

相手の名前を任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。

③ヨミガナ ……

相手のヨミガナを任意の半角31文字以内で入力します。

※半角カタカナ、半角英数字が設定できます。

※全角カナは半角カタカナに変換されます。

④電話番号 ……

電話機からダイヤルする電話番号を入力します。

※「110」、「118」、「119」で始まる番号は、登録できません。

※相手と「Peer to Peer」で通話するときは、任意の数字(半角31桁以内)と記号(#、＊)で入力します。

⑤SIP URI ……

SIPサーバを中継せずに「Peer to Peer」で発信する場合、相手の[SIP URI]を半角英数字(63文字以内)で入力します。

[電話番号]欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URI]欄に入力した宛先に電話をかけます。

◎[発信先の選択](⑥)欄を「標準」または「VoIPのみ」に設定する場合は、下記のどちらかで入力します。

「sip：[SIPユーザー名@相手先のIPアドレス]」

「sip：[SIPユーザー名@ホスト名.ドメイン名]」

7.「VoIP電話帳」画面　　「外線設定」ー**「VoIP電話帳」**

■登録の追加

※上図は、設定例です。

⑥発信先の選択 ……

「VoIP電話帳」画面に登録された電話番号を電話機からダイヤルしたとき、その発信先を設定します。　(出荷時の設定：標準)

◎標準：
最初にIP電話で発信し、発信できなかったときは、「ISDN回線」「アナログ電話回線」の優先順位により加入電話回線で発信します。

◎VoIPのみ：
IP電話回線にだけ発信します。

◎電話回線のみ：
一般加入電話回線にだけ発信します。

◎電話回線プレフィクス：
[電話番号]欄に登録された番号と電話機からダイヤルした電話番号の先頭部分(電話回線発信番号を除く)が一致したとき、本製品の[ISDN]ポートか、[LINE]ポートに接続された一般加入電話回線へ発信します。
[設定例：電話回線プレフィクス番号「090」の場合]
「090××××××××」(×は任意の番号)は、本製品の[ISDN]ポートか、[LINE]ポートに接続された一般加入電話回線だけに発信します。

7.「VoIP電話帳」画面　　「外線設定」ー**「VoIP電話帳」**

■現在の登録

[登録の追加]項目で登録した内容を表示します。

※上図は、設定例です。

①**〈編集〉** …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を[登録の追加]項目で編集できます。

②**〈削除〉** …… ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

8.「代表着信設定」画面

「外線設定」ー**「代表着信設定」**

登録された代表着信内線番号に着信したときの動作を設定します。

■代表着信設定

登録された代表着信内線番号に着信したとき、その着信に該当するグループに登録した内線番号の中から、空いている内線番号の電話機に着信する機能です。

※上図は、夜間の着信動作を併せて登録した場合の設定例です。

①番号 ……

各内線グループが登録される番号を設定します。
最大20件まで登録できます。

〈追加〉

[代表着信設定]項目(①～⑥)で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。

②グループ名称 ……

必要に応じて、登録する代表着信内線番号を使用するグループの名前を任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。

③代表着信内線番号 ……

各代表着信グループに対する内部識別用の内線番号を、半角数字で7桁以内で入力します。
外線から代表着信内線番号に着信させるときは、ダイヤルイン着信で指定した[着信内線番号]欄と同じ番号を設定します。
※本製品に登録された内線番号やグループ番号は指定できません。

1　「外線設定」メニュー

8.「代表着信設定」画面　　「外線設定」ー**「代表着信設定」**

■代表着信設定

代表着信設定			
番号		①	1 追加
グループ名称		②	4000
代表着信内線番号		③	4000
昼間	動作設定 ④		順次着信
	内線番号の登録⑤		01 201 02 202 03 203 04 05 06 07 08
夜間	夜間は着信動作を変更 ⑥		○しない ◉する
	動作設定④		順次着信
	内線番号の登録⑤		01 204 02 205 03 04 05 06 07 08

※上図は、夜間の着信動作を併せて登録した場合の設定例です。

④動作設定 ……

代表着信番号の電話機に着信が集中しないように、[内線番号の登録]欄(⑤)の「01～08」のテキストボックスに登録された内線電話への着信の方法を選択できます。　(出荷時の設定：順次着信)

◎順次着信　：「01」のテキストボックスに登録された内線電話が最初に着信しますが、通話中の場合は、次の番号に登録された内線電話に着信します。

◎巡回着信　：「01」のテキストボックスに登録された内線電話が最初に着信しますが、次回着信があったときは、次の番号に登録された電話機に着信します。
その電話機が通話中の場合だけ、その次の番号の電話機に順次着信します。

◎一斉着信　：代表着信グループに登録された内線電話が一斉に着信します。
※「内線設定」メニュー→「内線共通設定」画面→[簡易中継サーバ設定]項目で、「多機能電話機種」を「VP-701」に設定したときは、「✓」(チェックボックス)が表示されます。「✓」が入っている電話機がVP-701の場合には、着信時に鳴動します。

8.「代表着信設定」画面　　「外線設定」ー**「代表着信設定」**

■代表着信設定

代表着信設定			
番号		①	1 追加
グループ名称		②	4000
代表着信内線番号		③	4000
昼間	動作設定 ④		順次着信
	内線番号の登録⑤		01 201 02 202 03 203 04 05 06 07 08
夜間	夜間は着信動作を変更 ⑥		○しない ◉する
	動作設定④		順次着信
	内線番号の登録⑤		01 204 02 205 03 04 05 06 07 08

※上図は、夜間の着信動作を併せて登録した場合の設定例です。

⑤内線番号の登録 ……　[子機内線設定]項目で設定した内線番号および[代表着信設定]項目で設定した代表着信内線番号を選択します。
最大8個の内線電話番号を登録できます。

⑥夜間は着信動作を変更　本製品の動作モードを「夜間」に切り替えたときに、内線電話への着信の方法を変更できます。　(出荷時の設定：しない)
「する」を選択すると、夜間モード時に着信する内線番号を登録できます。

8.「代表着信設定」画面　　「外線設定」ー**「代表着信設定」**

■現在の登録

[代表着信設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録

	番号	グループ名称	代表着信内線番号	昼間		夜間	
				動作設定	内線番号の登録	動作設定	内線番号の登録
①編集 ②削除	1	4000	4000	順次着信	201 202 203	順次着信	204 205
全削除							

※上図は、設定例です。

①**〈編集〉** …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を[代表着信設定]項目で編集できます。

②**〈削除〉** …… ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

9.「指定着信設定」画面

「外線設定」ー**「指定着信設定」**

外線からの着信先を指定および着信拒否するための設定画面です。

■指定着信設定

IP電話や加入電話回線からかかってくる相手の電話番号を登録することにより着信動作を指定します。

※上図は、設定例です。

①番号 ……

最大50件の相手先電話番号が登録できます。

〈追加〉

入力した内容(①～⑤)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

②相手先名 ……

相手の名前を任意の半角31文字(全角15)以内で入力します。

③電話番号 ……

相手から通知される電話番号を入力します。

※IP電話、一般加入電話または携帯電話など、外線の電話番号を入力します。

④動作 ……

[電話番号]欄に設定した電話番号からの着信動作を指定します。

◎全端末に着信：
　設定した電話番号からの着信を許可します。

◎TELポート1～2に着信：
　設定した電話番号からの着信を設定した内線子機にのみ許可します。

◎内線子機1～18に着信：
　設定した電話番号からの着信を設定した内線子機にのみ許可します。

◎代表着信グループ1～20に着信：
　設定した電話番号からの着信を設定したグループにのみ許可します。

◎着信拒否：
　設定した電話番号からの着信を拒否します。

⑤呼出音 ……

[電話番号]欄に設定した電話番号からの着信したときの呼出音を指定します。

「通常」を設定すると、「サーバ接続設定」画面で指定した回線の着信音になります。

※本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)と、IP多機能電話機(弊社製VP-501/VP-701)に有効な設定です。

9.「指定着信設定」画面　「外線設定」ー**「指定着信設定」**

■現在の登録

[指定着信設定]項目で登録した内容を表示します。

※上図は、設定例です。

①**〈編集〉** …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を[指定着信設定]項目で編集できます。

②**〈削除〉** …… ボタンの右欄に表示された内容を削除するとき、クリックします。
※登録した内容を一括してすべて削除するときは、〈全削除〉をクリックします。

「内線設定」メニュー

第 2 章

この章では、
「内線設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「内線共通設定」画面 …… 50
■ 簡易中継サーバ設定 …… 51
■ 特番設定 VP-501設定時 …… 56
■ 特番設定 VP-701設定時 …… 59
2.「子機内線設定」画面 …… 64
■ TELポート内線設定 …… 64
■ 子機内線設定 …… 66
■ 現在の登録 …… 69
■ 子機内線一括設定 …… 70
3.「子機内線詳細情報設定」画面 …… 71
■ 子機内線詳細情報設定 …… 71
■ メール通知転送設定 …… 76
■ メールフィルタ …… 79
4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面 …… 80
■ 基本設定 …… 80
■ VoIPダイヤルタイミング …… 82
■ トーン設定 …… 83
■ 着信転送設定 …… 84
5.「昼夜切替設定」画面 …… 86
■ 昼夜切替状況 …… 86
■ 昼夜切替曜日設定 …… 86
■ 昼夜切替日付設定 …… 87
6.「位置情報設定」画面 …… 88
■ 登録の追加 …… 88
■ 登録済み端末 …… 88
7.「VoIP詳細設定」画面 …… 89
■ VoIP音質設定 …… 89
■ TOS設定 …… 91
■ TELポート付加機能設定 …… 94

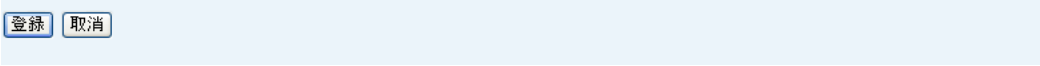
【特番設定項目について】
多機能電話機種を[簡易中継サーバ]項目で設定すると、表示される設定項目が一部変更になります。
VP-501設定時は、「VP-501」を選択したときに表示される設定項目です。
VP-701設定時は、「VP-701」を選択したときに表示される設定項目です。

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面

「内線設定」ー**「内線共通設定」**

本製品に登録した子機で共通に使用する設定です。



〈登録〉…… 「内線共通設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「内線共通設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

【簡易中継サーバ機能について】
本製品に登録された子機どうしで内線通話したり、内線転送や保留などができます。
弊社製VoIP対応機器を本製品の子機として、最大18台まで接続できますので、同時に使用できるIP通話数を拡張できます。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■簡易中継サーバ設定

本製品の簡易中継サーバ機能を設定します。

簡易中継サーバ設定		
内線ドメイン	①	192.168.61.34
デフォルト着信内線番号	②	351
転送切り戻り時間	③	20 秒　鳴動時間: 30 秒
パークリコール時間	④	180 秒　リコール試行時間: 0 分
AP1台あたりの通話制限数	⑤	制限しない
SIP 183対応	⑥	◉しない　○する SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
電話回線 レスポンス変換	⑦	◉しない　○する ISDN、電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードへ変換する設定です。 「SIP 183対応」設定が「する」のときのみ有効です。
SIP レスポンス中継	⑧	◉しない　○する SIP網側のレスポンスコードをSIP内線へ中継する設定です。
呼出中転送方式	⑨	○被転送番号を中継しない　◉被転送番号を中継する
多機能電話機種	⑩	○VP-501　◉VP-701

※上記の画面は、設定例です。

①内線ドメイン ……

簡易中継サーバとその子機間が共通で使用するSIPサービスドメイン名を任意に設定します。

※子機側は、「サーバ接続設定(またはSIP設定)」画面→[SIPサーバ接続設定]項目→[SIPサービスドメイン]欄に、ここで設定した値を入力します。

②デフォルト着信内線番号

「デフォルト着信」で使用される着信先電話番号を設定します。
下記の4つのときの着信を、「デフォルト着信」と定義します。
◎アナログ公衆電話回線からの着信で、着信内線番号の指定がない場合
◎ISDN回線からの着信で、着信内線番号の指定がない場合
◎サーバ接続設定で、着信内線番号の指定がない場合
◎Peer to Peer設定で、着信内線番号の指定がない場合
※デフォルト着信内線番号として、[TELポート内線設定]項目および[子機内線設定]項目で設定した内線番号とグループ番号、[代表着信設定]項目で設定した代表着信内線番号のどれかを設定できます。
※設定された番号が存在しない場合、着信拒否になります。
※空白(設定なし)の場合は、本製品に登録したすべての電話機に着信します。

【ご注意】
IP電話ネットワーク内で、同じ内線ドメインは使用できません。
ほかのSIPサーバ(簡易中継サーバ)、VE-IG1やVE-AG1などのゲートウェイ装置を増設する場合、それぞれ異なる内線ドメインを設定してください。
本製品に設定した内線ドメインと、本製品の「外線設定」メニューの「サーバ接続設定」画面にあるSIPサービスドメインが一致するような構成はできません。

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■簡易中継サーバ設定

簡易中継サーバ設定		
内線ドメイン	①	192.168.61.34
デフォルト着信内線番号	②	351
転送切り戻り時間	③	20 秒　鳴動時間: 30 秒
パークリコール時間	④	180 秒　リコール試行時間: 0 分
AP1台あたりの通話制限数	⑤	制限しない
SIP 183対応	⑥	◉しない　○する SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
電話回線 レスポンス変換	⑦	◉しない　○する ISDN、電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードへ変換する設定です。 「SIP 183対応」設定が「する」のときのみ有効です。
SIP レスポンス中継	⑧	◉しない　○する SIP網側のレスポンスコードをSIP内線へ中継する設定です。
呼出中転送方式	⑨	○被転送番号を中継しない　◉被転送番号を中継する
多機能電話機種	⑩	○VP-501　◉VP-701

※上記の画面は、設定例です。

③転送切り戻り時間 ……　内線電話からの転送に失敗したとき、元の通話に戻すまでの時間です。
設定時間内に転送先が応答できなかったときは、切り戻りをします。
設定できる範囲は、「0～99(秒)」です。　(出荷時の設定：20)
※「0」を設定した場合は、切り戻りをしません。

[鳴動時間]　転送を切り戻したときに設定時間が経過すると、通話を切断します。
設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。　(出荷時の設定：30)

④パークリコール時間 …　通話をパーク保留したとき、保留を忘れたり応答できなかった場合、転送元の電話機にリコール(再呼出)するまでの時間です。
設定時間内にパーク応答できなかったときは、転送元に着信します。
設定できる範囲は、「0～600(秒)」です。　(出荷時の設定：180)
※「0」を設定した場合はリコール(再呼出)しません。

[リコール試行時間]　リコール開始から転送元に着信できるまで試行する時間です。
設定できる範囲は、「0～99(分)」です。　(出荷時の設定：0)
※「0」を設定した場合は、通話を切断しません。
【設定時間内に着信した場合】
転送元に着信後は、リコール試行時間が経過した時点ですべて切断します。
※転送元に着信後に応答せず着信をキャンセルした場合は、約1分30秒経過すると、保留を解除して通話を切断します。
【設定時間内に着信できなかった場合】
保留を解除して通話を切断します。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■簡易中継サーバ設定

簡易中継サーバ設定		
内線ドメイン	①	192.168.61.34
デフォルト着信内線番号	②	351
転送切り戻り時間	③	20 秒　鳴動時間: 30 秒
パークリコール時間	④	180 秒　リコール試行時間: 0 分
AP1台あたりの通話制限数	⑤	制限しない
SIP 183対応	⑥	○しない　○する SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
電話回線 レスポンス変換	⑦	○しない　○する ISDN、電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードへ変換する設定です。 「SIP 183対応」設定が「する」のときのみ有効です。
SIP レスポンス中継	⑧	○しない　○する SIP網側のレスポンスコードをSIP内線へ中継する設定です。
呼出中転送方式	⑨	○被転送番号を中継しない　○被転送番号を中継する
多機能電話機種	⑩	○VP-501　○VP-701

※上記の画面は、設定例です。

⑤AP1台あたりの通話制限数　本製品に登録した無線IP携帯が使用する弊社製無線アクセスポイントについて、1台あたりの通話制限数を設定します。
設定できる範囲は、「1～20」です。　(出荷時の設定：制限しない)
通話制限を設定すると、接続集中による通信速度低下を防止できます。
※「1」を設定した場合は、同じエリア内の無線IP携帯から無線IP携帯に通話転送できません。
※位置情報通知機能対応の弊社製無線アクセスポイントが必要です。
※この機能を使用するためには、「位置情報設定」画面で、無線IP携帯のMACアドレスを登録する必要があります。

⑥SIP 183対応 ……　SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、呼出中の状態で、通話を開始せずに「おかけになった電話番号は、現在使われておりません。」などの自動音声ガイダンス(トーキー)を聞けるようになります。
※FOMA®端末は対応しておりません。

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■簡易中継サーバ設定

簡易中継サーバ設定		
内線ドメイン	①	192.168.61.34
デフォルト着信内線番号	②	351
転送切り戻り時間	③	20 秒　鳴動時間: 30 秒
パークリコール時間	④	180 秒　リコール試行時間: 0 分
AP1台あたりの通話制限数	⑤	制限しない
SIP 183対応	⑥	◉しない　○する SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
電話回線 レスポンス変換	⑦	◉しない　○する ISDN、電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードへ変換する設定です。 「SIP 183対応」設定が「する」のときのみ有効です。
SIP レスポンス中継	⑧	◉しない　○する SIP網側のレスポンスコードをSIP内線へ中継する設定です。
呼出中転送方式	⑨	○被転送番号を中継しない　◉被転送番号を中継する
多機能電話機種	⑩	○VP-501　◉VP-701

※上記の画面は、設定例です。

⑦電話回線 レスポンス変換　一般加入電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードに変換する設定です。
[SIP 183対応](⑥)欄で、「する」を設定に設定したとき有効な機能です。

⑧SIP レスポンス中継 …　「する」に設定すると、VP-501ではこれまで「オハナシチュウ(486)」と表示されていたのが何も表示されなくなったり、「リヨウデキマセン(503)」と表示されるようになります。　(出荷時の設定：しない)
この設定は、商用IP電話接続業者に接続しスライド発信をするために必要です。
VR-6030 - AP-5100VoIP - 商用IP電話接続業者のように接続してVR-6030でスライド発信するときに、AP-5100VoIP側で「SIP レスポンス中継」を「する」に設定しておかないと、IP事業者からスライド許可レスポンスが返答された場合にスライド発信が機能しません。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■簡易中継サーバ設定

簡易中継サーバ設定		
内線ドメイン	①	192.168.61.34
デフォルト着信内線番号	②	351
転送切り戻り時間	③	20 秒　鳴動時間: 30 秒
パークリコール時間	④	180 秒　リコール試行時間: 0 分
AP1台あたりの通話制限数	⑤	制限しない
SIP 183対応	⑥	◉しない　○する SIP 183 Session Progressを内線子機へ中継する設定です。
電話回線 レスポンス変換	⑦	◉しない　○する ISDN、電話回線への発信失敗理由をSIPのレスポンスコードへ変換する設定です。 「SIP 183対応」設定が「する」のときのみ有効です。
SIP レスポンス中継	⑧	◉しない　○する SIP網側のレスポンスコードをSIP内線へ中継する設定です。
呼出中転送方式	⑨	○被転送番号を中継しない　◉被転送番号を中継する
多機能電話機種	⑩	○VP-501　◉VP-701

※上記の画面は、設定例です。

⑨呼出中転送方式 ……

「被転送番号を中継する」に設定すると、呼出中に受話器を置いて転送する(呼出中転送)とき、転送先に被転送の電話番号を表示します。

(出荷時の設定：被転送番号を中継する)

【操作例】

AからBにかかってきた電話を、BがCに転送するときにCの電話機にAの電話番号が表示されます。

中継しなければ、Bの電話番号がCに伝わったままで、被転送の番号がわからない代わりに電話も切れません。

※中継する場合は、電話番号の表示を変更しようとしているタイミングでCが電話にでてしまうと切れる場合があります。
この場合のタイミングは、電話番号の表示がBからAの電話番号に切り替わるまでの時間です。

⑩多機能電話機種 ……

本製品に登録する多機能電話機の機種を選択します。

「VP-501」、「VP-701」のどちらか一方だけ選択できます。

(出荷時の設定：VP-501)

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■特番設定 (VP-501設定時)

本製品に登録した子機で使用する特番を設定します。

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留:*2	パーク応答:*1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。

※上記の画面は、設定例です。

①内線一斉発信番号……　簡易中継サーバ(親機)とその子機から、ほかのIP電話を一斉に呼び出すための番号を、半角数字7桁以内で入力します。

②コールピックアップ……　この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの子機への呼び出しに応答できます。
半角数字7桁以内で入力します。

③グループピックアップ…　この欄で設定した番号をダイヤルすると、所属するグループ内のほかの子機への呼び出しに応答できます。
半角数字7桁以内で入力します。
※「子機内線設定」画面で、グループ番号を設定していない場合は、無効な機能です。

④パークプレフィクス …　本製品に登録した子機で、パーク保留・応答するためのパーク番号を、半角数字7桁以内で入力します。
※弊社製VP-501だけ使用する場合でも必ず設定してください。
※プレフィクス番号が重複する特番および内線番号は設定できません。
（例えば「61」の場合、61や611などは設定できません。）

⑤昼夜切替 ……　昼間と夜間で、着信したときの動作を切り替えるための番号です。
この欄で設定した番号をダイヤルすると、「昼間」から「夜間」、または「夜間」から「昼間」に変更できます。
現在の切替状況は、「昼夜切替設定」画面の[昼夜切替状況]項目で確認できます。
※「代表着信設定」画面の[夜間動作設定]欄、「子機内線詳細情報設定」画面の[不在転送(夜間)]欄での設定が必要です。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■ 特番設定 (VP-501設定時)

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留: *2	パーク応答: *1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。

※上記の画面は、設定例です。

⑥電話回線発信番号 …… 発信先をIP電話から加入電話回線に切り替えるとき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。　(出荷時の設定：0000)
「電話回線発信番号」+「相手先の電話番号」をダイヤルすると、加入電話回線を使用して相手先と通話します。

⑦SIPサーバ発信特番…… 指定したSIPサーバへ発信するとき、電話機からダイヤルする番号を7桁以内の数字で入力します。
「SIPサーバ発信番号」+「サーバ番号(2桁)」+「相手先の電話番号」をダイヤルすると、指定したSIPサーバへ発信します。
※本製品に登録したVP-501のフレキシブルボタンに、「発信キー」(発信グループ)を割り当てる場合は、この[SIPサーバ発信特番]、および「発信グループ設定」画面の[グループ発信プレフィクス]項目を設定する必要があります。

⑧不在転送特番 …… 本製品に登録したVP-501で、この欄で設定した番号に続けて転送先の内線番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
不在転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※登録したVP-501ごとに、「子機内線詳細情報設定」画面の[不在転送]欄で、転送先の設定ができます。

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■ 特番設定 (VP-501設定時)

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留: *2	パーク応答: *1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。

※上記の画面は、設定例です。

⑨不応答転送特番……　本製品に登録したVP-501で、この欄で設定した番号に続けて転送先の内線番号をダイヤルすると、設定時間内に応答できない場合、指定した転送先に着信が転送されます。
不応答転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※登録したVP-501ごとに、「子機内線詳細情報設定」画面の[不応答転送]欄で、転送先と呼出時間の設定ができます。
呼出時間は何も指定しなければ、5秒に設定されています。

⑩話中転送特番……　本製品に登録したVP-501で、この欄で設定した番号に続けて転送先の内線番号をダイヤルすると、通話中にほかの内線子機から着信した場合、指定した転送先に着信が転送されます。
※外線から着信した場合は、転送しません。
※内線一斉発信、グループ番号で着信した場合は、転送しません。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■特番設定 (VP-701設定時)

本製品に登録した子機で使用する特番を設定します。

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留: *2	パーク応答: *1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
音声呼出特番	⑪	906	多機能電話への音声呼出に使用する特番です。
外線着信用代理応答特番	⑫	907	多機能電話の発信キー機能で使用する特番です。
外線キー パークプレフィクス	⑬	パーク保留: *92	パーク応答: *91
外線捕捉特番	⑭	908	多機能電話からの外線捕捉に使用する特番です。

※上記の画面は、設定例です。

①内線一斉発信番号……　簡易中継サーバ(親機)とその子機から、ほかのIP電話を一斉に呼び出すための番号を、半角数字7桁以内で入力します。

②コールピックアップ……　この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの子機への呼び出しに応答できます。
半角数字7桁以内で入力します。

③グループピックアップ…　この欄で設定した番号をダイヤルすると、所属するグループ内のほかの子機への呼び出しに応答できます。
半角数字7桁以内で入力します。
※「子機内線設定」画面で、グループ番号を設定していない場合は、無効な機能です。

④パークプレフィクス　…　本製品に登録した子機で、パーク保留・応答するためのパーク番号を、半角数字7桁以内で入力します。
※弊社製VP-701だけ使用する場合でも必ず設定してください。
※プレフィクス番号が重複する特番および内線番号は設定できません。
（例えば「61」の場合、61や611などは設定できません。）

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■ 特番設定 (VP-701設定時)

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留: *2	パーク応答: *1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
音声呼出特番	⑪	906	多機能電話への音声呼出に使用する特番です。
外線着信用代理応答特番	⑫	907	多機能電話の発信キー機能で使用する特番です。
外線キー パークプレフィクス	⑬	パーク保留: *92	パーク応答: *91
外線捕捉特番	⑭	908	多機能電話からの外線捕捉に使用する特番です。

※上記の画面は、設定例です。

⑤昼夜切替 ……

昼間と夜間で、着信したときの動作を切り替えるための番号です。
この欄で設定した番号をダイヤルすると、「昼間」から「夜間」、または「夜間」から「昼間」に変更できます。
現在の切替状況は、「昼夜切替設定」画面の[昼夜切替状況]項目で確認できます。
※「代表着信設定」画面の[夜間動作設定]欄、「子機内線詳細情報設定」画面の[不在転送(夜間)]欄での設定が必要です。

⑥電話回線発信番号 ……

発信先をIP電話から加入電話回線に切り替えるとき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。　(出荷時の設定：0000)
「電話回線発信番号」+「相手先の電話番号」をダイヤルすると、加入電話回線を使用して相手先と通話します。

⑦SIPサーバ発信特番……

指定したSIPサーバへ発信するとき、電話機からダイヤルする番号を7桁以内の数字で入力します。
「SIPサーバ発信番号」+「サーバ番号(2桁)」+「相手先の電話番号」をダイヤルすると、指定したSIPサーバへ発信します。
※本製品に登録したVP-701のフレキシブルボタンに、「外線キー」(発信グループ)を割り当てる場合は、この[SIPサーバ発信特番]、「外線着信用代理応答特番」、「外線キーパークプレフィクス」、「外線捕捉特番」および「発信グループ設定」画面の[グループ発信プレフィクス]項目を設定する必要があります。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■ 特番設定 (VP-701設定時)

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留: *2	パーク応答: *1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
音声呼出特番	⑪	906	多機能電話への音声呼出に使用する特番です。
外線着信用代理応答特番	⑫	907	多機能電話の発信キー機能で使用する特番です。
外線キー パークプレフィクス	⑬	パーク保留: *92	パーク応答: *91
外線捕捉特番	⑭	908	多機能電話からの外線捕捉に使用する特番です。

※上記の画面は、設定例です。

⑧不在転送特番 ……

本製品に登録したVP-701で、この欄で設定した番号に続けて転送先の内線番号をダイヤルすると、指定した転送先に着信が転送されます。
不在転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※登録したVP-701ごとに、「子機内線詳細情報設定」画面の[不在転送]欄で、転送先の設定ができます。

⑨不応答転送特番……

本製品に登録したVP-701で、この欄で設定した番号に続けて転送先の内線番号をダイヤルすると、設定時間内に応答できない場合、指定した転送先に着信が転送されます。
不応答転送機能を解除するときは、この欄で設定した番号だけをダイヤルします。
※登録したVP-701ごとに、「子機内線詳細情報設定」画面の[不応答転送]欄で、転送先と呼出時間の設定ができます。
呼出時間は何も指定しなければ、5秒に設定されています。

2 「内線設定」メニュー

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■ 特番設定 (VP-701設定時)

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留: *2	パーク応答: *1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
音声呼出特番	⑪	906	多機能電話への音声呼出に使用する特番です。
外線着信用代理応答特番	⑫	907	多機能電話の発信キー機能で使用する特番です。
外線キー パークプレフィクス	⑬	パーク保留: *92	パーク応答: *91
外線捕捉特番	⑭	908	多機能電話からの外線捕捉に使用する特番です。

※上記の画面は、設定例です。

⑩話中転送特番……　本製品に登録したVP-701で、この欄で設定した番号に続けて転送先の内線番号をダイヤルすると、通話中にほかの内線子機から着信した場合、指定した転送先に着信が転送されます。
※外線から着信した場合は、転送しません。
※内線一斉発信、グループ番号で着信した場合は、転送しません。

⑪音声呼出特番……　本製品に登録したVP-701で、この欄で設定した番号に続けて内線番号をダイヤルすると、呼び出し先(VP-701)を音声で呼び出します。
半角数字7桁以内で入力します。

⑫外線着信用代理応答特番　本製品に登録したVP-701で、この欄で設定した番号をダイヤルすると、着信している外線に応答できます。
半角数字7桁以内で入力します。
※本製品に登録したVP-701のフレキシブルボタンに、「外線キー」(発信グループ)を割り当てる場合は、この「外線着信用代理応答特番」、[SIPサーバ発信特番]、「外線キーパークプレフィクス」、「外線捕捉特番」および「発信グループ設定」画面の[グループ発信プレフィクス]項目を設定する必要があります。

1.「内線共通設定」画面　　「内線設定」ー**「内線共通設定」**

■ 特番設定 (VP-701設定時)

特番設定			
内線一斉発信番号	①	9999	
コールピックアップ	②	*	ほかの子機の着信に代理応答します。
グループピックアップ	③	**	同一のグループ番号を持つ子機の着信に代理応答します。
パークプレフィクス	④	パーク保留:*2	パーク応答:*1
昼夜切替	⑤	901	昼間と夜間を切り替えます。
電話回線発信番号	⑥	0000	ISDN回線、アナログ回線に発信します。
SIPサーバ発信特番	⑦	902	特番+サーバ番号(2桁)+電話番号で指定のSIPサーバへ発信します。
不在転送特番	⑧	903	不在転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
不応答転送特番	⑨	904	不応答転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
話中転送特番	⑩	905	話中転送の有効/無効を切り替えます。特番+転送先番号で転送先を設定できます。
音声呼出特番	⑪	906	多機能電話への音声呼出に使用する特番です。
外線着信用代理応答特番	⑫	907	多機能電話の発信キー機能で使用する特番です。
外線キー パークプレフィクス	⑬	パーク保留:*92	パーク応答:*91
外線捕捉特番	⑭	908	多機能電話からの外線捕捉に使用する特番です。

※上記の画面は、設定例です。

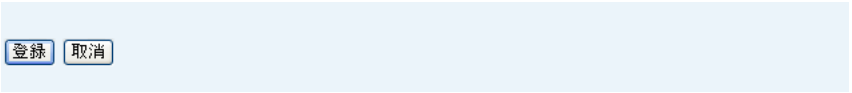
⑬外線キー
パークプレフィクス …　本製品に登録したVP-701で、外線をパーク保留・応答するためのパーク番号を、半角数字7桁以内で入力します。
※弊社製VP-701だけ使用する場合でも必ず設定してください。
※プレフィクス番号が重複する特番および内線番号は設定できません。（例えば「61」の場合、61や611などは設定できません。）
※本製品に登録したVP-701のフレキシブルボタンに、「外線キー」(発信グループ)を割り当てる場合は、この「外線キーパークプレフィクス」、[SIPサーバ発信特番]、「外線着信用代理応答特番」、「外線捕捉特番」および「発信グループ設定」画面の[グループ発信プレフィクス]項目を設定する必要があります。

⑭外線捕捉特番 ……　この欄で設定した番号に続けて外線番号をダイヤルすると、同一の発信グループ内で空いているSIPサーバを自動で捕捉して外線に発信します。
※本製品に登録したVP-701のフレキシブルボタンに、「外線キー」(発信グループ)を割り当てる場合は、この「外線捕捉特番」、[SIPサーバ発信特番]、「外線着信用代理応答特番」、「外線キーパークプレフィクス」および「発信グループ設定」画面の[グループ発信プレフィクス]項目を設定する必要があります。

2.「子機内線設定」画面

「内線設定」ー**「子機内線設定」**

本製品に登録する子機について設定します。



〈登録〉…… 「子機内線設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「子機内線設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■TELポート内線設定

内線で簡易中継サーバ(親機)に接続されたIP電話を呼び出すとき設定します。

TELポート内線設定

	① 内線番号	② グループ番号	③ 発信設定 (SIPサーバ)	④ 発信設定 (Peer to Peer)	⑤ 発信設定 (ISDN)	⑥ ISDN/LINEへ 自動迂回
TEL1	201		1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する
TEL2	202		1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する

※「サーバ接続設定」画面で電話番号(アカウント)を登録すると、[発信設定]欄に「登録番号(電話番号)」と表示されます。

①内線番号 …… 本製品の[TEL1/2]ポートに接続されたアナログ電話機の内線着信番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。

②グループ番号 …… 本製品の[TEL1/2]ポートに接続された電話機の内線着信グループ番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。
※[内線番号](①)、ほかの[グループ番号](②)と同じ番号を設定できます。
グループ番号および内線番号が同じIP電話が一斉に着信します。

③発信設定(SIPサーバ) … 商用IP電話接続業者への接続先を、「サーバ接続設定」画面にある[SIPサーバ接続設定]項目に登録している場合、[登録の一覧]欄に表示された登録番号(1～20)、または[発信しない]を選択します。(出荷時の設定:1)
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録されたSIPサーバに発信します。

2.「子機内線設定」画面　　「内線設定」ー**「子機内線設定」**

■TELポート内線設定

※「サーバ接続設定」画面で電話番号(アカウント)を登録すると、[発信設定]欄に「登録番号(電話番号)」と表示されます。

④発信設定(Peer to Peer)　Peer to Peerへの接続先を、「Peer to Peer設定」画面にある[Peer to Peer設定]項目に登録している場合、[登録の一覧]欄に表示された登録番号(1～20)、または[発信しない]を選択します。 (出荷時の設定：1)
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録された[SIP URI]で発信します。

⑤発信設定(ISDN) ……　ISDN回線への発信先を、「ISDN回線設定」画面にある[INSダイヤルイン設定]項目に登録している場合、[登録の一覧]項目に表示された登録番号(1～20)、または[契約者回線番号]を設定します。
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録されたダイヤルイン、またはi･ナンバーの電話番号で発信します。
※契約者回線番号(出荷時の設定)ときは、「ISDN回線設定」画面にある[契約者回線番号設定]項目の[電話番号]欄に設定した契約電話番号の回線で発信します。

⑥ISDN/LINEへ自動迂回　本製品のISDN/LINE自動迂回機能を設定します。
(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、SIPサーバに発信して通話できない場合にISDN/LINEへ自動迂回します。
※話中の場合は迂回しません。

2 「内線設定」メニュー

2.「子機内線設定」画面　　「内線設定」ー**「子機内線設定」**

■子機内線設定

簡易中継サーバの子機に接続している電話機の電話番号と、発信先のサーバを登録するとき設定します。
最大18台まで、子機を登録できます。

子機内線設定			
番号		①	1 追加
名前		②	
内線番号		③	351
グループ番号		④	
パスワード		⑤	
WAN側からの接続を許可		⑥	しない
発信設定	SIPサーバ	⑦	1 (0503030)
	Peer to Peer	⑧	1 (a5100)
	ISDN	⑨	契約者回線番号
ISDN/LINEへ自動迂回		⑩	する
CGI認証		⑪	ID: パスワード:
個体識別情報		⑫	ser:

※「サーバ接続設定」画面を設定すると、[発信設定]欄に「番号(IP電話番号)」が表示されます。

①番号 ……　簡易中継サーバの子機を登録する番号を設定します。

〈追加〉

[子機内線設定]項目(①～⑫)で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。

②名前 ……　必要に応じて、登録する子機を使用するユーザーの名前を、任意の半角31(全角15)文字以内で入力します。

③内線番号 ……　登録する子機の内線着信番号を、半角数字7桁以内で入力します。

④グループ番号 ……　子機に登録された電話機の内線着信グループ番号を、半角数字7桁以内で入力します。
この欄に設定した番号をダイヤルすると、グループ番号が同じ子機に一斉に着信します。
※[特番設定]項目で設定した[グループピックアップ]をダイヤルすると、同じグループ番号のほかの子機への呼び出しに応答できます。

⑤パスワード ……　子機から簡易中継サーバの親機(本製品)への接続を認証するパスワードを、半角英数字31文字以内で入力します。

【不正アクセス防止のアドバイス】

本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせて長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更するなどが有効です。

2.「子機内線設定」画面　　「内線設定」ー**「子機内線設定」**

■子機内線設定

子機内線設定			
番号		①	1 追加
名前		②	
内線番号		③	351
グループ番号		④	
パスワード		⑤	
WAN側からの接続を許可		⑥	しない
発信設定	SIPサーバ	⑦	1 (0503030)
	Peer to Peer	⑧	1 (a5100)
	ISDN	⑨	契約者回線番号
ISDN/LINEへ自動迂回		⑩	する
CGI認証		⑪	ID: パスワード:
個体識別情報		⑫	ser:

※「サーバ接続設定」画面を設定すると、[発信設定]欄に「番号(IP電話番号)」が表示されます。

⑥WAN側からの接続を許可　WAN側回線からの接続について設定します。（出荷時の設定：しない）
「する」に設定すると、WAN側回線からの接続を許可します。
※「する」に設定した場合、WAN側回線からの接続時には、パスワード（⑤）の設定が必要となります。

⑦発信設定(SIPサーバ)…　SIPサーバへの接続先を、「サーバ接続設定」画面→[SIPサーバ接続設定]項目に登録している場合、[登録の一覧]欄に表示された登録番号(1～20)、または[発信しない]を設定します。（出荷時の設定：1）
子機側に接続された電話機から、その番号に登録されたSIPサーバに発信します。

⑧発信設定(Peer to Peer)　Peer to Peerの接続に使用する自分の[SIP URI]を、「Peer to Peer設定」画面→[Peer to Peer設定]項目に登録している場合、[現在の登録]欄に表示された登録番号(1～20)、または[発信しない]を設定します。（出荷時の設定：1）
子機側に接続された電話機から、その番号に登録された[SIP URI]で発信します。

⑨発信設定(ISDN)……　ISDN回線への発信先を、「ISDN回線設定」画面にある[INSダイヤルイン設定]項目(P16)に登録している場合、[登録の一覧]項目に表示された登録番号(1～20)、または[契約者回線番号]を設定します。
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録されたダイヤルイン、またはi･ナンバーの電話番号で発信します。
※契約者回線番号(出荷時の設定)ときは、「ISDN回線設定」画面にある[契約者回線番号設定]項目の[電話番号]欄に設定した契約電話番号の回線で発信します。

2 「内線設定」メニュー

2.「子機内線設定」画面　　「内線設定」ー**「子機内線設定」**

■子機内線設定

子機内線設定			
番号		①	1 追加
名前		②	
内線番号		③	351
グループ番号		④	
パスワード		⑤	
WAN側からの接続を許可		⑥	しない
発信設定	SIPサーバ	⑦	1 (0503030)
	Peer to Peer	⑧	1 (a5100)
	ISDN	⑨	契約者回線番号
ISDN/LINEへ自動迂回		⑩	する
CGI認証		⑪	ID: パスワード:
個体識別情報		⑫	ser:

※「サーバ接続設定」画面を設定すると、[発信設定]欄に「番号(IP電話番号)」が表示されます。

⑩ISDN/LINEへ自動迂回　本製品のISDN/LINE自動迂回機能を設定します。
(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、SIPサーバに発信して通話できない場合にISDN/LINEへ自動迂回します。
※話中の場合は迂回しません。

⑪CGI認証 ……　本製品の「サービスメニュー」にログインするために、IDとパスワードを設定します。

⑫個体識別情報 ……　FOMA®端末の個体識別情報(utn)を設定します。
設定すると、個体識別情報が一致しない端末では、本製品の「サービスメニュー」にログインできません。(utn対応端末の機能)
【個体識別情報設定時のログインは】
・FOMA® N900iL　i-modeブラウザでのみ
・FOMA® N902iL　i-modeブラウザ、WLANブラウザでのみ
（フルブラウザでは設定画面そのものにアクセスします）
※その他のブラウザでは、設定するとログインできなくなります。

2.「子機内線設定」画面　　「内線設定」ー**「子機内線設定」**

■現在の登録

[子機内線設定]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録

①すべて	②編集	③削除	番号	名前	内線番号	グループ番号	WAN側接続許可	発信設定(SIPサーバ)	発信設定(Peer to Peer)	発信設定(ISDN)	ISDN/LINEへ自動迂回	CGI認証ID	④詳細
□	編集	削除	1		351		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	2		352		しない	2 (0503029)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	3		353		しない	3 (0503028)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	4		354		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	5		355		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	6		356		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	7		357		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	8		358		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細
□	編集	削除	9		359		しない	1 (0503030)	1 (a5100)	契約者回線番号	する		詳細

※上図は、設定例です。

①子機選択ボックス …… [子機内線一括設定]項目で「設定コピー」や「選択削除」するとき、該当する子機を選択します。
チェックボックスをクリックしてチェックマークを入れてから、[子機内線一括設定]項目のボタンをクリックします。

②〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を[子機内線設定]項目で編集できます。
※[子機内線設定]項目で登録した[パスワード]欄の内容は登録されていますが、[現在の登録]欄に表示されません。

③〈削除〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を削除します。

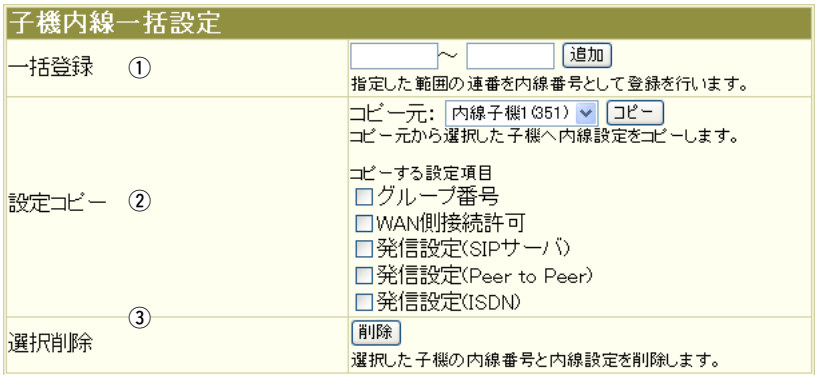
④〈詳細〉 …… 子機を使用するユーザーの詳細情報を設定します。
クリックすると、[子機内線詳細情報設定]項目(別画面)にその内容を表示します。

2 「内線設定」メニュー

2.「子機内線設定」画面　　「内線設定」ー**「子機内線設定」**

■子機内線一括設定

連番で内線番号を一括登録したり、設定内容をほかの内線番号に一括コピーできます。



①一括登録 ……

連番で一括に登録したい内線番号の範囲を入力します。

〈追加〉

クリックすると、[子機内線番号]項目の[内線番号]欄に入力した範囲の内線番号が登録されます。　（例：701101～701103）

※入力した範囲で、すでに登録された内線番号がある場合は、「電話番号が重複しています」を表示します。

②設定コピー ……

登録した子機の設定内容をほかの子機にコピーできます。

下記のように操作すると、一括して設定できます。

1. [一括登録]欄で、登録する内線番号の範囲を入力します。
（例：701101～701103）
2. [子機内線設定]項目で、コピー元の子機について設定します。
（例：701101）
3. [現在の登録]項目で、設定をコピーしたい子機を選択します。
（例：701102、7101103）
4. [設定コピー]項目で、コピー元の子機を選択し、コピーする設定項目で目的のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。　（例：701101）
5. [設定コピー]項目の〈コピー〉をクリックします。

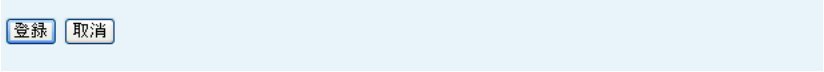
③選択削除 ……

クリックすると、[現在の登録]項目で選択した子機の内容をすべて削除します。

3.「子機内線詳細情報設定」画面

「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

[子機内線設定]項目で登録した子機について詳細情報を設定します。



〈登録〉……　「子機内線詳細情報設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　「子機内線詳細情報設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■子機内線詳細情報設定

[子機内線設定]項目で登録した子機について転送先などを設定します。

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	VP-701 1
内線番号	③	0505001
ﾖﾐｶﾞﾅ	④	
不在転送	⑤	◉転送しない ○転送する 転送先番号: 夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
不応答転送	⑥	◉転送しない ○転送する 呼出時間: 5 秒 転送先番号: 夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
話中転送	⑦	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
グループ・代表着信時	⑧	○転送しない ◉転送する
E-Mailｱﾄﾞﾚｽ1	⑨	
E-Mailｱﾄﾞﾚｽ2	⑩	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。
※上図は、表示例です。

①番号……　[子機内線設定]項目で簡易中継サーバの子機として登録した番号を表示します。
※この欄では番号の変更はできません。

②名前……　[子機内線設定]項目で簡易中継サーバの子機として登録した名前を表示します。
※この欄では名前の変更はできません。

③内線番号……　[子機内線設定]項目で簡易中継サーバの子機として登録した内線番号を表示します。
※この欄では内線番号の変更はできません。

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■子機内線詳細情報設定

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	VP-701 1
内線番号	③	0505001
ﾖﾐｶﾞﾅ	④	
不在転送	⑤	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
不応答転送	⑥	◉転送しない ○転送する 呼出時間: 5 秒 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
話中転送	⑦	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
グループ・代表着信時	⑧	○転送しない ◉転送する
E-Mailアドレス1	⑨	
E-Mailアドレス2	⑩	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。
※上図は、表示例です。

④ヨミガナ ……　必要に応じて、[名前](②)欄に対して読みがなを、半角31文字以内で入力します。
※全角カナは半角に変更されて登録されます。

⑤不在転送 ……　本製品に登録されている子機が着信できないときの転送を設定します。
(出荷時の設定：転送しない)
※[転送先番号]欄に設定された電話番号に転送します。
※多機能電話機(VP-501およびVP-701)の場合、「転送する」に設定し、転送先番号が入力されていると、電話機がレジストされていても無条件で[転送先番号]欄に設定された電話番号に転送します。

[転送先番号]　登録した子機の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。　(出荷時の設定：空白)
※子機を使用するユーザーに着信できない場合の転送先となります。
(空白の場合は転送しません。)

[夜間は転送先を変更]　本製品の動作モードを「夜間」に切り替えたときの転送先を設定します。
(出荷時の設定：しない)

[転送先番号]　登録した子機の夜間の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。
(出荷時の設定：空白)

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■子機内線詳細情報設定

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	VP-701 1
内線番号	③	0505001
ﾖﾐｶﾞﾅ	④	
不在転送	⑤	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
不応答転送	⑥	◉転送しない ○転送する 呼出時間: 5 秒 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
話中転送	⑦	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
グループ・代表着信時	⑧	○転送しない ◉転送する
E-Mailアドレス1	⑨	
E-Mailアドレス2	⑩	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。
※上図は、表示例です。

⑥不応答転送 …… 本製品に登録されている子機が設定時間内に応答できないときの転送を設定します。（出荷時の設定：転送しない）
※[転送先番号]欄に設定された電話番号に転送します。

[呼出時間] 登録した転送先に着信を転送するまでの呼び出し時間です。（出荷時の設定：5）
設定できる範囲は、「1～4」を除く「0～99(秒)」です。
※「0」を設定した場合は、呼出時間では転送しません。

[転送先番号] 登録した子機の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。（出荷時の設定：空白）
※子機を使用するユーザーに着信できない場合の転送先となります。(空白の場合は転送しません。)

[夜間は転送先を変更] 本製品の動作モードを「夜間」に切り替えたときの転送先を設定します。（出荷時の設定：しない）

[転送先番号] 登録した子機の夜間の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。（出荷時の設定：空白）

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■子機内線詳細情報設定

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	VP-701 1
内線番号	③	0505001
ﾖﾐｶﾞﾅ	④	
不在転送	⑤	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
不応答転送	⑥	◉転送しない ○転送する 呼出時間: 5 秒 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
話中転送	⑦	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
グループ・代表着信時	⑧	○転送しない ◉転送する
E-Mailｱﾄﾞﾚｽ1	⑨	
E-Mailｱﾄﾞﾚｽ2	⑩	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。
※上図は、表示例です。

⑦話中転送 ……　本製品に登録されている子機が通話中に、ほかの内線子機から着信したときの転送を設定します。　(出荷時の設定：転送しない)
※[転送先番号]欄に設定された電話番号に転送します。

[転送先番号]　登録した子機の転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。　(出荷時の設定：空白)

⑧グループ・代表着信時　代表着信や内線一斉発信、グループ番号で着信した場合の転送を設定します。　(出荷時の設定：転送する)
※グループ・代表着信時の転送は、1回のみに制限されます。

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■子機内線詳細情報設定

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	VP-701 1
内線番号	③	0505001
ﾖﾐｶﾞﾅ	④	
不在転送	⑤	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
不応答転送	⑥	◉転送しない ○転送する 呼出時間: 5 秒 転送先番号:
		夜間は転送先を変更 ◉しない ○する 転送先番号:
話中転送	⑦	◉転送しない ○転送する 転送先番号:
グループ・代表着信時	⑧	○転送しない ◉転送する
E-Mailアドレス1	⑨	
E-Mailアドレス2	⑩	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。
※上図は、表示例です。

⑨E-Mailアドレス1……　子機として使用する携帯端末のメールアドレスなどを登録します。
※本製品の「サービスメニュー」にログインしたとき、その社員録に表示されます。

⑩E-Mailアドレス2……　子機として使用するユーザーの社内インターネットメールサーバーでのメールアドレスを登録します。
※本製品の「サービスメニュー」にログインしたとき、その社員録に表示されます。

【各種着信転送(不在/不応答/話中)について】
着信転送で外線へ発信すると、本製品側にて転送先までの料金が課金されます。
また、転送先が通話中などで通話できない場合も、電話をかけた側に本製品までの通話料金が課金されます。

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■ メール通知転送設定

メール通知転送機能と転送先のサーバについて設定します。

メール通知転送設定		
IMでの通知機能を使用	①	◉しない ○する 着信メールの内容をIMで通知します。
IMからの迂回機能を使用	②	◉しない ○する 子機がIMを受信できないときは内容をメールで送信します。
不在着信通知メールを使用	③	◉しない ○する 子機に着信して応答しなかった場合に発信者番号等をメールで通知します。
着信通知メールを使用	④	◉しない ○する 不在転送時に発信者番号等をメールで通知します。 ※不在転送「しない」に設定している場合も通知します。
メール転送機能を使用	⑤	◉しない ○する ○オフライン時のみ 受信メールサーバ(POP)に届いたメールを転送先メールアドレスに転送します。
転送先メールアドレス	⑥	
確認間隔	⑦	10 分
発信元メールアドレス	⑧	
受信メールサーバ(POP)	⑨	ポート番号:110
送信メールサーバ(SMTP)	⑩	ポート番号:25
メールアカウント	⑪	
メールパスワード	⑫	
SMTP認証アカウント	⑬	
SMTP認証パスワード	⑭	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。

①IMでの通知機能を使用

指定のメールアドレスに着信メールがあったとき、メールの内容をインスタントメッセージで対応端末に通知する機能です。
(出荷時の設定：しない)
この機能を使用すると、着信メールをすぐに確認できます。

②IMからの迂回機能を使用

インスタントメッセージが対応端末に届かなかったとき、メッセージの内容を転送先メールアドレスにメールで通知する機能です。
(出荷時の設定：しない)

③不在着信通知メールを使用 ……

対応端末を使用するユーザーが、電話の着信に応答しなかった場合に、不在着信をメールで通知する機能です。　(出荷時の設定：しない)
※対応端末が圏外のとき、または対応端末の電源を切っているときには、通知されません。

④着信通知メールを使用

本製品に登録されている子機が応答できない、または着信できない場合、転送先メールアドレスに「発信者番号」などを通知する機能です。
(出荷時の設定：しない)

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■メール通知転送設定

メール通知転送設定		
IMでの通知機能を使用	①	◉しない ○する 着信メールの内容をIMで通知します。
IMからの迂回機能を使用	②	◉しない ○する 子機がIMを受信できないときは内容をメールで送信します。
不在着信通知メールを使用	③	◉しない ○する 子機に着信して応答しなかった場合に発信者番号等をメールで通知します。
着信通知メールを使用	④	◉しない ○する 不在転送時に発信者番号等をメールで通知します。 ※不在転送「しない」に設定している場合も通知します。
メール転送機能を使用	⑤	◉しない ○する ○オフライン時のみ 受信メールサーバ(POP)に届いたメールを転送先メールアドレスに転送します。
転送先メールアドレス	⑥	
確認間隔	⑦	10 分
発信元メールアドレス	⑧	
受信メールサーバ(POP)	⑨	ポート番号:110
送信メールサーバ(SMTP)	⑩	ポート番号:25
メールアカウント	⑪	
メールパスワード	⑫	
SMTP認証アカウント	⑬	
SMTP認証パスワード	⑭	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。

⑤メール転送機能を使用　　指定のメールアドレスに着信メールがあったときに、転送先メールアドレスにメールを転送する機能です。　(出荷時の設定：しない)

⑥転送先メールアドレス　　転送先のメールアドレスを、任意の半角英数字127文字以内で入力します。

⑦確認間隔 ……　　メールサーバに自動接続する間隔を設定します。　(出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「3～65535(分)」です。
※IMでの通知機能、メール転送機能を使用しているときに有効な設定です。

⑧発信元メールアドレス　　メールを送信する際に使用する発信者のメールアドレスを、任意の半角英数字127文字以内で入力します。

【着信メールがあると】
転送されるメールの内容を、半角1023(全角511)文字以内で、「サービスメニュー」→「メール一覧」画面に表示します。
インスタントメッセージ(IM)の場合は、半角300文字までです。
※制限を超えた文字列については、表示されません。

2 「内線設定」メニュー

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■メール通知転送設定

メール通知転送設定		
IMでの通知機能を使用	①	◉しない ○する 着信メールの内容をIMで通知します。
IMからの迂回機能を使用	②	◉しない ○する 子機がIMを受信できないときは内容をメールで送信します。
不在着信通知メールを使用	③	◉しない ○する 子機に着信して応答しなかった場合に発信者番号等をメールで通知します。
着信通知メールを使用	④	◉しない ○する 不在転送時に発信者番号等をメールで通知します。 ※不在転送「しない」に設定している場合も通知します。
メール転送機能を使用	⑤	◉しない ○する ○オフライン時のみ 受信メールサーバ(POP)に届いたメールを転送先メールアドレスに転送します。
転送先メールアドレス	⑥	
確認間隔	⑦	10 分
発信元メールアドレス	⑧	
受信メールサーバ(POP)	⑨	ポート番号:110
送信メールサーバ(SMTP)	⑩	ポート番号:25
メールアカウント	⑪	
メールパスワード	⑫	
SMTP認証アカウント	⑬	
SMTP認証パスワード	⑭	

※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。

⑨受信メールサーバ(POP)　受信メールサーバのサーバアドレスとポート番号を入力します。サーバーアドレスは任意の半角英数字127文字以内で入力し、ポート番号は特に指定がない場合は、出荷時の設定でご使用ください。

⑩送信メールサーバ(SMTP)　送信メールサーバのサーバアドレスとポート番号を入力します。サーバーアドレスは任意の半角英数字127文字以内で入力し、ポート番号は特に指定がない場合は、出荷時の設定でご使用ください。

⑪メールアカウント ……　メールサーバ上のユーザーID、またはメールアカウントを、任意の半角英数字127文字以内で入力します。

⑫メールパスワード ……　メールサーバにアクセスするときのパスワード、またはメールパスワードを、任意の半角英数字31文字以内で入力します。

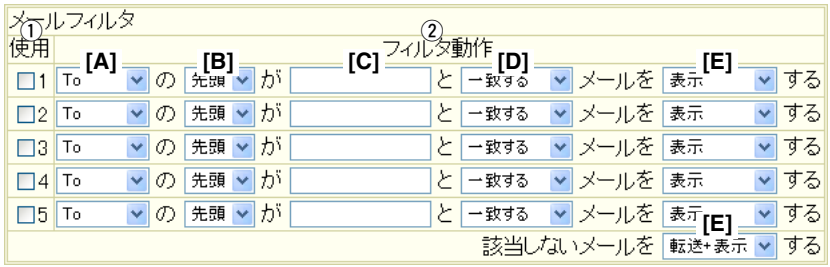
⑬SMTP認証アカウント　送信メールサーバ(SMTP)を使用するときのユーザーID、またはメールアカウントを、任意の半角英数字127文字以内で入力します。

⑭SMTP認証パスワード…　送信メールサーバ(SMTP)を使用するときのパスワード、またはメールパスワードを、任意の半角英数字31文字以内で入力します。

3.「子機内線詳細情報設定」画面　　「内線設定」ー「子機内線設定」ー**「子機内線詳細情報設定」**

■メールフィルタ

メール通知転送機能での表示、転送するメールを限定したい場合、その比較対象にする条件を設定します。



※[子機内線設定]項目→[現在の登録]項目の〈詳細〉をクリックすると、表示される画面です。

①使用 ……

最大6(5＋1)件のフィルターを登録できます。
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
1～5番の条件に該当しない場合は、最下欄の[該当しないメールを]で指定する内容にしたがいます。
指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

②フィルタ動作 ……

比較する対象になる条件を、この欄の[▼]印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の [B]が [C]と [D]メールを [E]する

●[A]：比較対象条件

To　：宛先の文字列が対象
Cc　：カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
From　：差出人の文字列が対象
Subject　：件名の文字列が対象

●[B]：比較対象条件

一部　：文字列の一部が対象
先頭　：文字列の先頭が対象
末尾　：文字列の末尾が対象

●[C]：比較対象条件

入力できる文字列は、任意の半角英数字127文字、全角63文字以内です。

●[D]：比較対象条件

一致する　：比較対象条件と一致するメールが対象
一致しない：比較対象条件と一致しないメールが対象

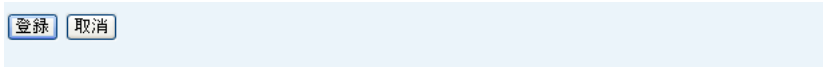
●[E]：比較対象条件／該当しないメールを

転送＋表示：転送して表示する
表示　：表示する
無視　：表示しない

4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面

「内線設定」ー**「電話設定：TEL1/TEL2」**

[TEL1/2]ポートについての設定画面です。



※[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

〈登録〉…… 「電話設定：TEL1」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「電話設定：TEL1」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■基本設定

[TEL1]ポートに接続する電話機の基本設定です。

※説明には、[TEL1]側の設定画面を使用しています。

①接続機器の種類 …… 本製品の[TEL1]ポートに接続する機器の種類を設定します。
(出荷時の設定：電話機)
◎電話機　：アナログ電話機を接続するとき
◎FAX　：G3ファクシミリを使用するとき
※IP電話によるファクシミリの動作は、保証いたしません。

②電話機のダイヤル方式 本製品の[TEL1]ポートに接続する電話機のダイヤル信号の種類を設定します。(出荷時の設定：全方式に対応)
◎全方式に対応 ：電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき
◎PB ：電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP(20pps) ：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
◎DP(10pps) ：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面　　「内線設定」ー**「電話設定：TEL1/TEL2」**

■基本設定

基本設定		
接続機器の種類	①	電話機 VoIPでのFAX通信は保証いたしません
電話機のダイヤル方式	②	全方式に対応
ナンバーディスプレイを使用	③	◉しない ○する
ポート使用設定	④	発着信で使用
音量	⑤	受話音量 標準　送話音量 標準
呼出音	⑥	内線呼出音 呼出音1　外線呼出音 呼出音1
エコーキャンセラーを使用	⑦	○しない ◉する

※説明には、[TEL1]側の設定画面を使用しています。

③ナンバーディスプレイを使用 ……

本製品の[TEL1]ポートに接続する電話機で使用する、ナンバーディスプレイ機能について設定します。　(出荷時の設定：しない)

※ナンバーディスプレイサービスを使用する場合、電話機がナンバーディスプレイ機能に対応していることをご確認ください。

④ポート使用設定 ……

[TEL1]ポートに接続された電話機やFAXの発信や着信を制限する設定です。　(出荷時の設定：発着信で使用)

◎発着信で使用　：制限はなく、発着信に使用します。
◎着信専用　　：電話をかけたりFAXを送信したりできません。
◎発信専用　　：電話を受けたりFAXを受信したりできません。
◎使用しない　：接続された電話機やFAXは、動作しません。

⑤音量 ……

【受話音量】：一般加入電話およびIP電話使用時、自分の受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

【送話音量】：一般加入電話およびIP電話使用時、相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

⑥呼出音 ……

【内線呼出音】：本製品に接続された内線電話からかかってきたときの着信音パターンを選択します。
(出荷時の設定：呼出音1)

【外線呼出音】：外線からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。　(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変化しないことがあります。

4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面　　「内線設定」ー**「電話設定：TEL1/TEL2」**

■基本設定

基本設定		
接続機器の種類	①	電話機 VoIPでのFAX通信は保証いたしません
電話機のダイヤル方式	②	全方式に対応
ナンバーディスプレイを使用	③	しない する
ポート使用設定	④	発着信で使用
音量	⑤	受話音量 標準　送話音量 標準
呼出音	⑥	内線呼出音 呼出音1　外線呼出音 呼出音1
エコーキャンセラーを使用	⑦	しない する

※説明には、[TEL1]側の設定画面を使用しています。

⑦エコーキャンセラーを使用 ……　本製品のエコーキャンセラー機能について設定します。
(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、IP電話で通話するときに起こるエコー(反響)を低減します。

■VoIPダイヤルタイミング

電話番号をダイヤルして、IP電話で発信を開始するまでの待ち時間について設定します。

VoIPダイヤルタイミング		
ダイヤル待ち時間	①	5 秒
フッキング判定時間	②	1 秒

※説明には、[TEL1]側の設定画面を使用しています。

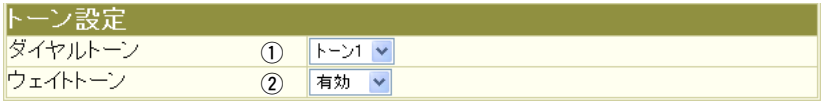
①ダイヤル待ち時間 ……　本製品の[TEL1]ポートに接続された電話機からIP電話をかけたとき、ダイヤル操作終了から発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。　(出荷時の設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎて操作がないと発信を開始しますのでご注意ください。

②フッキング判定時間 …　本製品の[TEL1]ポートに接続された電話機のフックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断(オンフック)されるまでの時間を設定します。　(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「1～9(秒)」です。
※設定した時間よりフックボタンを押し続ける時間が短い場合は、フッキングと認識します。

4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面　　「内線設定」ー**「電話設定：TEL1/TEL2」**

■ トーン設定

IP電話使用時に受話器から聞こえるトーンについて設定します。



※説明には、[TEL1]側の設定画面を使用しています。

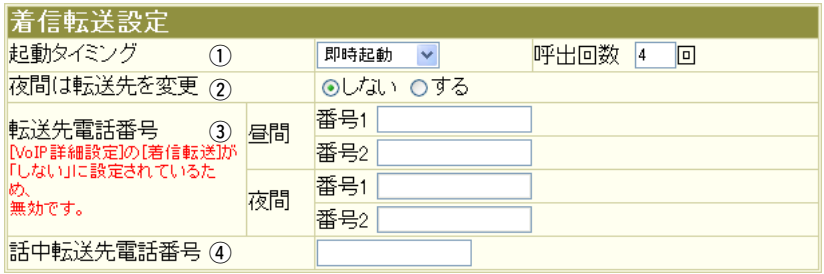
①ダイヤルトーン ……　IP電話を使って電話をかけ、受話器をあげた時に聞こえるダイヤルトーンの種類を設定します。　(出荷時の設定：トーン1)
◎トーン1：「ツーツツ」
◎トーン2：「ツー」(一般加入電話回線発信時に聞こえる音と同じ)

②ウェイトトーン ……　本製品のウェイトトーン機能を設定します。　(出荷時の設定：有効)
「有効」に設定すると、IP電話を使って電話をかけ相手先とつながるまで、受話器よりウェイトトーンが聞こえます。

4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面　　「内線設定」ー**「電話設定：TEL1/TEL2」**

■着信転送設定

着信転送を使用している場合の設定です。



①起動タイミング ……

着信転送が設定された状態で電話がかかってきたとき、実際に転送先の電話へ発信を開始するタイミングを設定します。

(出荷時の設定：即時起動)

※着信転送については、「VoIP詳細設定」画面の[着信転送設定]項目で設定します。

◎即時起動　：着信すると同時に、転送先への発信を開始します。

◎呼出後起動：着信すると、[呼出回数]欄に設定した回数(出荷時の設定：4回)だけ呼び出し音が鳴ったあと、転送先への発信を開始します。

設定できる範囲は、「1～99(回)」です。

②夜間は転送先を変更 …

本製品の動作モードを「夜間」に切り替えたときの転送について設定します。　（出荷時の設定：しない）

③転送先電話番号 ……

IP電話または一般加入回線のどちらかの転送先電話番号を設定します。

ポートごとに、2件まで設定できます。

入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。

着信転送するときは、「VoIP詳細設定」画面→[TELポート付加機能設定]項目の[着信転送]欄を「する」にして、転送先電話番号を設定した側の[TEL]ポートに接続された電話機から着信転送モードを設定すると、転送先電話番号の相手に転送できます。

※[番号1]欄で設定した電話番号に転送できないときは、[番号2]欄で設定した電話番号に転送します。

※着信転送モードを本製品に接続された2台の電話機に設定している場合は、[TEL1]欄に接続された電話機に対する転送が優先されます。

なお、[TEL1]欄に接続された電話機の[起動タイミング]欄の設定が、「呼出後起動」の場合は、「即時起動」に設定された[TEL2]欄に接続された電話機に対する転送が優先されます。

4.「電話設定：TEL1/TEL2」画面　　「内線設定」ー**「電話設定：TEL1/TEL2」**

■着信転送設定

着信転送設定			
起動タイミング ①		即時起動	呼出回数 4 回
夜間は転送先を変更 ②		◉しない ○する	
転送先電話番号 ③ [VoIP詳細設定]の[着信転送]が「しない」に設定されているため、無効です。	昼間	番号1	
		番号2	
	夜間	番号1	
		番号2	
話中転送先電話番号 ④			

④話中転送先電話番号　…　本製品[TEL]ポートに接続された電話機が通話中に、ほかの内線子機から着信したときの転送先を設定します。

(出荷時の設定：空白)

転送先になる電話番号(ほかの内線番号や携帯電話の番号など)を、半角数字31桁以内で入力します。(空白の場合は転送しません。)

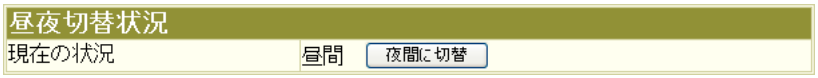
5.「昼夜切替設定」画面

「内線設定」ー**「昼夜切替設定」**

自動的に本製品の動作モードを切り替えるための設定です。

■昼夜切替状況

本製品が動作しているモードを、「昼間」/「夜間」で表示します。



〈夜間に切替〉……　手動で夜間モードに切り替えるとき、クリックします。
※夜間モードのときは、〈昼間に切替〉を表示します。

■昼夜切替曜日設定

本製品の動作モード自動切替を、曜日で最大10件まで設定できます。

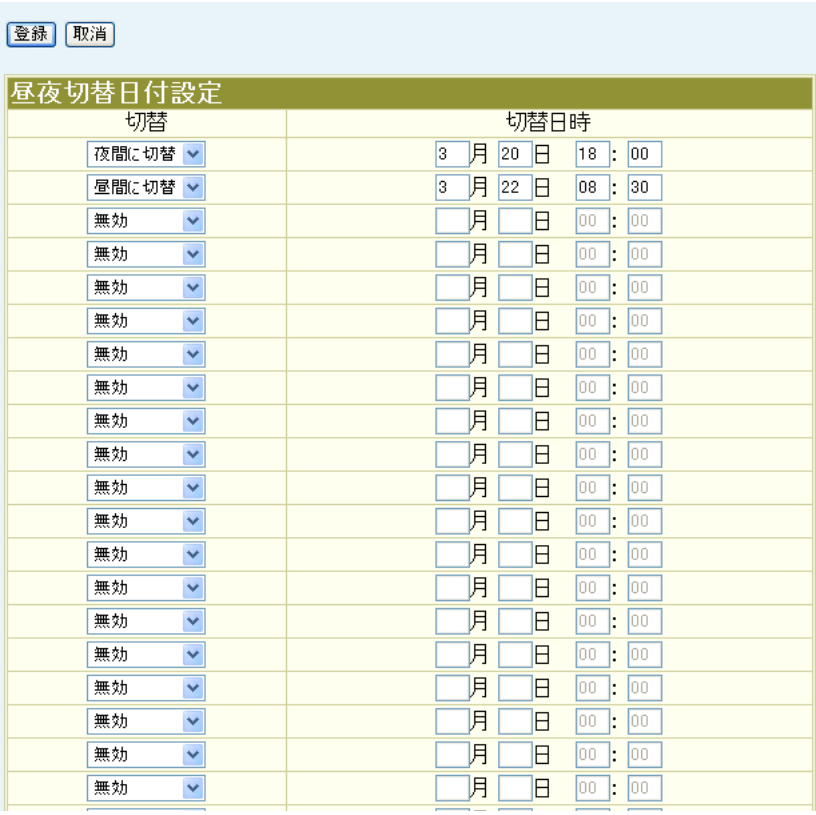
※上図は、設定例です。

切替時刻・有効曜日……　切替方法を「昼間に切替」/「夜間に切替」から選択し、開始時間を24時間制で入力します。
指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。
設定後は、[昼夜切替曜日設定]項目の〈登録〉をクリックします。
※本製品の自動時計設定機能を併せてご使用になることをおすすめします。
※[昼夜切替日付設定]項目での設定と重複した場合は、その曜日の設定は無効になります。

5.「昼夜切替設定」画面　　「内線設定」ー**「昼夜切替設定」**

■昼夜切替日付設定

本製品の動作モード自動切替を、日付と時間で最大30件まで設定できます。



※上図は、設定例です。

切替日時……　切替方法を「昼間に切替」/「夜間に切替」から選択し、指定する日付を入力します。
開始時間を24時間制で入力します。
設定後は、[昼夜切替日付設定]項目の〈登録〉をクリックします。
※本製品の自動時計設定機能を併せてご使用になることをおすすめします。
※[昼夜切替曜日設定]項目での設定と重複した場合は、その曜日の設定は無効になります。

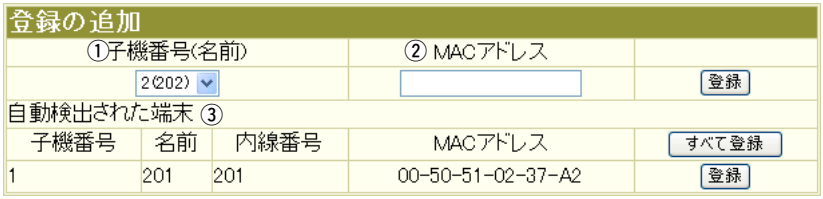
6.「位置情報設定」画面

「内線設定」ー**「位置情報設定」**

位置情報を利用するために無線IP電話を登録する画面です。

■登録の追加

子機の位置情報を利用するためにMACアドレスを登録します。
※弊社製無線アクセスポイント側で、位置情報通知機能を設定する必要があります。



※上図は、設定例です。

①子機番号(名前)…… 登録した子機から位置情報を利用したい無線IP電話を選択します。

②MACアドレス …… [子機番号(名前)]欄(①)で選択した子機のMACアドレスを、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
〈登録〉をクリックすると、入力したMACアドレスが[登録済み端末]項目に登録されます。
次のように入力すると、同じMACアドレスとして処理します。
(入力例：00-90-C7-99-00-02、0090C7990002)
※MACアドレス確認方法については、ご使用の端末に付属する取扱説明書をご覧ください。

③自動検出された端末 … 本製品に登録した子機を検出すると、一覧に表示します。
右欄に表示された〈登録〉をクリックすると、検出された子機を[登録済み端末]項目に登録できます。
※本製品と無線IP電話の経路上にルータなどが存在する場合、正しいMACアドレスは表示されません。
※〈すべて登録〉をクリックすると、端末を一括登録できます。

■登録済み端末

[登録の追加]項目で登録した内容を表示します。

※上図は、設定例です。

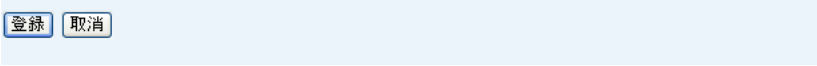
①〈全削除〉 …… 登録したすべての内容を削除します。

②〈削除〉 …… クリックすると、ボタンの左欄に表示された内容を削除します。

7.「VoIP詳細設定」画面

「内線設定」ー**「VoIP詳細設定」**

IP電話での音質についての設定画面です。



〈登録〉……　「VoIP詳細設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　「VoIP詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■VoIP音質設定

IP電話の音声について設定します。

※上図は、設定例です。

①音声符号化方式……　IP電話で、発信するときの音質についての設定です。
(出荷時の設定：G.711のみ使用)
※着信は、この設定に関係しません。
◎G.711のみ使用　：G.711を発信に使用します。
通話相手がG.711を発信できないときは通話できません。
※フュージョン・コミュニケーションズでご利用の場合は、「G.711のみ使用」をおすすめします。
◎G.729のみ使用　：G.729を発信に使用します。
通話相手がG.729を発信できないときは通話できません。
◎両方使用(G.711を優先)：通常G.711を発信に使用しますが、通話相手がG.711を発信できないときはG.729を使用します。
◎両方使用(G.729を優先)：　通常G.729を発信に使用しますが、通話相手がG.729を発信できないときはG.711を使用します。

(次ページへつづく)

7.「VoIP詳細設定」画面　　「内線設定」ー**「VoIP詳細設定」**

■VoIP音質設定

VoIP音質設定			
音声符号化方式	①	G.711のみ使用	
フレーム時間	②	G.711	20ms
		G.729	20ms
受信バッファ	③	50ms	

※上図は、設定例です。

①音声符号化方式 ……

【G.711について】
音声を圧縮しないので、音質の劣化が少ない特徴がありますが、高速回線が必要です。

【G.729について】
G.729の規格には、G.729A(音声符号化の効率化)とG.729B(音声符号化の効率化と無音圧縮)があります。
本製品(AP-5100VoIP)やSR-5200VoIP3などは、G.729Aが搭載されています。
SR-21VoIP(弊社製)は、G.729Bが搭載されていますが、音声符号化の効率化だけを使用していますので、本製品と通話できます。

②フレーム時間 ……

発信時、設定された音声符号化方式での1フレームの長さを時間で設定します。　(出荷時の設定：20ms)
設定した時間が短いほど遅延は少なくなりますが、ご契約の回線速度が遅いときは対応できません。
使用される音声符号化方式に応じて、「G.711]欄または「G.729]欄で設定した時間のフレーム長で発信します。

③受信バッファ ……

音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定：50ms)
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

7.「VoIP詳細設定」画面　　「内線設定」ー**「VoIP詳細設定」**

■TOS設定

SIPサーバを使用したIP電話で、VoIPパケットを優先的にIP網へ送出する機能を設定します。
本製品のQoS機能を使用、またはIP-VPN回線サービスの音声優先制御機能を利用するときなど、社内ネットワークなどで、TOS(Type-Of-Service)を使用する場合に関係します。

使用しない設定時

TOS設定					
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv			

TOS設定時

TOS設定					
TOS種別	①	○使用しない ◉TOS ○Diffserv			
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0		16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない ○TOS ◉Diffserv		
メディア(RTP)	②	DSCP 56		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48		16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

①TOS種別 ……

本製品のTOS機能について設定します。（出荷時の設定：使用しない）
種別を選択し、「VoIP詳細設定」画面の〈登録〉をクリックすると、該当する設定項目を表示します。

◎使用しない：
TOSを使用しないネットワークに該当します。

◎TOS：
TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、「1～3」ビットを優先度、「4～7」ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの「1」ビットは、未使用フィールドとして、「0」に固定されています。
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎Diffserv：
Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
「1～6」ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの「2」ビットは、未使用フィールドとして、「0」に固定されています。

【TOS設定時の16進数表記】
TOS設定時、出荷時の呼制御(SIP)の設定値を2進数で表示すると、優先度(110)、サービスタイプ(0000)、未使用フィールド(0)なので、「11000000」の16進数表記は、「C0」になります。

7.「VoIP詳細設定」画面　　「内線設定」ー**「VoIP詳細設定」**

■TOS設定

使用しない設定時

TOS設定		
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv

TOS設定時

TOS設定					
TOS種別	①	○使用しない	◉TOS	○Diffserv	
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0		16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない	○TOS	◉Diffserv
メディア(RTP)	②	DSCP 56		16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48		16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

②メディア(RTP) ……

TOSフィールド内に出力された音声パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度：
TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。　(出荷時の設定：7)
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ：
TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。　(出荷時の設定：0)

◎DSCP：
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。　(出荷時の設定：56)

【Diffserv設定時の16進数表記】
Diffserv設定時、出荷時の呼制御(SIP)の設定値を2進数で表示すると、DSCP(110000)、未使用フィールド(00)なので、「11000000」の16進数表記は、「C0」になります。

7.「VoIP詳細設定」画面　　「内線設定」ー**「VoIP詳細設定」**

■TOS設定

使用しない設定時

TOS設定			
TOS種別	①	◉使用しない ○TOS ○Diffserv	

TOS設定時

TOS設定				
TOS種別	①	○使用しない ◉TOS ○Diffserv		
メディア(RTP)	②	優先度 7	サービスタイプ 0	16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	優先度 6	サービスタイプ 0	16進表示:C0

Diffserv設定時

TOS設定			
TOS種別	①	○使用しない ○TOS ◉Diffserv	
メディア(RTP)	②	DSCP 56	16進表示:E0
呼制御(SIP)	③	DSCP 48	16進表示:C0

※上記のように、TOS種別の設定ごとに[TOS設定]項目内容が変更になります。

③呼制御(SIP) ……

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットを優先制御する基準についての設定項目です。

◎優先度：
TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。　(出荷時の設定：6)
優先度の設定値が大きいほど、優先度が高くなります。

◎サービスタイプ：
TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。　(出荷時の設定：0)

◎DSCP：
DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。　(出荷時の設定：48)

7.「VoIP詳細設定」画面　　「内線設定」ー**「VoIP詳細設定」**

■TELポート付加機能設定

IP電話で通話中、ほかのIP電話からの着信や、ほかのIP電話への発信、転送を設定します。

TELポート付加機能設定		
通信中着信	①	◉しない ○する
通信中発信	②	◉しない ○する
通信中転送	③	◉しない ○する
着信転送	④	◉しない ○する

①通信中着信 …… IP電話で通話中、ほかの相手からIP電話でがかかってきたときに、通話中の電話を保留して、かかってきた相手と通話する機能です。
(出荷時の設定：しない)

②通信中発信 …… IP電話での通話を保留して、ほかの相手にIP電話をかける機能です。
(出荷時の設定：しない)

③通信中転送 …… IP電話で通話中の相手を、保留されているIP電話の相手に転送する機能です。(出荷時の設定：しない)
※通信中転送するときは、[通信中発信]欄を「する」に設定しないと、使用できません。

④着信転送 …… IP電話の相手から着信があると、本製品に登録されたIP電話または一般加入電話回線の電話番号の相手に転送する機能です。
(出荷時の設定：しない)
※転送先電話番号は、「電話設定:TEL1/TEL2」画面→[着信転送設定]項目に登録します。

【着信転送モードにするには？】

①転送先電話番号を登録した[TEL]ポートに接続した電話機の受話器をあげます。
・受話器から発信音(ツーツッツ)が繰り返し聞こえます。

②[#][9][0]をダイヤルします。
・着信転送モードになると、発信音が「ツ･ツ･･･」の繰り返しに切り替わります。
※着信転送モードを解除するときは、設定された電話機の受話器をあげて、再度[#][9][0]をダイヤルします。
・着信転送モードを解除すると、発信音が「ツーツッツ･･･」の繰り返しに切り替わります。

「多機能電話設定」メニュー

第 3 章

この章では、
「多機能電話設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

11. 「VP-501設定」画面 …… 96
■ 設定グループの選択 …… 96
■ 呼出音設定 (共通設定) …… 97
■ IP電話メディア設定 (共通設定) …… 97
■ 電話設定 (グループ) …… 99
■ フレキシブルボタン設定 (グループ) …… 100
2.「VP-701設定」画面 …… 106
■ 設定グループの選択 …… 106
■ 呼出音設定 (共通設定) …… 107
■ 電話設定 (共通設定) …… 107
■ 電話設定 (グループ) …… 108
■ フレキシブルボタン設定 (グループ) …… 110
3.「設定グループ割当て」画面 …… 114
■ TELポート …… 114
■ 内線子機 …… 115
4.「多機能電話電話帳」画面 …… 116
■ 設定グループの選択 …… 116
■ 電話帳の保存と書き込み …… 117
■ 多機能電話電話帳 (VP-501設定時) …… 118
■ 多機能電話電話帳 (VP-701設定時) …… 119
5.「多機能電話保守」画面 …… 120
■ 情報表示 (VP-501設定時) …… 120
■ 情報表示 (VP-701設定時) …… 121
■ VP-501ファームウェアの更新 …… 122
■ 定時再起動設定 …… 123

【VP-501設定/VP-701設定について】

「VP-501設定」画面および「VP-701設定」画面の[設定グループの選択]項目を選択すると、表示される内容が切り替わります。

(共通設定) は、「共通設定」を選択したときに表示される設定項目です。

(グループ) は、「グループ(1～20)」を選択したときに表示される設定項目です。

【多機能電話電話帳/多機能電話保守について】

[内線共通設定]画面の[簡易中継サーバ]項目で多機能電話機種を設定すると、表示される設定項目が一部変更になります。

(VP-501設定時) は、「VP-501」を選択したときに表示される設定項目です。

(VP-701設定時) は、「VP-701」を選択したときに表示される設定項目です。

3 「多機能電話設定」メニュー

1.「VP-501設定」画面

「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

本製品に登録したVP-501で使用する共通設定です。

〈登録〉……　「VP-501設定」画面で設定した内容を本製品に保存します。
※変更内容は〈登録して子機再起動〉をクリックする、またはVP-501を再起動するまで、本製品に登録したVP-501にダウンロードされません。

〈取消〉……　「VP-501設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
※〈登録〉や〈登録して子機再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して子機再起動〉……　本製品に登録したすべてのVP-501を再起動させて、「VP-501設定」画面で設定した内容や電話帳など、共通で使用する設定をVP-501にダウンロードします。
※通話などを切断して再起動を開始しますのでご注意ください。

【更新できないときは】
設定が更新できなかった場合、VP-501は、前回ダウンロードした設定をそのまま使用します。
再起動させるときは、VP-501の電源が入っていることをご確認ください。

■設定グループの選択

本製品に登録したVP-501について設定する項目を選択します。

設定グループの選択……　本製品に登録したVP-501について設定する項目を、「共通設定」、「グループ(1～20)」から選択します。
〈編集〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎共通設定
本製品に登録したVP-501で使用する共通な設定項目
・[呼出音設定]項目
・[IP電話メディア設定]項目

◎グループ(1～20)
本製品の「設定グループ割当て」画面で登録した設定グループごとの設定項目
・[電話設定]項目
・[フレキシブルボタン設定]項目

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■呼出音設定 共通設定

VP-501の着信音パターンを設定します。

呼出音設定	
外線A	呼出音1
外線B	呼出音2
外線C	呼出音3
外線D	呼出音4
内線A	呼出音1
内線B	呼出音5
内線C	呼出音6

「外線設定」メニューの「サーバ接続設定」画面や「Peer to Peer設定」画面で、設定した[鳴り分け判別]の着信音を、「呼出音(1～7)」または「呼出音なし」から選択します。
※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音がします。

■IP電話メディア設定 共通設定

VP-501の音声について設定します。

IP電話メディア設定		
標準受信バッファサイズ	①	20ms
最大受信バッファサイズ	②	100ms
受話側ゲイン	③	-6dB
送話側ゲイン	④	-9dB
エコーキャンセラーを使用	⑤	○しない ◉する
側音を使用	⑥	○しない ◉する
側音レベル	⑦	-21dB

※音声に問題がないときは、出荷時の設定のままでご使用ください。

①標準受信バッファサイズ　音声パケットの遅れ(遅延)を吸収するため、5ms刻みで標準値のバッファサイズを設定します。(出荷時の設定：20ms)
設定できる範囲は、「5～150(ms)」です。

②最大受信バッファサイズ　音声パケットの遅れ(遅延)を吸収するため、5ms刻みで最大値のバッファサイズを設定します。(出荷時の設定：100ms)
設定できる範囲は、「5～150(ms)」です。

③受話側ゲイン ……　受話音量を3dB刻みで調整します。(出荷時の設定：－6dB)
設定できる範囲は、「－72dB(最小音量)～+24dB(最大音量)」です。

④送話側ゲイン ……　送話音量を3dB刻みで調整します。(出荷時の設定：－9dB)
設定できる範囲は、「－72dB(最小音量)～+24dB(最大音量)」です。

3 「多機能電話設定」メニュー

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■IP電話メディア設定 **共通設定**

IP電話メディア設定		
標準受信バッファサイズ	①	20ms
最大受信バッファサイズ	②	100ms
受話側ゲイン	③	-6dB
送話側ゲイン	④	-9dB
エコーキャンセラーを使用	⑤	○しない ◉する
側音を使用	⑥	○しない ◉する
側音レベル	⑦	-21dB

※音声に問題がないときは、出荷時の設定のままでご使用ください。

⑤エコーキャンセラーを使用 …… エコーキャンセラー機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、通話するときに起こるエコー(反響)を低減します。

⑥側音を使用 …… 側音機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、受話器から自分の音声が聞こえるようになります。

⑦側音レベル …… 側音機能を使用するときの音量を適度なレベルに調整します。
(出荷時の設定：−21dB)
設定できる範囲は、「−36dB(最小音量)〜+18dB(最大音量)」です。

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■電話設定 グループ

選択したグループごとに、VP-501の操作について設定します。
③、④の設定は多機能電話設定グループ内の全端末に対して有効です。

電話設定		
ダイヤル待ち時間	①	5秒
キー操作音を使用	②	○しない ◉する
コールピックアップ対象	③	外線/内線
グループピックアップ対象	④	外線/内線

①ダイヤル待ち時間 ……

ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1～60(秒)」です。　(出荷時の設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎて操作がないと発信を開始しますのでご注意ください。

②キー操作音を使用 ……

ダイヤル操作時のキー操作音を設定します。　(出荷時の設定：する)
「しない」に設定すると、キー操作音を消去できます。

③コールピックアップ対象

※「外線設定」メニューにある[鳴り分け判別]欄を内線(内線A～C)に設定している回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)からの着信は、内線になります。

ほかの子機への呼び出しについて、応答できる対象を「外線/内線」「外線のみ」「内線のみ」から設定します。　(出荷時の設定：外線/内線)

◎「外線/内線」
内線着信(Peer to Peer着信含む)と外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)をコールピックアップの対象とします。

◎「内線のみ」
内線着信(Peer to Peer着信含む)だけをコールピックアップの対象とします。

◎「外線のみ」
外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)だけをコールピックアップの対象とします。

④グループピックアップ対象

※「外線設定」メニューにある[鳴り分け判別]欄を内線(内線A～C)に設定している回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)からの着信は、内線になります。

同じグループ番号のほかの子機への呼び出しについて、応答できる対象を「外線/内線」「外線のみ」「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)

◎「外線/内線」
内線着信(Peer to Peer着信含む)と外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)をグループピックアップの対象とします。

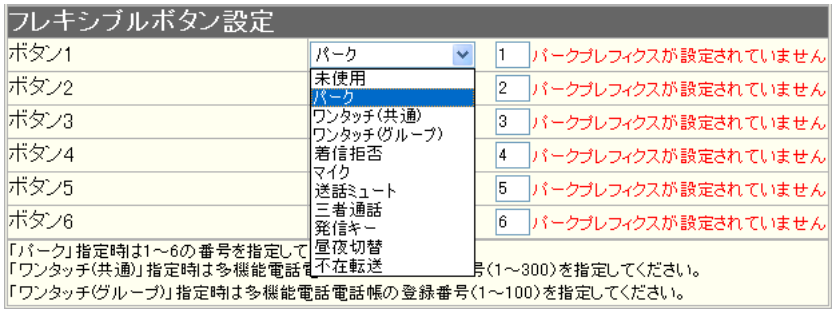
◎「内線のみ」
内線着信(Peer to Peer着信含む)だけをグループピックアップの対象とします。

◎「外線のみ」
外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)だけをグループピックアップの対象とします。

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■フレキシブルボタン設定 グループ

VP-501のフレキシブルボタンについて、選択したグループごとに設定します。



※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～6……　VP-501のフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
※「未使用」を設定すると、そのボタンに機能を割り当てません。

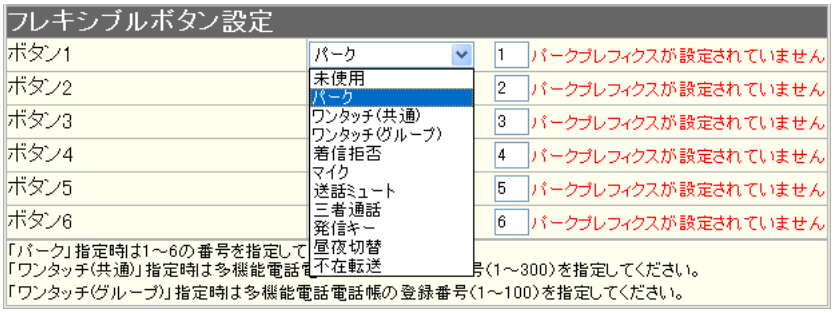
◎**パーク**

通話をパーク保留して、どの内線電話からも応答できる機能です。
最大6件まで、パーク保留・応答として設定できます。
※他の内線電話(本製品の[TEL]ポートに接続したアナログ電話機、VP-71、VP-43など対応端末)が、設定していないパーク番号(設定例：3～6)でパーク保留した場合は、VP-501からは、「パーク応答プレフィクス+パーク番号(3～6)」をダイヤルして応答できます。
※出荷時や設定初期時は、パークプレフィクスが設定されていませんので、パーク機能をご使用になる場合は、「内線共通設定」画面で設定してください。

(次ページにつづく)

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■フレキシブルボタン設定 グループ



※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～6(つづき)……

◎ワンタッチ(共通)

よく利用する多機能電話電話帳(共通)の内線番号や外線番号などを登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

本製品の多機能電話電話帳(共通)に登録している番号(1～300)を右欄のテキストボックスに入力します。

※特番(コールピックアップなど)をあらかじめ電話帳に登録しておくと、ワンタッチに設定できます。

◎ワンタッチ(グループ)

選択したグループで、よく利用する多機能電話電話帳(グループ)の内線番号や外線番号などを登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。

本製品の多機能電話電話帳(グループ)に登録している番号(1～100)を右欄のテキストボックスに入力します。

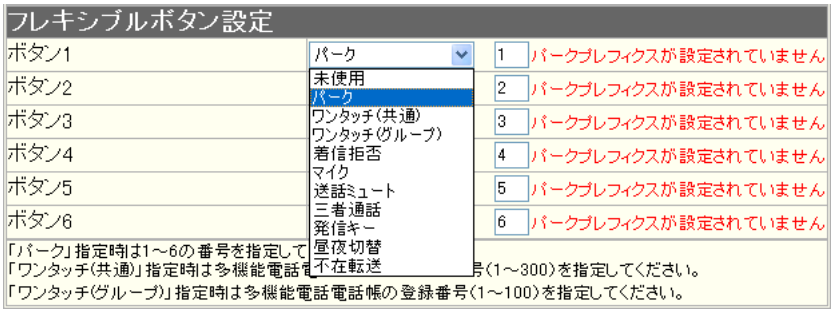
※特番(グループピックアップなど)をあらかじめ電話帳に登録しておくと、ワンタッチに設定できます。

(次ページにつづく)

3 「多機能電話設定」メニュー

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■ フレキシブルボタン設定 グループ



※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～6(つづき)……

◎着信拒否

電話に応答できないときなど、あらかじめ着信を拒否する機能です。
ボタンを押すと、点灯して着信拒否機能が有効になります。
電話をかけてきた相手に話中音が流れて、通話を切断します。

※着信拒否機能が有効なとき、パーク保留・応答はできますが、他の内線電話からの転送はできません。

※着信を拒否したときの着信記録は、VP-501の着信履歴には残りません。

※着信拒否機能を解除するときは、ボタンを押して消灯をご確認ください。

◎マイク

受話器を置いたまま、通話できるようにする機能です。
ボタンを押すと、点灯してVP-501のマイク機能が有効になります。
スピーカボタンを押して発信や応答すると、ハンズフリーで通話できます。

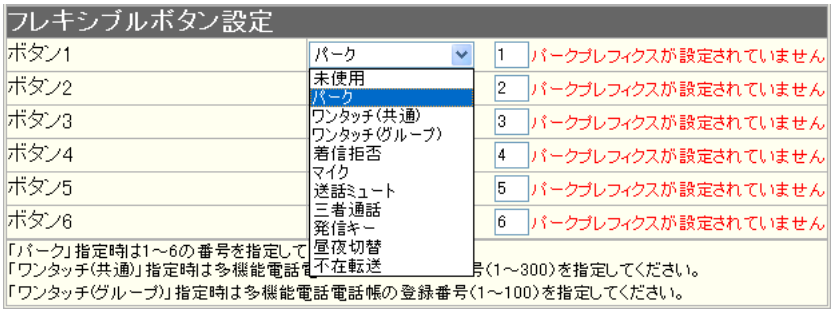
※マイク機能を解除するときは、ボタンを押して消灯をご確認ください。

※マイク機能が無効なときは、スピーカボタンを押して発信や応答した場合、相手の音声だけがこちらに聞こえます。

(次ページにつづく)

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」―**「VP-501設定」**

■ フレキシブルボタン設定 グループ



※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～6(つづき)……

◎送話ミュート

通話中に押すと、こちらの音声が相手に聞こえなくなる機能です。
ボタンを押すと、点灯して送話ミュート機能が有効になります。

※送話ミュート機能が有効なとき、相手の音声だけがこちらに聞こえます。

※送話ミュート機能を解除するときは、ボタンを押して消灯をご確認ください。

◎三者通話

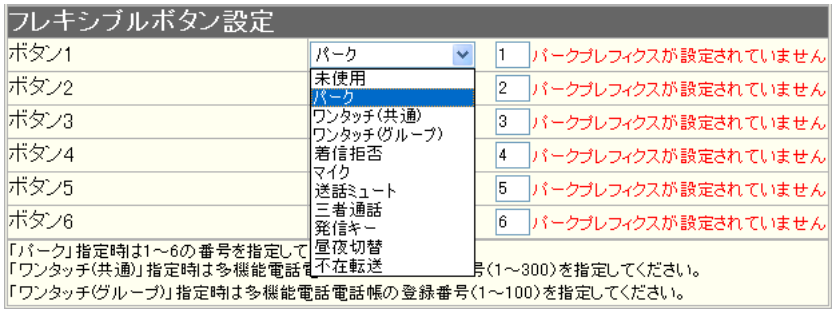
通話中に〈転送〉ボタンを押して他の内線電話を呼び出し、三者通話機能のボタンを押すと、保留中の相手と呼び出した相手と3人で通話できる機能です。

(次ページにつづく)

3 「多機能電話設定」メニュー

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■ フレキシブルボタン設定 グループ



※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～6(つづき)……

◎**発信キー**

発信時に使用する回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)や発信グループの選択および回線の使用状況を確認できる機能です。

※本製品に登録したVP-501のファームウェアが、「2.20.24V4A」より前のバージョンの場合、発信時の点灯(緑色)や着信時LED点滅機能は使用できませんので、「多機能電話保守」画面でご確認ください。

【回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)を選択するには】

ボタンを押すと、点灯(緑色)します。

ダイヤルすると、選択した回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)で発信します。

「発信キー」+〈履歴〉ボタンで、履歴からも回線を選択して発信できます。

※SIPサーバを選択する場合は、「内線共通設定」画面の[SIPサーバ発信特番]項目、または「サーバ接続設定」画面の[サーバ発信プレフィクス]項目での特番設定が必要です。

※アナログ電話回線を選択する場合は、「アナログ回線設定」画面の[電話回線専用発信番号]項目でのプレフィクス設定が必要です。

※ISDN回線を選択する場合は、「ISDN回線設定」画面の[ISDN回線専用発信番号]項目のプレフィクス、または[ダイヤルイン設定](登録の一覧)項目での発信プレフィクス設定が必要です。

【発信グループを選択するには】

ボタンを押すと、点灯(緑色)します。

ダイヤルすると、選択した発信グループで発信します。

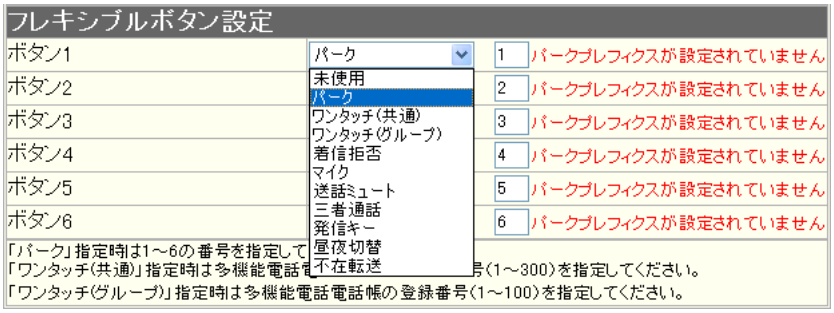
「発信キー」+〈履歴〉ボタンで、履歴からも回線グループを選択して発信できます。

※「内線共通設定」画面の[SIPサーバ発信特番]項目および「発信グループ設定」画面の「グループ発信プレフィクス」項目の特番設定が必要です。

(次ページにつづく)

1.「VP-501設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■フレキシブルボタン設定 グループ



※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～6(つづき)……

◎発信キー

【回線の使用状況を確認するには】

回線が使用中で発信できないときは、点灯(赤色)します。
着信すると、点滅(赤色)します。
※「サーバ接続設定」画面の[通話本数制限]項目での設定が必要です。

◎昼夜切替

昼間と夜間で、代表着信内線番号に着信したときの動作を切り替える機能です。
受話器を上げると、受話口から発信音(ツー…)が繰り返し聞こえます。
ボタンを押すと切り替わり、発信音「ポポ」が聞こえます。
「夜間モード」で動作しているときは、ボタンが点灯します。
※昼夜切替機能を解除するときは、再度ボタンを押します。
※「子機内線詳細情報設定」画面で、夜間の転送先番号を登録している子機についても有効な機能です。

◎不在転送

あらかじめ登録した電話番号に着信を転送する機能です。
受話器を上げると、受話口から発信音(ツー…)が繰り返し聞こえます。
ボタンを押すと切り替わり、発信音「ポポ」が聞こえます。
不在転送機能が動作しているときは、ボタンが点灯します。
※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※「子機内線詳細情報設定」画面で、転送先番号を登録していない場合は、無効な機能です。

2.「VP-701設定」画面

「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

本製品に登録したVP-701で使用する共通設定です。

〈登録〉……　「VP-701設定」画面で設定した内容を本製品に保存します。
※変更内容は〈登録して子機再起動〉をクリックする、またはVP-701を再起動するまで、本製品に登録したVP-701にダウンロードされません。

〈取消〉……　「VP-701設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
※〈登録〉や〈登録して子機再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して子機再起動〉……　本製品に登録したすべてのVP-701を再起動させて、「VP-701設定」画面で設定した内容や電話帳など、共通で使用する設定をVP-701にダウンロードします。
※通話などを切断して再起動を開始しますのでご注意ください。

【更新できないときは】
設定が更新できなかった場合、VP-701は、前回ダウンロードした設定をそのまま使用します。
再起動させるときは、VP-701の電源が入っていることをご確認ください。

■設定グループの選択

本製品に登録したVP-701について設定する項目を選択します。

設定グループの選択……　本製品に登録したVP-701について設定する項目を、「共通設定」、「グループ(1～20)」から選択します。
〈編集〉をクリックすると、選択した項目ごとに表示される内容が切り替わります。

◎共通設定
本製品に登録したVP-701で使用する共通な設定項目
・[呼出音設定]項目
・[電話設定]項目

◎グループ(1～20)
本製品の「設定グループ割当て」画面で登録した設定グループごとの設定項目
・[電話設定]項目
・[フレキシブルボタン設定]項目

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

■呼出音設定 共通設定

VP-701の着信音パターンを設定します。

呼出音設定	
外線A	呼出音1
外線B	呼出音2
外線C	呼出音3
外線D	呼出音4
内線A	呼出音1
内線B	呼出音2
内線C	呼出音3

「外線設定」メニューの「サーバ接続設定」画面や「Peer to Peer設定」画面で、設定した[鳴り分け判別]の着信音を、「呼出音(1～7)」または「呼出音なし」から選択します。
※通知番号で「外線」と判別されると「外線A」、「内線」と判別されると「内線A」に設定した着信音がします。

■電話設定 共通設定

VP-701の音量について設定します。

電話設定	
音量	①送話音量: -6dB ②受話音量: 0dB

※音量に問題がないときは、出荷時の設定のままでご使用ください。

①送話音量 …… 送話音量を3dB刻みで調整します。 (出荷時の設定：－6dB)
設定できる範囲は、「－21dB(最小音量)～+21dB(最大音量)」です。

②受話音量 …… 受話音量を3dB刻みで調整します。 (出荷時の設定：0dB)
設定できる範囲は、「－21dB(最小音量)～+21dB(最大音量)」です。

3 「多機能電話設定」メニュー

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

■電話設定 グループ

選択したグループごとに、VP-701の操作について設定します。

電話設定		
ダイヤル待ち時間	①	5秒
外線発信キー	②	0
外線捕捉範囲	③	1 ～ 24
オフフック回線捕捉	④	◉内線　○外線
オフフック外線応答	⑤	◉しない　○する
着信優先順位	⑥	◉内線優先　○外線優先
外線通話中の内線着信拒否	⑦	◉しない　○する
代理応答キー動作	⑧	◉コールピックアップ　○グループピックアップ
コールピックアップ対象	⑨	外線/内線
グループピックアップ対象	⑩	外線/内線
長時間保留の監視時間	⑪	180 秒

①ダイヤル待ち時間 …… ダイヤル操作を終了してから発信開始までの時間を設定します。
設定できる範囲は、「1 ～60(秒)」です。　(出荷時の設定：5)
※ダイヤル操作中、設定した時間を過ぎて操作がないと発信を開始しますのでご注意ください。

②外線発信キー …… 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるための番号を、「0 ～ 9、＊、＃」から選択します。　(出荷時の設定：0)

③外線捕捉範囲 …… 空いている回線を自動的に捕捉して外線に電話をかけるための回線の範囲を、「1 ～ 24」から選択します。　(出荷時の設定：1～24)

④オフフック回線捕捉 … 「内線」を設定すると、受話器を上げたとき内線発信音(ツーツー)が聞こえ、内線電話を呼び出せます。　(出荷時の設定：内線)
「外線」を設定すると、受話器を上げたときに(ツー…)が聞こえ、電話番号をダイヤルすると外線発信ができます。

⑤オフフック外線応答 … 「する」を設定すると、外線から電話がかかってきたときに受話器を上げるだけで、電話に応答できます。　(出荷時の設定：しない)

⑥着信優先順位 …… 「外線優先」を設定すると、外線からの電話を優先してVP-701に着信させます。　(出荷時の設定：内線優先)
※外線からの電話はディスプレイに「着信中[キー番号]」を表示して、使用している回線を確認できます。

⑦外線通話中の内線着信拒否 外線通話中の内線着信(Peer to Peer着信を含む)に対する動作を設定します。「する」を設定すると、外線通話時に内線からの着信を切断します。　(出荷時の設定：しない)

⑧代理応答キー動作 …… 〈代理応答〉を操作したときの動作について設定します。「グループピックアップ」を設定すると、同一のグループ番号を持つ子機の着信に対して代理応答できます。　(出荷時の設定：コールピックアップ)

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

■電話設定 グループ

電話設定		
ダイヤル待ち時間	①	5秒
外線発信キー	②	0
外線捕捉範囲	③	1 ～ 24
オフフック回線捕捉	④	◉内線　○外線
オフフック外線応答	⑤	◉しない　○する
着信優先順位	⑥	◉内線優先　○外線優先
外線通話中の内線着信拒否	⑦	◉しない　○する
代理応答キー動作	⑧	◉コールピックアップ　○グループピックアップ
コールピックアップ対象	⑨	外線/内線
グループピックアップ対象	⑩	外線/内線
長時間保留の監視時間	⑪	180 秒

⑨コールピックアップ対象

※「外線設定」メニューにある[鳴り分け判別]欄を内線(内線A～C)に設定している回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)からの着信は、内線になります。

ほかの子機への呼び出しについて、応答できる対象を「外線/内線」「外線のみ」「内線のみ」から設定します。　(出荷時の設定：外線/内線)

◎「外線/内線」
内線着信(Peer to Peer着信含む)と外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)をコールピックアップの対象とします。

◎「内線のみ」
内線着信(Peer to Peer着信含む)だけをコールピックアップの対象とします。

◎「外線のみ」
外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)だけをコールピックアップの対象とします。

⑩グループピックアップ対象

※「外線設定」メニューにある[鳴り分け判別]欄を内線(内線A～C)に設定している回線(SIPサーバ/一般加入電話回線)からの着信は、内線になります。

同じグループ番号のほかの子機への呼び出しについて、応答できる対象を「外線/内線」「外線のみ」「内線のみ」から設定します。
(出荷時の設定：外線/内線)

◎「外線/内線」
内線着信(Peer to Peer着信含む)と外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)をグループピックアップの対象とします。

◎「内線のみ」
内線着信(Peer to Peer着信含む)だけをグループピックアップの対象とします。

◎「外線のみ」
外線着信(SIPサーバ/一般加入電話回線からの着信)だけをグループピックアップの対象とします。

⑪長時間保留の監視時間

設定した時間を超えて自己保留をすると、警告音(ププププ)を鳴らします。
設定できる範囲は、「30 ～1800(秒)」です。　(出荷時の設定：180)

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

■フレキシブルボタン設定 グループ

VP-701のフレキシブルボタンについて、選択したグループごとに設定します。

※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～24 ……

VP-701のフレキシブルボタンごとに機能を割り当てます。
※「未使用」を設定すると、そのボタンに機能を割り当てません。

◎外線キー

外線発信時に使用する回線（SIPサーバ/一般加入電話回線）や発信グループの選択および回線の使用状況を確認できる機能です。

【回線（SIPサーバ/一般加入電話回線）を選択するには】

ボタンを押すと、点灯（緑色）します。
ダイヤルすると、選択した回線（SIPサーバ/一般加入電話回線）で発信します。
カーソルキー（着信履歴/発信履歴）+「外線キー」で、履歴からも回線を選択して発信できます。
※SIPサーバを選択する場合は、「内線共通設定」画面の[SIPサーバ発信特番]項目、または「サーバ接続設定」画面の[サーバ発信プレフィクス]項目での特番設定が必要です。
※アナログ電話回線を選択する場合は、「内線共通設定」画面の[外線着信用代理応答特番]項目、「アナログ回線設定」画面の[電話回線専用発信番号]項目でのプレフィクス設定が必要です。
※ISDN回線を選択する場合は、「内線共通設定」画面の[外線着信用代理応答特番]項目、「ISDN回線設定」画面の[ISDN回線専用発信番号]項目のプレフィクス、または[ダイヤルイン設定](登録の一覧)項目での発信プレフィクス設定が必要です。

【発信グループを選択するには】

ボタンを押すと、点灯（緑色）します。
ダイヤルすると、選択した発信グループで発信します。
カーソルキー（着信履歴/発信履歴）+「外線キー」で、履歴からも回線グループを選択して発信できます。
※「内線共通設定」画面の[外線着信用代理応答特番]項目、[外線キーパークプレフィクス]項目、「外線捕捉特番」項目、[SIPサーバ発信特番]項目および「発信グループ設定」画面の[グループ発信プレフィクス]項目の特番設定が必要です。

(次ページにつづく)

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

■フレキシブルボタン設定 グループ

※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～24(つづき) …

◎外線キー

【回線の使用状況を確認するには】

回線が使用中で発信できないときは、点灯(赤色)します。
着信すると、高速点滅(赤色)します。
保留中は、点滅(緑色)します。

◎ワンタッチ

よく利用する多機能電話電話帳の内線番号や外線番号および本製品で設定した特番などを登録して、ワンタッチの操作で発信できる機能です。
VP-701ごとにワンタッチで発信できる番号を登録します。

◎不在転送

不在中にかかってきた電話を他の電話機に転送する機能です。
ボタンを押したあと、転送先の電話番号をダイヤルし発信ボタンを押すと不在転送機能が設定されます。
不在転送機能が動作しているときは、ボタンが点灯します。
※不在転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※「内線共通設定」画面の[不在転送特番]項目の特番設定が必要です。

◎不応答転送

電話に応答できないときなど、かかってきた電話を他の電話機に転送する機能です。
ボタンを押したあと、転送先の電話番号をダイヤルし発信ボタンを押すと不応答転送機能が設定されます。
不応答転送機能が動作しているときは、ボタンが点灯します。
※不応答転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。
※「内線共通設定」画面の[不応答転送特番]項目の特番設定が必要です。

(次ページにつづく)

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-701設定」**

■ フレキシブルボタン設定 グループ

※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～24(つづき) …

◎話中転送

内線通話中に他の内線がかかってきたときに、登録した電話番号に着信を転送する機能です。

ボタンを押したあと、転送先の電話番号をダイヤルし発信ボタンを押すと話中転送機能が設定されます。

話中転送機能が動作しているときは、ボタンが点灯します。

※話中転送機能を解除するときは、再度ボタンを押して消灯をご確認ください。

※「内線共通設定」画面の[話中転送特番]項目の特番設定が必要です。

◎音声呼出

ダイヤルした相手を直接音声で呼び出す機能です。

ボタンを押してダイヤルすると、呼び出し先のVP-701のスピーカ機能が有効になります。

※「内線共通設定」画面の[音声呼出特番]項目の特番設定が必要です。

(次ページにつづく)

2.「VP-701設定」画面　　「多機能電話設定」ー**「VP-501設定」**

■フレキシブルボタン設定 グループ

※上記の画面は、表示例です。

ボタン1～24(つづき) …

◎**パーク**

通話をパーク保留して、どの内線電話からも応答できる機能です。
最大24件まで、パーク保留・応答として設定できます。

※他の内線電話(本製品の[TEL]ポートに接続したアナログ電話機、VP-71、VP-43など対応端末)が、設定していないパーク番号(設定例：3～24)でパーク保留した場合は、VP-701からは、「パーク応答プレフィクス＋パーク番号(3～24)」をダイヤルして応答できます。

※出荷時や設定初期時は、パークプレフィクスが設定されていませんので、パーク機能をご使用になる場合は、「内線共通設定」画面で設定してください。

3.「設定グループ割当て」画面

「多機能電話設定」ー**「設定グループ割当て」**

本製品に登録した内線子機に対して多機能電話設定グループの割り当てをします。

〈登録〉……　「設定グループ割当て」画面で設定した内容を本製品に保存します。
※変更内容は〈登録して子機再起動〉をクリックする、またはVP-501およびVP-701を再起動するまで、本製品に登録したVP-501およびVP-701にダウンロードされません。

〈取消〉……　「設定グループ割当て」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
※〈登録〉や〈登録して子機再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して子機再起動〉……　本製品に登録したすべてのVP-501およびVP-701を再起動させて、「設定グループ割当て」画面で設定したグループごとに、共通で使用する電話帳などをVP-501およびVP-701にダウンロードします。
※通話などを切断して再起動を開始しますのでご注意ください。

【更新できないときは】
設定が更新できなかった場合、VP-501およびVP-701は前回ダウンロードした設定をそのまま使用します。
再起動させるときは、VP-501およびVP-701の電源が入っていることをご確認ください。

■TELポート

本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)に、VP-501およびVP-701の多機能電話設定グループを割り当てます。

TELポート

名前	内線番号	設定グループ
TEL1	210	設定グループ1
TEL2	220	設定グループ1

※上記の画面は、共通電話帳を選択している場合の表示例です。

設定グループ……　VP-701の外線保留を本製品に接続したアナログ電話機(TEL1/2)で応答する場合は、設定グループを同じ設定してください。
設定できる範囲は、「1～20」までです。
(出荷時の設定：設定グループ1)
設定グループごとに、フレキシブルボタンの機能割り当てなどを共用できます。

3.「設定グループ割当て」画面　　「多機能電話設定」ー**「設定グループ割当て」**

■内線子機

VP-501およびVP-701の多機能電話設定グループの割り当てをします。

内線子機

	名前	内線番号	設定グループ
01	VP-701　1	0505001	設定グループ1
02	VP-701　2	0505002	設定グループ1
03	VP-701　3	0505003	設定グループ1
04	VP-701　4	0505004	設定グループ1
05	VP-701　5	0505005	設定グループ1
06	VP-701　6	0505006	設定グループ1
07	VP-701　7	0505007	設定グループ1
08	VP-701　8	0505008	設定グループ1
09	VP-701　9	0505009	設定グループ1
10	VP-701　10	0505010	設定グループ1
11	VP-701　11	0505011	設定グループ1
12	VP-701　12	0505012	設定グループ1
13	VP-701　13	0505013	設定グループ1
14	VP-701　14	0505014	設定グループ1
15	VP-701　15	0505015	設定グループ1
16	VP-701　16	0505016	設定グループ1
17	VP-701　17	0505017	設定グループ1
18	VP-701　18	0505018	設定グループ1

※上記の画面は、共通電話帳を選択している場合の表示例です。

設定グループ……

本製品に登録したVP-501およびVP-701を設定するグループです。
設定できる範囲は、「1～20」までです。
（出荷時の設定：設定グループ1）
設定グループごとに、フレキシブルボタンの機能割り当てや共通電話帳とは別に最大100件のグループ電話帳を使用できます。
※VP-701の外線保留を他の内線電話機で応答する場合は、設定グループを同じ設定してください。

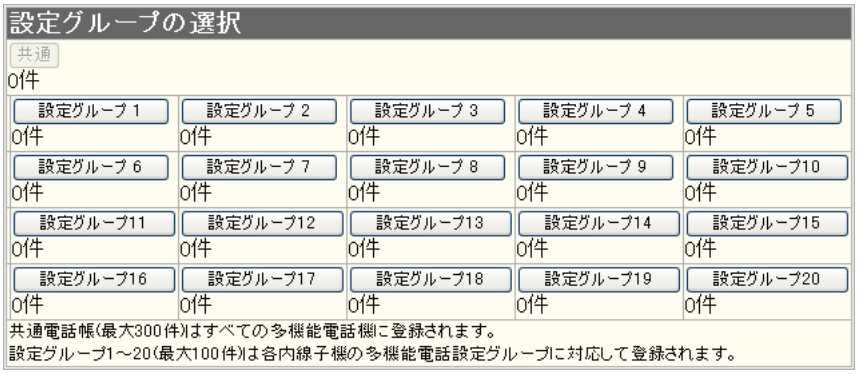
4.「多機能電話電話帳」画面

「多機能電話設定」ー**「多機能電話電話帳」**

VP-501およびVP-701で共通に使用する電話帳を編集します。

■設定グループの選択

VP-501およびVP-701の共通電話帳やグループごとに登録できる電話帳を編集するときに選択します。



※上記の画面は、共通電話帳を選択している場合の表示例です。

電話帳の選択……

編集するVP-501およびVP-701の電話帳を、〈共通〉／〈グループ(1～20)〉から選択します。

クリックすると、選択した電話帳の登録内容を[多機能電話電話帳]項目で確認、または編集できます。

※[電話帳の保存と書き込み]項目では、選択した電話帳ごとに、電話帳の保存やファイルを書き込みできます。

※登録した件数は、それぞれのボタンの下に表示されます。

※VP-501およびVP-701のグループ設定は、「設定グループの割当て」画面で登録できます。

4.「多機能電話電話帳」画面　　「多機能電話設定」ー**「多機能電話電話帳」**

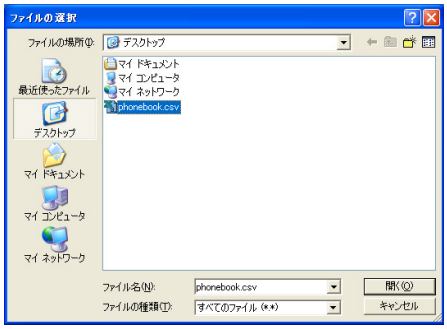
■電話帳の保存と書き込み

選択した電話帳ごとに、ファイルに保存したり、保存したファイルを本製品に書き込んだりします。

①保存したファイルを書き込む ……

パソコンに保存された「電話帳登録ファイル」の内容を本製品に書き込むとき操作します。

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」の保存先をテキストボックスに直接入力する、または〈参照...〉をクリックすると表示される画面から目的の「電話帳登録ファイル」を指定します。



テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉をクリックすると、[多機能電話電話帳]項目にその内容を書き込みます。

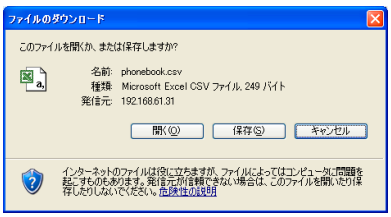
書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「電話帳登録ファイル」を書き込んだあと、「メンテナンス」メニューの「設定保存」画面で保存された設定ファイルを書き込むと、後から書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますのでご注意ください。

②ファイルに保存する …

[多機能電話電話帳]項目に表示された内容を「電話帳登録ファイル」として、パソコンに保存します。

〈保存〉をクリックして、表示された別画面(右図)の〈保存(S)〉をクリックすると、ファイル形式(拡張子)「.csv」で保存されます。保存したファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。



また、保存した「電話帳登録ファイル」は、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

4.「多機能電話電話帳」画面　　「多機能電話設定」ー**「多機能電話電話帳」**

■多機能電話電話帳 (VP-501設定時)

選択した電話帳ごとに、よく利用する電話番号を登録します。

※上記の画面は、共通電話帳を選択している場合の表示例です。

①番号 …… 共通電話帳に最大300件、グループ(1～20)ごとの電話帳に最大100件まで相手先電話番号が登録できます。

②電話番号 …… 電話機からダイヤルする電話番号を入力します。

③名前 …… 相手の名前を任意の半角30文字(全角15)以内で入力します。

④ヨミガナ …… 相手のヨミガナを任意の半角30文字以内で入力します。
※半角カタカナ、半角英数字が設定できます。
※全角カナは半角カタカナに変換されます。
※「ヨミガナ」が空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。

⑤〈追加〉 …… 入力した内容(①～④)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

⑥〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を上記の項目(①～④)で編集できます。

⑦〈削除〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を削除します。

⑧〈全削除〉 …… クリックすると、[現在の登録]項目に表示されたすべての内容を削除します。

4.「多機能電話電話帳」画面　　「多機能電話設定」ー**「多機能電話電話帳」**

■多機能電話電話帳 (VP-701設定時)

選択した電話帳ごとに、よく利用する電話番号を登録します。

※上記の画面は、共通電話帳を選択している場合の表示例です。

①番号 …… 共通電話帳に最大300件、グループ(1～20)ごとの電話帳に最大100件まで相手先電話番号が登録できます。

②電話番号 …… 電話機からダイヤルする電話番号を入力します。

③名前 …… 相手の名前を任意の半角30文字(全角15)以内で入力します。

④ヨミガナ …… 相手のヨミガナを任意の半角30文字以内で入力します。
※半角カタカナ、半角英数字が設定できます。
※全角カナは半角カタカナに変換されます。
※「ヨミガナ」が空白(何も設定していない)の場合、電話帳に登録できません。

⑤回線種別 …… 電話帳に回線の捕捉方法(内線/外線)を登録すると、電話帳から電話をかけるとき、回線捕捉方法を指定する必要はありません。

⑥電話帳グループ …… 必要に応じて、VP-701本体の電話帳をグループ分け(電話帳グループ1～10)します。

⑦〈追加〉 …… 入力した内容(①～④)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

⑧〈編集〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を上記の項目(①～④)で編集できます。

⑨〈削除〉 …… クリックすると、ボタンの右欄に表示された内容を削除します。

⑩〈全削除〉 …… クリックすると、[現在の登録]項目に表示されたすべての内容を削除します。

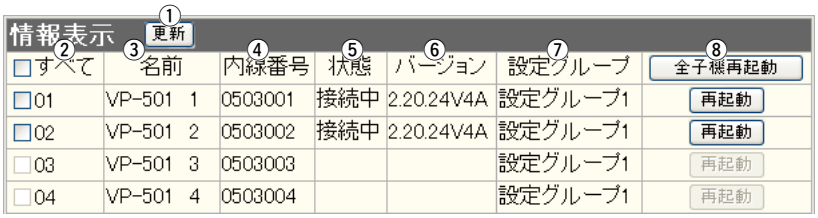
5.「多機能電話保守」画面

「多機能電話設定」ー**「多機能電話保守」**

本製品に登録したVP-501またはVP-701の情報表示とファームウェアを更新する画面です。

■情報表示 (VP-501設定時)

本製品に登録した子機について、ファームウェア情報などを表示します。



※上記の画面は、表示例です。

①〈更新〉 …… 本製品に登録した子機の情報を更新するとき、クリックします。

②電話機選択ボックス … ファームウェアを更新するVP-501を選択します。
チェックボックスをクリックしてチェックマークを入れてから、[電話機ファームウェアの更新]項目の〈書き込み〉をクリックします。
※[状態]が空白(何も表示されていない)の場合は、選択できません。
※「簡易中継サーバ設定」の「多機能電話機種」項目でVP-701を選択した場合は、表示しません。

③名前 …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[子機内線設定]項目に登録された名前を表示します。

④内線番号 …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[子機内線設定]項目に登録された内線番号を表示します。

⑤状態 …… 本製品に登録したVP-501の接続状況を、「接続中」/「応答待ち」で表示します。
※起動中やファームアップ中のときは、「応答待ち」を表示します。

⑥バージョン …… 本製品に登録したVP-501ごとに、ファームウェア情報を表示します。
※「2.20.24V4A」より前のファームウェア(例:2.10.15V4A)では、本製品で設定しても、VP-501では使用できない機能がありますので、ご注意ください。

⑦設定グループ …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[多機能電話設定グループ選択]項目に登録されたグループを表示します。

⑧〈再起動〉 …… 本製品に登録したVP-501再起動するとき、クリックします。
〈全子機再起動〉をクリックすると、本製品に登録した電源の入っているすべてのVP-501を再起動できます。

5.「多機能電話保守」画面　　「多機能電話設定」ー**「多機能電話保守」**

■情報表示 (VP-701設定時)

本製品に登録した子機について、ファームウェア情報などを表示します。

※上記の画面は、表示例です。

①**〈更新〉** …… 本製品に登録した子機の情報を更新するとき、クリックします。

②**名前** …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[子機内線設定]項目に登録された名前を表示します。

③**内線番号** …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[子機内線設定]項目に登録された内線番号を表示します。

④**状態** …… 本製品に登録したVP-701の接続状況を、「接続中」／「応答待ち」で表示します。
※起動中やファームアップ中のときは、「応答待ち」を表示します。

⑤**バージョン** …… 本製品に登録したVP-701ごとに、ファームウェア情報を表示します。

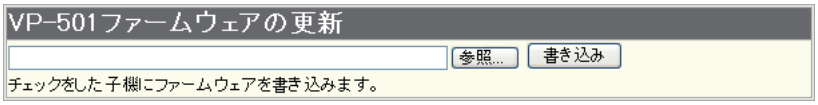
⑥**設定グループ** …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[多機能電話設定グループ選択]項目に登録されたグループを表示します。

⑦**〈再起動〉** …… 本製品に登録したVP-701再起動するとき、クリックします。
〈全子機再起動〉をクリックすると、本製品に登録した電源の入っているすべてのVP-701を再起動できます。

5.「多機能電話保守」画面　　「多機能電話設定」ー**「多機能電話保守」**

■VP-501ファームウェアの更新

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップします。
※「簡易中継サーバ設定」の「多機能電話機種」でVP-701を選択した場合は、表示しません。



①パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：out)を、[電話機ファームウェアの更新]項目のテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉をクリックして、指定します。

②[情報表示]項目で、ファームウェアを更新するVP-501を選択します。

③〈書き込み〉をクリックします。
ファームウェアの更新を開始すると、メッセージ表示後、「多機能電話ファーム」画面に戻ります。

ファームウェア読み込み完了
電話機のファームウェアを更新します。
3～5分後に画面を更新してファームウェアのバージョンをご確認ください。

④数分後、「多機能電話ファーム」画面を更新して、ファームウェアのバージョンをご確認ください。

【バージョンアップについてのご注意】
電話機のファームウェアを書き込み中、絶対にVP-501の電源を切らないようにしてください。
更新が完了すると、自動的に再起動しますので、そのまま数分程度お待ちください。

【VP-501のファームウェアについて】
本製品で設定できるすべての機能を、ver 2.20.24V4A以降のファームウェアより使用できます。
ご使用になるまえに、設定画面でファームウェア情報をご確認ください。

5.「多機能電話保守」画面　　「多機能電話設定」ー**「多機能電話保守」**

■定時再起動設定

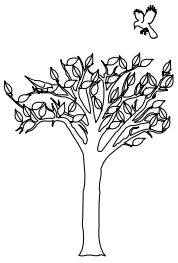
本製品に登録したすべてのVP-501およびVP-701を再起動させて、登録内容や電話帳を更新します。

※上図は、設定例です。

〈登録〉……　[定時再起動設定]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉……　[定時再起動設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

時刻・有効曜日……　定時再起動を「有効」に設定し、開始時間を24時間制で入力します。
曜日を指定する場合は、指定する曜日のチェックボックスをクリックし、チェックマークを入れます。曜日を指定しなければ、毎日同じ時刻に再起動します。
設定後は、[定時再起動設定]項目の〈登録〉をクリックします。
※本製品の自動時計設定機能を併せてご使用になることをおすすめします。



「ネットワーク設定」メニュー

第 4 章

この章では、
「ネットワーク設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

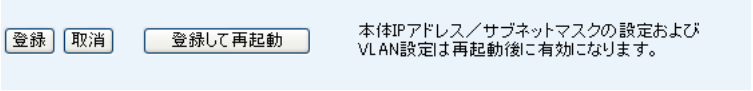
1.「LAN側IP設定」画面 ……126
■ 本体名称/IPアドレス設定 ……126
■ VLAN設定 ……128
■ DHCPサーバ設定 ……129
■ 静的DHCPサーバ設定 ……132
2.「簡易DNS設定」画面 ……133
■ DNSサーバ設定 ……133
■ 簡易DNSサーバ設定 ……134
■ URLフィルタ設定 ……135
3.「ブリッジ設定」画面 ……136
■ ブリッジ設定 ……136
4.「RIP設定」画面 ……139
■ RIP設定 ……139
■ RIPフィルタ設定 ……140
5.「ルーティング設定」画面 ……141
■ IP経路情報 ……141
■ スタティックルーティング設定 ……142
6.「QoS設定」画面 ……143
■ QoS設定 ……143
■ QoSルール設定 ……144
■ 現在の登録 ……146

4 「ネットワーク設定」メニュー

1.「LAN側IP設定」画面

「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

本製品をネットワークに接続するための設定画面です。



〈登録〉…… 「LAN側IP設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。
※[本体名称/IPアドレス設定]項目の[IPアドレス](②)欄、[サブネットマスク](③)欄および[VLAN設定]項目を変更した場合は画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉…… 「LAN側IP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉…… 本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■本体名称/IPアドレス設定

本製品の名称とLAN側IPアドレスを設定します。

本体名称／IPアドレス設定		
本体名称	①	AP-5100VoIP
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0
プライマリDNSサーバ	④	
セカンダリDNSサーバ	⑤	

①本体名称 …… ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
(出荷時の設定：AP-5100VoIP)
ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、−)、31文字以内で設定します。
設定した名前は、本製品のLAN側に接続された端末から本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使用できます。

入力形式：[http://web.本体名称/]

※[DNSサーバ設定]項目の[DNSサーバの代理応答を使用]欄を「する(出荷時の設定)」に設定しておく必要があります。
※登録できない文字は、「＃ ％ / ： ？ @ ￥ ` 」の8種類です。
※全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNS代理応答機能は利用できなくなります。

1.「LAN側IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

■本体名称/IPアドレス設定

本体名称／IPアドレス設定		
本体名称	①	AP-5100VoIP
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0
プライマリDNSサーバ	④	
セカンダリDNSサーバ	⑤	

②IPアドレス ……

本製品のLAN側IPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークアドレスに変更してください
※本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[DHCPサーバ設定]項目の[割り当て開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。

③サブネットマスク ……

本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。　(出荷時の設定：255.255.255.0)
本製品を現在稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
[例]
サブネットマスクを「255.255.255.248」に設定すると、同じネットワークで使用するIPアドレスは、「192.168.0.0～192.168.0.7」の範囲になります。
この場合、端末に割り当てできるIPアドレスは、「192.168.0.2～192.168.0.6」です。
なお、端末に割り当てできないIPアドレスは次のようになります。
「192.168.0.0」：ネットワークアドレス
「192.168.0.1」：本製品のLAN側IPアドレス
「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

④プライマリDNSサーバ

DNSサーバが本製品のLAN側に存在するとき、そのDNSサーバのアドレスを入力します。
入力すると、本製品はこのアドレスを参照します。
必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。

⑤セカンダリDNSサーバ

[プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。

4 「ネットワーク設定」メニュー

1.「LAN側IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

■VLAN設定

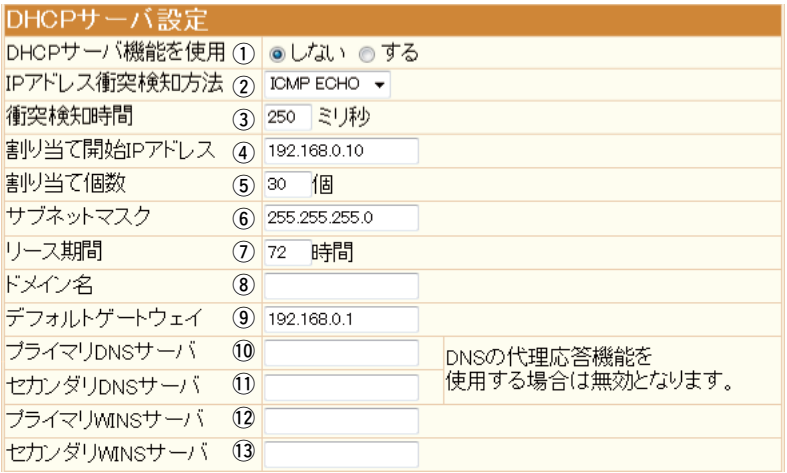
VLAN機能についての設定です。

マネージメントID …… 本製品に設定された同じID番号を持つネットワーク上の機器からのアクセスだけを許可できます。　(出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「0～4095」です。
※VLAN IDを使用しないネットワークから本製品にアクセスするときは、「0」を設定します。

1.「LAN側IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

■DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能についての設定です。



①DHCPサーバ機能を使用　本製品のDHCPサーバ機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、本製品に有線および無線で接続している端末がTCP/IP設定を「IPアドレスを自動的に取得する」にしている場合、本製品のDHCPクライアントになります。

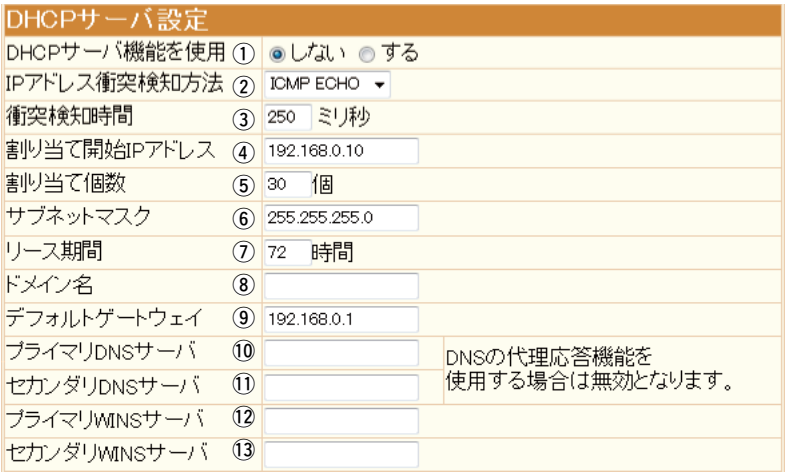
②IPアドレス衝突検知方法　IPアドレスの衝突について検知方法を設定します。
(出荷時の設定：ICMP ECHO)
※[IPアドレス衝突検知方法]欄の設定に関係なく、同一ネットワーク内に同じIPアドレスを持つ機器が複数存在すると、その機器と正しく通信できませんのでご注意ください。
◎「ICMP ECHO」　：ICMPプロトコルを利用して衝突を検知します。
※ファイアウォールなどにより、ICMP ECHO要求に応答がない場合、検知できません。
※ICMPプロトコルは通信障害があった場合のエラーメッセージやネットワークの通信確認の診断(PINGコマンド)に使用されます。
◎「ARP」　：ARPプロトコルを利用して衝突を検知します。
※ICMP ECHOで衝突を検知できない場合に設定してください。ただし、DHCPリレーなどを利用されているネットワークでは衝突を検知できない場合があります。
◎「なし」　：IPアドレスの衝突よりIPアドレスの割り当て速度を優先するときに使用します。

③衝突検知時間 ……　通信確認を送信してから応答を確認するまでの待機時間を設定します。
設定できる範囲は、「50～5000(ミリ秒)」です。
(出荷時の設定：250)

4 「ネットワーク設定」メニュー

1.「LAN側IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

■DHCPサーバ設定



④割り当て開始IPアドレス　本製品に有線および無線で接続する端末へ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
(出荷時の設定：192.168.0.10)

⑤割り当て個数 ……　本製品が自動割り当てできるIPアドレスの個数を設定します。
(出荷時の設定：30)
[割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当てできるIPアドレスの最大個数は、0～128(無線LANで接続する端末を含む)までです。
※128個を超える分については設定できませんので、手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。

⑥サブネットマスク ……　[割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。　(出荷時の設定：255.255.255.0)

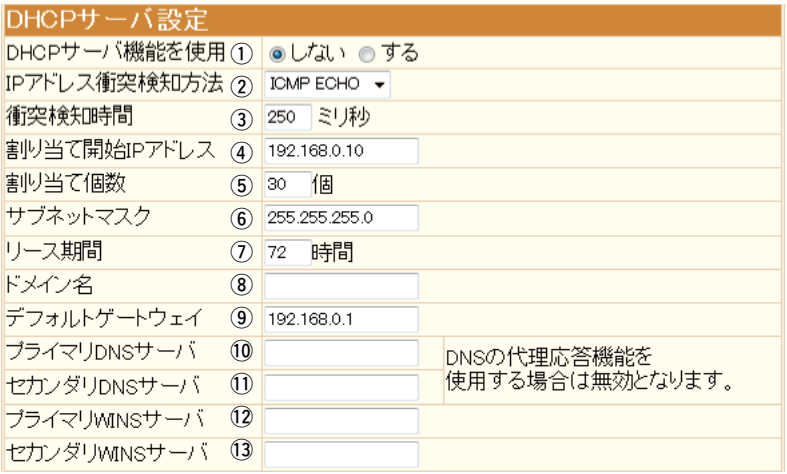
⑦リース期間 ……　DHCPサーバが、ローカルIPアドレスを定期的に自動で端末に割り当てなおす期限を時間で指定します。　(出荷時の設定：72)
設定できる範囲は、「1～9999(時間)」です。

⑧ドメイン名 ……　ドメイン名を使用しているときや、プロバイダーからドメイン名を指定されたときなど必要があれば、DHCPサーバが有線および無線で接続する端末に通知するネットワークアドレスのドメイン名を、入力(半角英数字：127文字以内)します。

⑨デフォルトゲートウェイ　ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定された場合に限り、LAN側に通知するゲートウェイを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)

1.「LAN側IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

■DHCPサーバ設定



⑩プライマリDNSサーバ…　必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※本製品のDHCPサーバ機能を使用(①)する場合に有効です。
※「プライマリDNSサーバ」と「セカンダリDNSサーバ」は、[DNSサーバ設定]項目の[DNSサーバの代理応答を使用]欄を「する(出荷時の設定)」に設定した場合、無効になります。

⑪セカンダDNSサーバ ……　[プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。

⑫プライマリWINSサーバ　Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。
WINSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。

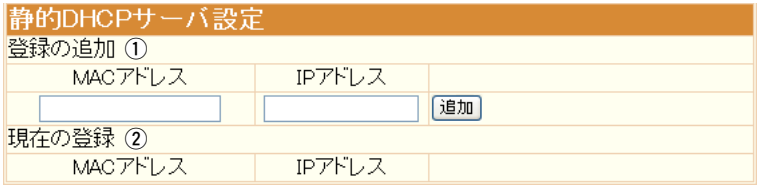
⑬セカンダWINSサーバ…　「プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

4 「ネットワーク設定」メニュー

1.「LAN側IP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「LAN側IP設定」**

■静的DHCPサーバ設定

静的DHCPサーバ機能についての設定です。



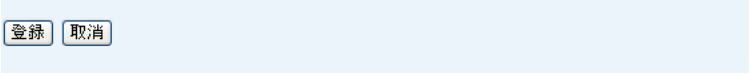
①登録の追加 …… 端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録します。
※本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合に有効です。
※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。
※最大16個の組み合わせまで登録できます。
登録する端末のIPアドレスは、DHCPサーバ機能による割り当て範囲および本製品のIPアドレスと重複しないように指定してください。

②現在の登録 …… 登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

2.「簡易DNS設定」画面

「ネットワーク設定」ー**「簡易DNS設定」**

本製品の代理DNSサーバ機能についての設定画面です。

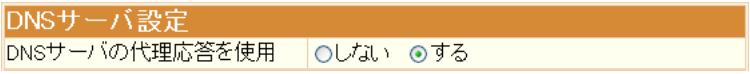


〈登録〉……　「簡易DNS設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉……　「簡易DNS設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■DNSサーバ設定

本製品の代理DNSサーバ機能について設定します。

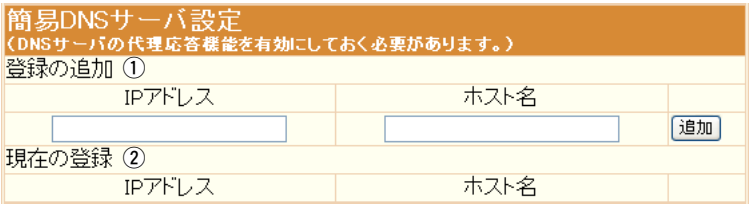


DNSサーバの代理応答を使用……　本製品のDNS代理応答機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
DNS代理応答機能とは、端末からのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバへ転送する機能です。
「する」に設定すると、本製品のアドレスをネットワーク上の端末にDNSサーバとして設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバのアドレスが変更になったときでも、端末側の設定を変更する必要がありません。

2.「簡易DNS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「簡易DNS設定」**

■簡易DNSサーバ設定

本製品を簡易DNSサーバとして使用するとき設定します。



①登録の追加 …… 端末のホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを入力して、〈追加〉をクリックします。
登録すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応答します。
※最大16個の組み合わせまで登録できます。
※本製品の「DNSサーバの代理応答機能」を使用する場合に有効です。
※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。
※ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておくと、ホスト名のみ一致する場合でも応答します。

②現在の登録 …… 現在の登録内容を表示します。
登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

2.「簡易DNS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「簡易DNS設定」**

■URLフィルタ設定

特定のURLへのアクセスを禁止するとき設定します。

①登録の追加 ……

URL情報や発信元のIPアドレスを入力して、〈追加〉をクリックします。
登録すると、URL情報や発信元のIPアドレスをもとに、特定の発信先へのデータを遮断できます。
※本製品の「DNSサーバの代理応答機能」を使用する場合に有効です。
※最大32個まで登録できます。

[相手先URL]

遮断したい相手先のドメイン名を入力します。
ワイルドカードとして、「？」「＊」が使用できます。また「？」は任意の1文字、「＊」は任意の文字列として認識されます。
たとえば、「＊.icom.co.jp」を指定したときは、「www.icom.co.jp」や「mail.icom.co.jp」へのデータが遮断されます。

[発信元IP]

ローカル側の発信元IPアドレスを入力します。
指定しない場合は、すべてのIPアドレスに対して指定のURLへのアクセスを遮断します。

②現在の登録 ……

現在の登録内容を表示します。
登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

3.「ブリッジ設定」画面

「ネットワーク設定」ー**「ブリッジ設定」**

本製品のブリッジ機能についての設定画面です。

〈登録〉…… 「ブリッジ設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉…… 「ブリッジ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉…… 本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■ ブリッジ設定

ブリッジ接続のスパニングツリー機能を設定するとき使用します。

ブリッジ設定			
スパニングツリー機能を使用	①		◉しない ○する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②		32768
エージングタイム(Aging Time)	③		300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④		20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤		2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥		15 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦	有線LAN	100
		無線[802.11g]	200
		無線[802.11a]	200
ポート優先度(Port Priority)	⑧	有線LAN	128
		無線[802.11g]	128
		無線[802.11a]	128

※スパニングツリー機能を使用する場合、[ブリッジ設定]項目(②～⑧)は出荷時の設定を推奨します。

①スパニングツリー機能を使用 …… 本製品のスパニングツリー機能を設定します。(出荷時の設定：しない)
スパニングツリー機能とは、経路のループを検出し、パケットが無限に循環するのを回避して、最適な経路を作成する機能です。
「する」に設定すると、経路障害のないときは冗長リンクを検出して、重複する経路のうち優先度の低い方を遮断します。
ブリッジ間で経路障害が起こったときは、正常時に遮断されていた経路を使用してネットワークの正常な稼働を保証します。

3.「ブリッジ設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「ブリッジ設定」**

■ブリッジ設定

ブリッジ設定			
スパニングツリー機能を使用	①		◉しない　○する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②		32768
エージングタイム(Aging Time)	③		300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④		20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤		2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥		15 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦	有線LAN	100
		無線[802.11g]	200
		無線[802.11a]	200
ポート優先度(Port Priority)	⑧	有線LAN	128
		無線[802.11g]	128
		無線[802.11a]	128

※スパニングツリー機能を使用する場合、[ブリッジ設定]項目(②～⑧)は出荷時の設定を推奨します。

②ブリッジ優先度 ……

ブリッジで通信する本製品の優先度を設定します。
設定できる範囲は、「0～65535」です。　(出荷時の設定：32768)
設定値が小さいほど、優先度が高くなります。
一番優先度が高いAP-5100VoIPが、そのネットワークのルートブリッジになります。
※同じ値に設定された機器がある場合は、MACアドレスの小さい機器の優先度が高くなります。

③エージングタイム ……

本製品が自動学習したMACアドレスをアドレステーブルに記憶しておく時間を指定します。　(出荷時の設定：300)
設定できる範囲は、「15～1000000(秒)」です。
データが流れない状態が、この欄に設定された時間つづくと、アドレステーブルから削除されます。

④マックスエイジ ……

BPDU(Bridge Protocol Data Unit)を指定します。
設定できる範囲は、「6～40(秒)」です。　(出荷時の設定：20)

⑤ハロータイム ……

本製品がルートブリッジとして動作するとき、本製品からBPDU情報を送出する間隔を設定します。　(出荷時の設定：2)
設定できる範囲は、「1～10(秒)」です。

⑥転送遅延 ……

ネットワークの再編成中に学習したMACアドレスの有効期限を指定します。　(出荷時の設定：15)
設定できる範囲は、「4～30(秒)」です。

3.「ブリッジ設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「ブリッジ設定」**

■ブリッジ設定

ブリッジ設定			
スパニングツリー機能を使用	①		◉しない ○する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②		32768
エージングタイム(Aging Time)	③		300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④		20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤		2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥		15 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦	有線LAN	100
		無線[802.11g]	200
		無線[802.11a]	200
ポート優先度(Port Priority)	⑧	有線LAN	128
		無線[802.11g]	128
		無線[802.11a]	128

※スパニングツリー機能を使用する場合、[ブリッジ設定]項目(②～⑧)は出荷時の設定を推奨します。

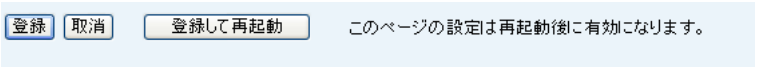
⑦パスコスト …… ネットワーク全体のブリッジとルートブリッジ間の優先データパスの決定に利用される値で、各ポートからルートブリッジまでの経路コストが小さいブリッジが優先されます。
設定できる範囲は、「0～1000000」です。
(出荷時の設定 ：有線LAN：100
無線[802.11g]：200
無線[802.11a]：200)

⑧ポート優先度 …… ブリッジで通信する本製品のポートごとに優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、ポート優先度が高くなります。
設定できる範囲は、「0～255」です。
(出荷時の設定 ：有線LAN：128)
無線[802.11g]：128)
無線[802.11a]：128)
※各ポートで同じ値が設定されている場合は、物理的なポート番号の小さい順に優先度が高くなります。

4.「RIP設定」画面

「ネットワーク設定」ー**「RIP設定」**

本製品のRIP機能についての設定画面です。



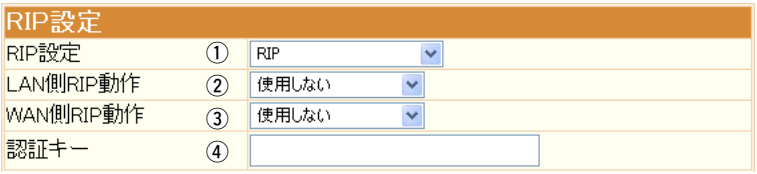
〈登録〉……　「RIP設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉……　「RIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉……　本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■RIP設定

隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するときに使用します。



①RIP設定……　RIPの種類を選択します。　(出荷時の設定：RIP)
◎RIP　：RIPの「Version1」を使用します。
◎RIP2(マルチキャスト)
　：RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。
◎RIP2(ブロードキャスト)
　：RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。
【RIP2について】
RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していますので、イントラネット環境でも利用できます。
受信については、ブロードキャスト/マルチキャストの区別なく受け入れます。

②LAN側RIP動作……　LAN側について、[RIP設定](①)欄で選択したRIPを「使用しない」、「受信のみ」、「送信も受信も行なう」から選択します。
(出荷時の設定：使用しない)

4.「RIP設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「RIP設定」**

■RIP設定

RIP設定		
RIP設定	①	RIP
LAN側RIP動作	②	使用しない
WAN側RIP動作	③	使用しない
認証キー	④	

③WAN側RIP動作 ……

WAN側について、[RIP設定](①)欄で選択したRIPを「使用しない」、「受信のみ」、「送信も受信も行なう」から選択します。

(出荷時の設定：使用しない)

④認証キー ……

RIP動作を認証するためのキーを設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、他のルータやアクセスポイントと同じ認証キーを半角15文字以内で入力します。
認証キーが有効なときは、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」および認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。
※[RIP設定](①)欄で「RIP2(マルチキャスト)」、または「RIP2(ブロードキャスト)」を選択する場合に有効です。
※RIPを使用しない場合、または[RIP設定](①)欄で「RIP」を設定する場合は、「空白」にします。

■RIPフィルタ設定

RIPフィルターについての設定です。

RIPフィルタ設定			
登録の追加 ①			
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	
無視する			追加
現在の登録 ②			
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	

①登録の追加 ……

同一サブネットで使う複数のアクセスポイントやルータにおいて、特定のアクセスポイントやルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するアクセスポイントやルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
※最大16件の登録ができます。

②現在の登録 ……

現在の登録内容を表示します。
登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

5.「ルーティング設定」画面

「ネットワーク設定」ー**「ルーティング設定」**

通信経路(ルート)についての設定画面です。

■IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータ、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。

IP経路情報

①宛先	②サブネットマスク	③ゲートウェイ	④経路	⑤作成	⑥メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

※この項目には、[スタティックルーティング設定]項目で追加した経路も表示されます。

①宛先 …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。

②サブネットマスク …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。

③ゲートウェイ …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。

④経路 …… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを表示します。
◎local　：インターフェースがLAN側の場合です。
◎wan　：インターフェースがWAN側の場合です。
※「wan」と表示されるのは、回線種別を「DHCP」にしたときです。
※「01：WAN01(または接続先名)」と表示されるのは、回線種別で「PPPoE」または「PPPoE複数固定IP」を設定したときです。
「接続先名」には、「WAN側設定」画面の[接続先名]欄で設定した内容を表示します。

⑤作成 …… どのように経路情報が作成されたかを表示します。
◎static：スタティック(定義された)ルートにより作成
◎rip　：ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成
◎misc　：ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成

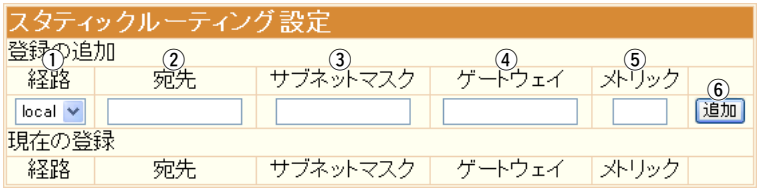
⑥メトリック …… [スタティックルーティング設定]項目の[メトリック]欄で設定された値やダイナミックルーティングで作成された経路のコストを表示します。

【インターフェースの詳細について】
「情報表示」メニュー →「ネットワーク情報」画面にインターフェースの詳細を表示します。

5.「ルーティング設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「ルーティング設定」**

■スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を最大32件まで登録できます。



①経路 ……

回路の経路を指定します。
◎local　：登録する経路情報がLAN側の場合です。
◎wan　：登録する経路情報がWAN側の場合です。
※「wan」と表示されるのは、回線種別を「DHCP」にしたときです。
※「01：WAN01(または接続先名)」と表示されるのは、回線種別で「PPPoE」または「PPPoE複数固定IP」を設定したときです。
「接続先名」には、「WAN側設定」画面の[接続先名]欄で設定した内容を表示します。

②宛先 ……

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークアドレスを入力します。
※IPアドレスは、ゲートウェイのネットワーク部と同じ設定にします。

③サブネットマスク ……

対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。

④ゲートウェイ ……

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
※[経路]欄で入力したIPアドレスのネットワーク部と同じ設定にします。

⑤メトリック ……

宛先までのコストを表す数値を入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線とみなされ、数値が大きければ転送能力が低い回線とみなされます。
設定できる範囲は、「0(空白)～15」です。

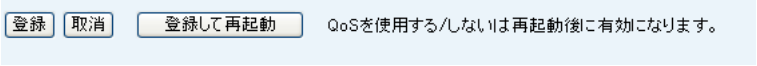
⑥〈追加〉 ……

設定した内容を[IP経路情報]項目に登録します。
※操作後は、[現在の登録]欄に登録されたことをご確認ください。
登録されると、その内容は[IP経路情報]項目に表示されます。

6.「QoS設定」画面

「ネットワーク設定」ー**「QoS設定」**

パケットを設定されたルールにしたがって優先して送信するための設定画面です。



〈登録〉……　「QoS設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。
※[QoS設定]項目の[QoSを使用](①)欄を変更した場合は画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉……　「QoS設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉……　本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■QoS設定

IP電話による音声の乱れを抑えるときの設定です。

①QoSを使用……　パケット処理の優先制御機能について設定します。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、[QoSルール設定]項目から登録したQoSルールが有効になり、パケットを優先して送信し、それ以外の送信帯域を制限できます。
※「内線設定」メニュー→「VoIP詳細設定」画面→[TOS設定]項目で、[TOS]または[Diffserv]を設定すると、VoIPのパケットのTOSを設定します。

②送信帯域制限……　データを送信できる帯域を各インターフェースごとに設定します。
(出荷時の設定：100.0)
設定された帯域を超えるパケットは破棄されますが、TOSの設定されたパケットは、設定された帯域に関係なく送信されます。
設定できる範囲は、「0.1」間隔で、「0.0～100.0」Mbpsです。
※「0.0」でも通信は完全に遮断できません。

6.「QoS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「QoS設定」**

■QoSルール設定

優先または制限するパケットの条件を、TOS値、プロトコル、ポート番号などで指定します。

QoSルール設定		
番号 ①		追加
動作 ②		優先する
TOS値書き換え ③		16進数で入力
ルール ④	プロトコル	すべて
	発信元ポート番号	～
	宛先ポート番号	～
	TOS値	～ 16進数で入力

※[QoS設定]項目の[QoSを使用]欄を「する」に設定しているとき有効な機能です。

①番号 ……

登録されたQoSルールを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1～8」です。
登録すると、本製品がパケットを受信または送信するごとに、[現在の登録]項目に表示されたルールと比較します。
※番号が指定されていないときは、登録できません。

【順位と比較について】

QoSルールを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
※QoSルールの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
一致するQoSルールがないときは、パケットを優先しません。

〈追加〉

新規作成、または編集した内容をQoSルールとして登録するとき、クリックします。
※[現在の登録]項目で登録内容をご確認ください。
※QoSのルールは、1つ以上指定してください。

②動作 ……

指定のQoSルールと一致したパケットについて、「優先する」または「優先しない」を設定します。

③TOS値書き換え ……

QoSルールと一致したパケットのTOS値だけを、この欄で指定したTOS値に変更するとき設定します。
設定できる範囲は、16進数(半角英数字)「00」～「FF」です。
※何も設定しない(空白の)場合は、TOS値の書き換えをしません。

6.「QoS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「QoS設定」**

■QoSルール設定

QoSルール設定		
番号 ①		追加
動作 ②		優先する
TOS値書き換え ③		16進数で入力
ルール ④	プロトコル	すべて
	発信元ポート番号	～
	宛先ポート番号	～
	TOS値	～ 16進数で入力

※[QoS設定]項目の[QoSを使用]欄を「する」に設定しているとき有効な機能です。

④ルール ……　QoS(Quality of Service)を適用するパケットの条件を指定します。
※複数の条件を1つのQoSルールに設定している場合は、その条件すべてに該当するパケットがそのルールの対象になります。

[プロトコル]　対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。
◎すべて ：すべてのプロトコルの条件に一致します。
※発信元/宛先ポート番号を指定した場合は、TCPプロトコルとUDPプロトコルの条件だけに一致します。
◎TCP ：TCPプロトコルの条件だけに一致します。
◎UDP ：UDPプロトコルの条件だけに一致します。
◎ICMP ：ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
※発信元/宛先ポート番号は無効となります。
◎GRE ：GREプロトコルの条件だけに一致します。
※発信元/宛先ポート番号は無効となります。

[発信元ポート番号]　対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
番号を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
※特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
※数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、FTP、NEWS、POP3、SMTP、Web、Whois)でも入力できます。

[宛先ポート番号]　対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
番号を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
※特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
※数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、FTP、NEWS、POP3、SMTP、Web、Whois)でも入力できます。

（☞次ページにつづく）

6.「QoS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「QoS設定」**

■QoSルール設定

QoSルール設定		
番号 ①		追加
動作 ②		優先する
TOS値書き換え ③		16進数で入力
ルール ④	プロトコル	すべて
	発信元ポート番号	～
	宛先ポート番号	～
	TOS値	～ 16進数で入力

※[QoS設定]項目の[QoSを使用]欄を「する」に設定しているとき有効な機能です。

④ルール(つづき)

[TOS値]　対象となるTOS値を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、16進数(半角英数字)「00」～「FF」です。
※特定のTOS値だけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。

■現在の登録

[QoSルール設定]項目から登録した内容を表示します。

現在の登録							
	番号	動作	TOS値書き換え	ルール			
				プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	TOS値
編集 削除	1	優先する		すべて			01-FF
編集 削除	2	優先する	02	UDP		5000-5060	01-FF

※[QoS設定]項目の[QoSを使用]欄を「する」に設定しているとき有効な機能です。

出荷時の状態では、番号「1」にTOS値が「0」でないパケット(「01」～「FF」)すべてを優先するように登録されています。

[例] VoIP関連のパケットを優先できるように登録します。
上図は、番号「2」に、[動作]欄を「優先する」、[プロトコル]欄を「UDP」、[宛先ポート番号]欄を「5000」～「5060」、TOS値を書き換えるために[TOS値書き換え]欄を「02」に設定している場合です。

「無線LAN設定」メニュー

第 5 章

この章では、
「無線LAN設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「セキュリティ設定」画面 ……148
■ 無線端末間通信設定 ……148
■ MACアドレスフィルタリング設定 ……149
2.「無線LAN設定」画面 ……150
■ BSSID ……150
■ 無線LAN設定……151
3.「暗号化設定」画面 ……164
■ 暗号化設定 ……164
■ WEPキー ……170
4.「WMM詳細設定」画面 ……171
■ To Station ……171
■ From Station ……174
■ From Station ……175
5.「仮想BSS設定」画面 ……176
■ VLAN設定 ……176
■ 仮想BSS設定……178
■ VLAN登録一覧 ……179
■ 仮想BSS登録一覧……179
6.「認証サーバ設定」画面 ……180
■ RADIUS設定……180
7.「AP間通信設定」画面 ……182
■ BSSID ……182
■ 通信AP設定 ……182
■ 登録済み端末リスト ……183

5

【設定画面について】
[IEEE802.11g]規格と[IEEE802.11a]規格が別々に構成されている画面については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

5 「無線LAN設定」メニュー

1.「セキュリティ設定」画面

「無線LAN設定」ー**「セキュリティ設定」**

無線LANについてのセキュリティ設定画面です。

登録 取消

〈登録〉…… 「セキュリティ設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

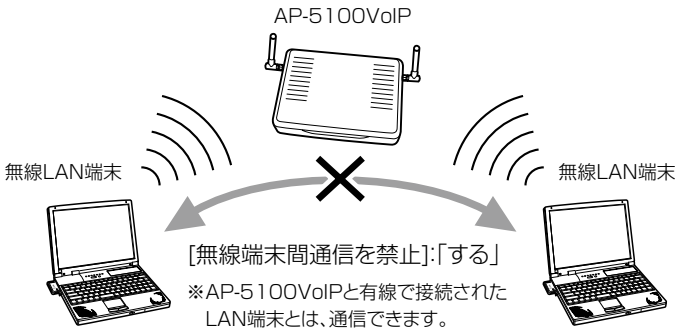
〈取消〉…… 「セキュリティ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■ 無線端末間通信設定

無線LAN端末どうしの通信を制限する設定です。

無線端末間通信設定	
無線端末間通信を禁止	◉しない ○する

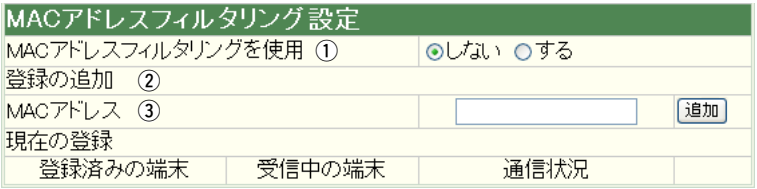
無線端末間通信を禁止…… 本製品を介して、ほかの無線LAN端末との通信を禁止することで、不正アクセスを防止する設定です。 (出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、下図のように無線LAN端末どうしが通信することを禁止できます。



1.「セキュリティ設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「セキュリティ設定」**

■MACアドレスフィルタリング設定

本製品と接続できる無線LAN端末を制限する設定です。



①MACアドレスフィルタリングを使用 ……

本製品に無線LAN端末のMACアドレスを登録して、本製品と接続できる無線LAN端末を制限する設定です。　(出荷時の設定：しない)

※「する」に設定すると、[現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスの無線LAN端末は、本製品とアクセスできません。

②登録の追加 ……

接続を許可する無線LAN端末のMACアドレスを入力して、〈追加〉をクリックします。

※登録されたMACアドレスは、[登録済みの端末]欄に表示され、MACアドレスフィルタリングが有効なとき、そのMACアドレスをもつ無線LAN端末とだけ通信できます。

※最大256台分のMACアドレスを登録できます。

※入力は、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。

※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。

(入力例：00-90-c7-47-00-32、0090c7470032)

③現在の登録 ……

無線LAN端末の登録と通信状況を表示します。

登録されていないMACアドレスを持つ無線LAN端末についても[受信中の端末]欄にMACアドレスを表示しますので、〈追加〉をクリックして、追加登録できます。

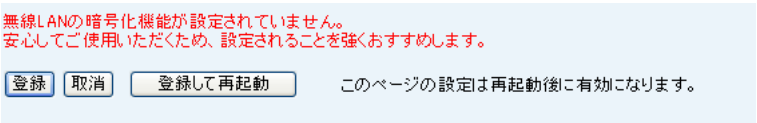
※登録を削除するときは、該当する欄の右端にある〈削除〉をクリックします。

2.「無線LAN設定」画面

「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

無線LANについての基本設定画面です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されています。



〈登録〉…… 「無線LAN設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉…… 「無線LAN設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉…… 本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■BSSID

本製品に内蔵された無線LANカードの[BSSID]を表示します。

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

本製品の[BSSID]をAP間通信する相手側の機器に登録します。
※「AP間通信設定」画面の[BSSID]と同じです。(☞5-7章)
※「情報表示」メニュー→「ネットワーク情報」画面の[本体MACアドレス]とは異なります。(☞8-3章)
※「ユニットを使用していません」のときは、無線アクセスポイント機能を停止しています。
[無線LAN設定]項目の[IEEE802.11gを使用](①)欄で「する」に設定すると、[BSSID]を表示して、無線アクセスポイント機能が使用できるようになります。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

本製品に内蔵された無線LANカードに対する設定です。

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①IEEE802.11gを使用　本製品の無線アクセスポイント機能を設定します。

(出荷時の設定：する)

「しない」に設定すると、無線アクセスポイント機能を停止して[BSSID]項目に「ユニットを使用していません」と表示します。

※[IEEE802.11g]規格の「無線LAN設定」画面で、「しない」を設定すると、[IEEE802.11b]規格の通信もできなくなります。

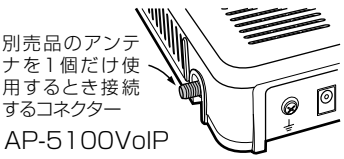
※[IEEE802.11a]規格の無線アクセスポイント機能を停止させるときは、[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面で設定します。

②アンテナ制御 ……　本製品のアンテナ制御を設定します。

(出荷時の設定：☑ ANT1 ☑ ANT2)

「☑ ANT1 ☐ ANT2」に設定すると、弊社別売品のアンテナ(AH-104、AH-156、AH-157)を本製品のアンテナコネクター(ANT1側)に接続できます。

ANT1側のアンテナコネクターは、本製品を後面パネルから見たとき、左側にあります。



ANT2側には、本製品に付属のアンテナを接続してください。

※[IEEE802.11a]規格の無線アクセスポイント機能を使用するときは、[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面で設定します。

※[アンテナ制御]は、間違った設定をすると十分な性能が得られません。取り扱いについては、十分にご注意ください。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

③SSID ……

無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字31文字以内で入力します。　(出荷時の設定：LG)
無線ルータや無線アクセスポイントが無線伝送可能領域内に複数存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID(無線ネットワーク名)]で識別できます。
異なる[SSID]を設定している無線LAN端末とは通信できません。
※[仮想BSS登録一覧]項目(☞5-5章)に表示された[SSID]は、設定できません。
※[SSID]と[ESSID]は、同じ意味で使用しています。
本製品以外の無線LAN機器では、[ESSID]と表記されている場合があります。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

④ANY接続拒否 ……

「ANY」モード(アクセスポイント自動検索接続機能)で通信する無線LAN端末(弊社製無線LANカード：SL-11やSL-110を除く)からの検索や接続の制限を設定します。　(出荷時の設定：しない)
出荷時の設定では、弊社製無線LANカードを装着する端末との接続が簡単になるように、無線LAN端末からの検索や接続を許可しています。
「する」に設定すると、「ANY」モードで通信する無線LAN端末が使用するWindows XPやWindows Vista標準の「ワイヤレスネットワーク接続」、または「無線ネット表示に対応する弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティー」に検索されません。
※ご使用の端末にSL-5000、SL-5000XG、SL-5100、SL-5200、SL-5200W、SL-5300Wをインストールしたときは、出荷時から「ANY」モードで動作しています。　(2010年9月現在)

【Windows VistaでANY接続拒否の無線アクセスポイントに接続するときは】
ANY接続拒否が設定されている無線アクセスポイントには、Windows Vista搭載の無線LAN端末側で「SSID」を指定しても接続できません。
接続するためには、タスクトレイの[ワイヤレスネットワーク]アイコンをクリックし、[ネットワークと共有センター]→[ワイヤレスネットワークの管理]をクリックして、プロパティを開き、[ネットワークがブロードキャストしていない場合でも接続する]にチェックを入れてください。

5 「無線LAN設定」メニュー

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑤WMMを使用……

Wi-Fiアライアンスが規定するWMM(Wi-Fi Multimedia)機能に対応したQoS(Quality of Service)機能です。　(出荷時の設定：しない)
音声、ビデオ、ベストエフォートおよびバックグラウンドの4種類の順位に応じた優先制御により、マルチメディアネットワークの性能が向上します。
※2010年9月現在、本製品はWi-Fiアライアンスより WMM認定されていません。
※WMM機能とSuper AG機能(⑯)は、併用できません。
※無線LAN端末が、WMM機能に対応していない場合は、[WMMを使用]を「しない」に設定したときと同じ状態になります。

⑥XRを使用 ……

米国Atheros Communications社が開発した、無線伝送可能領域を拡大する技術です。　(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、信号が密閉性の高い壁を通過することで弱まってしまった場合などにXR機能が有効になります。
※無線LAN端末が、XR機能に対応していない場合は、[XRを使用]を「しない」に設定したときと同じ状態になります。
※XR機能とSuper AG機能(⑯)は、併用できません。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑦VLAN ID ……

[無線LAN設定]項目で設定した[SSID]の無線グループにID番号を設定します。　(出荷時の設定：0)

設定できる範囲は、「0～4095」です。

設定した同じID番号で稼働する有線ネットワークとのあいだでVLANを構成できます。

※ID番号を付けないときは、「0」を設定します。

※「仮想BSS設定」画面の[VLAN設定]項目(→5-4章)で[VLAN ID]欄を設定している場合は、重複しないように設定してください。

※本製品の設定画面にアクセスするときは、「LAN側IP設定」画面の[VLAN設定]項目(→4-1章)に設定された[マネージメントID]と同じID番号のネットワークに接続された端末からできます。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

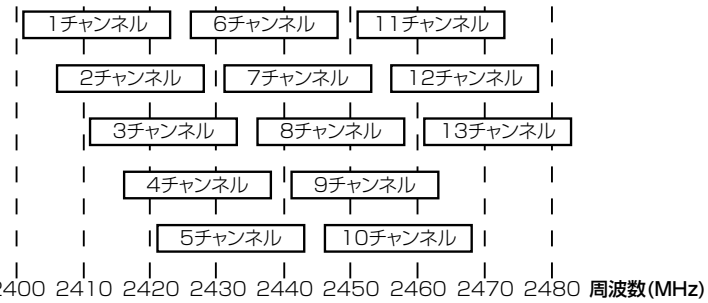
⑧チャンネル ……

※[IEEE802.11a]規格の「チャンネル」については、次ページをご覧ください。

本製品が無線通信に使用するチャンネルを設定します。
無線LAN端末は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。
[IEEE802.11g]規格の「無線LAN設定」画面では、2.4GHz帯[IEEE802.11b/g]規格の「1～13」チャンネルを設定できます。
(出荷時の設定：11(2462MHz))

[IEEE802.11b/g]規格について

近くに[IEEE802.11b/g]規格の無線アクセスポイント機能で通信する別の無線ネットワークグループが存在するときは、電波干渉を避けるため、本製品の「チャンネル」は別の無線ネットワークグループと4チャンネル以上空けて設定してください。
それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信することがあります。
例えば、お互いの設定を、1-6-11チャンネルにすると混信しません。



2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑧チャンネル（つづき）…

※[IEEE802.11g]規格の「チャンネル」については、前ページをご覧ください。

[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面では、5.2GHz帯[IEEE802.11a(W52)]規格の「36～48」チャンネル、または5.3GHz帯[IEEE802.11a(W53)]規格の「52～64」チャンネルを設定できます。　(出荷時の設定：36(5180MHz))

※5.2GHz/5.3GHz帯[IEEE802.11a(W52/W53)]規格で通信する場合は、お互いを異なるチャンネルに設定すれば、チャンネル間の電波干渉に配慮する必要はありません。

[IEEE802.11a(W52)]規格について

近くに[IEEE802.11a(J52)]規格で無線LAN端末が稼働しているとき、本製品の[IEEE802.11a(W52)]規格の「36～48」チャンネルをご使用になると、下図に示すように電波干渉の原因になることがありますのでご注意ください。

※[IEEE802.11a(W52)]は、[IEEE802.11a(J52)]と中心周波数が10MHz異なります。

5 「無線LAN設定」メニュー

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑧チャンネル（つづき） …

※[IEEE802.11g]規格の「チャンネル」については、前ページをご覧ください。

[IEEE802.11a(W53)]規格について

[IEEE802.11a(W53)]規格の「52～64」チャンネルを選択すると、DFS(Dynamic Frequency Selection)機能が有効になります。
気象レーダーなど干渉する電波を検出すると、自動的に電波干渉しない「36～64」チャンネルに変更されます。
検出してチャンネルが変更されるまで(約1分間)は、本製品へのアクセスを停止します。
使用しているチャンネルを図のように表示します。

チャンネル	52 (5260MHz DFS) 使用中チャンネル:52 (5260MHz) W53チャンネル(52～64チャンネル)を使用する場合DFS機能により再起動する場合があります。VoIP機能と併用する場合は通話が切断されますのでご注意ください。

※気象レーダーなど干渉する電波を検出すると、そのチャンネルは30分間使用できません。
また、自動的に「36～48」チャンネルに変更された場合はDFS機能を停止します。

【DFS機能が有効なときは】

◎AP間通信機能(5-7章)は使用できません。
◎本製品を使用中、気象レーダーなど干渉する電波を検出すると、チャンネルが変更されますので、本製品を再起動します。
◎VoIP機能と併用する場合、通話が切断されることがありますのでご注意ください。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

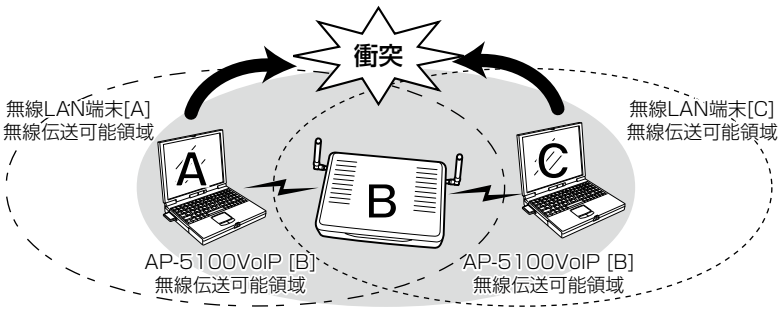
■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑨Rts/Ctsスレッシュホールド ……

RTS/CTSスレッシュホールドとは、RTS/CTS信号を送信するしきい値のことです。　(出荷時の設定：なし)
データサイズがしきい値を超えると、互いの通信状態を打診・交渉(ネゴシエーション)するためにRTS/CTS信号を送信して「隠れ端末」の影響による通信速度の低下を防止します。
しきい値は、通信環境やデータの転送量などにあわせて「500バイト」または「1000バイト」から選択します。
※「なし」を設定したときは、RTS/CTS信号を送信しません。
通信の衝突を防止するには、無線端末[A]から送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送可能領域内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末[C]に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。
これにより、Rts信号を送信していない無線端末[C]は、本製品[B]から受信完了通知(ACK)を受信するまで本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



5 「無線LAN設定」メニュー

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑩11g保護機能 ……

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面には設定がありません。

異なる無線LAN規格(IEEE802.11b/g)が混在する環境で発生する通信速度低下を緩和する機能です。　(出荷時の設定：有効)

◎「無効」　：[IEEE802.11b/g]規格のどちらかに統一された無線LAN環境で使用するときに設定します。

◎「有効」　：[IEEE802.11b/g]規格の無線LAN機器が混在する環境で、[IEEE802.11g]規格の無線LAN機器の通信速度が極端に低下するときに設定します。

◎「g専用」　：[IEEE802.11g]規格の無線LAN機器だけ接続を許可します。
[IEEE802.11b]規格だけに対応した無線LAN機器は接続できなくなります。

⑪11gベーシックレート

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面には設定がありません。

[IEEE802.11g]規格でのベーシックレートを設定します。
(出荷時の設定：802.11b)

※[IEEE802.11g]規格でのみ有効です。
※出荷時の設定でご使用になることをおすすめします。
各無線LAN規格が対応できる速度は、下記のようになります。

◎「802.11 」　：「1/2」Mbps
◎「802.11b」　：「1/2/5.5/11」Mbps
◎「802.11g」　：「1/2/5.5/11/6/12/24」Mbps
◎「OFDM」　：「6/12/24」Mbps

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑫パワーレベル ……

本製品に内蔵された無線LANカードの送信出力を設定します。
高/中/低(3段階)の中から選択できます。　(出荷時の設定：高)
本製品の最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。
パワーレベルを低くすると、それに比例して伝送距離も短くなります。
【パワーレベルを低くする目的について】
◎本製品から送信される電波が部屋の外に漏れるのを軽減したいとき
◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき
◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線クライアントや無線アクセスポイントとの電波干渉をなくして、通信速度の低下などを軽減したいとき

⑬接続端末制限 ……

本製品に同時接続可能な無線LAN端末の台数を設定します。
設定できる範囲は、「1～63」です。　(出荷時の設定：63)
接続制限を設定すると、本製品1台だけに接続が集中するのを防止(本製品の負荷を分散)できますので、接続集中による通信速度低下を防止できます。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑭ビーコン間隔 ……

本製品から一定間隔で送信されるパケット(ビーコン)の送信間隔(ミリ秒)を設定します。　(出荷時の設定：100)
設定できる範囲は、「20～1000(ミリ秒)」です。
ビーコンとは、無線ネットワークを同期させるための信号です。
※出荷時の設定でご使用になることをおすすめします。
※[DTIM間隔](⑮)を掛けた値が、「5000」を超えないように設定してください。

⑮DTIM間隔……

DTIM(Delivery Traffic Indication Message)を送信されたビーコンに挿入する間隔を設定します。　(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「1～250」です。
DTIMとは、パケットの送信待ちを伝えるメッセージのことです。
※[ビーコン間隔] (⑭)を掛けた値が、「5000」を超えないように設定してください。

2.「無線LAN設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「無線LAN設定」**

■無線LAN設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
アンテナ制御	②	☑ANT1 ☑ANT2
SSID	③	LG
ANY接続拒否	④	◉しない ○する
WMMを使用	⑤	◉しない ○する
XRを使用	⑥	◉しない ○する
VLAN ID	⑦	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑧	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑨	なし
11g保護機能	⑩	有効
11gベーシックレート	⑪	802.11b
パワーレベル	⑫	高
接続端末制限	⑬	63
ビーコン間隔	⑭	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑮	1
Super AGを使用	⑯	◉しない ○する

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑯Super AGを使用 ……　米国Atheros Communications社が開発した、独自の無線LAN高速化技術です。　(出荷時の設定：しない)

「する」に設定すると、通信速度が向上します。

※無線LAN端末が、「Super AG」に対応していない場合は、[Super AGを使用]を「しない」に設定したときと同じ状態になります。

※通信する相手側の「Super AG」機能に、「する(圧縮あり)」/「する(圧縮なし)」の設定があるときは、「する(圧縮なし)」に設定すると通信できます。

※Super AG機能とWMM機能は、併用できません。

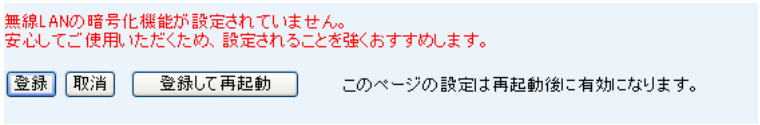
※Super AG機能とXR機能は、併用できません。

3.「暗号化設定」画面

「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

本製品の無線通信についての暗号化設定画面です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されています。



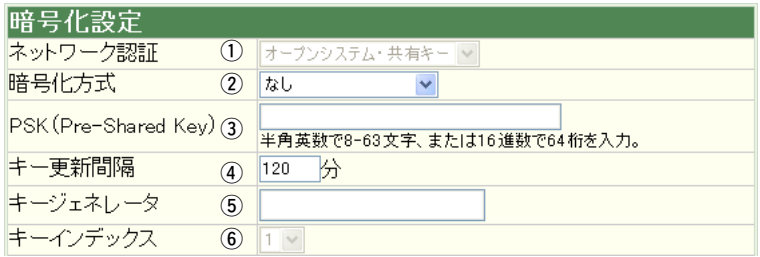
〈登録〉…… 「暗号化設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉…… 「暗号化設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉…… 本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■暗号化設定

無線LANの通信データを保護するために暗号化を設定します。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①ネットワーク認証 ……

※ご使用の無線LAN機器によっては、「認証モード」と記載されています。

[暗号化方式](②)欄で「なし」以外を選択したとき、その暗号化を使用する無線LAN端末からのアクセスに対する認証方式を設定できます。

(出荷時の設定：オープンシステム･共有キー)

※異なる認証モードを設定している通信相手とは通信できません。

◎オープンシステム･共有キー：
無線LAN端末からのアクセスに対して、「オープンシステム」と「共有キー」を自動認識しますので、通信相手間で暗号鍵(キー)が同じであれば通信できます。

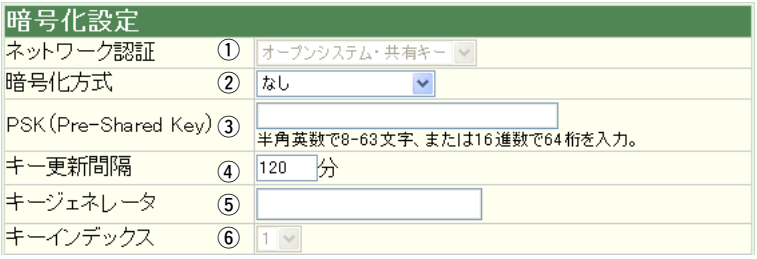
◎オープンシステム：
無線LAN端末からのアクセスに対して認証をしません。

※[暗号化方式](②)欄で「OCB AES 128(128)」を選択したときは、「オープンシステム」しか設定できません。

(次ページにつづく)

3.「暗号化設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

■暗号化設定



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①ネットワーク認証(つづき)

※ご使用の無線LAN機器によっては、「認証モード」と記載されています。

◎共有キー：
無線LAN端末からのアクセスに対して、通信相手と同じ暗号鍵(キー)かどうかを認証します。

◎IEEE802.1X：
「WEP RC4」暗号化方式を使用して、RADIUSサーバによるIEEE802.1X認証するときの設定です。

◎WPA(Wi-Fi Protected Access)：
「TKIP/AES」暗号化方式を使用して、RADIUSサーバ認証するときの設定です。

◎WPA2：
ネットワーク認証方式にWPA2を使用します。
※「WPA2」認証を使用するには、対応したクライアントが必要です。

◎WPA･WPA2：
「WPA」認証と「WPA2」認証を自動認識します。

◎WPA-PSK(Pre-Shared Key)：
共有鍵(キー)で認証します。
RADIUSサーバを利用しない簡易的な「TKIP/AES」暗号化の認証方式で、通信相手と共通の鍵を持っているかどうかの認証をします。

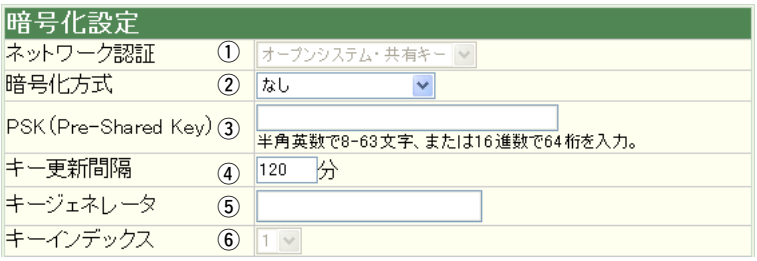
◎WPA2-PSK：
ネットワーク認証方式にWPA2-PSKを使用します。
※「WPA2-PSK」認証を使用するには、対応したクライアントが必要です。

◎WPA-PSK･WPA2-PSK：
「WPA-PSK」認証と「WPA2-PSK」認証を自動認識します。

【RADIUSサーバを使用するときは】
RADIUSサーバを認証に使用する「IEEE802.1X」、「WPA」または「WPA2」を設定するときは、[RADIUS設定]項目(→5-6章)と併せて設定してください

3.「暗号化設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

■暗号化設定



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

②暗号化方式 ……

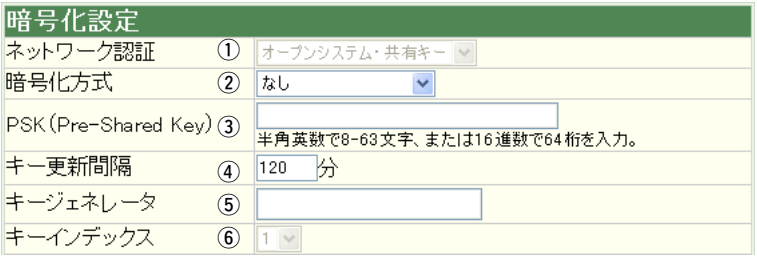
無線伝送データを暗号化する方式を選択します。(出荷時の設定：なし)
対応する暗号化方式は、「WEP RC4」、「OCB AES」、「TKIP」、「AES」です。
異なる暗号化方式の相手とは互換性がありませんので、暗号化方式とビット数は、通信をする相手間で同じ設定にしてください。
※「WEP RC4 152(128)/OCB AES]方式での接続は、弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティーをご使用ください。
◎WEP RC4：
無線通信で一般によく使用されるセキュリティーです。
暗号化方式は、WEP RC4(Rivest’s Cipher 4)アルゴリズムをベースに構成されています。
暗号化するデータのブロック長が8ビットで、暗号鍵(キー)の長さを選択できます。
※暗号鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)/152(128)ビットの中から選択できます。
※「WEP RC4 152(128)」方式は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続やWindows Vista標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して本製品に接続できません。
◎OCB AES：
「WEP RC4」より強力な次世代の暗号化方式です。
※Windows XPやWindows Vista標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して本製品に接続できません。

(次ページにつづく)

【不正アクセス防止のアドバイス】
本製品に設定する暗号鍵(WEPキー/Pre-Shared Key)は、容易に推測されないものにしてください。
数字とアルファベット(大文字/小文字)を組み合わせて複雑なものにし、さらに定期的に暗号鍵を変更すると有効です。

3.「暗号化設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

■暗号化設定



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

②暗号化方式(つづき)……

◎TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)：
Windows XP(修正プログラムをService Pack1に適用)、またはWindows XP(Service Pack2)、Windows Vistaの端末で使用できます。
※暗号鍵(キー)を一定時間間隔で自動更新しますので、「WEP」より強力です。
※無線LANカードを端末にご使用の場合、「TKIP」に対応する弊社製無線LANカードは、SL-5200、SL-5200W、SL-5300Wです。
(2010年9月現在)

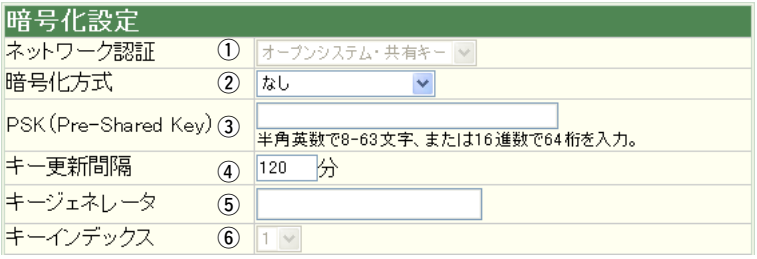
◎AES(Advanced Encryption Standard)：
Windows XP(修正プログラムをService Pack1に適用)、またはWindows XP(Service Pack2)、Windows Vistaの端末で使用できます。
※暗号化の強化および暗号鍵(キー)を一定時間間隔で自動更新することで、「TKIP」より強力な暗号化方式です。
※無線LANカードを端末にご使用の場合、「AES」に対応する弊社製無線LANカードは、SL-5200、SL-5200W、SL-5300Wです。
(2010年9月現在)

【ネットワーク認証と暗号化方式の対応について】

	オープンシステム	共有キー	オープンシステム・共有キー	WPA	WPA-PSK	IEEE802.1X
WEP RC4	○	○	○	×	×	○
OCB AES	○	×	×	×	×	×
TKIP	×	×	×	○	○	×
AES	×	×	×	○	○	×

3.「暗号化設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

■暗号化設定



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

③PSK (Pre-Shared Key) …

共有鍵(キー)を半角英数字で入力します。
[ネットワーク認証](①)欄で、「WPA-PSK」、「WPA2-PSK」、「WPAPSK・WPA2-PSK」のいずれかを選択して、[暗号化方式]欄(②)で、「TKIP」または「AES」方式を選択したときに設定できます。
※同じ暗号化方式を使用する相手と同じ共有鍵(キー)を設定してください。
※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。
※ASCII文字で設定するときは、大文字/小文字の区別に注意して、8～63文字を入力してください。

④キー更新間隔 ……

※ご使用の無線LAN機器によっては、「Re-Key間隔」と記載されています。

[暗号化方式](②)欄で、「TKIP」または「AES」方式の暗号化を選択する場合、暗号鍵(キー)の更新間隔を分で設定します。
設定できる範囲は、「0～1440(分)」です。　(出荷時の設定：120)
※「0」を設定すると、更新しません。

⑤キージェネレータ ……

[暗号化方式](②)欄で、「WEP RC4」または「OCB AES」方式の暗号化を選択したとき、暗号化および復号に使う暗号鍵(キー)を生成するための文字列を設定します。
次のように文字列を設定すると、暗号鍵(キー)が生成されます。

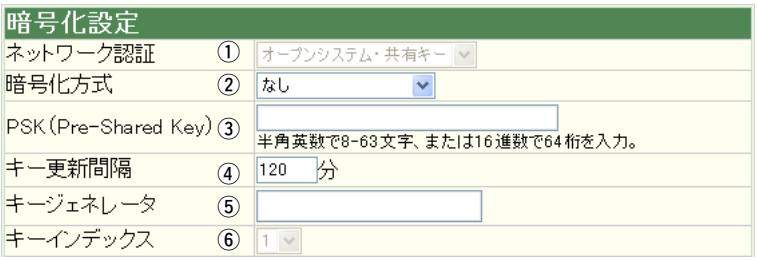
1. [暗号化方式](②)を選択します。
2. 大文字/小文字の区別に注意して、通信する相手間で同じ文字列を31文字以内(任意の半角英数字/記号)で入力します。
3. 〈登録〉をクリックします。
   入力した文字列より生成された暗号鍵(キー)を[WEPキー]項目のテキストボックスに表示します。

※[WEPキー]項目の各キー番号のテキストボックスに生成される桁数および文字数は、選択する[暗号化方式]によって異なります。
(取扱説明書[導入編]を参照)
※[WEPキー]項目の[入力モード]が、「ASCII文字」に設定されている場合は、[キージェネレータ]を使用できません。

(次ページにつづく)

3.「暗号化設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

■暗号化設定



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

⑤キージェネレータ
(つづき)……

通信相手間で文字列が異なる場合、暗号化されたデータを復号できません。
※[WEPキー]項目から直接設定するときは、[キージェネレータ]欄には何も表示されません。

⑥キーインデックス ……

※ご使用の無線LAN機器によっては、「キーID」と記載されています。

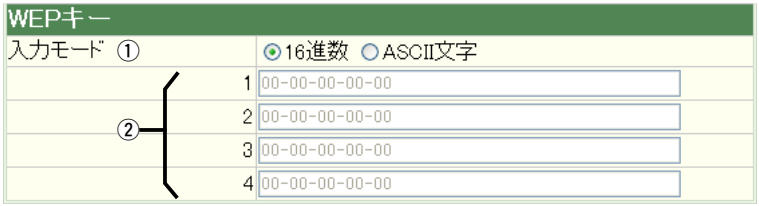
[暗号化方式](②)欄で、「WEP RC4」または「OCB AES」方式の暗号化を選択したとき、[WEPキー]項目のテキストボックスに設定された暗号鍵(キー)のうち、送信データの暗号化に使用する鍵(キー)を「1」～「4」の番号で指定します。　(出荷時の設定：1)
「1」～「4」に設定された暗号鍵(キー)の内容が通信相手と同じであれば、通信する相手間で異なる番号を指定しても通信できます。
※本製品に無線LANで接続する端末のキーインデックスを設定するとき、Windows XP(Service Pack適用時を除く)標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する場合は、本製品とは異なり選択範囲が「0」～「3」ですのでご注意ください。
本製品で「1」を選択した場合は、Windows XPの[キーインデックス(詳細)(X)]で「0」を設定することと同じ意味になります。

【対応端末を内線電話としてご利用のときは】
「WEP RC4」方式で暗号化する場合、キーインデックス「1」以外にすると、本製品に対応端末が接続できなくなることがありますのでご注意ください。

3.「暗号化設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「暗号化設定」**

■WEPキー

「WEP RC4」、または「OCB AES」方式の暗号化で使用する暗号鍵(キー)の設定です。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①入力モード ……

暗号鍵(キー)の入力モードを選択します。　(出荷時の設定：16進数)

※入力モードを変更したときは、「暗号化設定」画面の〈登録〉をクリックしてから、暗号鍵(キー)を入力してください。

※ASCII文字が設定されているときは、[暗号化設定]項目の[キージェネレータ]を使用できません。

②鍵(キー)入力用ボックス ……

[キージェネレータ]を使用しない場合は、暗号化および復号化に使用する鍵(キー)を[入力モード](①)欄で設定された方法で直接入力します。
(出荷時の設定：00-00-00-00-00)

※16進数で設定するときは、「0～9」および「a～f(またはA～F)」の半角文字を入力してください。

※ASCII文字で設定するときは、大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字を入力してください

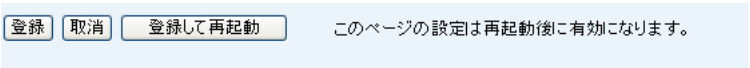
※暗号鍵(キー)は、通信する相手間で、すべての[キーインデックス(1～4)]値に対して同じ設定にすることをおすすめします。
異なる設定の場合、通信相手間で[キーインデックス]値の設定が異なると、通信できません。

4.「WMM詳細設定」画面

「無線LAN設定」ー**「WMM詳細設定」**

WMMのEDCAパラメータを設定します。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されています。



〈登録〉……　「WMM詳細設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。
※[From Station]項目の[ACM]欄を変更した場合は画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉……　「WMM詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉……　本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■To Station

本製品のWMM機能を使用した無線LAN通信で、本製品から各無線LAN端末へのデータに対する優先度を設定するEDCA(Enhanced Distributed Channel Access)パラメータの設定です。

To Station

①AC Name	②CWin min	②CWin max	③AIFSN (1-15)	④TXOP (0-255)	⑤No Ack
AC_BK	15	1023	7	0	☐
AC_BE	15	63	3	0	☐
AC_VI	7	15	1	94	☐
AC_VO	3	7	1	47	☐

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①AC Name……　WMM(Wi-Fi Multimedia)で規定されるAC(Access Categoly)の名称で、各アクセスカテゴリー(AC_BK、AC_BE、AC_VI、AC_VO)ごとに、EDCAパラメータ(②～⑤)を設定できます。
EDCAパラメータ(②～⑤)の各値は、Wi-Fiで定められたアクセスカテゴリーの優先順位[AC_BK(低い)、AC_BE(通常)、AC_VI(優先)、AC_VO(最優先)]となるよう設定されています。

〈ご注意〉
EDCAパラメータ(②～⑤)の各値は、一般的な使用で変更する必要はありません。
なお、変更が必要な場合でも、原則としてWi-Fiで定められたアクセスカテゴリーの優先順位を保つように設定してください。
優先順位を変更した場合、ACM(P45)などの制御が正しく動作しない場合があります。

4.「WMM詳細設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「WMM詳細設定」**

■To Station

To Station

①AC Name	②CWin min	②CWin max	③AIFSN (1-15)	④TXOP (0-255)	⑤No Ack
AC_BK	15	1023	7	0	☐
AC_BE	15	63	3	0	☐
AC_VI	7	15	1	94	☐
AC_VO	3	7	1	47	☐

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

②CWin min/CWin max　コンテンション･ウィンドウの最小値(min)と最大値(max)を設定します。
チャンネルビジー検出によるデータの再送信において、負荷に応じてデータフレームの送信頻度を制御することで、IEEE802.11規格でのフレーム衝突を回避します。
設定値が小さいほど優先順位が上がり、設定値が大きいほど優先順位が下がります。

[出荷時の設定 ：CWin min → AC_BK(15)
AC_BE(15)
AC_VI(7)
AC_VO(3)
：CWin max→ AC_BK(1023)
AC_BE(63)
AC_VI(15)
AC_VO(7)]

③AIFSN(1-15)……　Arbitraion Inter Frame Space(フレーム送信間隔)を設定します。
設定値が小さいほど、バックオフ制御を開始する時間が早くなるため優先度が高くなります。
設定できる範囲は、「1 ～ 15」です。

[出荷時の設定： AC_BK(7)
AC_BE(3)
AC_VI(1)
AC_VO(1)]

4.「WMM詳細設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「WMM詳細設定」**

■To Station

To Station

①AC Name	②CWin min	②CWin max	③AIFSN (1-15)	④TXOP (0-255)	⑤No Ack
AC_BK	15	1023	7	0	☐
AC_BE	15	63	3	0	☐
AC_VI	7	15	1	94	☐
AC_VO	3	7	1	47	☐

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

④TXOP(0-255) ……　チャンネルアクセス権を獲得したあと、排他的にチャンネルの使用を認める期間(Transmission Opportunity)を設定します。
「0」が設定されている場合は、アクセス権獲得後に送信できるフレームは1つになります。
[出荷時の設定： AC_BK(0)
AC_BE(0)
AC_VI(94)
AC_VO(47)]

⑤No Ack……　ACK(受信完了通知)による再送信制御についての設定です。
再送信制御をしないときは、チェックボックスにチェックマーク[✔]を入れます。(出荷時の設定：☐)

4.「WMM詳細設定」画面　「無線LAN設定」ー**「WMM詳細設定」**

■From Station

本製品のWMM機能を使用した無線LAN通信で、各無線LAN端末から本製品へのデータに対する優先度を設定するEDCA(Enhanced Distributed Channel Access)パラメータの設定です。

From Station

①AC Name	②CWin min	②CWin max	③AIFSN (2-15)	④TXOP (0-255)	⑤ACM
AC_BK	15	1023	7	0	
AC_BE	15	1023	3	0	
AC_VI	7	15	2	94	☐
AC_VO	3	7	2	47	☐

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①AC Name ……

WMM(Wi-Fi Multimedia)で規定されるAC(Access Categoly)の名称で、各アクセスカテゴリー(AC_BK、AC_BE、AC_VI、AC_VO)ごとに、EDCAパラメータ(②～⑤)を設定できます。
EDCAパラメータ(②～⑤)の各値は、Wi-Fiで定められたアクセスカテゴリーの優先順位[AC_BK(低い)、AC_BE(通常)、AC_VI(優先)、AC_VO(最優先)]となるよう設定されています。

〈ご注意〉
EDCAパラメータ(②～⑤)の各値は、一般的な使用で変更する必要はありません。
なお、変更が必要な場合でも、原則としてWi-Fiで定められたアクセスカテゴリーの優先順位を保つように設定してください。
優先順位を変更した場合、ACM(P45)などの制御が正しく動作しない場合があります。

②CWin min/CWin max

コンテンション･ウィンドウの最小値(min)と最大値(max)を設定します。
チャンネルビジー検出によるデータの再送信において、負荷に応じてデータフレームの送信頻度を制御することで、IEEE802.11規格でのフレーム衝突を回避します。
設定値が小さいほど優先順位が上がり、設定値が大きいほど優先順位が下がります。

[出荷時の設定 ：CWin min → AC_BK(15)
AC_BE(15)
AC_VI(7)
AC_VO(3)
：CWin max→ AC_BK(1023)
AC_BE(1023)
AC_VI(15)
AC_VO(7)]

4.「WMM詳細設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「WMM詳細設定」**

■From Station

From Station

①AC Name	②CWin min	②CWin max	③AIFSN (2-15)	④TXOP (0-255)	⑤ACM
AC_BK	15	1023	7	0	
AC_BE	15	1023	3	0	
AC_VI	7	15	2	94	☐
AC_VO	3	7	2	47	☐

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

③AIFSN(1-15) ……

Arbitraion Inter Frame Space(フレーム送信間隔)を設定します。
設定値が小さいほど、バックオフ制御を開始する時間が早くなるため優先度が高くなります。
設定できる範囲は、「1 ～ 15」です。

[出荷時の設定： AC_BK(7)
AC_BE(3)
AC_VI(2)
AC_VO(2)]

④TXOP(0-255) ……

チャンネルアクセス権を獲得したあと、排他的にチャンネルの使用を認める期間(Transmission Opportunity)を設定します。
「0」が設定されている場合は、アクセス権獲得後に送信できるフレームは1つになります。

[出荷時の設定： AC_BK(0)
AC_BE(0)
AC_VI(94)
AC_VO(47)]

⑤ACM ……

ACM(Admission Control Mandatary)を設定します。
ACMが設定されたカテゴリーで無線LAN端末が通信する場合、通信を開始する前に、本製品に対してあらかじめ連絡が必要になります。

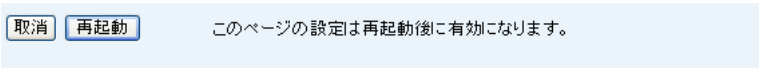
[出荷時の設定： AC_VI ☐
AC_VO ☐]

5.「仮想BSS設定」画面

「無線LAN設定」ー**「仮想BSS設定」**

本製品の仮想BSS機能についての設定画面です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されています。

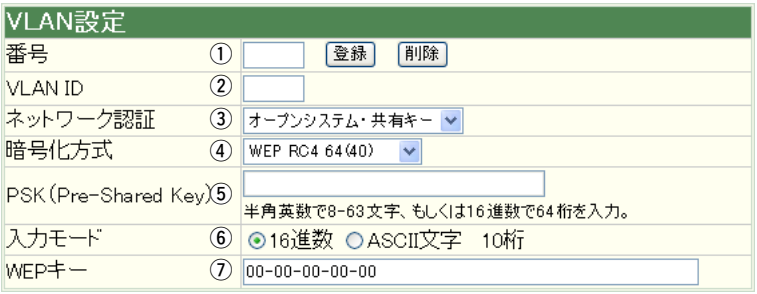


〈取消〉…… 「仮想BSS設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、「仮想BSS設定」画面の設定内容を変更したとき、その設定項目のボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈再起動〉…… 本製品を再起動して、「仮想BSS設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

■VLAN設定

仮想BSS無線VLANグループに割り当てる[VLAN ID]について、暗号化および認証方式を設定するとき使用します。

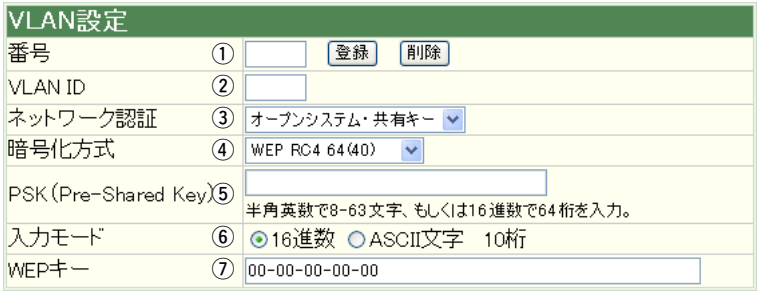


※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①番号 …… [VLAN設定]項目で登録した内容を[VLAN登録一覧]項目に表示する順番を入力します。
番号の小さい順に、[VLAN登録一覧]項目に表示します。
設定できる番号は、「1～16」です。
〈登録〉
[VLAN設定]項目で設定した内容を登録するときクリックします。
※[VLAN登録一覧]項目で登録内容をご確認ください。
〈削除〉
[VLAN登録一覧]項目の内容を削除するときクリックします。
※[VLAN登録一覧]項目の〈編集〉をクリックすると、削除する内容を選択できます。
※[仮想BSS登録一覧]項目に表示されているID番号に対する登録内容を削除するときは、先に、[仮想BSS登録一覧]項目からそのID番号に対するSSIDの登録を削除してください。

5.「仮想BSS設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「仮想BSS設定」**

■VLAN設定



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

②VLAN ID ……

[仮想BSS設定]項目で設定する[SSID](q)に所属する無線グループに、ID番号を設定します。
設定できる範囲は、「1～4095」です。
同じID番号のネットワークだけが、仮想BSSで通信できます。
※[無線LAN設定]項目で、[VLAN ID]欄を設定している場合は、重複しないように設定してください。
※異なるID番号のネットワークとは通信できません。

③ネットワーク認証 ……

仮想BSS無線VLANグループに対する設定です。
説明については、本書156ページをご参照ください。
(出荷時の設定：オープンシステム･共有キー)

④暗号化方式 ……

仮想BSS無線VLANグループに対する設定です。
説明については、本書158ページをご参照ください。
(出荷時の設定：WEP RC4 64(40))

⑤PSK(Pre-Shared Key)

仮想BSS無線VLANグループに対する設定です。
説明については、本書160ページをご参照ください。

⑥入力モード ……

[WEPキー](⑦)欄に入力する暗号鍵(キー)の入力方法を選択します。
(出荷時の設定：16進数)

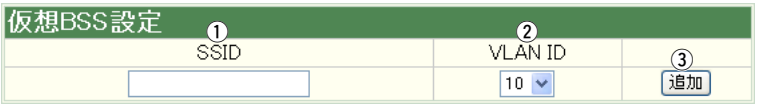
⑦WEPキー ……

[暗号化方式](④)欄で、「WEP RC4」、「OCB AES」方式を選択したとき、仮想BSS無線VLANグループの暗号化および復号化に使用する鍵(キー)を[入力モード](⑥)欄で選択した方法で直接入力します。
(出荷時の設定：00-00-00-00-00)
※無線LAN端末側の[キーインデックス](キーID)は、「1」を設定してください。

5.「仮想BSS設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「仮想BSS設定」**

■仮想BSS設定

登録した[VLAN ID]を使用する仮想BSS無線VLANグループに[SSID]を設定します。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①SSID ……　仮想BSSで使用する無線VLANグループのグループ分けをするために使用します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
※最大16の仮想BSS無線VLANグループを登録できます。
※この[SSID]が異なると本製品と仮想BSSの無線VLANグループが通信できません。
※「無線LAN設定」画面で設定されている[SSID](P144)と同じものは、登録できません。
※「無線LAN設定」画面で設定されている[SSID](P144)も、既存の無線グループとして、仮想BSS無線VLANグループと併用できます。

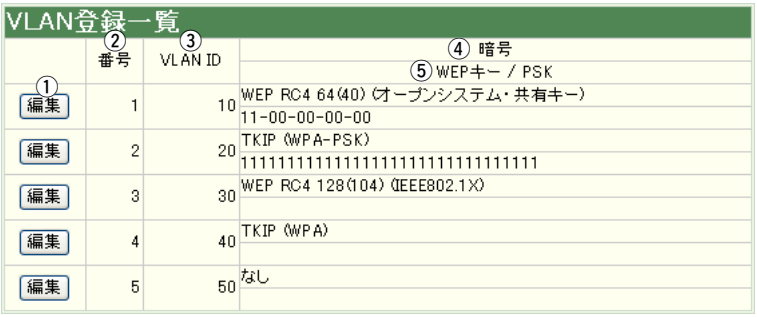
②VLAN ID ……　[SSID](①)に割り当てるID番号を選択します。
※[VLAN登録一覧]項目に登録された[VLAN ID]から選択します。

③〈追加〉 ……　[仮想BSS設定]項目(①～②)で設定した内容を登録します。
※[仮想BSS登録一覧]項目で登録内容をご確認ください。

5.「仮想BSS設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「仮想BSS設定」**

■VLAN登録一覧

[VLAN設定]項目(P168)で登録した内容を表示します。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①**〈編集〉** …… 設定内容を編集するときクリックします。
※クリックした欄の設定内容(②～⑤)は、[VLAN設定]項目で変更できます。

②**番号** …… [VLAN設定]項目の[番号]欄で設定した内容を表示します。

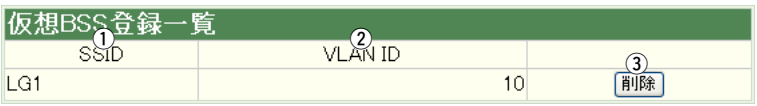
③**VLAN ID** …… [VLAN設定]項目の[VLAN ID]欄で設定した内容を表示します。

④**暗号** …… [VLAN設定]項目の[暗号化方式]欄と[ネットワーク認証]欄で設定した内容を表示します。
※暗号化が設定されていないときは、「なし」を表示します。

⑤**WEPキー/PSK** …… [VLAN設定]項目の[WEPキー]欄、または[PSK(Pre-Shared Key)]欄で設定した内容を表示します。

■仮想BSS登録一覧

[仮想BSS設定]項目(P170)で登録した内容を表示します。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①**SSID** …… [仮想BSS設定]項目の[SSID]欄で設定した内容を表示します。

②**VLAN ID** …… [仮想BSS設定]項目の[VLAN ID]欄で設定した内容を表示します。
※[VLAN登録一覧]項目で、設定した[VLAN ID]の詳細について確認できます。

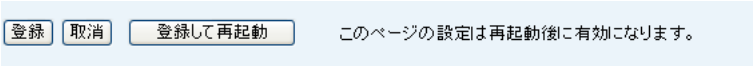
③**〈削除〉** …… 仮想BSS登録一覧の内容を削除するときクリックします。

6.「認証サーバ設定」画面

「無線LAN設定」ー**「認証サーバ設定」**

本製品のRADIUS機能についての設定画面です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されています。



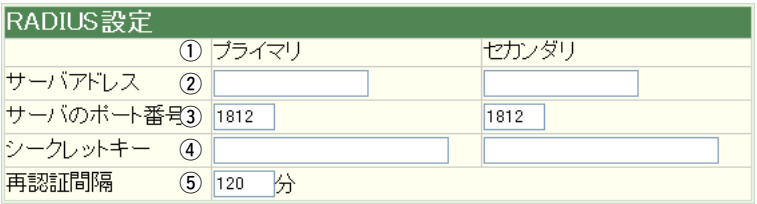
〈登録〉…… 「認証サーバ設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉…… 「認証サーバ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉…… 本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■RADIUS設定

RADIUSサーバによる無線LAN端末へのWPA認証、またはIEEE802.1X認証接続の設定です。
※EAP-TLSとEAP-TTLS、EAP-PEAPに対応しています。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①プライマリ/セカンダリ [プライマリ]列に設定したサーバから応答がないとき、その次にアクセスさせるRADIUSサーバがあるときは、[セカンダリ]列にそのRADIUSサーバアドレスを設定します。

②サーバアドレス …… 対象となるRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。

③サーバのポート番号 … 対象となるRADIUSサーバの認証ポートを設定します。
設定できる範囲は、「1～65535」です。 (出荷時の設定：1812)
※ご使用になるシステムによっては、出荷時の設定値と異なることがありますのでご確認ください。

6.「認証サーバ設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「認証サーバ設定」**

■RADIUS設定

RADIUS設定			
	①	プライマリ	セカンダリ
サーバアドレス	②		
サーバのポート番号	③	1812	1812
シークレットキー	④		
再認証間隔	⑤	120 分	

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

④シークレットキー ……　この欄に設定されたキーを使用して、本製品とRADIUSサーバ間の通信をします。
RADIUSサーバに設定された値と同じ設定にします。
半角31文字以内の英数字で入力します。

⑤再認証間隔 ……　RADIUSサーバに再度認証を要求する間隔を分で設定します。
(出荷時の設定：120)
設定できる範囲は、「1～29」を除く「0～9999(分)」です。
※「0」を設定したときは、再認証しません。

7.「AP間通信設定」画面

「無線LAN設定」ー**「AP間通信設定」**

本製品のAP間通信機能についての設定画面です。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されています。

■BSSID

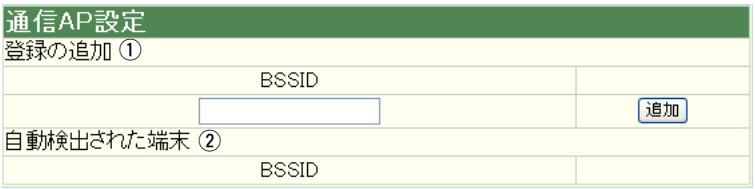
本製品に内蔵された無線LANカードの[BSSID]を表示します。

※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

本製品の[BSSID]をAP間通信する相手側の機器に登録します。
◎「ユニットを使用していません」を表示しているときは
[無線LAN設定]項目の[IEEE802.11gを使用](①)欄を「する」に設定してください。
◎[IEEE802.11a]規格の「AP間通信設定」画面のときは
本製品に内蔵する5.2GHz/5.3GHz帯無線LANカードの[BSSID]を表示します。

■通信AP設定

AP間通信する相手側のBSSIDを登録します。



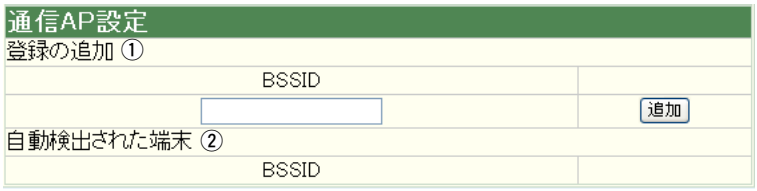
※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

①登録の追加 ……

AP間通信する相手側(本製品およびAP間通信対応の弊社製無線ルータや弊社製無線アクセスポイント)の[BSSID]を入力します。
[BSSID]は、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
〈追加〉をクリックすると、入力した[BSSID]が[登録済み端末リスト]項目に登録されます。
次のように入力すると、同じ[BSSID]として処理します。
(入力例：00-90-C7-99-00-02、0090C7990002)
※最大6台分の[BSSID]が登録できます。
※各アクセスポイントのIPアドレスが重複しないようにしてください。

7.「AP間通信設定」画面　　「無線LAN設定」ー**「AP間通信設定」**

■通信AP設定

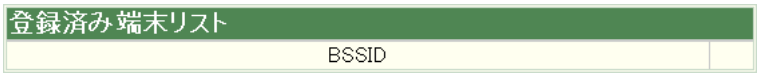


※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

②自動検出された端末　…　[チャンネル]と[SSID]が、本製品と同じ設定の弊社製無線ルータや弊社製無線アクセスポイントを検出すると、その機器の[BSSID]を表示します。
検出された機器とAP間通信する場合は、この右欄に表示された〈追加〉をクリックすると、検出された[BSSID]を[登録済み端末リスト]項目に登録できます。
※検出結果を最大64件まで表示します。
※近くに、同じ条件の弊社製ビル間通信ユニットなどが存在すると、それらの機器の[BSSID]と併せて検出されますのでご注意ください。

■登録済み端末リスト

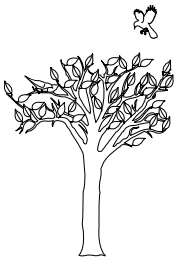
[通信AP設定]項目で登録したBSSIDを表示します。



※[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

表示されている[BSSID]のAP間通信対応の弊社製無線ルータや弊社製無線アクセスポイントと、AP間通信できます。
※登録を削除するときは、該当する欄の右端にある〈削除〉をクリックします。

【AP間通信機能を使用するためには】
◎相手側の弊社製AP間通信対応機器と同じチャンネルに設定してください。
◎[IEEE802.11a(W53)]規格のチャンネル(P150)は使用できません。
◎TKIP/AES暗号化やIEEE802.1X認証は使用できません。
◎AP間通信する相手側の[BSSID]だけを登録してご使用ください。
※必要でない[BSSID]が複数登録されている場合は、通信速度低下の原因になります。



第 6 章

「WAN側設定」メニュー

この章では、
「WAN側設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「WAN側設定」画面 ……186
■ 接続状況 (DHCP設定時) ……186
■ 接続状況 (PPPoE設定時) ……187
■ 接続状況 (PPPoE複数固定IP設定時) ……188
■ 回線種別 ……189
■ 回線設定 DHCP (DHCP設定時) ……190
■ 回線設定 (PPPoE設定時) ……191
■ 接続設定 (PPPoE設定時) ……193
■ マルチセッションとは (PPPoE設定時) ……194
■ 回線設定 (PPPoE複数固定IP設定時) ……195
■ 接続設定 (PPPoE複数固定IP設定時) ……196
2.「WAN側詳細設定」画面 ……197
■ 共通詳細設定 ……197
■ UPnP設定 ……199
■ PPPoE詳細設定 (PPPoE設定時) (PPPoE複数固定IP設定時) ……200
3.「アドレス変換設定」画面 ……203
■ アドレス変換設定 ……203
■ 静的マスカレードテーブル設定 ……204
■ DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い ……204
■ 静的NATテーブル設定 ……205
4.「IPフィルタ設定」画面 ……206
■ 不正アクセス検知機能設定 ……206
■ IPフィルタ設定 ……208
■ 現在の登録 ……212

【WAN側設定項目について】
WAN側回線への接続方法を[回線種別]項目で設定にすると、表示される設定項目が一部変更になります。
(DHCP設定時) は、「DHCP」を選択したときに表示される設定項目です。
(PPPoE設定時) は、「PPPoE」を選択したときに表示される設定項目です。
(PPPoE複数固定IP設定時) は、「PPPoE複数固定IP」を選択したときに表示される設定項目です。

6 「WAN側設定」メニュー

1.「WAN側設定」画面

「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

本製品をインターネットに接続するための設定画面です。

■ 接続状況 (DHCP設定時)

登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況		
接続状況 [切断]	①	接続試行中
回線種別	②	DHCP
DNSサーバ	③	-
本体側のIPアドレス	④	-
相手先のIPアドレス	⑤	-
接続時間	⑥	- 時間 - 分 - 秒

①接続状況 …… WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。

〈接続〉／〈切断〉

手動で回線を接続および切断するとき、クリックします。

※〈接続〉は、回線を切断したとき表示します。

②回線種別 …… 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。

③DNSサーバ …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

④本体側のIPアドレス … 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。

⑤相手先のIPアドレス … ご契約の回線接続業者またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑥接続時間 …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。

最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの〈更新〉をクリックします。

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■ 接続状況 (PPPoE設定時)

登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況			
PPPoEセッション	①	第1セッション	第2セッション
接続先の選択	②	WAN01 切断	なし 接続
接続状況	③	接続試行中	未接続
回線種別	④	PPPoE(常時接続)	PPPoE
DNSサーバ	⑤	-	-
本体側のIPアドレス	⑥	-	-
相手先のIPアドレス	⑦	-	-
接続時間	⑧	- 時間 - 分 - 秒	- 時間 - 分 - 秒

①PPPoEセッション ……　表示するセッション番号に対する接続状況をこの列に表示します。

②接続先の選択 ……　[回線設定]項目で登録したWAN側回線への接続先から選択します。

〈接続〉／〈切断〉

手動で回線を接続および切断するとき、クリックします。

※〈切断〉は、回線が接続されているとき表示します。

【第2セッションを利用するには】

◎選択した接続先がマルチセッションに対応していることと同時に、利用申し込みが必要な場合があります。

◎第2セッションの接続先に、第1セッションで選択したインターネットへの接続先を指定しても、[接続状況]欄に「接続中」と表示されるだけで、実際に通信できませんのでご注意ください。

（その逆についても同じです。）

③接続状況 ……　WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。

④回線種別 ……　本製品に設定している回線への接続方式および方法を「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)」/「PPPoE(常時接続)」で表示します。

⑤DNSサーバ ……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑥本体側のIPアドレス …　本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。

⑦相手先のIPアドレス …　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑧接続時間 ……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。

最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの〈更新〉をクリックします。

6 「WAN側設定」メニュー

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■ 接続状況 (PPPoE複数固定IP設定時)

登録された回線への接続状況を表示します。

接続状況		
接続先の選択	①	WAN01 切断
接続状況	②	接続試行中
回線種別	③	PPPoE(常時接続)
DNSサーバ	④	-
本体側のIPアドレス	⑤	-
相手先のIPアドレス	⑥	-
接続時間	⑦	- 時間 - 分 - 秒

①接続先の選択 …… [回線設定]項目で登録したWAN側回線への接続先から選択します。
〈接続〉／〈切断〉
手動で回線を接続および切断するとき、クリックします。
※〈切断〉は、回線が接続されているとき表示します。

②接続状況 …… WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。

③回線種別 …… 本製品に設定している回線への接続方式および方法を「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)」/「PPPoE(常時接続)」で表示します。

④DNSサーバ …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑤本体側のIPアドレス … 本製品のWAN側に設定したIPアドレスを表示します。

⑥相手先のIPアドレス … ご契約の回線接続業者またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑦接続時間 …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの〈更新〉をクリックします。

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■回線種別

本製品の回線種別についての設定です。

〈登録〉……

「WAN側設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。
※[回線種別]項目を変更した場合は画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉……

「WAN側設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉……

本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

回線種別……

※[PPPoE複数固定IP]設定時の割り当てられた複数のIPアドレスの使いかたについては、本書10-1章をご覧ください。

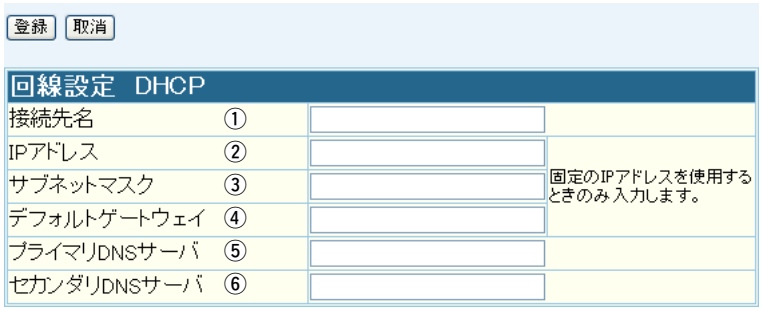
契約の回線接続業者やプロバイダーから指定された回線種別を選択します。
◎ルータタイプモデムと接続する場合など
・接続しない (出荷時の設定)
回線を本製品のWAN側ポートに接続せずに本製品を無線アクセスポイントとして使用するときに設定します。
※アッカネットワークスやイー・アクセス、IP電話サービス対応のフレッツ・ADSLをご契約の場合に該当します。
◎回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合
・DHCP
本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者やプロバイダーから「DHCP」方式で取得します。
※CATVやYAHOO! BBをご契約の場合に該当します。
・PPPoE
本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約の回線接続業者やプロバイダーから「PPPoE」方式で取得します。
※Bフレッツやフレッツ・ADSLをご契約の場合に該当します。
・PPPoE複数固定IP
ご契約の回線接続業者やプロバイダーから割り当てられた複数のIPアドレスのうち1つを本製品のWAN側IPアドレスに設定して、残りは本製品のLAN側に接続された無線LAN端末に直接割り当てて使用するときに設定します。

6 「WAN側設定」メニュー

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■回線設定 DHCP (DHCP設定時)

本製品のWAN側について設定します。



〈登録〉…… [回線設定 DHCP]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… [回線設定 DHCP]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①接続先名 …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーの名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

②IPアドレス …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

③サブネットマスク …… ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。

④デフォルトゲートウェイ ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

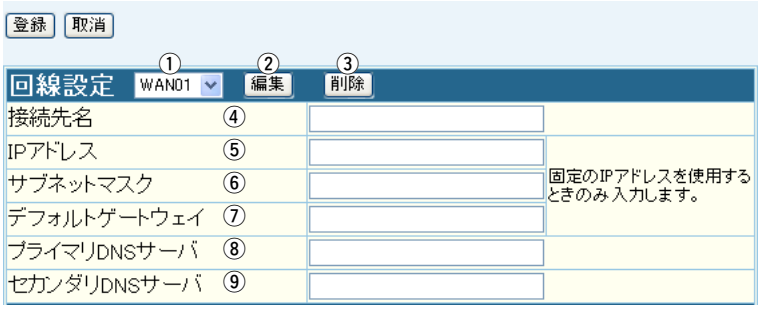
⑤プライマリDNSサーバ ご契約の回線接続業者またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

⑥セカンダリDNSサーバ ご契約の回線接続業者またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■回線設定 (PPPoE設定時)

本製品のWAN側について設定します。



〈登録〉……　[回線設定]項目および[接続設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[回線設定]項目および[接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①接続先選択……　WAN側回線への接続先を追加するときは、〈▼〉をクリックして「追加」を選択すると、登録できます。　(最大8件まで登録可能)
登録されている接続先の内容を変更するときは、編集する接続先名を選択して〈編集〉をクリックします。
※[回線設定]項目および[接続設定]項目で、選択した接続先の設定内容を確認または変更できます。

②〈編集〉……　[接続先選択](①)で選択した接続先の内容を変更するボタンです。

③〈削除〉……　[接続先選択](①)で選択した接続先を削除するボタンです。

④接続先名……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーの名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

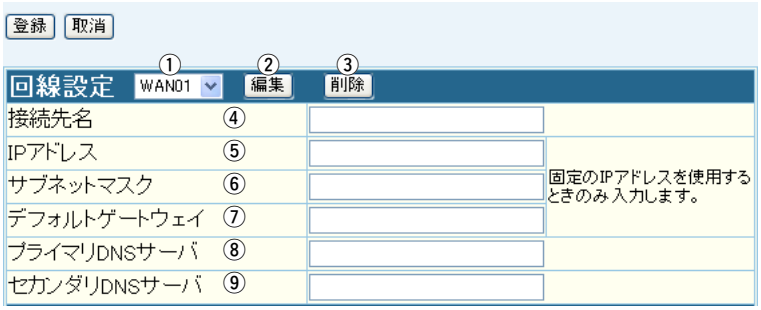
⑤IPアドレス……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

⑥サブネットマスク……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。

6 「WAN側設定」メニュー

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■ 回線設定 (PPPoE設定時)



⑦デフォルトゲートウェイ　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

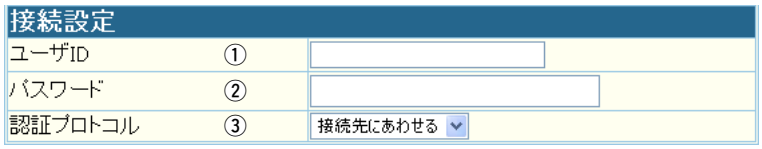
⑧プライマリDNSサーバ　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

⑨セカンダリDNSサーバ　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■接続設定 (PPPoE設定時)

接続先からの指定に応じて入力します。



①ユーザID …… プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。

②パスワード …… プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。

③認証プロトコル …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定された認証プロトコルを設定します。
指定のない場合は、「接続先にあわせる」(出荷時の設定)でご使用ください。
下記の内容は、マルチセッションに対応する接続先を設定してご使用になる場合にご覧ください。
【NTTフレッツ･スクウェアをご使用になるには】
以下の内容を[接続設定]項目に設定してください。
◎NTT西日本でご契約の場合
ユーザID　：「**flets@flets**」(半角文字)と入力
パスワード　：「**flets**」(半角文字)と入力
認証プロトコル：「接続先にあわせる」(出荷時の設定)を選択
◎NTT東日本でご契約の場合
ユーザID　：「**guest@flets**」(半角文字)と入力
パスワード　：「**guest**」(半角文字)と入力
認証プロトコル：「接続先にあわせる」(出荷時の設定)を選択

6 「WAN側設定」メニュー

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■マルチセッションとは (PPPoE設定時)

「PPPoE」を本製品の回線種別に設定した場合だけ使用できる機能です。
ご契約の接続先がマルチセッションに対応していれば、同じ端末から通常の「PPPoE」接続先とは別の「PPPoE」接続先(NTTフレッツ･スクウェア)にも接続できます。

◎「第2セッション」側を使用する場合
　登録する接続先の回線がマルチセッションに対応している必要があります。

◎マルチセッションに対応できる回線接続先
　本製品の場合、2010年9月現在に於いてNTTフレッツ･スクウェアだけです。
　※お住まいの地域がNTTフレッツ･スクウェア提供地域であることをご確認ください。

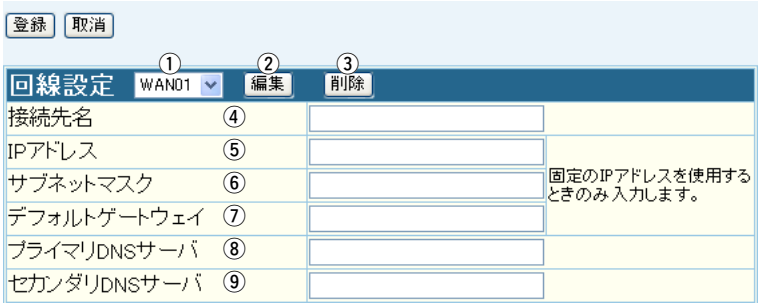
◎NTTフレッツ･スクウェアへの接続は、次のように設定してください。
　・[接続状況]項目
　　「第1セッション」側：フレッツ･ADSLやBフレッツへの接続内容を設定した接続先名
　　「第2セッション」側：NTTフレッツ･スクウェアへの接続内容を設定した接続先名
　・「WAN側詳細設定」画面にある[PPPoE詳細設定]項目の[接続先選択]欄
　　該当する接続先名を選択し、[宛先ドメイン]欄に「＊.flets」と入力してください。
　※上記を設定しない場合、NTTフレッツ･スクウェアのホームページを利用してサービスを受けることができません。
　※NTT東日本でご契約の場合、NTTフレッツ･スクウェアを本製品でお使いいただくには、「ネットワーク設定」メニュー→「ルーティング設定」画面→[スタティックルーティング設定]項目で設定を追加してください。(→10-4章)
　※NTTから提供される「フレッツ接続ツール」は使用しません。

〈設定の手順について〉
本書10-4章では、NTTフレッツ･スクウェアの設定手順を記載しています。
上記の記載と併せてご覧ください。

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■回線設定 (PPPoE複数固定IP設定時)

本製品のWAN側について設定します。



★ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから割り当てられた、複数のグローバル固定IPアドレス(例：8個の場合)の使いかたは、本書10-1章をご覧ください。

〈登録〉……　[回線設定]項目および[接続設定]項目で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　[回線設定]項目および[接続設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①接続先選択……　WAN側回線への接続先を追加するときは、〈▼〉をクリックして「追加」を選択すると、登録できます。　(最大8件まで登録可能)
登録されている接続先の内容を変更するときは、編集する接続先名を選択して〈編集〉をクリックします。
※[回線設定]項目および[接続設定]項目で、選択した接続先の設定内容を確認または変更できます。

②〈編集〉……　[接続先選択](①)で選択した接続先の内容を変更するボタンです。

③〈削除〉……　[接続先選択](①)で選択した接続先を削除するボタンです。

④接続先名……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーの名前を任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

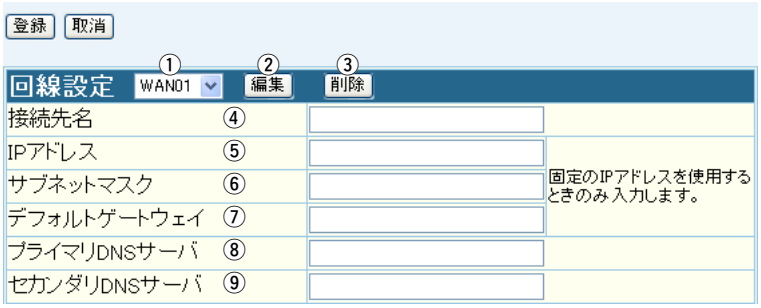
⑤IPアドレス……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
※複数固定IPアドレスサービスをご契約の場合についても、指定された固定IPアドレスの中から、1つをこの欄に入力します。

⑥サブネットマスク……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
※複数固定IPアドレスサービスをご契約の場合についても、指定されたサブネットマスクをこの欄に入力します。

6 「WAN側設定」メニュー

1.「WAN側設定」画面　　「WAN側設定」ー**「WAN側設定」**

■ 回線設定 PPPoE複数固定IP設定時



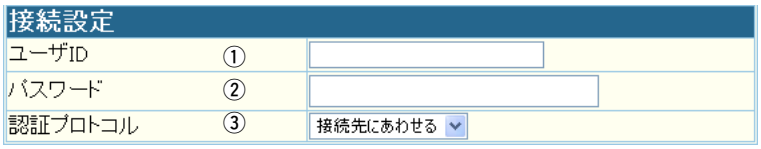
⑦デフォルトゲートウェイ　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

⑧プライマリDNSサーバ　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

⑨セカンダリDNSサーバ　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

■ 接続設定 PPPoE複数固定IP設定時

接続先からの指定に応じて入力します。



①ユーザID ……　プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。

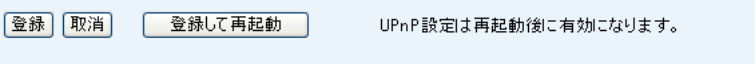
②パスワード ……　プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。

③認証プロトコル ……　ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから指定された、認証プロトコルを設定します。
指定のない場合は、「接続先にあわせる」(出荷時の設定)でご使用ください。

2.「WAN側詳細設定」画面

「WAN側設定」ー**「WAN側詳細設定」**

本製品をインターネットに接続するための詳細設定画面です。



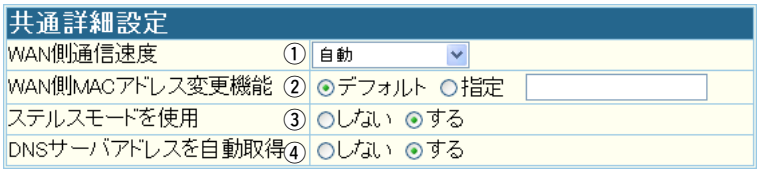
〈登録〉……　「WAN側詳細設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。
※[UPnP設定]項目を変更した場合は画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉……　「WAN側詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉……　本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

■共通詳細設定

本製品のWAN側回線に共通する詳細設定です。



①WAN側通信速度 ……　本製品とLANケーブルで接続された機器間のリンクスピードを設定します。　(出荷時の設定：自動)

◎自動：
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器の通信速度に合わせて自動で設定されます。

◎100(Half Duplex)：
[100Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[100Mbps(HalfDuplex)]に対応しているとき設定できます。

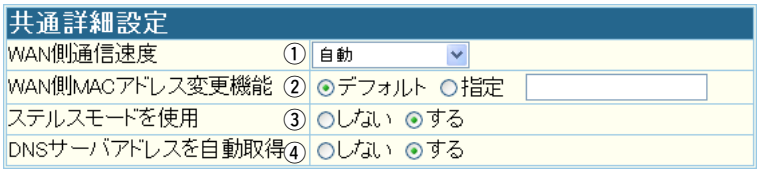
◎100(Full Duplex)：
[100Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続している機器が、[100Mbps(FullDuplex)]に対応しているとき設定できます。

◎10(Half Duplex)：
[10Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/HalfDuplex]に対応しているとき設定できます。

(次ページへつづく)

2.「WAN側詳細設定」画面　「WAN側詳細設定」ー**「WAN側詳細設定」**

■共通詳細設定



①WAN側通信速度(つづき)　◎10(Full Duplex)：
[10Mbps(Full Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/Full Duplex]に対応しているとき設定できます。

②WAN側MACアドレス変更機能 ……

MACアドレス申請が必要なプロバイダーで、すでにインターネットをご使用の場合、プロバイダーに申請されているMACアドレスを入力できます。　(出荷時の設定：デフォルト)
申請しているMACアドレスを入力したときは、「指定」のラジオボタン、「WAN側詳細設定」画面の〈登録〉を順にクリックします。

⚠警告
この機能をご利用になるときは、申請されているMACアドレスをよく確認していただき、設定値を間違えないように注意してください。
設定値を誤ってご使用になられた場合によって生じる結果については一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

③ステルスモードを使用　本製品のステルスモード機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、インターネットを使用して本製品に不正アクセスされた場合、Pingやポートスキャンに対して防御します。

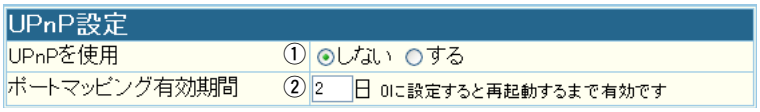
④DNSサーバアドレスを自動取得 ……

「DHCP」または「PPPoE」より、WAN側DNSサーバアドレスを自動取得するための設定です。　(出荷時の設定：する)
「しない」に設定すると、「WAN側設定」画面の[回線設定]項目に手動で設定したDNSサーバアドレスが使用されます。

2.「WAN側詳細設定」画面　　「WAN側詳細設定」ー**「WAN側詳細設定」**

■UPnP設定

本製品のUPnP機能について設定します。



①UPnPを使用 ……

本製品のUPnP(Universal Plug and Play)機能を設定します。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、NATトラバーサル対応のアプリケーションを、本製品に接続された有線LAN端末から利用できます。
※使用時は、セキュリティーが低下しますのでご注意ください。

〈本製品のUPnP機能について〉

下記のアプリケーションが本製品のUPnP(NATトラバーサル)機能に対応しています。
◎Windows Messenger (Version4.6以上)
Windows XP専用アプリケーション
◎MSN Messenger (Version4.6以上)
Windows 98/98SE/Me/2000専用アプリケーション
※MSN Messengerで音声チャットする場合は、「DirectX」のバージョン8.1以上が必要です。
※あらかじめIPフィルターを設定しているポートをMessengerで使用した場合は、UPnP機能が優先します。
※アプリケーションをバージョンアップする必要がある場合は、「Microsoft Update」などから操作してください。

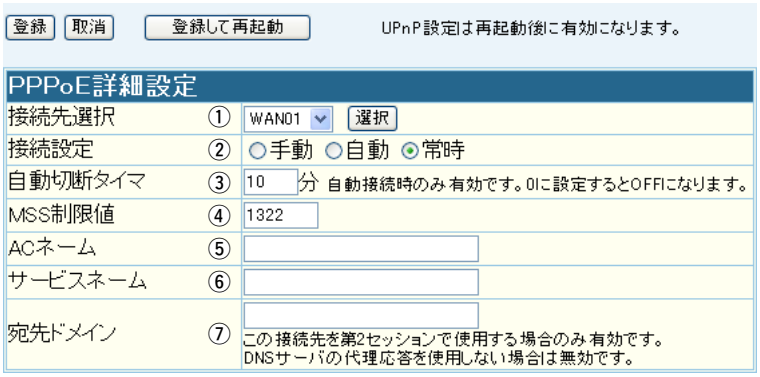
②ポートマッピング有効期間 ……

UPnP(NATトラバーサル)対応アプリケーションなどを使用するために、WAN側に対してポートを開いている期間を日数で設定します。
設定できる範囲は、「0～99(日)」です。　(出荷時の設定：2)
※「0」を設定すると、アプリケーションを正しく終了しなかった場合など、本製品を再起動するまでポートが開いたままになりますのでご注意ください。

2.「WAN側詳細設定」画面　「WAN側詳細設定」ー**「WAN側詳細設定」**

■PPPoE詳細設定 (PPPoE設定時) (PPPoE複数固定IP設定時)

「PPPoE」回線について詳細な設定をします。



※回線種別を「PPPoE」に設定したときの画面を使用して説明しています。

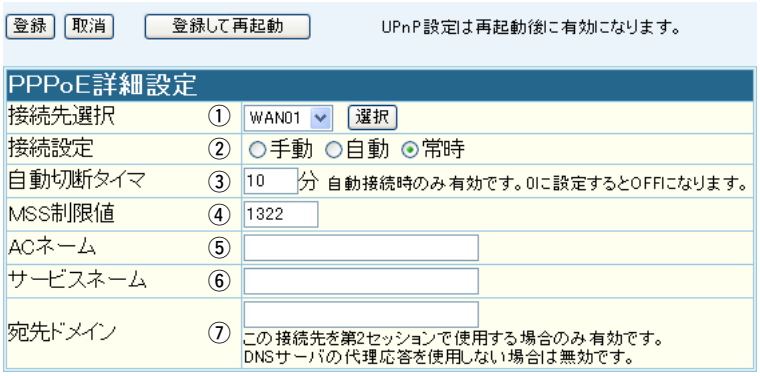
〈登録〉……　「WAN側詳細設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。
※[UPnP設定]項目を変更した場合は画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉……　「WAN側詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉……　本製品を再起動して、変更したすべての設定内容を有効にします。

2.「WAN側詳細設定」画面　　「WAN側詳細設定」ー**「WAN側詳細設定」**

■PPPoE詳細設定 (PPPoE設定時) (PPPoE複数固定IP設定時)



※回線種別を「PPPoE」に設定したときの画面を使用して説明しています。

①接続先選択 ……

詳細設定する接続先名を選択します。
接続先名を選択し、〈選択〉をクリックすると、「WAN側設定」画面の[回線設定]項目および[接続設定]項目で登録した接続先ごとに、詳細な設定ができるようになります。

②接続設定 ……

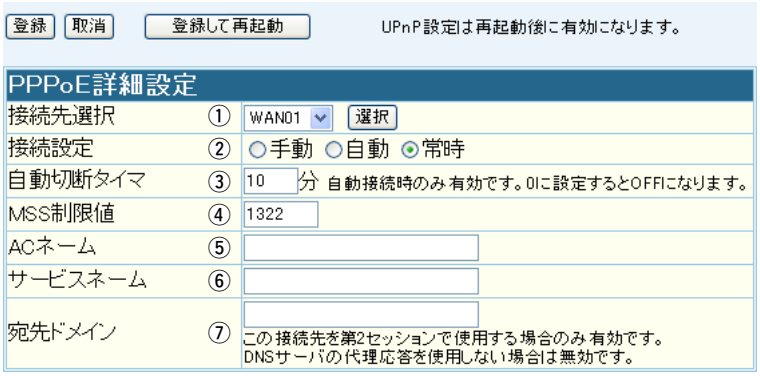
「PPPoE」回線への接続方法を選択します。　(出荷時の設定：常時)
◎手動：「WAN側設定」画面の〈接続〉/〈切断〉で、回線を強制的に接続/切断します。
◎自動：パソコンからホームページやメールを見ると、自動的に接続します。
◎常時：常時接続します。
本製品で指定した接続先(WAN側)と常に接続状態を保持します。
※SIPサーバを使用するときなどは、「常時」を設定します。

③自動切断タイマ ……

[接続設定](②)欄で「自動」を設定している場合、WAN側への送出パケットがなくなってから回線を切断するまでの時間を分で入力します。
設定できる範囲は、「0～65535(分)」です。　(出荷時の設定：10)
※「0」を設定すると、自動切断しません。

2.「WAN側詳細設定」画面　　「WAN側詳細設定」ー**「WAN側詳細設定」**

■PPPoE詳細設定 (PPPoE設定時) (PPPoE複数固定IP設定時)



※回線種別を「PPPoE」に設定したときの画面を使用して説明しています。

④MSS制限値 ……

プロバイダーから指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。　(出荷時の設定：1322)
設定できる範囲は、「536～1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できるTCP最大セグメントサイズのことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほど良いとされています。
しかし、[PPPoE]回線のMTUは通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいためMSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますのでご注意ください。

⑤ACネーム ……

プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のACネーム(アクセスコンセントレーター名)を入力します。

⑥サービスネーム ……

プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のサービスネームを入力します。

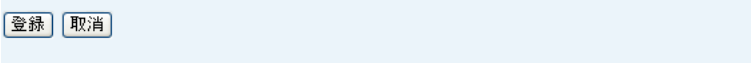
⑦宛先ドメイン …… (PPPoE設定時)

[接続先選択](①)欄の接続先を「第2セッション」としたとき、その接続先が使用するDNSサーバのドメインを設定します。
ワイルドカードとして、「？」「＊」が使用できます。
「？」は任意の1文字、「＊」は任意の文字列として認識されます。
NTTフレッツ･スクウェアへ接続する場合、「＊.flets」を指定したとき、「www.flets」などのドメイン名として、その接続先が使用するDNSサーバに問い合わせをします。
※DNSサーバのIPアドレスを入力しても無効です。
※「簡易DNS設定」画面→[DNSサーバ設定]項目(→4-2章)で、DNS代理応答機能を「しない」にしている場合は無効になります。

3.「アドレス変換設定」画面

「WAN側設定」ー**「アドレス変換設定」**

静的マスカレードと静的NATの設定画面です。



〈登録〉……　「アドレス変換設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉……　「アドレス変換設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■アドレス変換設定

本製品のアドレス変換機能を設定します。

アドレス変換設定		
アドレス変換	①	○しない ◉する
DMZホスト IPアドレス	②	
PPTPパススルーを使用	③	○しない ◉する

①アドレス変換……　本製品のアドレス変換機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、本製品の静的マスカレード機能および静的NAT機能を使用して、指定したグローバルアドレスをプライベートアドレスに変換します。

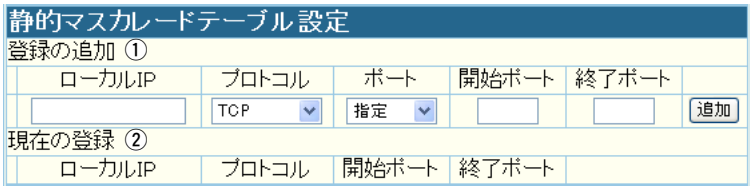
②DMZホストIPアドレス　DMZホスト機能(非武装セグメント)の対象となるパソコン(ホスト)のIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
転送することにより、本製品のLAN側に存在する端末でWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどができますが、転送先に設定した端末のIPアドレスに対してセキュリティーが低下しますので、ご使用には十分ご注意ください。
※DMZホスト機能を静的マスカレードテーブルや静的NATテーブルと同時に使用した場合は、静的マスカレードテーブルおよび静的NATテーブルの設定が優先されます。

③PPTPパススルーを使用　自宅の端末などから、インターネット経由で社内LANの仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバにアクセスするための設定です。
(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、PPTPクライアントからのパケットをWAN側に転送します。
※使用例については、本書10-3章をご覧ください。

3.「アドレス変換設定」画面　「WAN側設定」ー**「アドレス変換設定」**

■静的マスカレードテーブル設定

IPマスカレード変換を静的にするための設定です。



①登録の追加 ……

マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。
※最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
◎ローカルIP ：プライベートIPアドレスを入力します。
◎プロトコル ：TCP、UDP、TCP/UDP、GREから選択します。
◎ポート　　：選択したプロトコルに対するポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
◎開始ポート ：プロトコルに対する開始ポート番号を入力します。
◎終了ポート ：プロトコルに対する終了ポート番号を入力します。

②現在の登録 ……

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

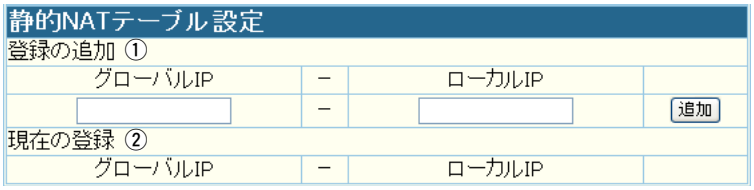
■DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い

DMZホスト機能	静的マスカレード機能
プロトコルやポート番号の指定が不要。	プロトコルやポート番号の指定が必要。
転送先として指定できるホストのIPアドレスは、1つだけである。	異なるプロトコルやポート番号ごとに、複数の転送先を設定できる。
転送先の変更が容易にできる。	転送先は、プロトコルやポート番号ごとに指定されているため、変更が複雑である。
転送先に指定したホストについては、セキュリティーが低下する。	静的マスカレードテーブルに登録していないプロトコルやポート番号は、遮断される。

3.「アドレス変換設定」画面　　「WAN側設定」ー**「アドレス変換設定」**

■静的NATテーブル設定

グローバルとプライベートのIPアドレスを変換するための設定です。



①登録の追加 ……　マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。
※最大32個のNATテーブルを設定できます。
◎グローバルIP ：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
◎ローカルIP　：任意のプライベートIPアドレスを入力します。

②現在の登録 ……　登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

4.「IPフィルタ設定」画面

「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

本製品のIPフィルタについての設定画面です。

〈登録〉…… 「IPフィルタ設定」画面で変更した内容を有効にするボタンです。

〈取消〉…… 「IPフィルタ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■不正アクセス検知機能設定

WAN側回線から本製品に不正な攻撃を受けたことを検知して、IPフィルターの手前で阻止する機能を設定します。

①不正アクセス検知機能を使用 …… 本製品の不正アクセス検知機能を設定します。

(出荷時の設定：しない)

「する」に設定すると、WAN側回線から本製品に不正な攻撃を受けたことを検知します。

検知できる内容は以下の通りです。

◎IP Spoofing ：偽りのLAN側アドレスでパケットを受けたとき

◎Land attack ：始点IPアドレスと終点IPアドレスが同じパケットを受けたとき

◎TCP Syn Flooding ：設定した[検知時間](③)以内に設定した[検知回数](④)より多い接続要求(SYN)を受けたとき

◎Tiny Fragmenting ：Tiny fragment attack(RFC 1858で定義)を受けたとき

◎Source Routing ：Loose routing IP optを検出したとき
Loose source routing headerを受けたとき
Strict routing IP optを検出したとき
Strict source routing headerを受けたとき

4.「IPフィルタ設定」画面　　「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

■不正アクセス検知機能設定

不正アクセス検知機能設定		
不正アクセス検知機能を使用	①	◉しない ○する
検知結果を出力	②	○しない ◉する
検知時間	③	1 分
検知回数	④	100 回

②検知結果を出力 ……

本製品の不正アクセス検知機能が有効な場合に、検知した不正アクセスを画面上に表示する機能です。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、検知結果を「情報表示」メニューの「通信記録」画面に表示します。
※不正アクセスを検知したときの「通信記録」画面の表示例は、本書8-2章をご覧ください。

③検知時間 ……

「TCP Syn Flooding」を検知する時間を分で設定します。
設定できる範囲は、「1～60(分)」です。　(出荷時の設定：1)

④検知回数 ……

「TCP Syn Flooding」を検知する回数を設定します。
設定できる範囲は、「5～999(回)」です。　(出荷時の設定：100)
[検知時間](③)欄で設定した時間内に設定回数以上のアクセスを検知すると、不正アクセスと判断します。

4.「IPフィルタ設定」画面　「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

■IPフィルタ設定

特定条件を満たす内部、または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルターの設定です。

①番号 ……

登録されたフィルターを比較する順位を指定します。
設定できる範囲は、「1～64」です。
登録すると、本製品がパケットを受信または送信するごとに、[現在の登録]項目に表示されたフィルターと比較します。
※番号が指定されていないときは、登録できません。

【順位と比較について】

フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
※フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

〈追加〉

新規作成、または編集した内容をフィルターとして登録するとき、クリックします。
※[現在の登録]項目で登録内容をご確認ください。
※フィルター条件は、1つ以上指定してください。
※最大64件のフィルターを登録できます。

②フィルタ方向 ……

パケットの通信方向で、本製品のWAN側とLAN側に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。

◎WAN側から　：WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、アドレス変換のあとにフィルタリング処理をします。
◎LAN側から　：本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、アドレス変換の前にフィルタリング処理をします。
◎両方　：本製品からWAN側に送信またはWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理をします。

4.「IPフィルタ設定」画面　　「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

■IPフィルタ設定

③フィルタ方法 ……

フィルタリングの方法を選択します。
◎遮断：フィルタリングの条件にすべて一致した場合、そのパケットを破棄します。
◎透過：フィルタリングの条件にすべて一致した場合、そのパケットを通過させます。

④プロトコル ……

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。
◎指定　　：右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
※入力できる範囲は、10進数で「1～255」までの半角数字です。
◎すべて　　：すべてのプロトコルの条件に一致します。
◎TCP　　：TCPプロトコルの条件だけに一致します。
◎TCP_FIN　：TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
◎TCP_EST：TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
◎UDP　　：UDPプロトコルの条件だけに一致します。
◎ICMP　　：ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
◎GRE　　：GREプロトコルの条件だけに一致します。

4.「IPフィルタ設定」画面　　「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

■IPフィルタ設定

⑤発信元ポート番号 ……

フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
指定には、2とおりの方法があります。
◎数字で指定するとき
「指定」を選択して、指定時のテキストボックスに番号を始点から終点まで連続で入力します。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
※入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
◎数字で指定しないとき
ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

⑥宛先ポート番号 ……

フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
指定には、2とおりの方法があります。
◎数字で指定するとき
「指定」を選択して、指定時のテキストボックスに番号を始点から終点まで連続で入力します。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
※入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
◎数字で指定しないとき
ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
※「すべて」を選択した場合は、すべてのポート番号を対象とします。

4.「IPフィルタ設定」画面　　「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

■IPフィルタ設定

⑦発信元IPアドレス ……　発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
◎発信元ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
◎始点だけ入力すると、特定の発信元ホストだけを指定できます。
◎何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

⑧宛先IPアドレス ……　宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
◎宛先ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
◎始点だけ入力すると、特定の宛先ホストだけを指定できます。
◎何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

4.「IPフィルタ設定」画面　　「WAN側設定」ー**「IPフィルタ設定」**

■現在の登録

現在登録されているIPフィルターを表示します。

現在の登録

		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	57	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	58	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	59	両方	遮断	ALL	135	*	*	*
編集	削除	60	両方	遮断	ALL	*	135	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	ALL	445	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	ALL	*	445	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	TCP	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	UDP	137 - 139	137 - 139	*	*

【出荷時、登録されているフィルターについて】
◎57番　　：FTPをデフォルトで通過させる
◎58番　　：WAN側からの不正パケット防止
◎59～64番：Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性を防止

〈編集〉……　右欄に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。
編集する欄の〈編集〉をクリックすると、その内容を[IPフィルタ設定]項目の各欄に表示します。

〈削除〉……　クリックすると、その右欄に表示されたIPフィルターが削除されます。

「システム設定」メニュー

第 7 章

この章では、
「システム設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

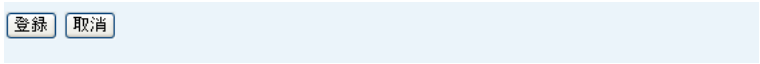
1.「本体管理設定」画面 ……214
■ 管理者ID設定 ……214
■ 管理者IPアドレス ……215
■ 認証回数制限機能 ……215
2.「時計設定」画面 ……216
■ 内部時計設定 ……216
■ 自動時計設定 ……217
■ 接続制限設定 ……218
3.「SYSLOG設定」画面 ……219
■ SYSLOG設定 ……219
4.「SNMP設定」画面 ……220
■ SNMP設定 ……220
5.「ダイナミックDNS設定」画面 ……221
■ 登録状況 ……221
■ ダイナミックDNS設定(1)/(2) ……222
6.「位置情報通知設定」画面 ……225
■ 位置情報通知設定 ……225
7.「WEBページ設定」画面 ……226
■ ページ設定 ……226
■ リンク設定 ……227

7 「システム設定」メニュー

1.「本体管理設定」画面

「システム設定」ー**「本体管理設定」**

管理者IDなどを設定するための設定画面です。

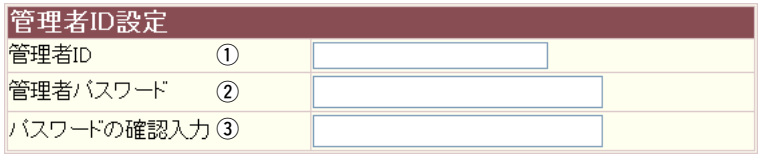


〈登録〉…… 「本体管理設定」で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「本体管理設定」の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■管理者ID設定

本製品の設定画面へのアクセス制限を設定します。
※この項目を設定することで、管理者以外がWWWブラウザから本製品の設定を変更できないようにします。



①管理者ID …… 本製品の設定画面へのアクセスを制限するために、管理者としての名前を設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。 (入力例：ICOM)
※「：(コロン)」は、入力できませんのでご注意ください。
[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。

②管理者パスワード …… [管理者ID]に対するパスワードを設定します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。
入力した文字は、すべて「＊(アスタリスク)」または「●(黒丸)」で表示されます。
[管理者パスワード]を設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。

③パスワードの確認入力 確認のために、パスワードを再入力します。

【不正アクセス防止のアドバイス】
本製品に設定するすべてのパスワードは、容易に推測されないものにしてください。
数字だけでなくアルファベット(大文字/小文字)や記号などを組み合わせて長く複雑なものにし、さらに定期的にパスワードを変更するなどが有効です。

【ご注意】
管理者パスワードを忘れた場合、設定を確認できなくなりますのでご注意ください。
この場合、設定を工場出荷時に戻していただくことになります。

1.「本体管理設定」画面　　「システム設定」ー**「本体管理設定」**

■管理者IPアドレス

本製品の設定画面へのアクセスをIPアドレスで制限する設定です。

管理者IPアドレス	
管理者IP1	
管理者IP2	
管理者IP3	

管理者IP1～3……　本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者が本製品のLAN側からアクセスする端末のIPアドレスを3台まで登録できます。
(入力例：192.168.0.5)
[管理者IP]を設定すると、次回のアクセスからIPアドレスが登録された端末以外は、本製品の設定画面にアクセスできなくなります。
※空白の(設定しない)場合は、本製品のLAN側のすべての端末から設定画面にアクセスできます。
※本製品のWAN側からのアクセスについては、出荷時に登録しているIPフィルターとステルスモードの設定によって遮断されています。

■認証回数制限機能

管理者IDを設定している場合に、本製品の設定画面へのアクセスを認証するときの設定です。

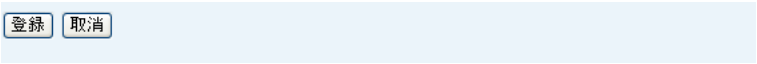
認証回数制限機能	
認証回数制限機能を使用	○しない ◉する

認証回数制限機能を使用…　本製品の設定画面および「サービスメニュー」への認証回数を制限する機能について設定します。　(出荷時の設定：する)
※一定時間内に連続して認証に失敗すると、その端末(IPアドレス)からのアクセスに3分間「403 Forbidden」を返して制限します。
※CGI認証IDでも有効です。

2.「時計設定」画面

「システム設定」ー**「時計設定」**

本製品の内部時計についての設定画面です。

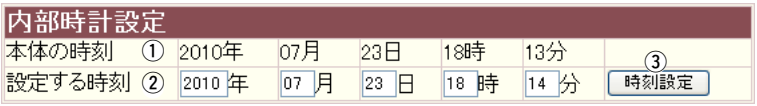


〈登録〉…… 「時計設定」で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「時計設定」の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■内部時計設定

本製品の内部時計を設定します。



①本体の時刻 …… 本製品に設定されている時刻を表示します。

②設定する時刻 …… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を、最初に表示します。
※「時計設定」画面の〈取消〉をクリックすると、端末の時計設定を取得して表示します。

③〈時刻設定〉 …… [設定する時刻](②)欄に表示された時刻を本製品に設定するボタンです。
時刻を正確に設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスしなおしてから、〈時刻設定〉をクリックしてください。

2.「時計設定」画面　　「システム設定」ー**「時計設定」**

■自動時計設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定です。

自動時計設定		
自動時計設定を使用	①	○しない ◉する
NTPサーバ1 IPアドレス	②	133.100.9.2
NTPサーバ2 IPアドレス	③	
アクセス時間間隔	④	1 日
前回アクセス日時	⑤	----/--/-- --:--
次回アクセス日時	⑥	2003/01/02 05:09

①自動時計設定を使用 …　本製品の自動時計設定機能を設定します。　(出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせをして、内部時計を自動設定します。

②NTPサーバ1 IPアドレス　最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：133.100.9.2)

③NTPサーバ2 IPアドレス　[NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。

④アクセス時間間隔 ……　タイムサーバにアクセスする間隔を設定します。　(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～99(日)」です。
「0」を設定したときは、タイムサーバにアクセスしません。
回線に手動で接続したとき、前回アクセスした日から設定した日数が経過しているときは、接続時にタイムサーバにアクセスします。
回線への常時接続を設定しているときは、設定した日数にしたがってアクセスします。

⑤前回アクセス日時 ……　タイムサーバにアクセスした日時を表示します。

⑥次回アクセス日時 ……　タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時]欄と[アクセス時間間隔]欄で設定された日数より算出して表示します。

2.「時計設定」画面　　「システム設定」ー**「時計設定」**

■接続制限設定

本製品に無線LAN端末が接続できない時間帯を設定します。

接続制限設定

制限時間	有効曜日						
	日	月	火	水	木	金	土
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
00 : 00 ～ 00 : 00	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

制限時間・有効曜日……

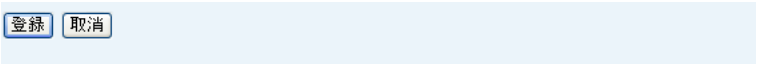
時間は、24時間制で入力します。
指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。
入力後は、「本体管理設定」画面の〈登録〉をクリックします。
停電などに備えて、自動時計設定機能を併せてご使用になることをおすすめします。
※曜日を指定しないときは、機能しません。
※1つの登録で2日間にわたるような登録はできません。
※「本体管理設定」画面で、無線LAN端末のIPアドレスを[管理者IPアドレス]項目に登録している場合、そのIPアドレスが設定された端末からは接続制限設定に関係なく、いつでもアクセスできます。

⚠警告
接続制限設定の前に、管理者IPアドレスを設定しておくことをおすすめします。
[管理者IPアドレス]項目を設定しない状態で、接続制限設定を使用すると、その制限時間帯は本製品に無線で接続するすべての端末と通信できなくなります。

3.「SYSLOG設定」画面

「システム設定」ー**「SYSLOG設定」**

SYSLOG機能についての設定画面です。

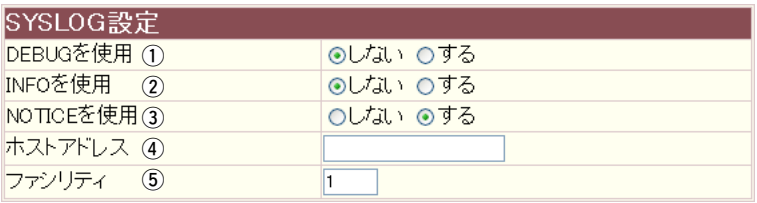


〈登録〉……　「SYSLOG設定」で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉……　「SYSLOG設定」の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■SYSLOG設定

指定したホストにログ情報などを出力するための設定です。



①DEBUGを使用……　各種デバッグ情報をSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定：しない)

②INFOを使用 ……　INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定：しない)

③NOTICEを使用 ……　NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力する設定です。
(出荷時の設定：する)

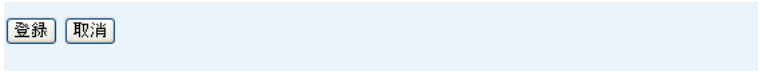
④ホストアドレス ……　SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
※ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑤ファシリティ ……　SYSLOGのファシリティを入力します。　(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～23」です。
※通常「1」を使用します。

4.「SNMP設定」画面

「システム設定」ー**「SNMP設定」**

SNMP機能についての設定画面です。



〈登録〉…… 「SNMP設定」で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「SNMP設定」の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから自動的に情報を収集してネットワーク管理するときの設定です。

①SNMPを使用 …… 本製品のSNMP機能を設定します。 (出荷時の設定：する)
「する」に設定すると、本製品の設定情報をSNMP管理ツール側で管理できます。

②コミュニティ ID(GET) 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを設定します。 (出荷時の設定：public)
半角31文字以内の英数字で入力します。

③コミュニティ ID(SET) 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から変更することを許可するIDを設定します。 (出荷時の設定：private)
半角31文字以内の英数字で入力します。

5.「ダイナミックDNS設定」画面

「システム設定」ー**「ダイナミックDNS設定」**

ダイナミックDNSサーバに現在のIPアドレスを自動登録するための設定画面です。

■登録状況

ダイナミックDNSの自動更新機能を使用時、自動更新状況を表示します。

登録状況			
	①	設定1 [接続]	設定2 [接続]
起動時刻	②	2007/03/01 15:30	----/--/-- --:--
登録状態	③	IPアドレスを更新しました [更新]	未登録
ホストアドレス	④	telephone.icom.co.jp	
IPアドレス	⑤	192.168.0.123	

※「Peer to Peer」でIP電話するときやWeb公開するとき、便利な機能です。

①設定1/設定2 ……

〈接続〉をクリックすると、本製品に設定されたWAN側IPアドレスを、[ダイナミックDNSサーバ(1)/(2)]項目で選択したダイナミックDNSサーバに送信します。

②起動時刻 ……

ご契約のプロバイダーや回線接続業者から本製品に自動配布されるIPアドレスの変更を、ご利用のダイナミックDNSサーバに自動アップデート(更新)されたときの時刻を表示します。

③登録状態 ……

正常に自動アップデートされたときは、「IPアドレスを更新しました」を表示します。

※[登録状況]項目に表示される内容は、〈更新〉をクリックするまで更新されません。

※[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目の[自動更新を使用]欄を「する」に設定すると、〈更新〉を表示します。

※下記の場合は、ご利用になるダイナミックDNSサーバからの情報が、[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目の各欄に正しく設定されているかをご確認ください。

◎「回線に接続していません」
◎「ダイナミックDNSサーバにアクセスできませんでした」
◎「ダイナミックDNSサーバにログインできませんでした」
◎「ダイナミックDNSサーバからエラーが返されました」
◎「ダイナミックDNSサーバが選択されていません」
◎「DNS解決に失敗しました」など

④ホストアドレス ……

ダイナミックDNSサーバに登録されているホスト名を表示します。

※[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目の[ホスト名]欄、[ドメイン]欄に入力した内容です。

※ホスト名「icomphone」、ドメイン「icom.co.jp」を登録した場合は、「icomphone.icom.co.jp」と表示されます。

⑤IPアドレス ……

現在、ダイナミックDNSサーバに登録されているグローバルIPアドレスを表示します。

5.「ダイナミックDNS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「ダイナミックDNS設定」**

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)

ダイナミックDNSサービスから取得したドメインと、本製品のWAN側IPアドレスの関連付けについて登録および更新するための設定です。

※[ダイナミックDNS設定(1)]項目と[ダイナミックDNS設定(2)]項目は、個別に設定できます。
※[ダイナミックDNS設定(1)]項目の画面を使用して説明しています。

〈登録〉……　[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉……　[ダイナミックDNS設定(1)/(2)]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①自動更新を使用……　ダイナミックDNSサーバへIPアドレスを自動更新する機能です。
(出荷時の設定：しない)
「する」に設定すると、本製品のWAN側(ご契約のプロバイダーや回線接続業者から本製品に自動配布される)IPアドレスが変更されたらすぐに、ダイナミックDNSサーバへの登録を自動で更新します。
※自動更新に失敗した場合は、その後、1時間ごとに自動更新します。
※「しない」を設定したときは、[定期更新間隔](②)欄も無効になります。

②定期更新間隔　……　ダイナミックDNSサーバへの登録間隔を設定します。
設定できる範囲は、「0～99(日)」です。(出荷時の設定：10)
※ダイナミックDNSの自動更新間隔を、「0」に設定したときは、ダイナミックDNSの自動更新機能だけが動作します。
※ご利用になるダイナミックDNSサーバによっては、一定期間更新がないと、取得したドメインが無効になるため、定期的に更新することで防止できます。

5.「ダイナミックDNS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「ダイナミックDNS設定」**

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)

※[ダイナミックDNS設定(1)]項目と[ダイナミックDNS設定(2)]項目は、個別に設定できます。
※[ダイナミックDNS設定(1)]項目の画面を使用して説明しています。

③登録するIPアドレス …　ダイナミックDNSサーバに登録するIPアドレスを、本製品の「WAN側IPアドレス」、または「LOCAL(LAN)側IPアドレス」から選択します。
(出荷時の設定：WAN)
「LOCAL」に設定すると、本製品を再起動したときにIPアドレスを更新します。

④ダイナミックDNSサーバ　ダイナミックDNSサーバを選択します。　(出荷時の設定：設定なし)
本製品では、下記のサーバをダイナミックDNSサーバとしてご利用になれます。
◎ieServer
◎Dynamic DO!.jp
◎Zenno.Com
◎Earth Dynamic System
◎DynDNS.org(英語)

⑤ホスト名 ……　ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したホスト名を半角31文字以内で入力します。

⑥ドメイン ……　ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したドメインを半角31文字以内で入力します。

⑦ユーザID ……　ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのユーザーIDを半角31文字以内で入力します。

5.「ダイナミックDNS設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「ダイナミックDNS設定」**

■ダイナミックDNS設定(1)/(2)

※[ダイナミックDNS設定(1)]項目と[ダイナミックDNS設定(2)]項目は、個別に設定できます。
※[ダイナミックDNS設定(1)]項目の画面を使用して説明しています。

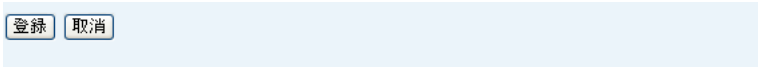
⑧パスワード ……　ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのパスワードを半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「＊(アスタリスク)」または「●(黒丸)」で表示されます。

⑨接続状態 ……　メンテナンスなどで、本製品を一時的に使用しない場合に、あらかじめ、ご利用になるダイナミックDNSサーバへ「オフライン」であることを通知するときに使用します。　(出荷時の設定：オンライン)
※ダイナミックDNSサーバとして、「Earth Dynamic System」および「DynDNS.org」をご利用の場合は無効になります。

6.「位置情報通知設定」画面

「システム設定」ー**「位置情報通知設定」**

本製品の設置場所と情報通知するための設定画面です。



〈登録〉……　「位置情報通知設定」で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉……　「位置情報通知設定」の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■位置情報通知設定

本製品に登録した対応端末の情報を取得するための設定です。

※「電話設定」メニューの「位置情報設定」画面で、端末ごとにMACアドレスの登録が必要です。

①設置場所……　本製品を設置している場所について、任意の半角63文字(全角31文字)以内で設定します。
「情報表示」メニュー→「簡易サーバ情報」画面で、対応端末が接続している無線アクセスポイントとして表示されます。

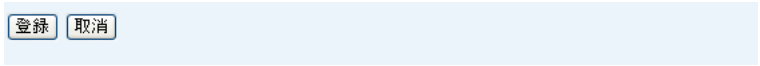
②自動プレゼンス切替…　本製品を設置している場所での在席状況を設定します。
(出荷時の設定：使用しない)
※対応端末側が「オンライン」のとき、「設置場所」を設定した無線アクセスポイントの圏内に移動すると、プレゼンスを切り替えます。

③ホストアドレス……　位置情報通知機能対応の弊社製無線ルータや弊社製無線アクセスポイントのIPアドレスを入力します。

7.「WEBページ設定」画面

「システム設定」ー**「WEBページ設定」**

対応端末からアクセスするWEBページについての設定画面です。

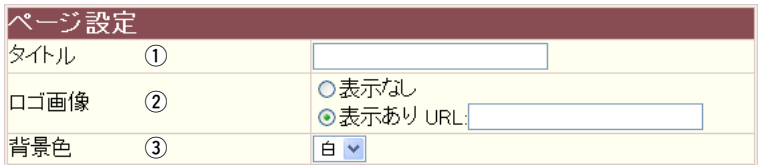


〈登録〉…… 「WEBページ設定」で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉…… 「WEBページ設定」の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

■ページ設定

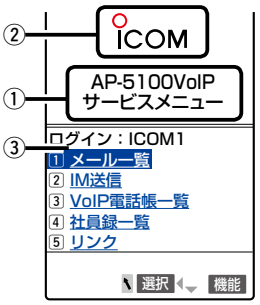
対応端末からアクセスする本製品のページについての設定です。



①タイトル …… アクセスしたときに表示されるトップページのタイトルを設定します。
設定しない(空白)のときは、右図のように表示します。

②ロゴ画像 …… アクセスしたときに表示されるトップページのロゴ画像を設定します。
◎表示なし
画像を表示しません。
◎表示あり/URL指定なし(空白)
弊社のロゴを右図のように表示します。
◎表示あり/URL指定あり
(設定例) http://192.168.0.1/logo.gif
画像のURLを設定すると、任意の画像を表示できます。
※URLは、「http://」を含めて設定してください。

③背景色 …… アクセスするページの背景色を「白、青、黄、緑、桃」から設定できます。
(出荷時の設定：白)



※上記は、対応端末のWLANブラウザから本製品にアクセスしたときの表示例です。

7 「WEBページ設定」画面　　「ネットワーク設定」ー**「WEBページ設定」**

■リンク設定

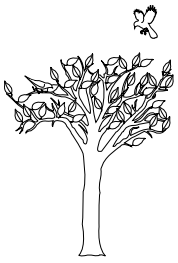
対応端末からアクセスする本製品のページにリンクを作成する設定です。

①リンク1～4 ……　リンク先の名称とURLを設定します。

②名称 ……　リンク先に設定するURLについて、任意の名称を設定します。
入力は、半角63(全角31)文字までです。
※設定しないと、右図のように「リンク」画面を選択したとき、リンク先が表示されません。

③URL ……　リンク先のURLを設定します。
入力は、半角127文字までです。

※上記は、対応端末のWLANブラウザから本製品にアクセスしたときの表示例です。



第 8 章

「情報表示」メニュー

この章では、
「情報表示」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「電話通信記録」画面 ……230
2.「通信記録」画面 ……230
3.「ネットワーク情報」画面 ……230
■ 電話通信記録 ……230
■ 通信記録 ……230
■ ネットワークインターフェースリスト ……230
■ ブリッジポート情報 ……231
■ 本体MACアドレス ……231
4.「UPnP情報」画面 ……232
■ UPnP IGD情報 ……232
■ UPnP IGD ポートマッピングテーブル ……232
5.「簡易サーバ情報」画面 ……233
■ 子機内線情報表示 ……233

8 「情報表示」メニュー

1.「電話通信記録」画面

「情報表示」ー**「電話通信記録」**

加入電話およびIP電話の発信と着信履歴を表示する画面です。

■電話通信記録

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。

電話通信記録 クリア	
日付・時間	通信記録
02/23 18:20:56	[REGISTER] 端末登録 : 2000

※上図は、表示例です。

2.「通信記録」画面

「情報表示」ー**「通信記録」**

WAN側回線の通信記録を表示する画面です。

■通信記録

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。

通信記録 クリア	
日付・時間	通信記録
09/11 11:42:47	DHCPC:BIND (My Address [xxx.xxx.xxx.xxx] : GW Address [xxx.xxx.xxx.xxx])
	Lease 1 day Lease 24 hour : Primary DNS [xxx.xxx.xxx.xxx]
09/11 11:42:39	DHCPC:RELEASE success
01/01 00:00:05	DHCPC:BIND (My Address [xxx.xxx.xxx.xxx] : GW Address [xxx.xxx.xxx.xxx])
	Lease 1 day Lease 24 hour : Primary DNS [xxx.xxx.xxx.xxx]

【不正アクセス検知時の通信記録表示例】

通信記録 クリア	
日付・時間	通信記録
12/11 11:36:17	TCP Syn Flooding: 172.20.252.210->172.20.101.51 TCP[6]:src=1784,dst=80
01/01 03:35:44	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.101.51 TCP[6]:src=2460,dst=80
01/01 03:34:00	DHCPC:RELEASE success
01/01 03:29:16	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]:src=2178,dst=80
01/01 03:28:25	TCP Syn Flooding: 172.20.252.210->172.20.252.94 TCP[6]:src=1464,dst=80

※上図は、表示例です。

3.「ネットワーク情報」画面

「情報表示」ー**「ネットワーク情報」**

ネットワークインターフェースリストと本体MACアドレスを表示する画面です。

■ネットワークインターフェースリスト

本製品のインターフェースに対する[IPアドレス]と[サブネットマスク]を表示します。

ネットワーク インターフェース リスト		
インターフェース	IPアドレス	サブネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

※回線種別が「PPPoE」/「PPPoE複数固定IP」設定時、[wan]インターフェースについては回線に接続されるまで表示されません。

3.「ネットワーク情報」画面　　「情報表示」ー**「ネットワーク情報」**

■ブリッジポート情報

本製品のポートごとに、ブリッジ通信の状況とパケットの数を表示します。

ブリッジポート情報			
ポート		通信情報	
Ethernet	①	状況	通信中
		送信パケット数	51
		受信パケット数	55
IEEE802.11g	②	状況	通信中
		送信パケット数	2
		受信パケット数	0
IEEE802.11a	③	状況	通信中
		送信パケット数	2
		受信パケット数	0
IEEE802.11a (XR)	④	状況	通信中
		送信パケット数	2
		受信パケット数	0
IEEE802.11g (XR)	⑤	状況	通信中
		送信パケット数	2
		受信パケット数	0

①Ethernet …… [LAN]ポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

②IEEE802.11g …… 本製品に内蔵された2.4GHz帯の無線LANカードの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

③IEEE802.11a …… 本製品に内蔵された5.2GHz/5.3GHz帯無線LANカードの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

④IEEE802.11a(XR) … [IEEE802.11a]規格の画面でXR機能(→5-2章)を有効にすると、XRでの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。
※「IEEE802.11g(XR)」を表示したときは、[IEEE802.11g]規格の画面でXR機能を有効にした場合です。

⑤Wireless Bridge …… (相手のBSSID) 無線AP間通信の相手を本製品に登録(→5-7章)したとき、登録された相手ごとに、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

■本体MACアドレス

本製品のMACアドレスを表示します。

本体MACアドレス
00-90-C7-[redacted]

本製品の底面パネルに貼られているシリアルシールにも、MACアドレスを12桁で記載しています。

4.「UPnP情報」画面

「情報表示」ー**「UPnP情報」**

UPnPデバイス機能について表示する画面です。

■UPnP IGD情報

UPnPデバイス機能の動作状況を表示します。

UPnP IGD情報	
動作状況	動作停止中

動作状況…… UPnPデバイス機能の動作状況を「動作中」/「動作停止中」で表示します。

■UPnP IGD ポートマッピングテーブル

UPnPデバイス機能のポートマッピングテーブルの内容を一覧表示します。

UPnP IGD ポートマッピングテーブル				
ホストIP ①	WAN側ポート ②	ローカルIP ③	LAN側ポート ④	プロトコル ⑤

①ホストIP …… リモートホストのIPアドレスを表示します。
リモートホストが指定されていない場合は、「*」を表示します。

②WAN側ポート …… WAN側のポート番号を表示します。

③ローカルIP …… ローカルホストのIPアドレスを表示します。

④LAN側ポート …… LAN側のポート番号を表示します。

⑤プロトコル …… プロトコルを表示します。

5.「簡易サーバ情報」画面

「情報表示」ー**「簡易サーバ情報」**

本機の簡易中継サーバに接続している端末のIPアドレスやプレゼンス、位置情報を表示します。

■子機内線情報表示

簡易中継サーバに接続している子機ごとにIPアドレスとプレゼンスを表示します。
※プレゼンス状態や設置場所情報の更新には10分ほど掛かる場合があります。

子機内線情報表示

	①名前	②内線番号	③アドレス	④プレゼンス	⑤位置
01	1000	1000		オフライン	
02	2000	2000	192.168.0.106	オンライン	会議室
03	3000	3000		オフライン	
04	4000	4000		オフライン	
05	5000	5000	192.168.0.14	オンライン	

※上記は、位置情報通知機能による表示例です。

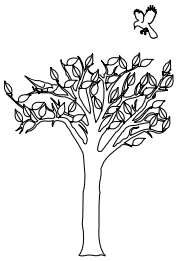
①名前 …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[子機内線設定]項目に登録された名前を表示します。

②内線番号 …… 「内線設定」メニュー→「子機内線設定」画面の[子機内線設定]項目に登録された内線番号を表示します。

③アドレス …… 登録されているSIPサーバに接続しているとき、使用しているIPアドレスを表示します。

④プレゼンス …… 本製品の子機として登録された端末の使用状況を表示します。
※プレゼンス機能について、詳しくは対応する端末に付属の取扱説明書をご覧ください。

⑤位置 …… 接続している無線アクセスポイント(設置場所)を表示します。
※位置情報通知機能をご利用になる場合は、対応する弊社製無線アクセスポイントおよび弊社製VoIP機器が別途必要になります。



第 9 章

「メンテナンス」メニュー

この章では、
「メンテナンス」メニューで表示される設定画面について説明します。

1.「ファームウェアの更新」画面 ……236
■ ファームウェアオンライン更新 ……236
■ ファームウェアファイルを指定 ……236
2.「設定初期化」画面 ……237
■ 設定初期化 ……237
3.「設定保存」画面 ……238
■ 設定の保存と書き込み ……238
■ 現在の設定の確認 ……239

9 「メンテナンス」メニュー

1.「ファームウェアの更新」画面

「メンテナンス」ー**「ファームウェアの更新」**

ファームウェアを更新する画面です。

■ファームウェアオンライン更新

ファームウェアをオンラインでバージョンアップします。

〈表示〉をクリックすると、ファームウェアサーバに接続します。
接続に成功すると、最新のファームウェア情報を表示します。
※詳しくは、本製品の取扱説明書[導入編]をご覧ください。

■ファームウェアファイルを指定

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップします。

①パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を、[ファームウェアファイルを指定]項目のテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉をクリックして、指定します。
②〈書き込み〉をクリックします。
更新を開始すると、「ファームウェア更新中」と表示されます。

【バージョンアップについてのご注意】
◎書き込み中は絶対に本製品の電源を切らないようにしてください。
◎現在ご利用の事業者と異なるファームウェアは使用できません。
◎バージョンアップ後、既存の設定内容が初期化されるファームウェアファイルがありますので、ダウンロードのときは、弊社ホームページに記載の内容をご確認ください。
※詳しくは、本製品の取扱説明書[導入編]をご覧ください。

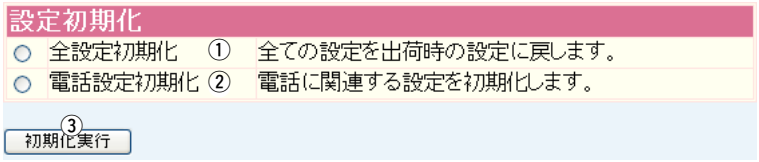
2.「設定初期化」画面

「メンテナンス」ー**「設定初期化」**

本製品の設定内容を出荷時の状態に戻す画面です。

■設定初期化

選択した初期化条件で、本製品の設定内容を初期化します。



①全設定初期化 …… 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

②電話設定初期化 …… 電話関連(外線/内線/多機能電話)の設定メニューで設定した内容だけを出荷時の状態に戻します。
※本製品に登録された電話帳(VoIP電話帳/多機能電話電話帳)も出荷時と同じ状態になります。

③〈初期化実行〉 …… 選択された初期化条件にしたがって、初期化します。

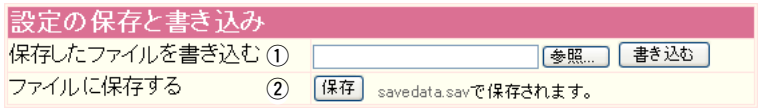
3.「設定保存」画面

「メンテナンス」ー**「設定保存」**

本製品の設定内容を保存する画面です。

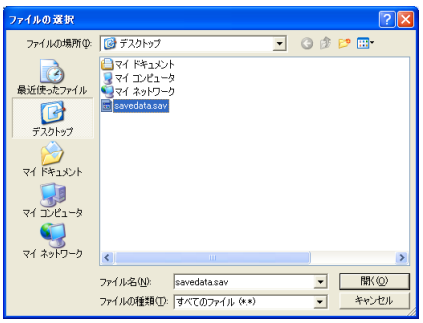
■設定の保存と書き込み

本製品の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルを本製品に書き込んだりします。
※書き込みには数分かかる場合があります。



①保存したファイルを書き込む ……

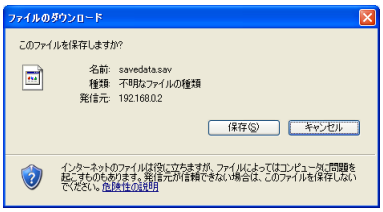
[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した設定ファイル(拡張子：.sav)内容を本製品に書き込むとき使用します。
設定ファイルの保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉をクリックします。
〈参照...〉をクリックした場合、右の画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックします。
テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込む〉をクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。



※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

②ファイルに保存する …

本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
[設定の保存と書き込み]項目で〈保存〉をクリックすると表示される右の画面から〈保存(S)〉をクリックすると、設定ファイルを保存できます。
設定ファイルのファイル形式(拡張子)は、「.sav」です。
保存したファイルは、[保存したファイルを書き込む](①)欄の操作で、本製品に書き込みできます。

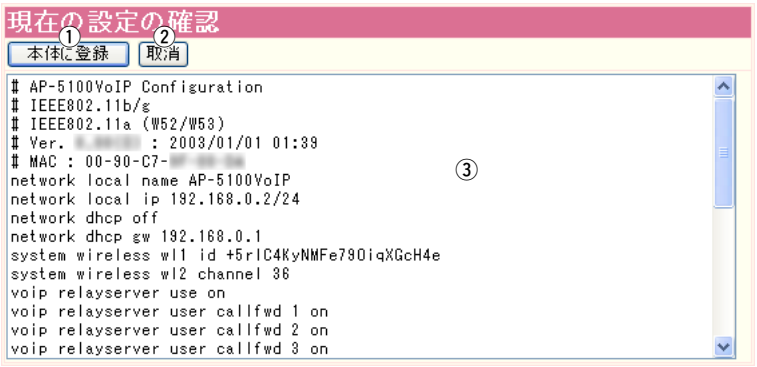


※「外線設定」メニューの「VoIP電話帳」画面や「多機能電話電話帳」画面に登録された内容についても保存されます。

3.「設定保存」画面　　「メンテナンス」ー**「設定保存」**

■現在の設定の確認

現在の基本的な設定と変更されている設定を表示します。

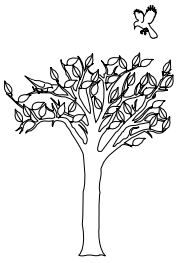


①**〈本体に登録〉** …… 「内容表示」(③)部に表示された内容を、本製品に書き込みます。
※[設定の保存と書き込む]項目の〈保存〉をクリックして保存した設定ファイル(拡張子：.sav)は、このボタンを使用して書き込みできません。

②**〈取消〉** …… 「内容表示」(③)部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③**「内容表示」部** …… 基本的な設定と初期値から変更された設定を表示します。
この画面内容をパソコンに保存するときは、[設定の保存と書き込み]項目を使用してください。
※各画面で設定されたパスワードやキージェネレーター(無線通信用暗号鍵の生成元文字列)の内容を暗号化して表示します。
そのため、保存された設定ファイルをテキストエディタなどで開いて、パスワードなどを確認することはできません。

【設定ファイルの書き込みについて】
保存した設定ファイルは、その機器固有のものとなります。
保存した設定ファイルを別のAP-5100VoIPに書き込みするとき、パスワードなどを設定しなおす必要がありますのでご注意ください。



ご参考に

第 10 章

この章では、
Telnetや [CONSOLE]ポートを使用した接続と簡易中継サーバの使いかたについて説明します。

1.複数固定IPアドレスサービスを使うには ……242
■ グローバル固定IPアドレスの使いかた ……242
2.Telnetによる接続 ……243
■ Windows 2000/XPの場合 ……243
■ Windows 98/98 SE/Meの場合……243
■ [CONSOLE]ポートを使用する ……244
■ オンラインヘルプ ……244
3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定 ……245
■ Windows Vistaをクライアントに使用する場合 ……245
■ Windows XPをクライアントに使用する場合 ……250
■ Windows 2000をクライアントに使用する場合 ……255
■ Windows Meをクライアントに使用する場合 ……259
4.NTTフレッツ・スクウェアに接続するには……266
■ NTT東日本でご契約の場合……266
■ NTT西日本でご契約の場合……267
5.Web公開の設定例 ……268
1. WWWサーバの設定 ……268
2. Web公開の設定……268
3. IPフィルターの設定 ……269
6.簡易中継サーバの使いかた ……270
■ 簡易中継サーバ機能使用時の制限事項について ……272
7.通信中着信の使いかた ……275
8.通信中発信の使いかた ……277
9.通信中転送の使いかた ……279
10. 着信転送の使いかた ……281
11. 設定画面の構成/初期値一覧 ……282

10 ご参考に

1. 複数固定IPアドレスサービスを使うには

ご契約の回線接続業者またはプロバイダーが、「複数固定IPアドレスサービス」を提供している場合、このサービスをご契約になると、回線接続業者またはプロバイダーから、利用可能な複数のグローバル固定IPアドレスを指定されます。
これらのグローバル固定IPアドレスは、本製品の動作モードを「PPPoE複数固定IP」(→6章)に変更することで、本製品のEthernetケーブルに接続されたパソコン(LAN側)に直接設定して利用できます。
また、本製品のDHCPサーバ機能などで、自動割り当てされたプライベートアドレスのパソコンと混在した環境でご利用いただけます。

■グローバル固定IPアドレスの使いかた

ご契約の回線接続業者またはプロバイダーから、8個のグローバル固定IPアドレスを指定された場合を例として、その使いかたを説明します。

◎割り当てられた指定の8個　：172.16.0.48 ～172.16.0.55
◎サブネットマスク　　：255.255.255.248
◎ネットワークIPアドレス　：172.16.0.48(使用できません)
◎ブロードキャストアドレス：172.16.0.55(使用できません)
◎172.16.0.49(WAN側IPアドレスとして本製品に設定)
◎172.16.0.50(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.51(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.52(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.53(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.54(本製品に接続するパソコンに使用可能)

※指定以外のグローバルIPアドレスを使用することはできません。
また、連続で指定された複数のグローバル固定IPアドレスのうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)は、ネットワーク上でホストに割り当てて使用できない規則になっています。

2. Telnetによる接続

Telnetでの接続について説明します。
ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■Windows 2000/XPの場合

① Windowsを起動します。
② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
③ Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
④ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面(→7章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんので、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
⑤ ログインメッセージ(Welcome to AP-5100VoIP!)が表示されます。

■Windows 98/98 SE/Meの場合

① Windowsを起動します。
② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
③ Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
④ [接続]ダイアログボックスが表示されます。
ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、〈接続(C)〉をクリックします。
ホスト名　　：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
ポート　　：telnet(23)
ターミナルの種類　：vt100
⑤ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面(→7章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんので、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
⑥ ログインメッセージ(Welcome to AP-5100VoIP!)が表示されます。

Windows Vistaをご使用の場合は
「コントロールパネル」→「プログラム」→「Windows の機能の有効化または無効化」から、[Telnetクライアント]を有効にすると、上記の「Windows XP/2000の場合」と同じ手順で使用できます。

2. Telnetによる接続

■ [CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[COM]ポートを弊社別売品のケーブル(OPC-1402)で接続すると、ターミナルソフトから設定できます。
パソコンの[COM]ポートは、下記の値に設定すると使用できます。

[接続方法]の選択 ：OPC-1402を接続している[COM]ポートの番号を指定します。
通信速度 ：115200(ビット/秒)
データビット ：8
パリティ ：なし
ストップビット ：1
フロー制御 ：なし
※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「AP-5100VoIP #」と表示されます。

■ オンラインヘルプ

オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

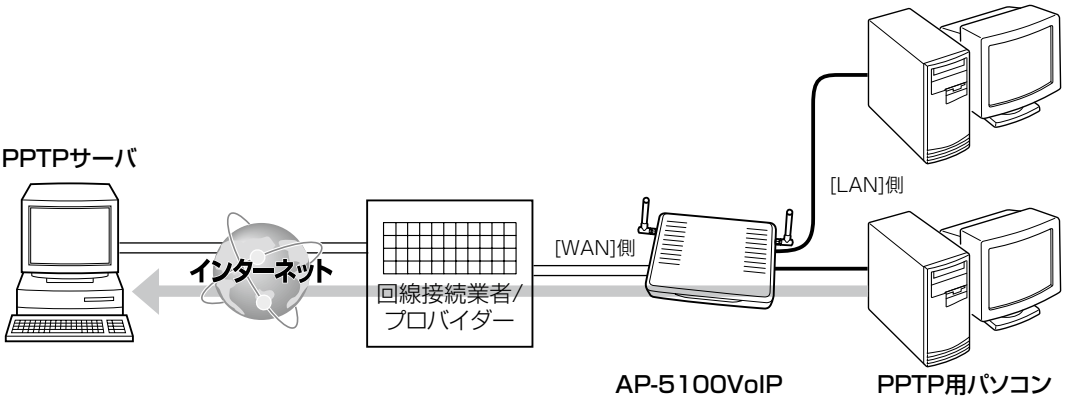
◎ コマンド一覧　[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

◎ コマンドヘルプ　コマンドの意味を知りたいときは、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

◎ コマンド名の補完　コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字に続くコマンドが1つしかないときは、コマンド名を最後まで補完します。
例) cl[Tab]→clear
複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。
さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。
例) r[Tab]→re
re[Tab]→restart remote
res[Tab]→restart

3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Vistaをクライアントに使用する場合



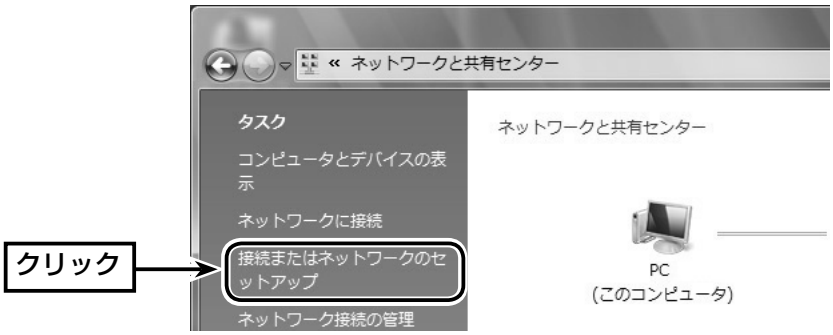
〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

◎Windows Vistaの場合

〈設定の手順〉

①設定に使用するパソコンを起動します。
②「ログオン」画面が表示されたら、管理者のユーザー名でログオンします。
③起動したら、マウスを〈スタート〉(ロゴボタン)→[コントロールパネル]の順に操作します。
④コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット]をクリックし、表示された画面で[ネットワークと共有センター]をクリックします。
⑤タスク欄の[接続またはネットワークのセットアップ]をクリックします。



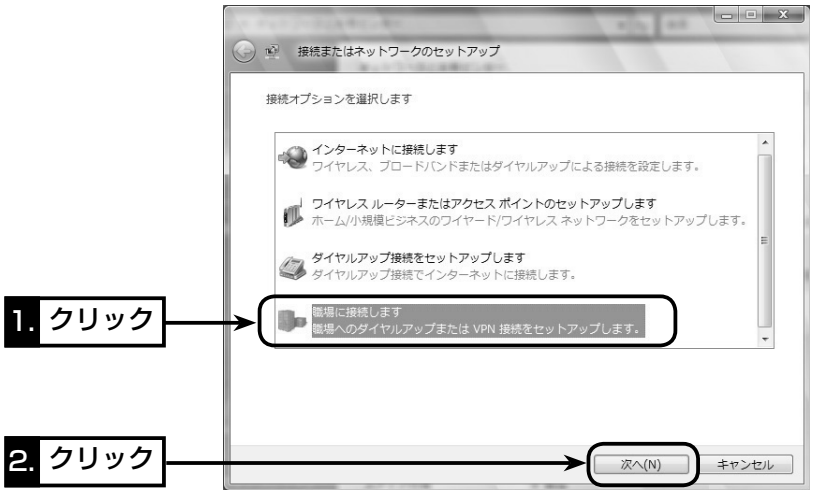
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Vistaをクライアントに使用する場合

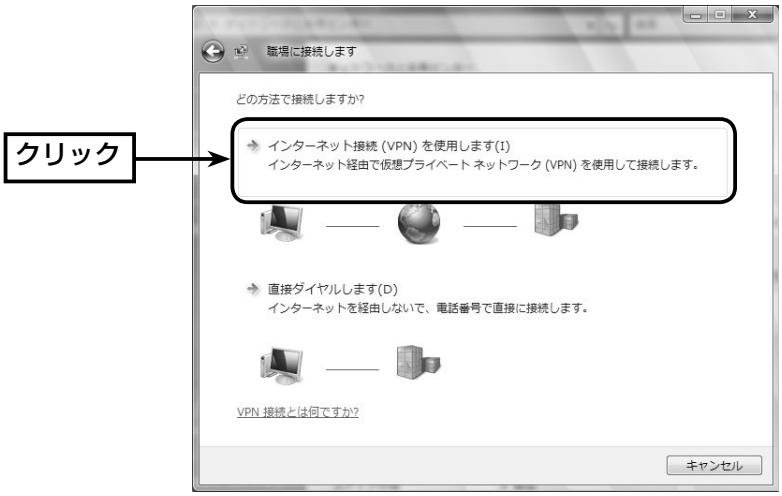
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Vistaの場合

⑥[職場に接続します]をクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



⑦[インターネット接続(VPN)を使用します(I)]をクリックします。

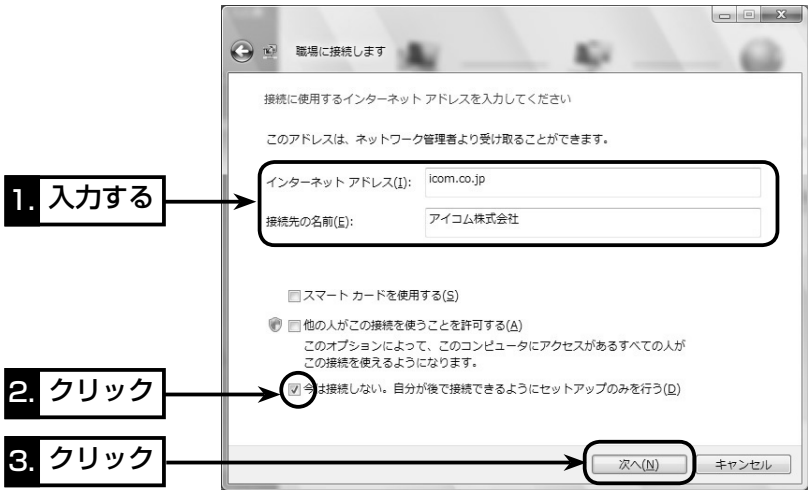


3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Vistaをクライアントに使用する場合

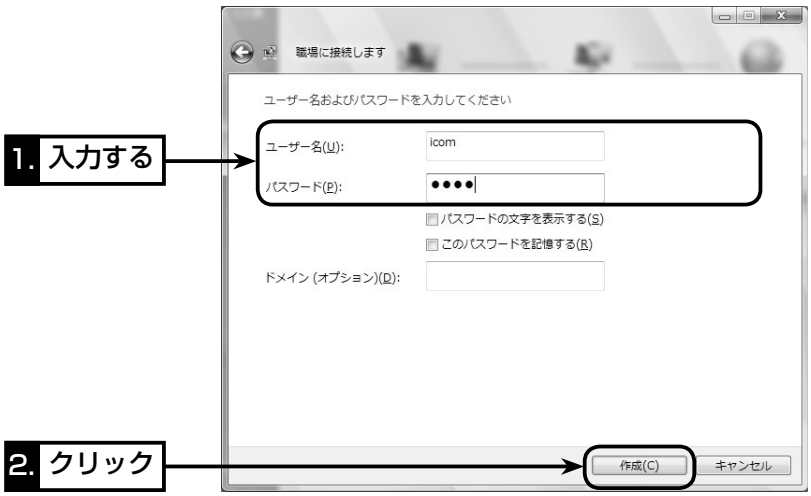
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Vistaの場合

⑧ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名またはIPアドレスを[インターネットアドレス(I):]のテキストボックスに入力して、[今は接続しない。自分が後で接続できるようにセットアップのみを行う(D)]のチェックボックスをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



※必要に応じて、接続先の名前を入力してください。

⑨PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈作成(C)〉をクリックします。

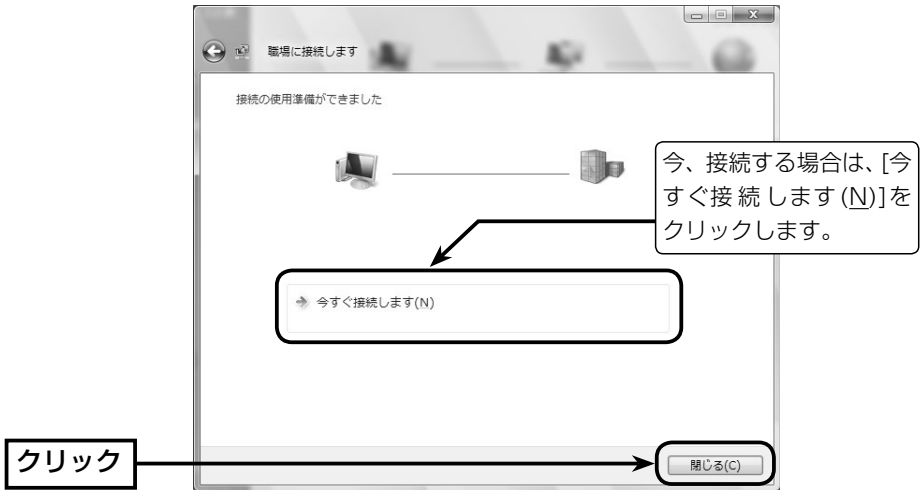


3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Vistaをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Vistaの場合

⑩〈閉じる(C)〉をクリックします。



※上記画面で〈閉じる(C)〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Vistaをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Vistaの場合

〈設定後、接続するには〉

①〈スタート〉(ロゴボタン)→[コントロールパネル]の順に操作します。

②コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット]をクリックし、表示された画面で[ネットワークと共有センター]をクリックします。

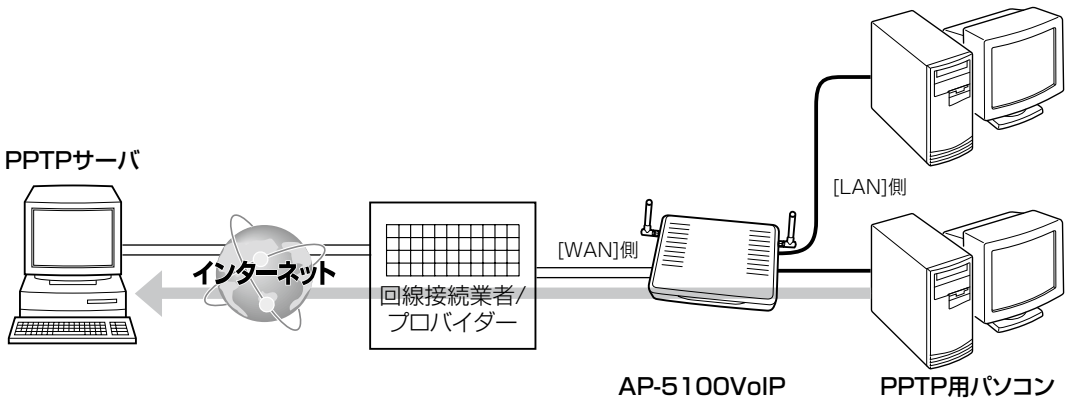
③タスク欄の[ネットワーク接続の管理]をクリックします。

④仮想プライベートネットワークにあるアイコンをクリックします。

⑤PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。

3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合



〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉

①設定に使用するパソコンを起動します。

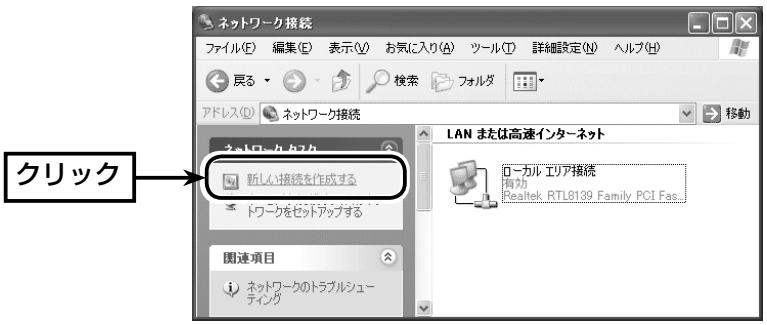
②「ログオン」画面が表示されたら、管理者のユーザー名でログオンします。

③起動したら、マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。

④コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

⑤[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。

⑥[新しい接続を作成する]をクリックします。



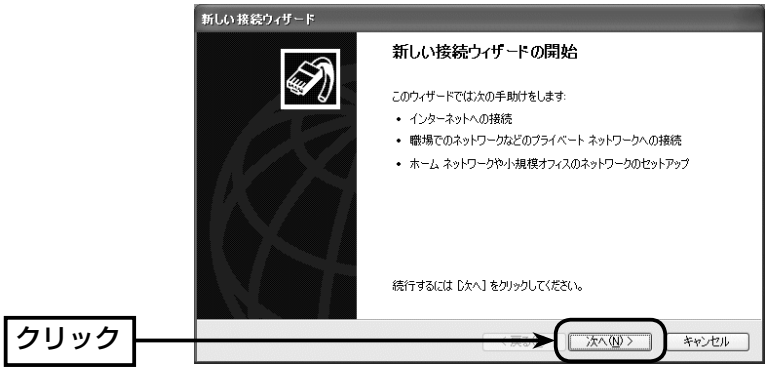
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

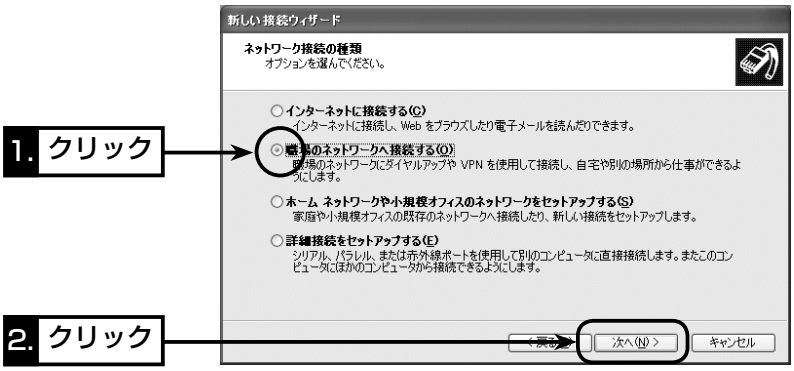
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

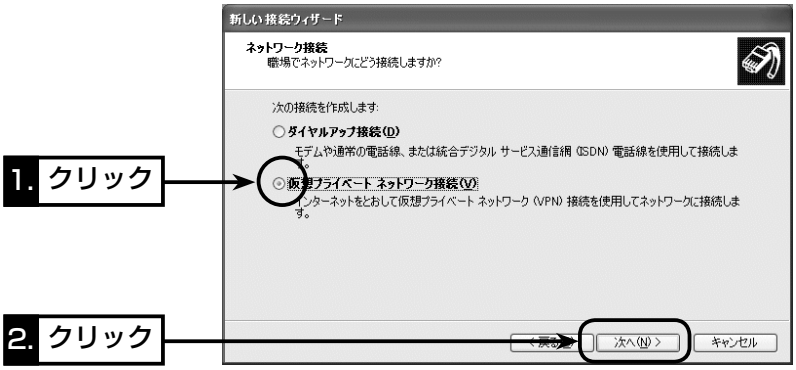
⑦〈次へ(N)〉をクリックします。



⑧[職場のネットワークへ接続する(O)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



⑨[仮想プライベートネットワーク接続(V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



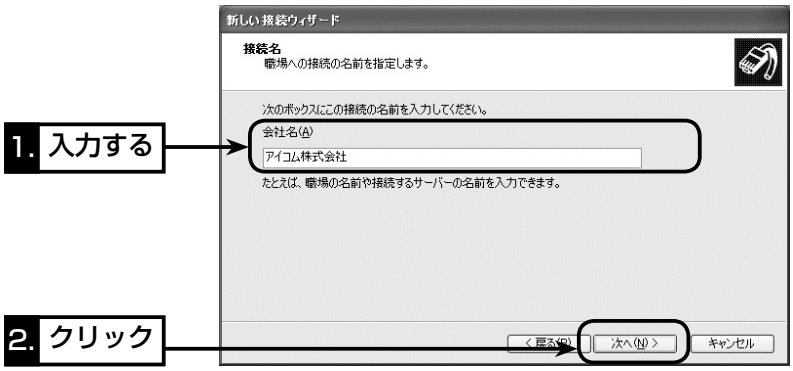
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

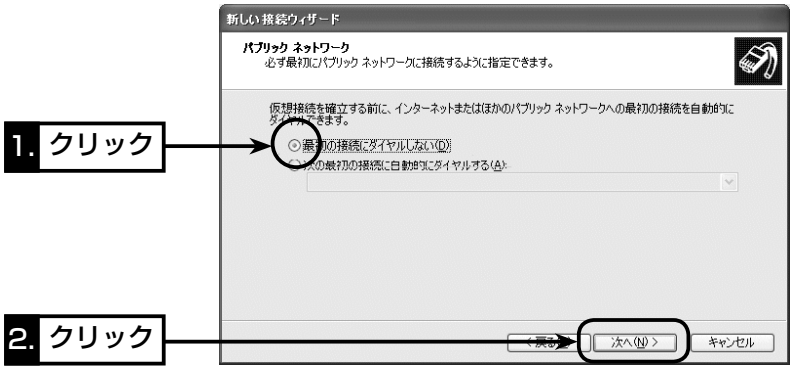
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

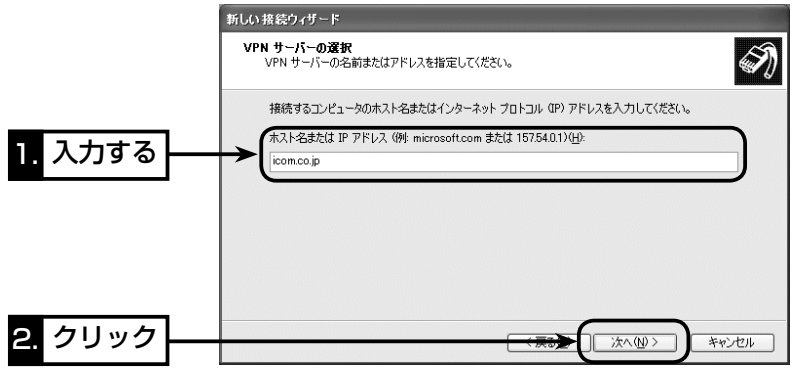
⑩接続先名を[会社名(A)]のテキストボックスに入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



⑪次の画面が表示されたときは、[最初の接続にダイヤルしない(D)]をクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



⑫ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



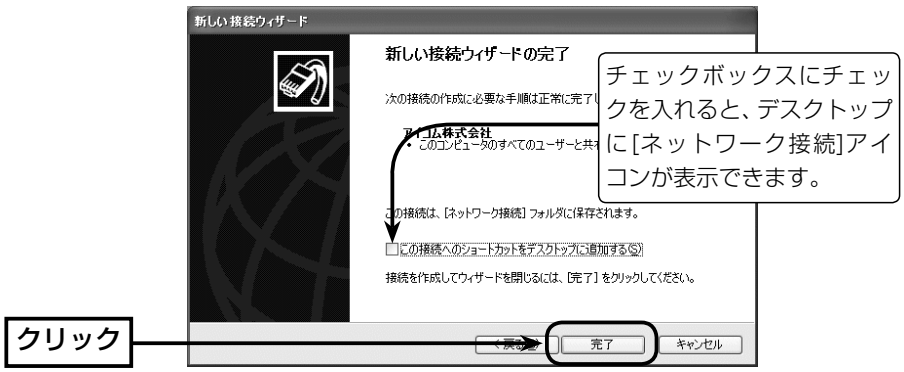
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

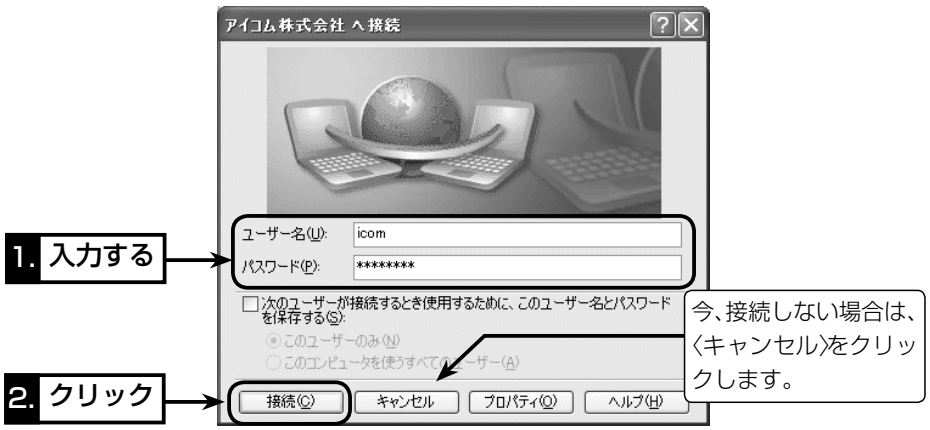
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

⑬〈完了〉をクリックします。



⑭PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

〈設定後、接続するには〉

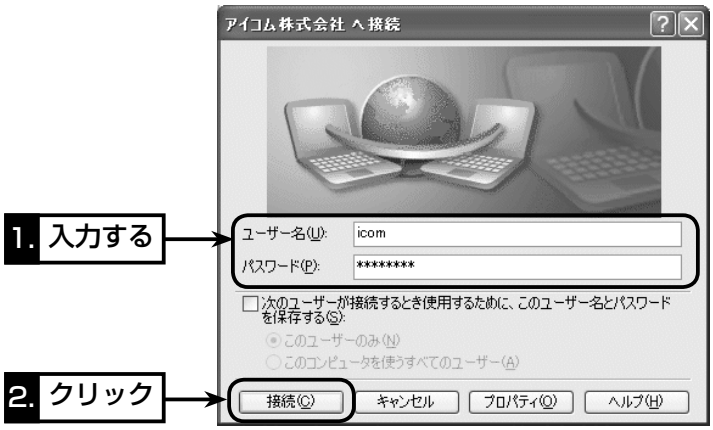
①〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。

②コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

③[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。

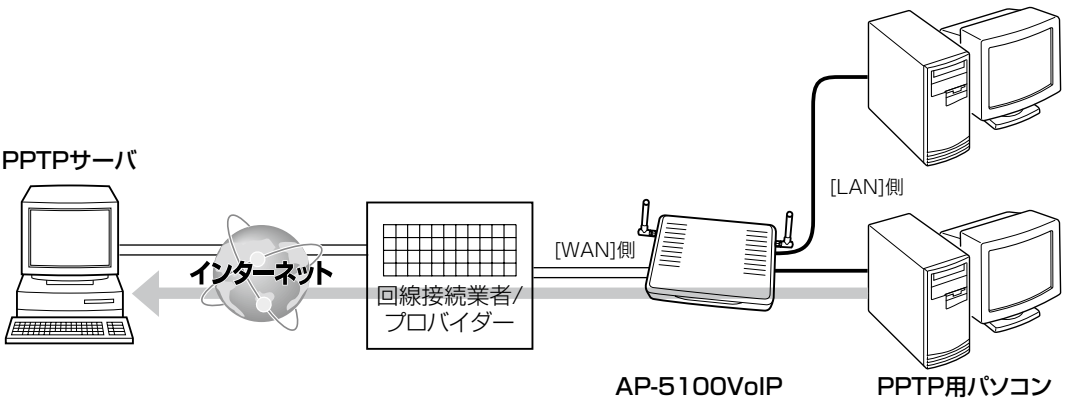
④仮想プライベートネットワークにあるアイコンをクリックします。

⑤PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows 2000をクライアントに使用する場合



〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

◎Windows 2000の場合

〈設定の手順〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続の作成]をクリックします。

②〈次へ(N)〉をクリックします。

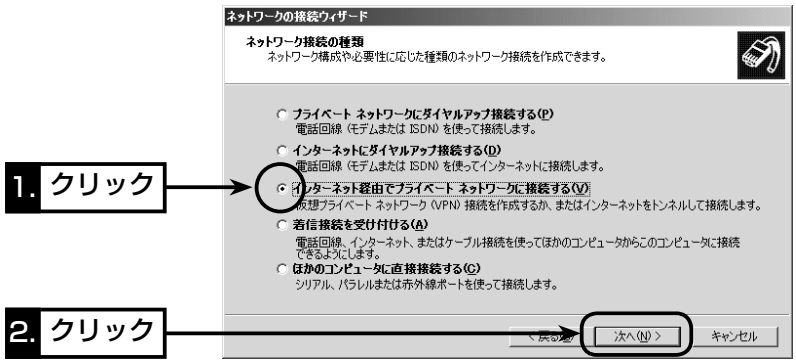
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows 2000をクライアントに使用する場合

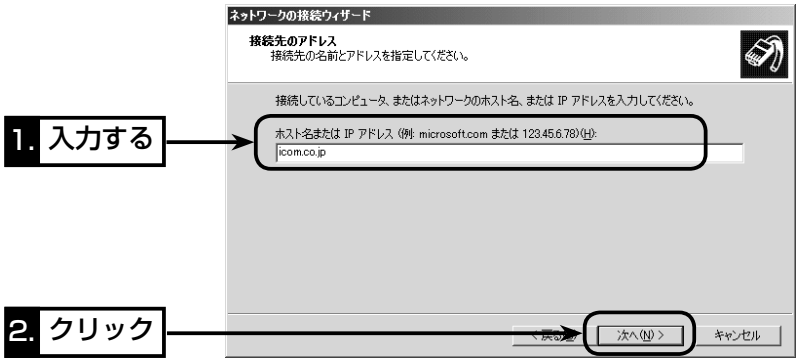
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows 2000の場合

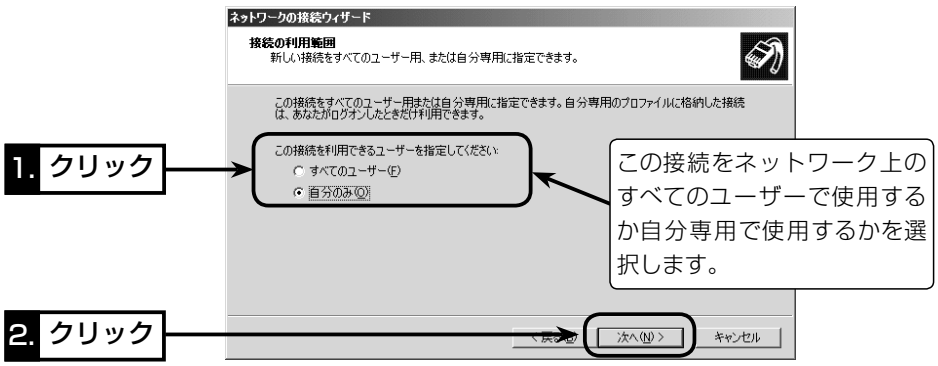
③[インターネット経由でプライベートネットワークに接続する(V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。



④ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。



⑤使用目的に該当する(例：自分のみ(C))ラジオボタンをクリックしてから、〈次へ(N)〉をクリックします。



3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows 2000の場合

⑥あとでわかるように、任意で接続先名を入力して、〈完了〉をクリックします。

⑦PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。

※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows 2000をクライアントに使用する場合

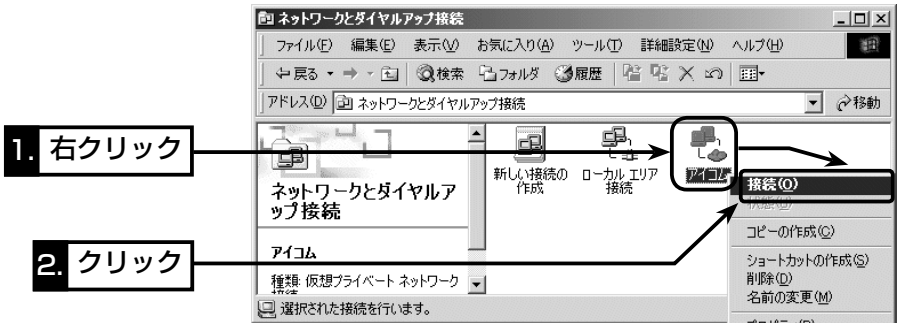
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows 2000の場合

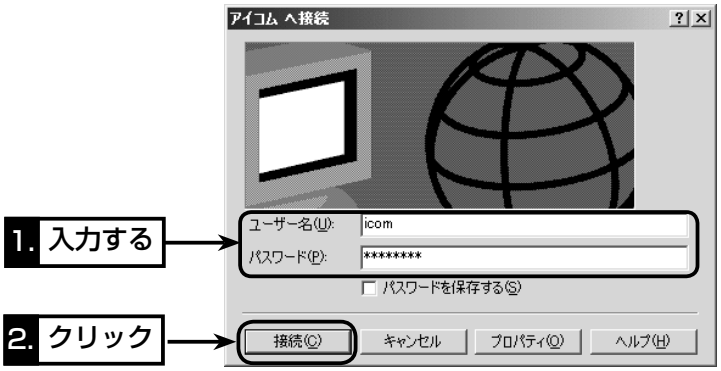
〈設定後、接続するには〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作します。

②新しく作成されたアイコンを右クリックして、[接続(C)]をクリックします。

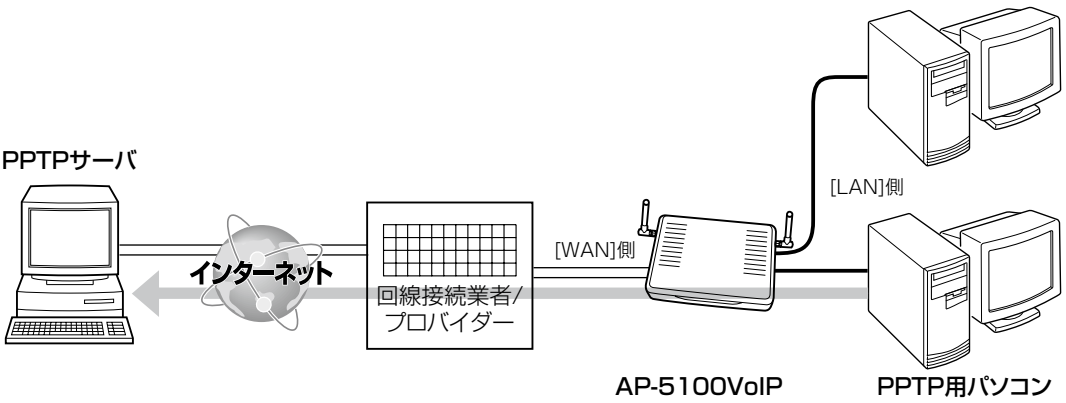


③PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。



3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合



〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]の順番に操作します。

②[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。

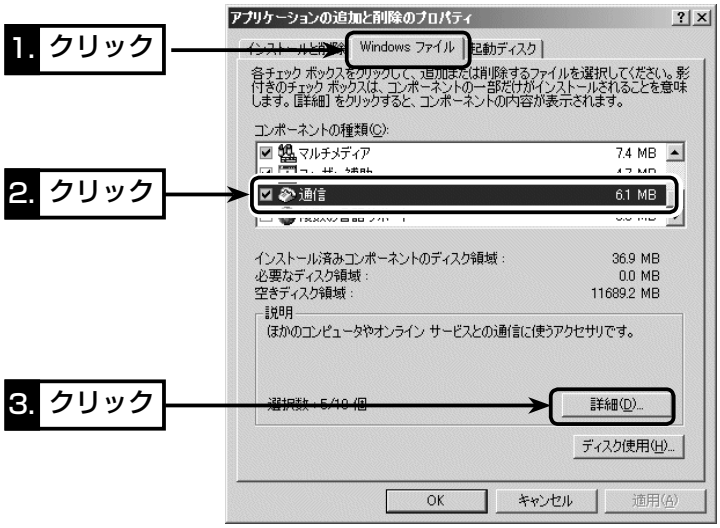
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

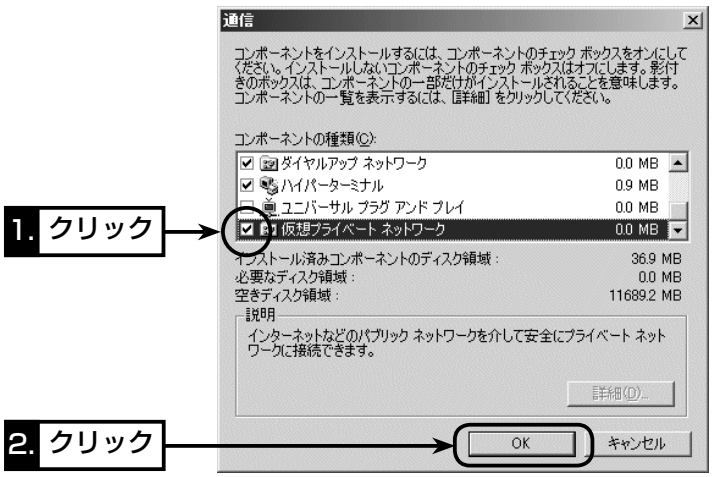
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

③[Windows ファイル]タブ→[通信]→〈詳細(D)〉の順にクリックします。



④[仮想プライベートネットワーク]のチェックボックスにチェックを入れてから、〈OK〉をクリックします。



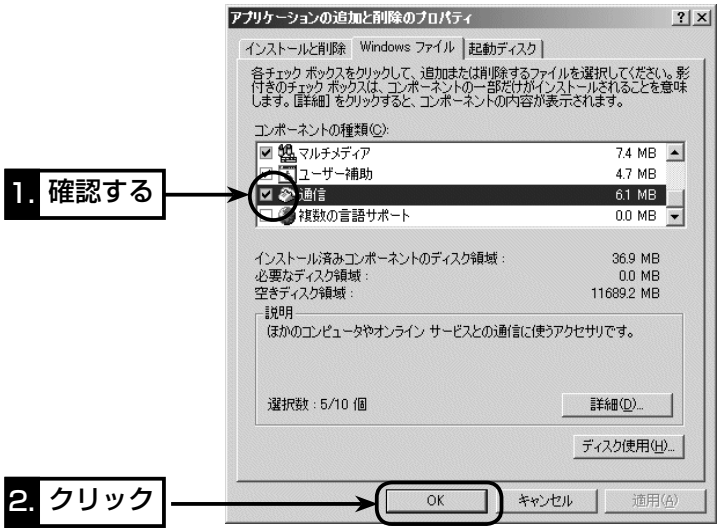
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

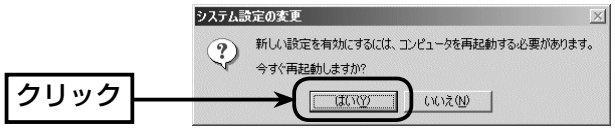
◎Windows Meの場合

⑤[通信]にチェックマークが入っていることを確認して、〈OK〉をクリックします。

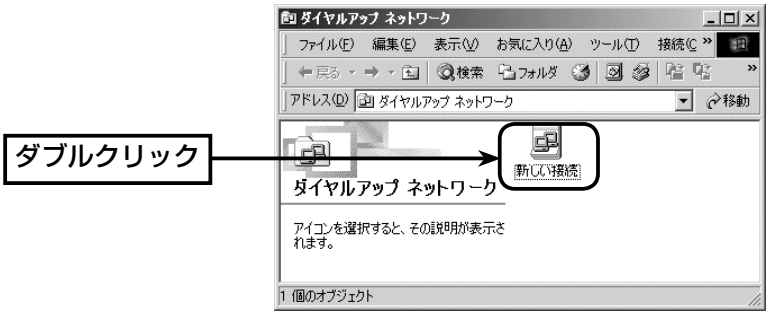


⑥〈はい(Y)〉をクリックします。

・パソコンが再起動します。



⑦マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続]をダブルクリックします。

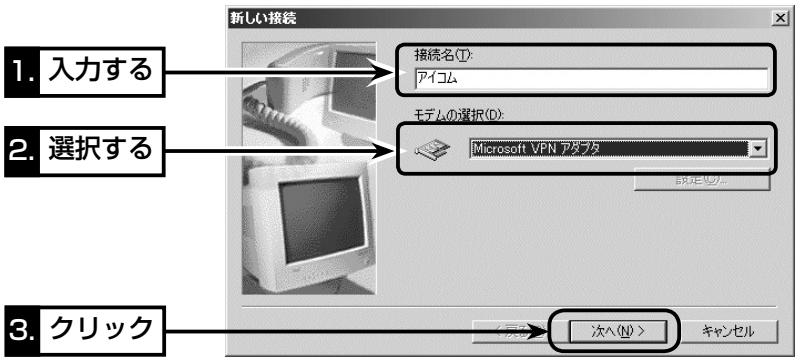


3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

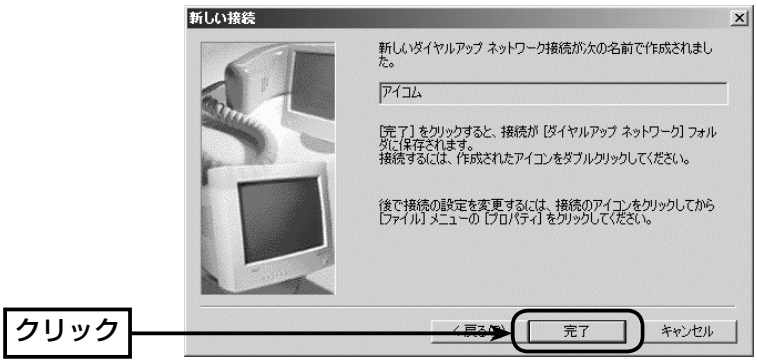
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Meの場合

⑧[接続名(T)]には、あとでわかるように、任意で接続先名を入力します。
⑨[モデムの選択(D)]から、「Microsoft VPN アダプタ」を選択して、〈次へ(N)〉をクリックします。



⑩ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑪〈完了〉をクリックします。



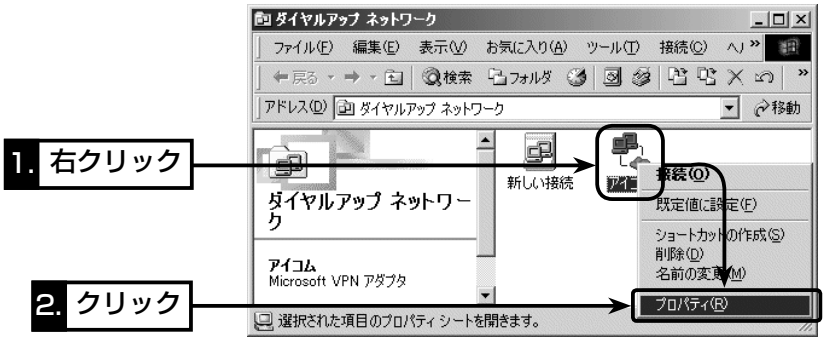
3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

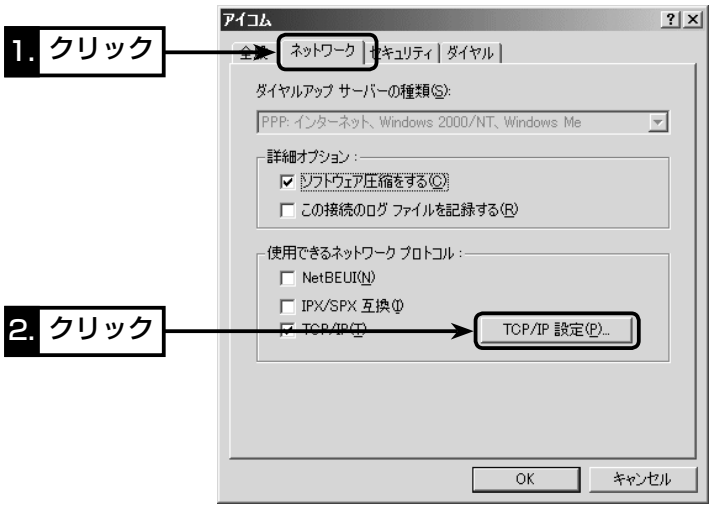
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

⑫新しく作成されたアイコンを右クリックして、[プロパティ(R)]をクリックします。



⑬[ネットワーク]タブ→〈TCP/IP 設定(P)...〉の順にクリックします。

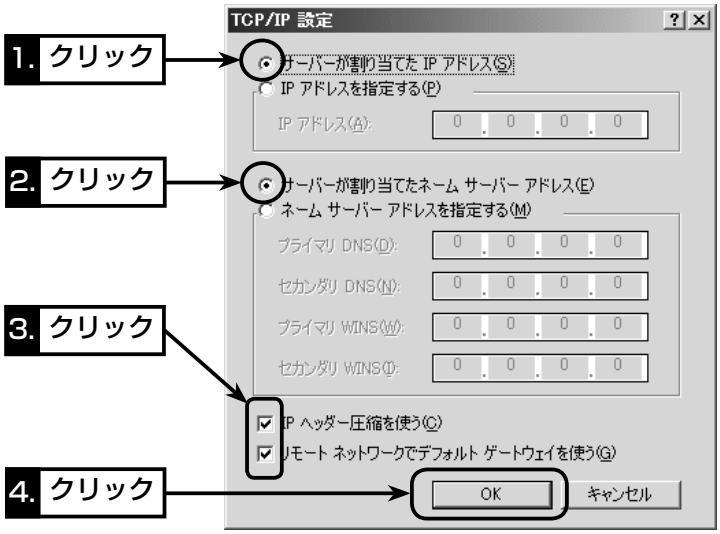


3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Meの場合

⑭ラジオボタンとチェックボックスをクリックして、下記の画面の状態にして、〈OK〉をクリックします。



⑮〈OK〉をクリックします。

3. PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

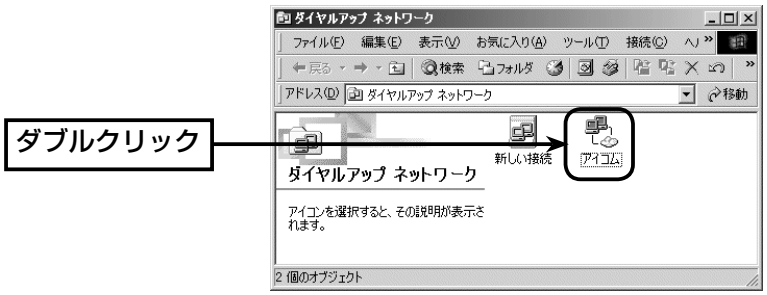
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

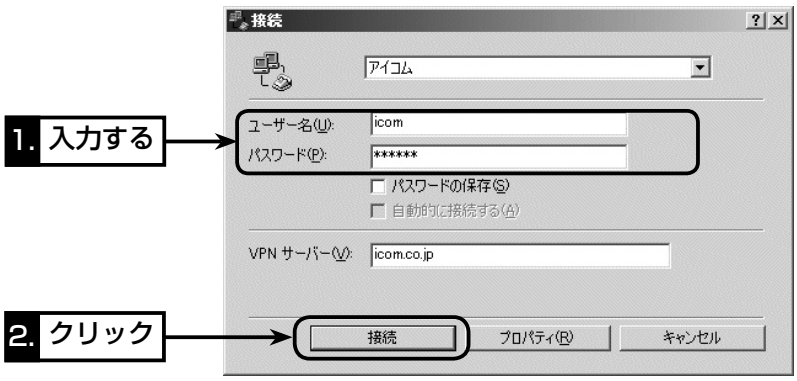
〈設定後、接続するには〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作します。

②新しく作成されたアイコンをダブルクリックします。



③PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続〉をクリックします。



4. NTTフレッツ･スクウェアに接続するには

■NTT東日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉

①「WAN側設定」メニューで、NTT東日本フレッツ･スクウェアへの接続先を設定します。
※接続先を追加する場合は、[回線設定]項目の〈▼〉をクリックして、「追加」を選択してください。
②「**フレッツ･スクウェア**」を[接続先名]欄に入力します。
③「**guest@flets**」(半角文字)を[ユーザID]欄に入力します。
④「**guest**」(半角文字)を[パスワード]欄に入力します。
⑤〈登録〉をクリックします。
⑥「WAN側設定」メニューの「WAN側詳細設定」画面にある[PPPoE詳細設定]項目で、[接続先選択]欄から「フレッツ･スクウェア」を選択します。
⑦〈選択〉をクリックします。
⑧「**＊.flets**」を[宛先ドメイン]欄に入力します。
⑨〈登録〉をクリックします。
⑩「WAN側設定」メニューの「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第2セッションの列にある[接続先の選択]欄から「フレッツ･スクウェア」を選択します。
⑪第1セッションの列にある[接続先の選択]欄には、通常インターネットへ接続するのに使用する接続先名を選択します。
⑫第1セッションと第2セッションの〈切断〉をクリックして、回線を切断します。
⑬「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング設定」画面にある[スタティックルーティング設定]項目で、下記のルーティングテーブルを作成します。
※[経路]欄は、すべてに「フレッツ･スクウェア」を選択してください。
※[ゲートウェイ]欄は、すべて何も入力しないでください。
※[メトリック]欄は、すべてに「1」(半角)を入力してください。

〈宛先〉 220.210.194.0　　**〈サブネットマスク〉** 255.255.255.128　　(2010年9月現在)

⑭「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションと第2セッションの[接続先の選択]欄の〈接続〉をクリックします。
※すでに接続されている場合は、操作の必要はありません。
⑮インターネットへの接続(第1セッション側)を確認します。(例：http://www.icom.co.jp/)
⑯WWWブラウザのアドレスバーに下記のアドレスを入力して、NTTフレッツ･スクウェア(第2セッション側)への接続を確認します。

http://www.flets/

4. NTTフレッツ･スクウェアに接続するには

■NTT東日本でご契約の場合

【スタティックルーティングの設定について】

NTT東日本のフレッツ･スクウェアをご利用になる場合、ルーティングテーブルに設定するアドレスは、変更になることがあります。
変更された場合、ルーティングテーブルの設定を変更してください。
変更しない場合は、NTT東日本のフレッツ･スクウェアのホームページにアクセスできません。
ルーティングテーブルに設定するアドレスについては、NTT東日本のフレッツ･スクウェアに接続してから、「http://flets.com/square/routing.html」(2010年9月現在)でご確認ください。

【NTT東日本のフレッツ･スクウェアを第2セッションで利用できないときは？】

「WAN側設定」メニューの「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションの列にある[接続先の選択]欄で「フレッツ･スクウェア」を指定すると、ルーティングテーブルの設定をしなくても、「http://www.flets/」にアクセスできます。
この状態で、「http://flets.com/square/routing.html」(2010年9月現在)にアクセスして、ルーティングテーブルに設定するアドレスの最新情報をご確認ください。

■NTT西日本でご契約の場合

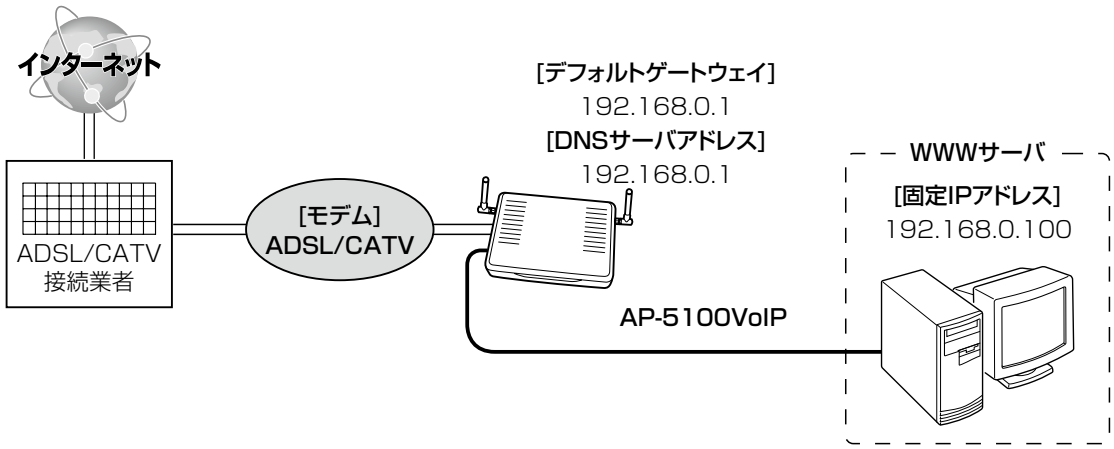
〈本製品の設定手順〉

①「WAN側設定」メニューで、NTT西日本フレッツ･スクウェアへの接続先を設定します。
※接続先を追加する場合は、[回線設定]項目の〈▼〉をクリックして、「追加」を選択してください。
②「**フレッツ･スクウェア**」を[接続先名]欄に入力します。
③「**flets@flets**」(半角文字)を[ユーザID]欄に入力します。
④「**flets**」(半角文字)を[パスワード]欄に入力します。
⑤〈登録〉をクリックします。
⑥「WAN側設定」メニューの「WAN側詳細設定」画面にある[PPPoE詳細設定]項目で、[接続先選択]欄から「フレッツ･スクウェア」を選択します。
⑦〈選択〉をクリックします。
⑧「**＊.flets**」を[宛先ドメイン]欄に入力します。
⑨〈登録〉をクリックします。
⑩「WAN側設定」メニューの「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第2セッションの列にある[接続先の選択]欄から「フレッツ･スクウェア」を選択します。
⑪第1セッションの列にある[接続先の選択]欄には、通常インターネットへ接続するのに使用する接続先名を選択します。
⑫第1セッションと第2セッションの〈切断〉をクリックして、回線を切断します。
⑬「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションと第2セッションの[接続先の選択]欄の〈接続〉をクリックします。
※すでに接続されている場合は、操作の必要はありません。
⑭インターネットへの接続(第1セッション側)を確認します。(例：http://www.icom.co.jp/)
⑮WWWブラウザのアドレスバーに下記のアドレスを入力して、NTTフレッツ･スクウェア(第2セッション側)への接続を確認します。

http://www.flets/

5. Web公開の設定例

本製品を使用してWebサーバを公開するための準備と本製品の設定について、下図を例に説明します。



1. WWWサーバの設定

① WWWサーバとして使用するパソコンを、固定IPアドレス(例：192.168.0.100)に[TCP/IP]のプロパティから設定します。
② 本製品の「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバアドレス」は、出荷時の設定(192.168.0.1)を使用すると仮定しますので、それらも併せて設定します。
③ 設定後、このパソコンからインターネットに接続できることを確認します。

2. Web公開の設定

「WAN側設定」→「アドレス変換設定」→ **[静的マスカレード設定]**

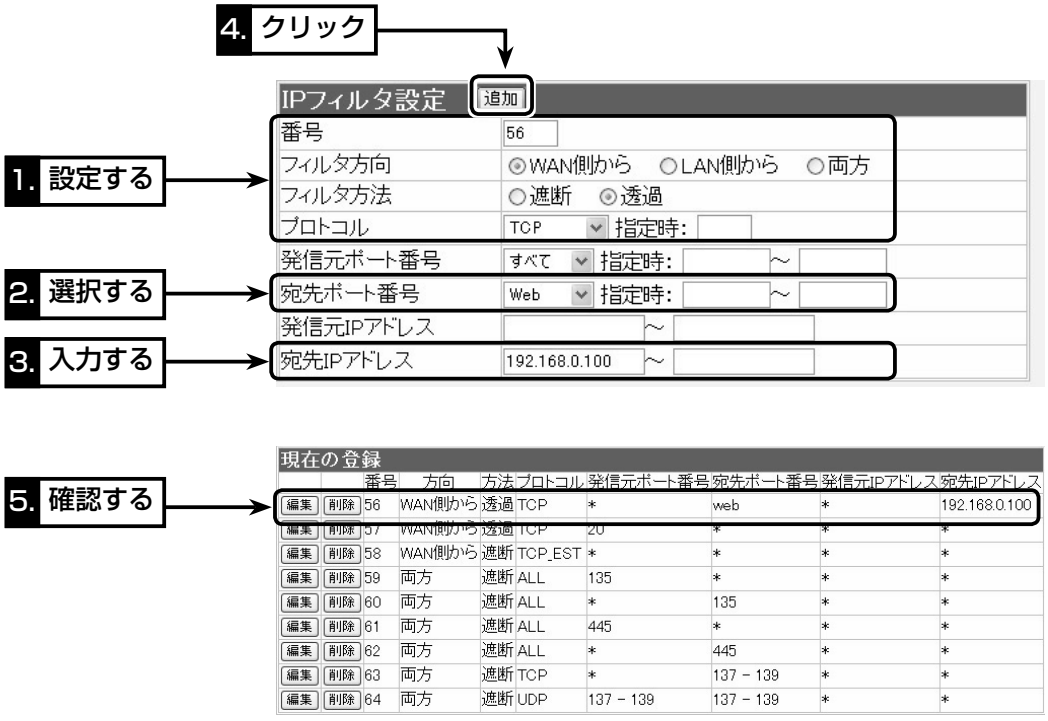
① パソコンの固定IPアドレス(例：192.168.0.100)を[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[ローカルIP]欄に入力します。
② 指定するプロトコルは「TCP」で、[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[プロトコル]欄で選択します。
③ 指定するポートは「Web(80番)」で、[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[ポート]欄で選択します。
④ 〈追加〉をクリックします。

5. Web公開の設定例

3.IPフィルターの設定

「WAN側設定」→「IPフィルター設定」

① 「56」を[IPフィルタ設定]項目の[番号]欄に入力します。
② 指定するフィルタ方向は「WAN側から」で、[IPフィルタ設定]項目の[フィルタ方向]欄で選択します。
③ 指定するフィルタ方法は「透過」で、[IPフィルタ設定]項目の[フィルタ方法]欄で選択します。
④ 指定するプロトコルは「TCP」で、[IPフィルタ設定]項目の[プロトコル]欄で選択します。
⑤ 指定する宛先ポート番号は「Web」(80)で、[IPフィルタ設定]項目の[宛先ポート番号]欄で選択します。
⑥ 宛先IPアドレスは、パソコンの固定IPアドレス(例：192.168.0.100)で、[IPフィルタ設定]項目の[宛先IPアドレス]欄に入力します。
⑦ 〈追加〉をクリックします。
⑧ 設定した内容を[現在の登録]項目で確認できたら設定完了です。

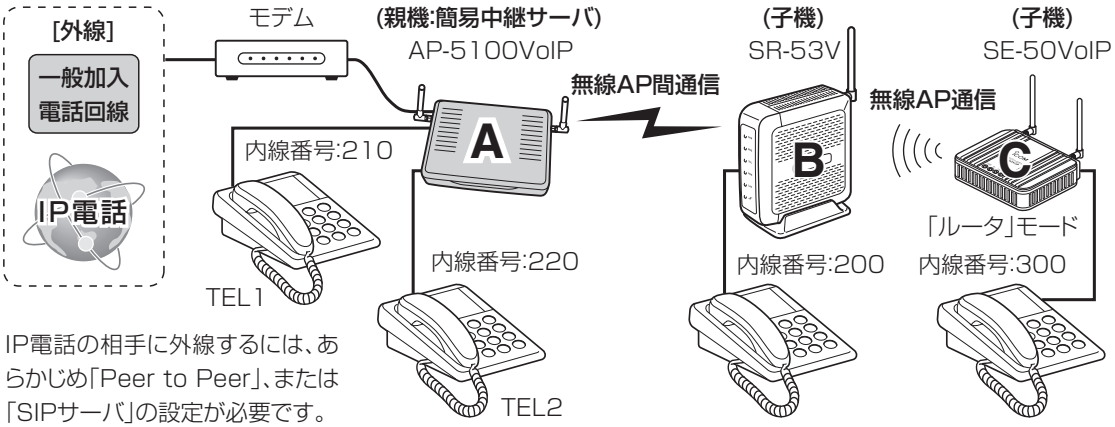


【ご参考に】
グローバルアドレスでのホームページ公開を確認するときは、本製品のWAN側からご確認ください。

6. 簡易中継サーバの使いかた

簡易中継サーバ(親機)と子機の設定例を説明します。

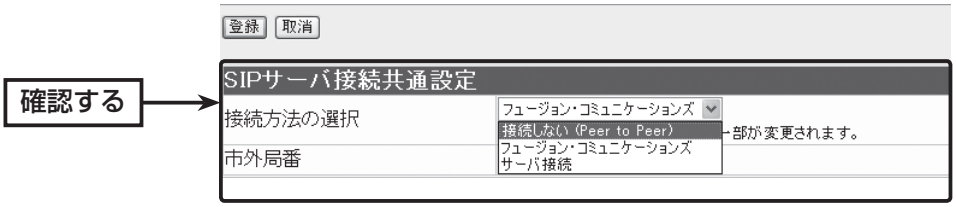
簡易中継サーバ(親機)と子機の設定例を説明します。
※無線AP間通信、および無線AP通信設定は、あらかじめ設定されているものとして説明しています。
また、有線LANで親機と子機を接続する場合も同じです。



IP電話の相手に外線するには、あらかじめ「Peer to Peer」、または「SIPサーバ」の設定が必要です。

機器Aの設定（接続方法）　「外線設定」→「サーバ接続設定」→ **[SIPサーバ接続共通設定]**

「サーバ接続」以外の接続方法に設定されていることを確認し、あらかじめ、設定した接続方法で使用できることを確認します。

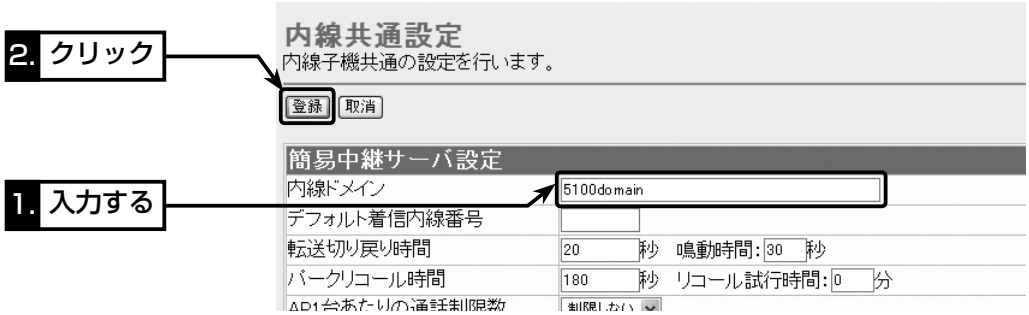


次ページの「内線共通設定」画面および「子機内線設定」画面では、次の各欄を設定します。
◎[内線ドメイン]：「5100domain」(入力例)
◎[機器：A]に接続する電話機の入力例
　[TEL1]：「210(内線番号)」
　[TEL2]：「220(内線番号)」
◎[機器：B]に接続する電話機の入力例
　[1]：「200(内線番号)」
　[1]：「64#9723(パスワード)」
◎[機器：C]に接続する電話機の入力例
　[2]：「300(内線番号)」
　[2]：「8＊57104(パスワード)」
※[内線一斉発信番号]や[グループ番号]は、必要に応じて設定してください。

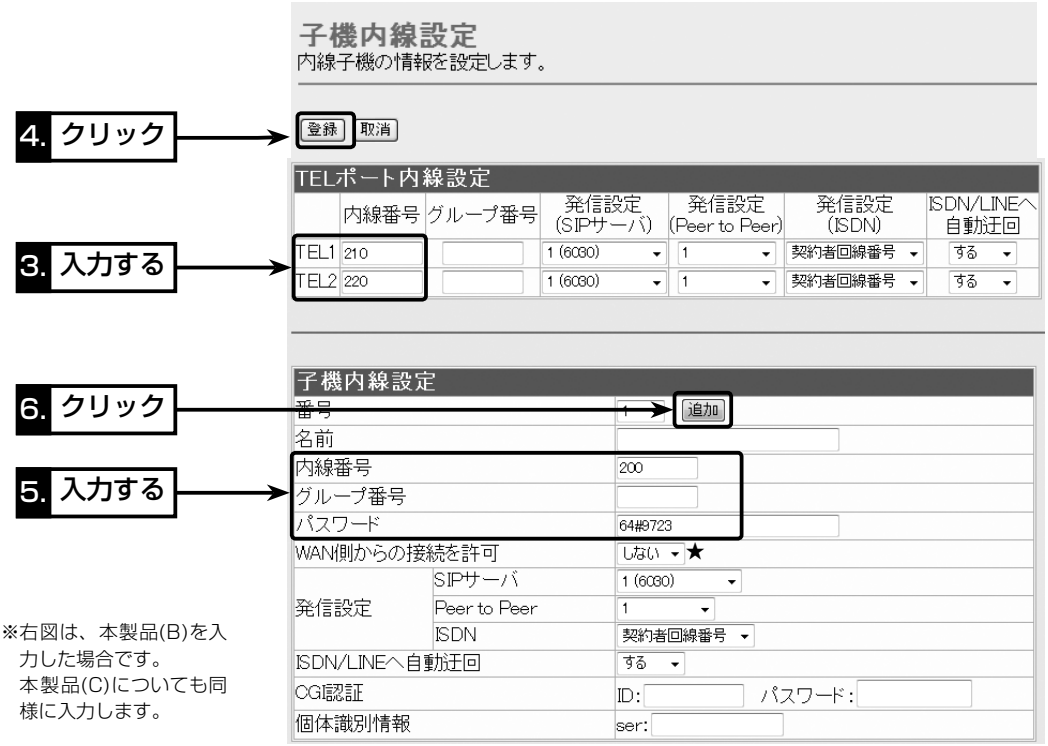
(☞次ページへつづく)

6. 簡易中継サーバの使いかた

機器Aの設定（**簡易中継サーバ**）　「内線設定」→**「内線共通設定」**



機器Aの設定（**子機設定**）　「内線設定」→**「子機内線設定」**



※右図は、本製品(B)を入力した場合です。
本製品(C)についても同様に入力します。

★WAN側回線からの接続を許可するときは、[WAN側からの接続を許可]欄を「する」に変更してください。
また、セキュリティーの低下を防止するため、必ず「パスワード」を設定してください。

6. 簡易中継サーバの使いかた

■簡易中継サーバ機能使用時の制限事項について

〈着信時の制限〉

◎商用IP電話からの着信数は、IP電話接続業者や、契約内容により違います。

〈発信時の制限〉

◎内線番号→VoIP電話帳の順番で検索し、該当しなかった場合は、設定されているSIPサーバへ発信しますので、子機側のVoIP電話帳への登録は不要です。

◎商用IP電話での発信数は、IP電話接続業者や、契約内容により違います。

〈その他の制限〉

◎アナログ公衆電話回線への発信は、[ISDN]ポートと[LINE]ポートが優先します。
親機の[ISDN]ポートと[LINE]ポートを使用する場合は、子機側の[電話回線発信番号]の設定を削除してください。
この場合は、親機側の[電話回線発信番号]の設定が有効になります。

◎コーデックは、簡易中継サーバ(親機)側に依存します。
「G.711」→「簡易中継サーバ」→「G.729」のような変換はできません。

◎簡易中継サーバは、expire値3600秒まで許容します。
子機側は、3600以下に設定してください。

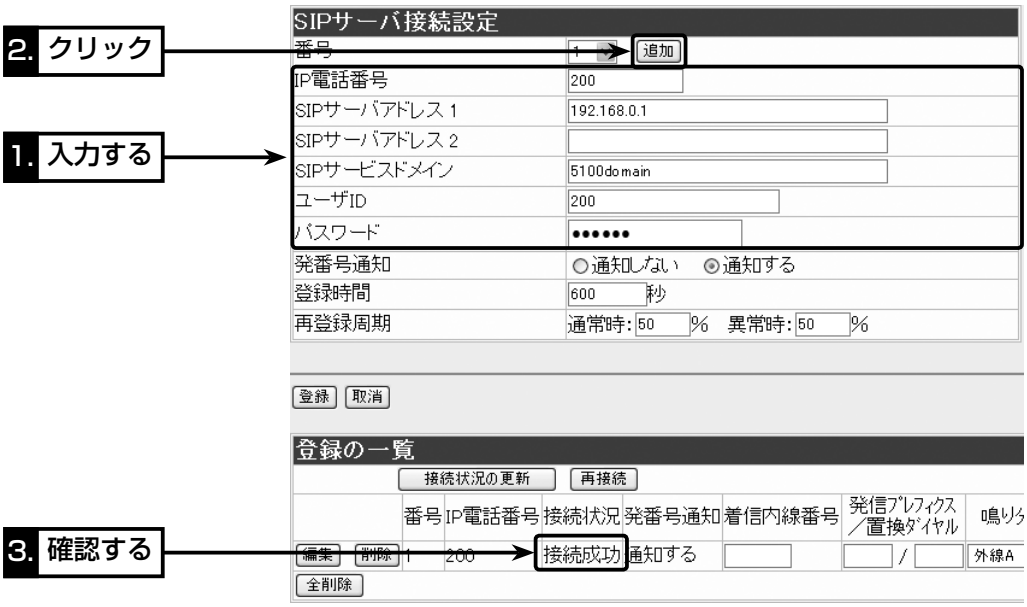
6. 簡易中継サーバの使いかた

機器Bの設定（接続方法）　「外線設定」→「サーバ接続設定」→ **[SIPサーバ接続共通設定]**

[機器：A]の子機として使用しますので、接続方法を「サーバ接続」に設定します。

機器Bの設定**（接続設定）**　「電話設定」→「SIP設定」→ **[SIPサーバ接続設定]**

[SIPサーバ接続設定]項目では、次の各欄を設定します。



◎[IP電話番号]：「200」(機器：Bに接続する電話機の内線番号)

◎[機器：A]の本体IPアドレス、または本体名称を設定します。
[SIPサーバアドレス1]：「192.168.0.1(入力例)」
※ダイナミックDNS使用時、そのアドレスでも使用できます。

◎[SIPサービスドメイン]：「5100domain」(入力例)
※[機器：A]で設定した[内線ドメイン]と同じ内容を設定します。

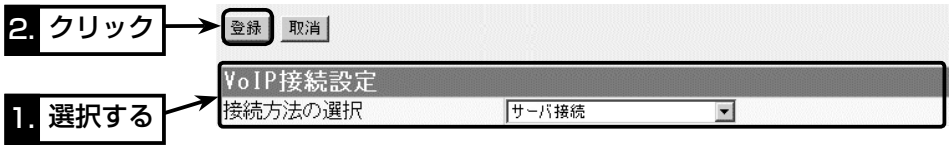
◎[ユーザID]：「200」(機器：Bに接続する電話機の内線番号)
※[機器：B]で設定した[IP電話番号]と同じ内容を設定します。

◎[パスワード]：「64#9723」
※[機器：A]の[子機内線設定]項目で設定した[機器：B]のパスワードと同じ内容を設定します。

6. 簡易中継サーバの使いかた

機器Cの設定（接続方法） 「電話設定」→「接続設定」→ **[VoIP接続設定]**

[機器：A]の子機として使用しますので、接続方法を「サーバ接続」に設定します。



機器Cの設定（接続設定） 「電話設定」→「SIP設定」→ **[SIPサーバ接続設定]**

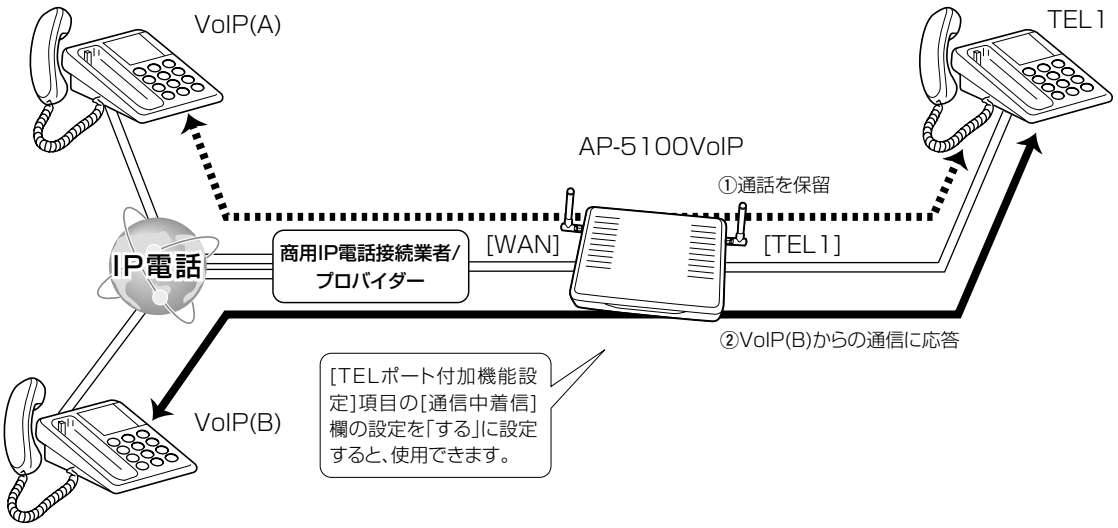
「SIP設定」画面では、次の各欄を設定します。

◎[IP電話番号]：「300」(機器：Cに接続する電話機の内線番号)
◎[機器：A]の本体IPアドレス、または本体名称を設定します。
[SIPサーバアドレス]：「192.168.0.1(入力例)」
※ダイナミックDNS使用時、そのアドレスでも使用できます。
◎[SIPサービスドメイン]：「5100domain」(入力例)
※[機器：A]で設定した[内線ドメイン]と同じ内容を設定します。
◎[ユーザID]：「300」(機器：Cに接続する電話機の内線番号)
※[機器：C]で設定した[IP電話番号]と同じ内容を設定します。
◎[パスワード]：「8＊57104」
※[機器：A]の[子機内線設定]項目で設定した[機器：C]のパスワードと同じ内容を設定します。

7. 通信中着信の使いかた

IP電話で通話中の電話を保留して、かかってきた相手と通話する方法を説明します。

※「Peer to Peer」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。



〈電話機の操作〉

① 通話中にVoIP(B)がかかってくると、TEL1の受話器から「ププ･･･」と話中着信音がVoIP(A)の音声に混ざって聞こえます。

② TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。

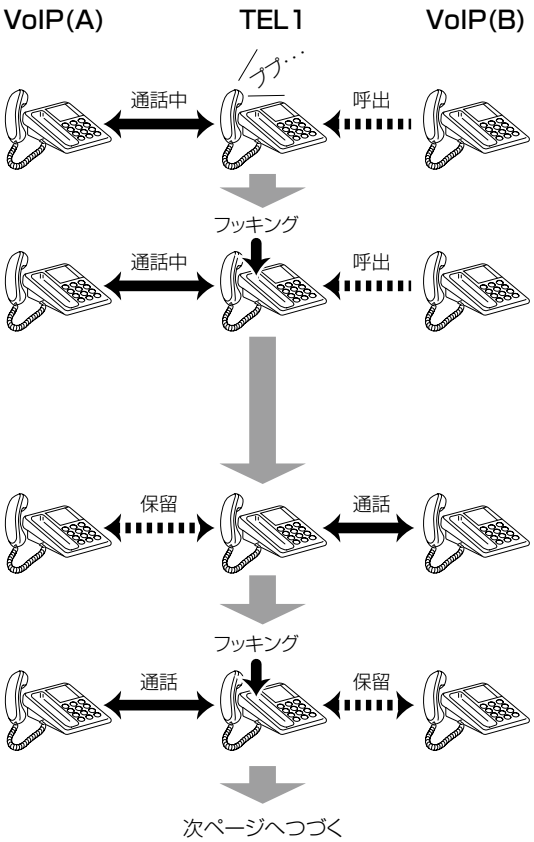
※このとき、「電話設定:TEL1」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長くフックスイッチを押すと、TEL1とVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

③ 通話中に電話をかけてきたVoIP(B)と通話します。

④ さらにTEL1をフッキングし、VoIP(A)との通話を再開します。

以後、電話機をフッキングするごとに、VoIP(A)とVoIP(B)の通話が交互に切り替わります。

(次ページへつづく)



7. 通信中着信の使いかた

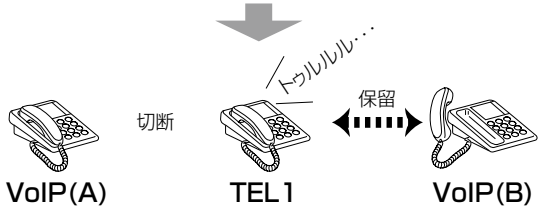
〈電話機の操作〉

⑤通話が終了したら、TEL1の受話器を戻し、VoIP(A)またはVoIP(B)との通話を切断します。

※保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が、「トゥルルル･･･」と鳴ります。
TEL1の受話器を取ることで、保留中の相手と通話できます。

※保留中の相手がいるときに、通話中の相手通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー･･･」と話し中音が聞こえます。
このときもTEL1をフッキングすることで保留中の相手と通話できます。

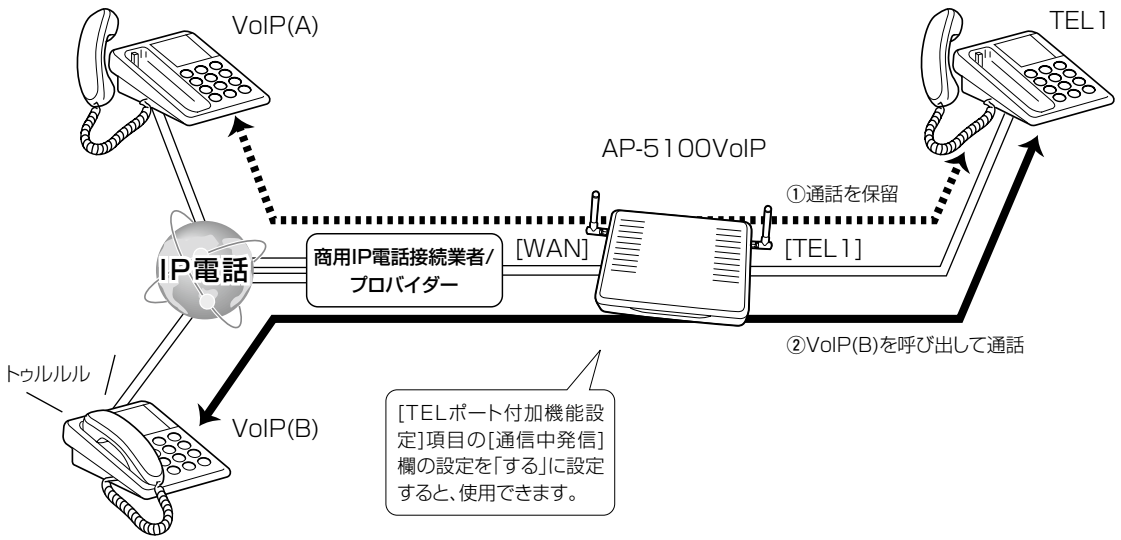
前ページのつづき



8. 通信中発信の使いかた

IP電話での通話を保留して、ほかの相手にIP電話をかける方法を説明します。

※「Peer to Peer」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。



〈電話機の操作〉

① VoIP(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。
このとき、「電話設定：TEL1」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長くフックスイッチを押すと、TEL1とVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

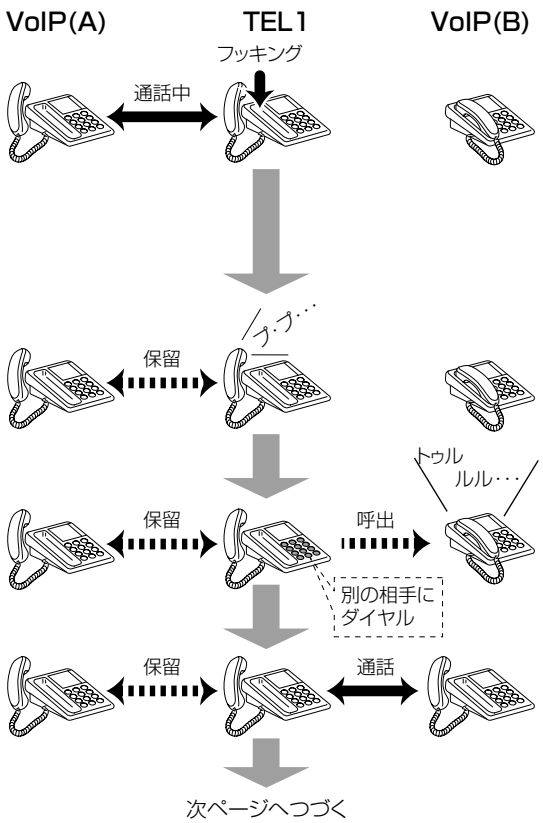
② TEL1の受話器から「プ･プ･･･」と第二発信音が聞こえ、VoIP(A)との通話を保留します。

③ 別の相手であるVoIP(B)の電話番号をダイヤルします。

④ VoIP(B)と通話します。

※相手が出ない場合、TEL1をもう一度フッキングして通信中発信を中止して、VoIP(A)との通話に戻ります。
また、そのまま受話器を置いたときは、TEL1の呼出音が鳴ります。

(次ページへつづく)



8. 通信中発信の使いかた

〈電話機の操作〉

⑤さらにTEL1をフッキングします。
VoIP(A)との通話が再開されます。
以後、電話機をフッキングするごとに、VoIP(A)とVoIP(B)の通話が交互に切り替わります。

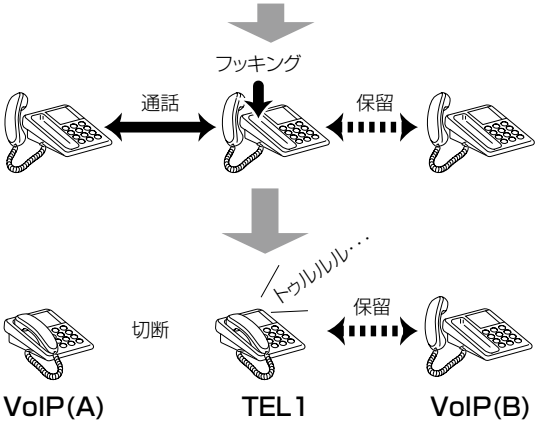
⑥通話が終了したら、TEL1の受話器を戻します。
VoIP(A)またはVoIP(B)との通話が終了します。

※保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が「トゥルルル･･･」と鳴ります。
受話器を取ることで、保留中のVoIPと通話が再開できます。

※保留中のVoIPがある場合に、通話中のVoIPが通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー･･･」と話し中音が聞こえます。
TEL1をフッキングすると、保留中のVoIPとの通話が再開できます。

※保留中、VoIPの受話器からは「エリーゼのために」が流れます。

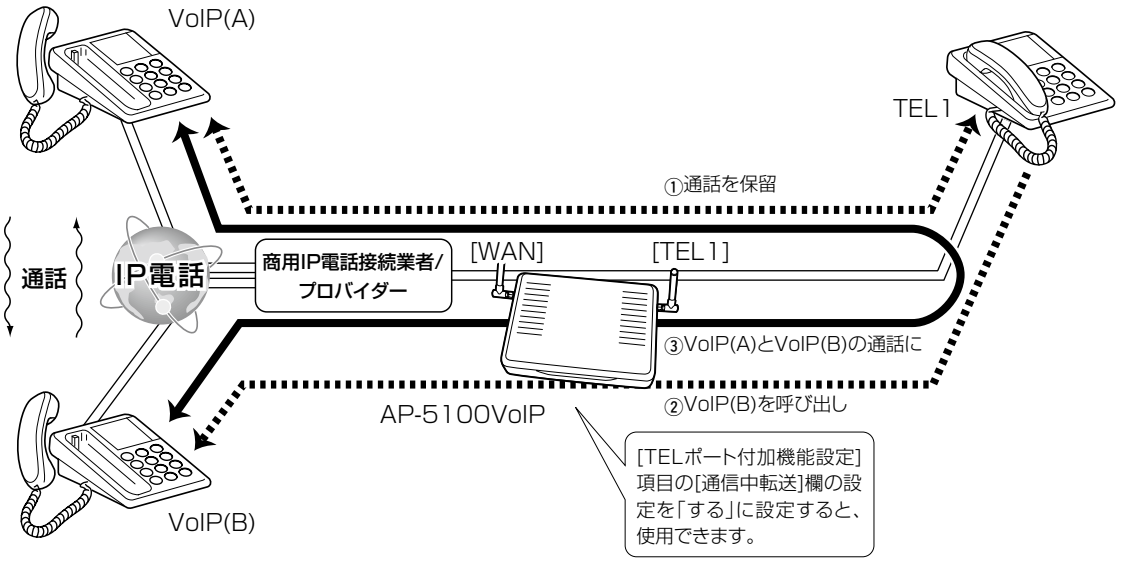
前ページのつづき



9. 通信中転送の使いかた

IP電話で通話中の相手を、保留されているIP電話の相手に転送する方法を説明します。

※「Peer to Peer」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。



〈電話機の操作〉

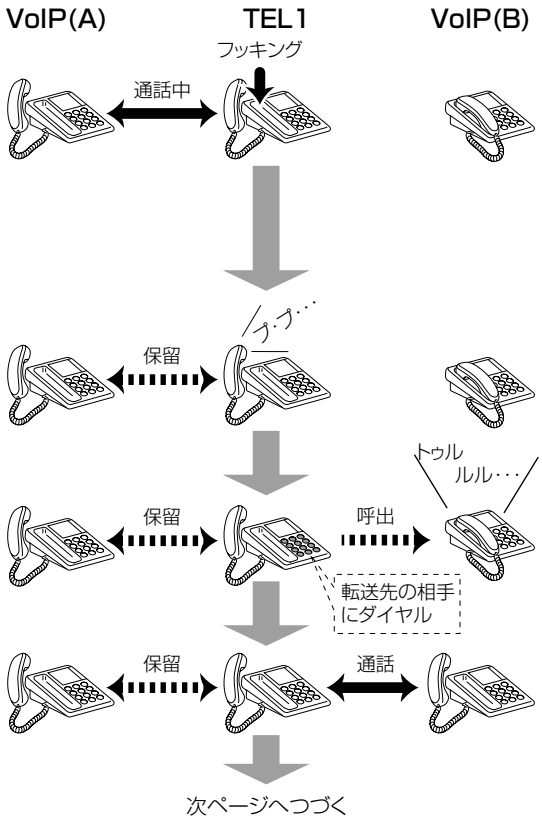
① VoIP(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。
このとき、「電話：TEL1」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長くフックスイッチを押すと、TEL1とVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

② TEL1の受話器から「プ･プ･･･」と第二発信音が聞こえ、VoIP(A)との通話を保留します。

③ 転送先であるVoIP(B)の電話番号をダイヤルします。

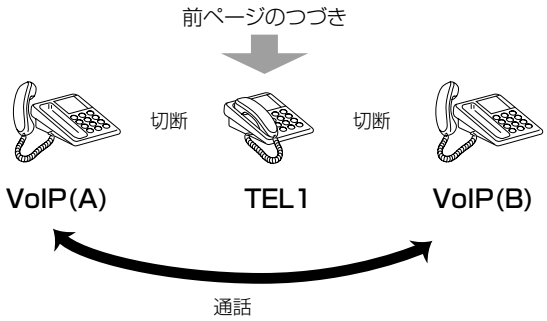
④ VoIP(B)と通話します。

(次ページへつづく)



9. 通信中転送の使いかた

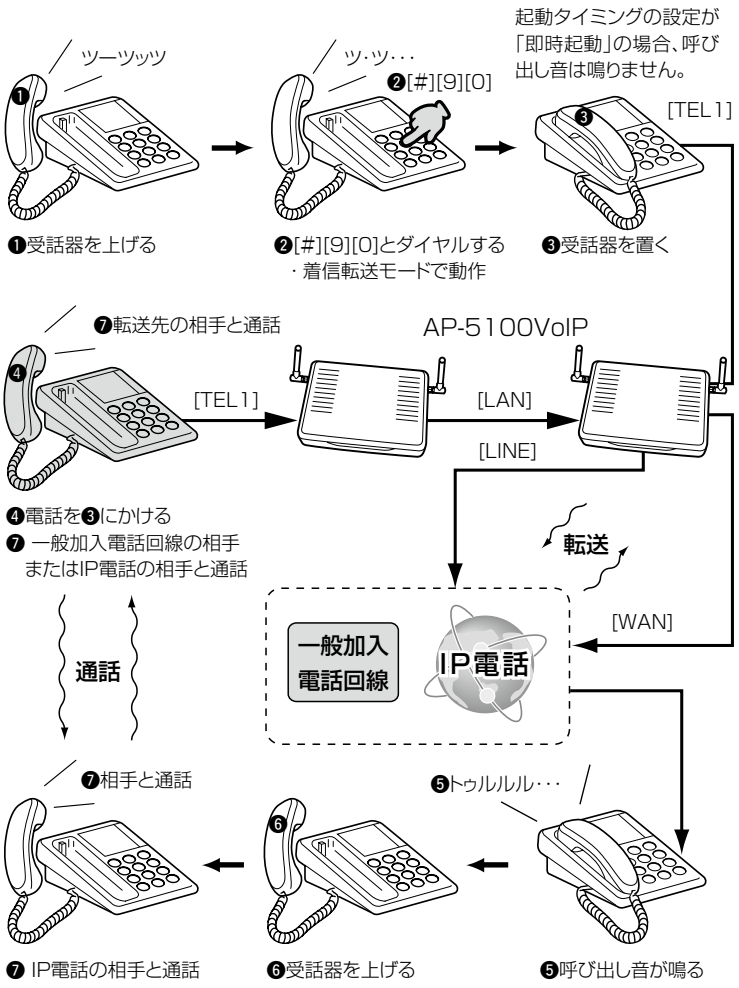
〈電話機の操作〉
⑤TELの受話器を戻します。
VoIP(A)とVoIP(B)の相手が通話できます。



10. 着信転送の使いかた

IP電話の相手から着信があると、本製品に登録されたIP電話または一般加入電話回線の電話番号の相手に転送する方法の説明です。

※「Peer to Peer」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。



11. 設定画面の構成/初期値一覧

本製品の全設定を初期化したとき、WWWブラウザに表示される設定項目です。

設定メニュー	設定画面	設定項目
外線設定	アナログ回線設定	回線設定
		エコーキャンセラーの設定
		付加機能設定
	ISDN回線設定	回線設定
		契約者回線番号設定
		ダイヤルイン設定
		登録の一覧
	サーバ接続設定	SIPサーバ接続共通設定
		SIPサーバ接続設定
		登録の一覧
	発信グループ設定	スライド発信設定
		発信グループ設定
	通話数制限設定	通話数制限設定
		SIPサーバ優先回線割り当て設定
	Peer to Peer設定	Peer to Peer共通設定
		Peer to Peer設定
		現在の登録
	VoIP電話帳	電話帳の保存と書き込み
		登録の追加
		現在の登録
	代表着信設定	代表着信設定
		現在の登録
	指定着信設定	指定着信設定
		現在の登録
内線設定	内線共通設定	簡易中継サーバ設定
		特番設定
	子機内線設定	TELポート内線設定
		子機内線設定
		現在の登録
		子機内線一括設定
	電話設定:TEL1/TEL2　※1	基本設定
		VoIPダイヤルタイミング
		トーン設定
		着信転送設定
	昼夜切替設定	昼夜切替状況
		昼夜切替曜日設定
		昼夜切替日付設定
	位置情報設定	登録の追加
		登録済み端末
	VoIP詳細設定	VoIP音質設定
		TOS設定
		TELポート付加機能設定
多機能電話設定　※2	VP-501設定	設定グループの選択
		呼出音設定
		IP電話メディア設定
	設定グループ割当て	TELポート
		内線子機
	多機能電話電話帳 [共通]	設定グループの選択
		電話帳の保存と書き込み
		多機能電話電話帳[共通]
	多機能電話保守	情報表示
		VP-501ファームウェアの更新
		定時再起動設定

11. 設定画面の構成/初期値一覧

設定メニュー	設定画面	設定項目
ネットワーク設定	LAN側IP設定	本体名称／IPアドレス設定
		VLAN設定
		DHCPサーバ設定
		静的DHCPサーバ設定
	簡易DNS設定	DNSサーバ設定
		簡易DNSサーバ設定
		URLフィルタ設定
	ブリッジ設定	ブリッジ設定
	RIP設定	RIP設定
		RIPフィルタ設定
	ルーティング設定	IP経路情報
		スタティックルーティング設定
	QoS設定	QoS設定
		QoSルール設定
		現在の登録
無線LAN設定※3	セキュリティ設定	無線端末間通信設定
		MACアドレスフィルタリング設定
	無線LAN設定 [IEEE802.11g]	BSSID
		無線LAN設定
	暗号化設定 [IEEE802.11g]	暗号化設定
		WEPキー
	WMM詳細設定 [IEEE802.11g]	To Station
		From Station
	仮想BSS設定 [IEEE802.11g]	VLAN設定
		仮想BSS設定
		VLAN登録一覧
		仮想BSS登録一覧
	認証サーバ設定 [IEEE802.11g]	RADIUS設定
	AP間通信設定 [IEEE802.11g]	BSSID
		通信AP設定
		登録済み端末リスト
WAN側設定	WAN側設定	接続状況
		回線種別
	WAN側詳細設定	共通詳細設定
		UPnP設定
	アドレス変換設定	アドレス変換設定
		静的マスカレードテーブル設定
		静的NATテーブル設定
	IPフィルタ設定	不正アクセス検知機能設定
		IPフィルタ設定
		現在の登録

※1 [TEL1]と[TEL2]は、別々の画面です。
※2 [内線共通設定]画面の[簡易中継サーバ]項目で多機能電話機種を設定すると、表示される設定項目が一部変更になります。
※3 IEEE802.11a·g規格同時通信に対応しています。[IEEE802.11g]と同じ設定項目のため省略します。

11. 設定画面の構成/初期値一覧

設定メニュー	設定画面	設定項目
システム設定	本体管理設定	管理者ID設定
		管理者IPアドレス
		認証回数制限機能
	時計設定	内部時計設定
		自動時計設定
		接続制限設定
	SYSLOG設定	SYSLOG設定
	SNMP設定	SNMP設定
	ダイナミックDNS設定	登録状況
		ダイナミックDNS設定(1)/(2)
	位置情報通知設定	位置情報通知設定
	WEBページ設定	ページ設定
		リンク設定
情報表示	電話通信記録	電話通信記録
	通信記録	通信記録
	ネットワーク情報	ネットワーク　インターフェースリスト
		ブリッジポート情報
		本体MACアドレス
	UPnP情報	UPnP IGD情報
		UPnP IGD ポートマッピングテーブル
	簡易サーバ情報	子機内線情報表示
メンテナンス	ファームウェアの更新	ファームウェアの更新
		ファームウェアファイルを指定
	設定初期化	設定初期化
	設定保存	設定の保存と書き込み
		現在の設定の確認

11. 設定画面の構成/初期値一覧

本製品の設定画面について、全設定を初期化したとき表示される各項目の初期値です。

外線設定

「アナログ回線設定」画面

回線設定
回線種別：自動
回線音量(受話音量/送話音量)：大(標準)
エコーキャンセラーの設定
エコーキャンセラーを使用：する(起動時最適化)
付加機能設定
着信内線番号：(空白)
プレフィクス：(空白)
付加ダイヤル：(空白)
鳴り分け判別：外線A
着信キューイング：使用しない

「ISDN回線設定」画面

回線設定
回線音量(受話音量/送話音量)：大(標準)
契約者回線番号設定
i・ナンバーポート番号：使用しない
サブアドレスダイヤルイン：使用しない
発番号通知：通知する
着信内線番号：(空白)
プレフィクス：(空白)
付加ダイヤル：(空白)
鳴り分け判別：外線A
着信キューイング：使用しない
ダイヤルイン設定
i・ナンバーポート番号：使用しない
サブアドレスダイヤルイン：使用しない
発番号通知：通知する

「サーバ接続設定」画面

SIPサーバ接続共通設定
接続方法の選択：接続しない (Peer to Peer)

「通話制限設定」画面

通話制限設定
外線通話本数制限：20
優先回線用の通話確保数：0

「Peer to Peer設定」画面

Peer to Peer共通設定
WAN側からの着信を許可:しない
Peer to Peer設定
SIP URI：sip:(空白)

「代表着信設定」画面

代表着信設定
昼間 動作設定：順次着信
夜間は着信動作を変更：しない

「指定着信設定」画面

指定着信設定
動作：全端末に着信
呼出音：通常

内線設定

「内線共通設定」画面

簡易中継サーバ設定
内線ドメイン：(空白)
転送切り戻り時間(秒)：20
鳴動時間(秒)：30
パークリコール時間(秒)：180
リコール試行時間(秒)：0
AP1台あたりの通話制限数：制限しない
SIP 183対応：しない
SIP レスポンス中継：しない
呼出中転送方式：被転送番号を中継する
多機能電話機種：VP-501
特番設定
電話回線発信番号：0000

「電話設定:TEL1/2」画面

基本設定
接続機器の種類：電話機
電話機のダイヤル方式：全方式に対応
ナンバーディスプレイを使用：しない
ポート使用設定：発着信で使用
音量(受話音量/送話音量)：標準
呼出音(内線呼出音/外線呼出音)：呼出音1
エコーキャンセラーを使用：する
VoIPダイヤルタイミング
ダイヤル待ち時間：5(秒)
フッキング判定時間：1(秒)
トーン設定
ダイヤルトーン：トーン1
ウェイトトーン：有効
着信転送設定
起動タイミング：即時起動
呼出回数：4(回)
夜間は転送先を変更：しない

「昼夜切替設定」画面

昼夜切替曜日設定
切替：無効
昼夜切替日付設定
切替：無効

「VoIP詳細設定」画面

VoIP音質設定
音声符号化方式：G.711のみ使用
フレーム時間(G.711/G.729)：20ms
受信バッファ：50ms
TOS設定
TOS種別：使用しない
TELポート付加機能設定
通信中着信：しない
通信中発信：しない
通信中転送：しない
着信転送：しない

11. 設定画面の構成/初期値一覧

多機能電話設定

「多機能電話設定」画面
設定グループの選択
設定グループの選択：共通設定
呼出音設定
外線A：呼出音1
外線B：呼出音2
外線C：呼出音3
外線D：呼出音4
内線A：呼出音1
内線B：呼出音5
内線C：呼出音6
IP電話メディア設定
標準受信バッファサイズ：20ms
最大受信バッファサイズ：100ms
受話側ゲイン：−6dB
送話側ゲイン：−9dB
エコーキャンセラーを使用：する
側音を使用：する
側音レベル：−21dB

「設定グループ割当て」画面
TELポート
TEL1/TEL2：設定グループ1

「多機能電話保守」画面
定時再起動設定
定時再起動：無効

ネットワーク設定

「LAN側IP設定」画面
本体名称／IPアドレス設定
本体名称：AP-5100VoIP
IPアドレス：192.168.0.1
サブネットマスク：255.255.255.0
VLAN設定
マネージメントID：0
DHCPサーバ設定
DHCPサーバ機能を使用：する
IPアドレス衝突検知方法：ICMP ECHO
衝突検知時間：250(ミリ秒)
割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
割り当て個数：30(個)
サブネットマスク：255.255.255.0
リース期間：72(時間)
デフォルトゲートウェイ：192.168.0.1

「簡易DNS設定」画面
DNSサーバ設定
DNSサーバの代理応答を使用：する

「ブリッジ設定」画面
ブリッジ設定
スパニングツリー機能を使用：しない
ブリッジ優先度(Bridge Priority)：32768
エージングタイム(Aging Time)：300(秒)
マックスエイジ(Max Age)：20(秒)
ハロータイム(Hello Time)：2(秒)
パスコスト(Path Cost)
有線LAN：100
無線[802.11g]/無線[802.11a]：200
ポート優先度(Port Priority)
有線LAN：128
無線[802.11g]/無線[802.11a]：128

「RIP設定」画面
RIP設定
RIP設定：RIP
LAN側RIP動作：使用しない
WAN側RIP動作：使用しない

「QoS設定」画面
QoS設定
QoSを使用：しない
送信帯域制限
WAN：100.0Mbps
有線LAN：100.0Mbps
無線LAN(11g)：100.0Mbps
無線LAN(11a)：100.0Mbps
AP間通信(11g)：100.0Mbps
AP間通信(11a)：100.0Mbps
現在の登録
優先する(プロトコル/すべて TOS値/01-FF)

11. 設定画面の構成/初期値一覧

無線LAN設定

「セキュリティ設定」画面

無線端末間通信設定
無線端末間通信を禁止：しない

MACアドレスフィルタリング設定
MACアドレスフィルタリングを使用：しない

「無線LAN設定」画面[IEEE802.11g/a]

無線LAN設定[IEEE802.11g]
IEEE802.11gを使用：する
アンテナ制御：☑ ANT1 ☑ ANT2
SSID：LG
ANY接続拒否：しない
WMMを使用：しない
XRを使用：しない
VLAN ID：0
チャンネル：11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド：なし
11g保護機能：有効
11gベーシックレート：802.11b
パワーレベル：高
接続端末制限：63
ビーコン間隔：100(ミリ)
DTIM間隔：1
Super AGを使用：しない

無線LAN設定[IEEE802.11a]
IEEE802.11aを使用：する
アンテナ制御：☑ ANT1 ☑ ANT2
SSID：LG
ANY接続拒否：しない
WMMを使用：しない
XRを使用：しない
VLAN ID：0
チャンネル：36 (5180MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド：なし
パワーレベル：高
接続端末制限：63
ビーコン間隔：100(ミリ)
DTIM間隔：1
Super AGを使用：しない

「暗号化設定」画面

暗号化設定
ネットワーク認証：オープンシステム・共有キー
暗号化方式：なし
キー更新間隔：120(分)
※TKIP/AES設定時
キーインデックス：1
※WEP RC4/OCB AES設定時
WEPキー ※WEP RC4/OCB AES設定時
入力モード：16進数
1～4：00-00-00-00-00

「WMM詳細設定」画面

To Station

AC Name	CWin min	CWin max	AIFSN (1-15)	TXOP (0-255)
AC_BK	15	1023	7	0
AC_BE	15	63	3	0
AC_VI	7	15	1	94
AC_VO	3	7	1	47

From Station

AC Name	CWin min	CWin max	AIFSN (2-15)	TXOP (0-255)
AC_BK	15	1023	7	0
AC_BE	15	1023	3	0
AC_VI	7	15	2	94
AC_VO	3	7	2	47

「仮想BSS設定」画面

VLAN設定
ネットワーク認証：オープンシステム・共有キー
※WEP RC4/OCB AES設定時
暗号化方式：WEP RC4 64(40)
入力モード：16進数
WEPキー：00-00-00-00-00

「認証サーバ設定」画面

RADIUS設定
サーバのポート番号
プライマリ：1812
セカンダリ：1812
再認証間隔：120分

11. 設定画面の構成/初期値一覧

WAN側設定

「WAN側設定」画面
回線種別：接続しない

「WAN側詳細設定」画面
共通詳細設定
WAN側通信速度：自動
WAN側MACアドレス変更機能：デフォルト
ステルスモードを使用：する
DNSサーバアドレスを自動取得：する
UPnP設定
UPnPを使用：しない
ポートマッピング有効期間：2(日)

「アドレス変換設定」画面
アドレス変換設定
アドレス変換：する
PPTPパススルーを使用：する

「IPフィルタ設定」画面
不正アクセス検知機能設定
不正アクセス検知機能を使用：しない
検知結果を出力：する
検知時間：1(分)
検知回数：100(回)
現在の登録
57番(FTPをデフォルトで通過させる)
58番(WAN側からの不正アクセス防止)
59～64番
(Windowsのアプリケーションを外部から
リモートコントロールされる危険性を防止)

システム設定

「本体管理設定」画面
管理者ID設定
管理者ID：(空白)
管理者パスワード：(空白)
管理者IPアドレス
管理者IP1～3：(空白)
認証回数制限機能
認証回数制限機能を使用：する

「時計設定」画面
自動時計設定
自動時計設定を使用：する
NTPサーバ1 IPアドレス：133.100.9.2
アクセス時間間隔：1(日)

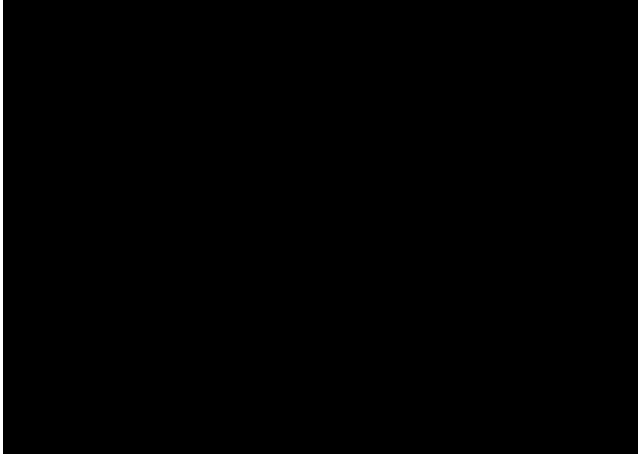
「SYSLOG設定」画面
SYSLOG設定
DEBUGを使用：しない
INFOを使用：しない
NOTICEを使用：する
ホストアドレス：(空白)
ファシリティ：1

「SNMP設定」画面
SNMP設定
SNMPを使用：する
コミュニティID(GET)：public
コミュニティID(SET)：private

「ダイナミックDNS設定」画面
ダイナミックDNS設定(1)/(2)
自動更新を使用：しない
定期更新間隔(日)：10
登録するIPアドレス：WAN
ダイナミックDNSサーバ：設定なし
接続状態：オンライン

「WEBページ設定」画面
ページ設定
ロゴ画像：表示あり/URL:(空白)
背景色：白

高品質がテーマです。



アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

A-6429-14J-③ © 2006–2010 Icom Inc.